

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
特別研究 I	Special Research I
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	4
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
通年	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81509125	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

研究計画に基づく研究の個別指導

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	各指導教員	人文社会科学部	公開 Open	公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

各教員に確認すること

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

各指導教員の研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

自らの研究テーマに対する関心と研究を遂行する意欲

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

人文科学・社会科学・研究計画・専門的知識

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

研究の集大成にむけて:1年目の準備段階

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	自らの研究テーマについて、これまで理解していることをベースに、新たに理解したことを説明できる。
2	自らの研究テーマについて、自身の立場から批判的に考察することができる。
3	自らの研究テーマについての最新の研究動向を意欲的に摂取し、その内容を1つ以上説明できる。
4	自らの研究テーマについての自身の立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、個別の研究テーマに関する指導を、通年で行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

関連文献の検討、報告準備

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	本授業の狙いと進め方について紹介する
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第2回	研究計画の精査
授業概要	個別研究に向けた検討・議論を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第3回	研究全体の概要の検討
授業概要	個別研究の計画を見直し、より確かなものにする
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第4回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第5回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第6回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第7回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第8回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第9回	個別研究

授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第10回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第11回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第12回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第13回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第14回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第15回	中間レポートの作成
授業概要	中間レポートの作成についての指導
授業時間外の学習	中間レポートの作成準備
■第16回	プレ中間発表会
授業概要	指導教員の下で行われるプレ中間発表会に参加する
授業時間外の学習	発表資料の検討
■第17回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第18回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第19回	中間発表会
授業概要	指導教員の下で行われる中間発表会に参加する
授業時間外の学習	発表資料の検討
■第20回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第21回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第22回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第23回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第24回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う

授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第25回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第26回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第27回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第28回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第29回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第30回	個別研究
授業概要	研究計画に基づき、個別研究指導を行う
授業時間外の学習	関連文献の検討、報告準備
■第31回	1年時最終レポートの作成
授業概要	最終レポートの作成についての指導
授業時間外の学習	最終レポートの作成準備
■第32回	人文社会科学専攻 修士論文発表会
授業概要	修士論文発表会に参加し、議論を行う。
授業時間外の学習	発表資料の検討

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

担当教員の指示に従うこと
--------------

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・授業への参画・報告:50%
- ・レポート提出:50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
特別研究Ⅱ	Special Research Ⅱ
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	4
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	2
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
通年	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81509225	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

研究計画に基づく研究指導、論文作成に関連する指導

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	各指導教員	人文社会科学部	公開 Open	公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

各教員に確認すること

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

各指導教員の研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

個別研究の集大成に向けて精一杯の努力をして欲しいと思います

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

論文、人文学・社会科学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

論文の完成に向けて

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	自らの研究テーマについて、これまで理解していることをベースに、新たに理解したことを説明できる。
2	自らの研究テーマについて、自身の立場から批判的に考察することができる。
3	自らの研究テーマについての最新の研究動向を意欲的に摂取し、その内容を1つ以上説明できる。
4	自らの研究テーマについての自身の立場を論文の形で的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、研究論文の完成に向けて、綿密な指導を通年で行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

研究論文の草稿作成、発表準備

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	本授業の狙いと進め方について紹介する
授業時間外の学習	報告準備
■第2回	研究の取りまとめ準備
授業概要	研究取りまとめに向けた課題の検討、研究敬作の修正等
授業時間外の学習	報告準備
■第3回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第4回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第5回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第6回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第7回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第8回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第9回	研究の取りまとめ

授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第10回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第11回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第12回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第13回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第14回	研究の取りまとめ
授業概要	研究とりまとめの進捗状況の確認、取りまとめに必要な事項の整理、報告
授業時間外の学習	報告準備
■第15回	夏期休業中の研究計画の検討
授業概要	夏期休業中の研究計画に関する指導
授業時間外の学習	夏期休業中の研究
■第16回	プレ中間発表会
授業概要	指導教員の下で、中間発表会の準備報告を行う
授業時間外の学習	発表準備
■第17回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	報告準備
■第18回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	報告準備
■第19回	中間発表会
授業概要	中間発表会に参加し、報告、討論等を行う
授業時間外の学習	発表準備
■第20回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた指導
■第21回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第22回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第23回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第24回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導



授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第25回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第26回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第27回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第28回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第29回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第30回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第31回	研究指導
授業概要	論文作成のための指導
授業時間外の学習	論文作成に向けた準備
■第32回	発表会
授業概要	発表会で報告を行う。
授業時間外の学習	発表準備

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

担当教員の指示に従うこと
--------------

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

- ・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・授業への参画・報告:50%
- ・研究成果の評価:50%

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
総合高知研究	Integrated Kochi Studies
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81500021	
履修における注意点	
資格等	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

高知を「フィールドワーク」する

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed
2	稲田 朗子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

各教員に確認すること

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部卒業レベルの知識・教養。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

地域/高知研究、フィールドワーク/エクスカージョン

授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・高知をフィールドとして幅広い知識や視野の獲得を目指す。
- ・研究報告書/報告会を実施する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	フィールドワークを通じて、人間・社会を批判的に検討する力を身に着ける
2	人文・社会科学分野で用いられている多様な研究方法を理解する
3	学術報告・プレゼンテーションの方法を学ぶ

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業は、人文社会科学専攻の共通総合科目であり、高知をフィールドとして幅広い知識や視野の獲得を目指し、研究報告書を作成するものである。

1学期実施の「アカデミック・リサーチ入門」を前提として、調査・報告・執筆を行い、2年次以降の研究可能性を広げることを目的とする。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

課題文献の検討、フィールドワークの準備作業、報告資料の作成

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	本授業の狙いと進め方の説明を行う
授業時間外の学習	資料の検討
■ 第2回	フィールドの選定
授業概要	フィールドの選定作業を行う
授業時間外の学習	資料収集・検討
■ 第3回	フィールドの選定
授業概要	フィールドの選定作業を行う
授業時間外の学習	資料収集・検討
■ 第4回	フィールドの選定
授業概要	フィールドの選定作業を行う
授業時間外の学習	資料収集・検討
■ 第5回	フィールドワークの準備
授業概要	フィールドワークの準備作業を行う
授業時間外の学習	事前準備作業
■ 第6回	フィールドワークの準備
授業概要	フィールドワークの準備作業を行う
授業時間外の学習	事前準備作業
■ 第7回	現地フィールドワークの実施
授業概要	現地に足を運び、フィールドワークを行う。
授業時間外の学習	フィールドワークの事前準備
■ 第8回	現地フィールドワークの実施
授業概要	現地に足を運び、フィールドワークを行う。
授業時間外の学習	フィールドワークの事前準備
■ 第9回	現地フィールドワークの実施
授業概要	現地に足を運び、フィールドワークを行う。

授業時間外の学習	フィールドワークの事前準備
■第10回	フィールドワークの分析
授業概要	フィールドワークで得られた資料・データ等の分析を行う
授業時間外の学習	資料・データの整理・分析
■第11回	フィールドワークの分析
授業概要	フィールドワークで得られた資料・データ等の分析を行う
授業時間外の学習	資料・データの整理・分析
■第12回	フィールドワークの分析
授業概要	フィールドワークで得られた資料・データ等の分析を行う
授業時間外の学習	資料・データの整理・分析
■第13回	成果報告の検討
授業概要	フィールドワークの成果報告の検討を行う
授業時間外の学習	報告資料作成
■第14回	成果報告の検討
授業概要	フィールドワークの成果報告の検討を行う
授業時間外の学習	報告資料作成
■第15回	成果報告の作成
授業概要	成果報告の作成を行う
授業時間外の学習	報告書の作成
■第16回	成果報告の公表
授業概要	成果報告の編集・刊行を行う
授業時間外の学習	報告書の編集・刊行

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

アカデミック・リサーチ入門

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

各回で指示する予定。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・授業への参画・報告:50%
- ・成果報告の取組:50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アカデミック・リサーチ入門	Introduction to Academic Research
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81500121	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

総合的なアカデミックスキルを身に着ける

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	安藤 恵崇	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

各教員に確認すること

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部卒業レベルの知識・教養。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

アカデミックスキル、人文学・社会科学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

本授業のテーマは「総合的なアカデミックスキルを身に着ける」ことにある。本授業を通して、自分の専門分野にとらわれず、人文・社会科学分野の多様な研究手法と論文執筆の方法を学ぶことが、大きな目的である。

**授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】**

1	学術論文を批判的に検討する力を身に着ける
2	人文・社会科学分野で用いられている多様な研究方法を理解する
3	学術論文を執筆する方法を学ぶ

**授業全体の概要【SUMMARY】**

本授業はおおよそ3つのパートに分けられる。具体的な進め方および課題は各回で指示。

① 研究および論文執筆の方法:基礎編(2-8回)  
 研究への心構えを学び(第2回),その上,学術論文についての理解(第3回),身近な到達点として一昨年度と昨年度の『総合高知研究』の論文の検討(第4回),文献の探し方および先行研究のレビューの仕方についての学習(第5回,第6回)を通じ,学術論文執筆におおまかなイメージを掴んでもらうことが目的である。各回は,論文を1本ずつ読んでいき,要約シート(日本語)を作成してもらい,また,授業内で報告・質疑応答を行う。各回において,予め決めておいた報告者は,作成した要約シートに基づき内容を説明してもらい,その上,質疑応答を行う。中間レポートでは先行研究調査の実践として,各自見つけた先行研究のレビューを書いてもらい,また,授業内で報告・質疑応答を行う(第7回,第8回)。

② 研究および論文執筆の方法:発展編(9-14回)  
 文献を精読し,章や節の検討を通じ,研究手法や論旨の展開方法などについて学んでいく。第9回は,研究活動を行う上で不可欠な研究倫理について学ぶ。その後,論文を1本,または2本ずつ読んでいき,各自割り当てられた論文についてレジュメを作成し,授業内で報告・質疑応答を行う。

③ 研究デザインの検討(15回)  
 これまでの学習成果として,簡単な研究計画書を作成してもらい,期末レポートとして提出する。

**授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】**

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

当日の授業に備え、各回で課題に取り上げる学術論文を読んでおくこと。

**授業計画【LESSON PLAN】**

■第1回	
授業概要	オリエンテーション 本授業の狙いと進め方についての説明。
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第2回	
授業概要	基礎編:研究活動の心構え
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第3回	
授業概要	基礎編:学術論文の構成
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第4回	
授業概要	基礎編:過年度の『総合高知研究』の検討
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第5回	
授業概要	基礎編:先行研究調査についての学習
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第6回	
授業概要	基礎編:先行研究調査の実践
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。



■第7回	
授業概要	基礎編: 先行研究調査の実践(中間報告)
授業時間外の学習	報告準備
■第8回	
授業概要	基礎編: 先行研究調査の実践(中間報告)
授業時間外の学習	報告準備
■第9回	
授業概要	発展編: 研究倫理についての学習
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第10回	
授業概要	発展編: インタビュー調査の論文を検討
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第11回	
授業概要	発展編: 事例研究の論文を検討
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第12回	
授業概要	発展編: 統計分析の論文を検討
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第13回	
授業概要	発展編: 手法の併用を検討
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第14回	
授業概要	発展編: 実験の論文を検討
授業時間外の学習	課題文献に目を通しておく。
■第15回	
授業概要	研究計画の作成
授業時間外の学習	研究計画の作成準備

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

総合高知研究

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

各回で指示します。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績

良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・授業への参画・報告:50%
- ・中間レポート:20%
- ・期末レポート:30%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
宗教思想特論	Religious Thoughts (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81510571	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ベルクソン宗教哲学の生成

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Geneology of Berson's Religious Philosophy

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	安藤 恵崇	人文社会科学部	非公開 Closed	ando@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日 11:00-12:20

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟 5F 安藤研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

宗教思想の概観と哲学史の基本的知識を持っていること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

ベルクソン、宗教哲学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・本講義のテーマはベルクソンの宗教哲学をその生成からたどることである。
- ・宗教思想が近代哲学においてどのような位相をもちうるのかを考察する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	近代における宗教哲学の歴史的展開を理解する。
2	ベルクソンの哲学を通じて生の哲学が宗教哲学を展開する場合の一類型を知る。
3	宗教哲学において、宗教の広範な検討と知識が必要であることを理解する。
4	哲学の議論において留意すべき前提と過程を理解し、みずからのものとする。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

ベルクソンの哲学を、その出発点から問題にしながらかそこでどのように宗教哲学への動機が準備され、それが『道徳と宗教の二源泉』でどのように展開されたかを追っていく。その際に近代哲学における宗教の問題と、近代哲学が直面することになった記述的宗教学の知見がどのように活用されていくかを検証する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・講義で提示した基本文献の涉猟とその概要をまとめておく。
- ・レポート作成に向けて自らの問題意識との接点をまとめておく。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクションーベルクソンはいかにして宗教に到達したか
授業概要	ベルクソン哲学の概観と宗教の問題の発生を論じる。
授業時間外の学習	講義のまとめと参考文献にあたってみること。
■第2回	ベルクソン哲学の通時的概観
授業概要	ベルクソン著作の通時的な概要を説明する。
授業時間外の学習	世界の名著ベルクソンの巻の解説を読んでおく。
■第3回	「持続」と自由の問題ー『時間と自由』第3章の展開
授業概要	『時間と自由』第3章の「寄生的自我」と自由の阻害がどのように宗教哲学への動機となるか
授業時間外の学習	『時間と自由』第3章の「寄生的自我」に関する部分を読む
■第4回	自由の問題と宗教哲学
授業概要	近代宗教哲学における自由の問題を概観しながらベルクソンをそこに位置づける。
授業時間外の学習	近代哲学史の著書で講義内容に対応する部分をまとめておく。
■第5回	『物質と記憶』ー魂の不死の蓋然性に関する考察として
授業概要	『物質と記憶』の精神と肉体・物質の問題が魂の不死を示唆することを検証する。
授業時間外の学習	『物質と記憶』の「魂の不死の蓋然性」に関する箇所を読む。
■第6回	『創造的進化』と宗教哲学の接点
授業概要	『創造的進化』が宗教哲学に展開するための必然性を検討する。
授業時間外の学習	『創造的進化』に目を通してみること
■第7回	1911年からの転回
授業概要	ベルクソン思想の1911年からの変化、とくに「変化の知覚」を検証する。
授業時間外の学習	「変化の知覚」(『思想と動くもの』所収)を読む。
■第8回	ベルクソン哲学における二項対立という問題
授業概要	ベルクソンの学に通底する二項対立からの脱却という隠れたテーマを追跡する。
授業時間外の学習	関連する安藤の論文を読むこと
■第9回	『道徳と宗教の二源泉』における宗教哲学の展開 その1

授業概要	『二源泉』の第1章での「責務」と「閉じた社会・宗教」について論じる
授業時間外の学習	講義で扱った部分を自ら読んでおく。
■第10回	『道徳と宗教の二源泉』における宗教哲学の展開 その2
授業概要	『二源泉』の第2章での「静的宗教」と「閉じた社会・宗教」について論じる
授業時間外の学習	講義で扱った部分を自ら読んでおく。
■第11回	『道徳と宗教の二源泉』における宗教哲学の展開 その3
授業概要	『二源泉』の第3章での「愛の躍動」と「開いたもの」・「動的宗教」について論じる
授業時間外の学習	『二源泉』の関連する箇所を読んでおく。
■第12回	『道徳と宗教の二源泉』における宗教哲学の展開 その4
授業概要	ベルクソンの宗教哲学から論じられた文明論を検証する。
授業時間外の学習	『二源泉』の関連する箇所を読んでおく。
■第13回	『道徳と宗教の二源泉』における宗教哲学の展開 その5
授業概要	『二源泉』の全体に通底する諸問題を検討する。
授業時間外の学習	これまでの5回の講義内容を確認しておく。
■第14回	『道徳と宗教の二源泉』における宗教哲学の展開 その6
授業概要	『二源泉』がはらんでいる諸問題を批判的に検討する。
授業時間外の学習	これまでの講義内容を確認し、自らの疑問点を整理しておく。
■第15回	ベルクソン宗教哲学通観
授業概要	ベルクソン宗教哲学の宗教学への時代的貢献と限界を検討する。
授業時間外の学習	これまでの講義内容を確認し、自らの疑問点を整理しておく。
■第16回	予備日

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書:『ベルクソン全集』(白水社)
--------------------

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

なし
----

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

なし
----

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末のレポートで評価する(評価基準は以下の割合)

到達目標1について40% 到達目標2について30%、到達目標3について20%、到達目標4について10%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
宗教思想演習	Religious Thoughts (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81515521	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ベルクソン宗教哲学を読む

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Lecture in Berson's religious Philosophy

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	安藤 恵崇	人文社会科学部	非公開 Closed	ando@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日 11:00-12:30

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟5階 安藤研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

フランス語が読めることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ベルクソン、宗教哲学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・宗教哲学の歴史的文献を精読し、思想書を正確に問題意識を持って読むことを訓練する。
- ・学術的営みにおける研究内容報告の基本的技術を体得する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | 訳を参照しながらも原典でベルクソンのテキストが読めること。 |
| 2 | テキストの内容を的確に把握し議論できること。        |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』を講読する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストをあらかじめ読んでおくこと。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	ベルクソン哲学についてのレクチャー
授業概要	ベルクソン哲学を概観しこれから読むための準備をする。
授業時間外の学習	講義内容をまとめ、次回の範囲についてレジュメを用意する。
■第2回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
■第3回	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
■第5回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
■第6回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
■第7回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
■第8回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
■第9回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめる。
■第10回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。



授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめてくる。
■第11回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめてくる。
■第12回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめてくる。
■第13回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめてくる。
■第14回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめてくる。
■第15回	『道徳と宗教の二源泉』第1章の精読
授業概要	『道徳と宗教の二源泉』第1章を精読しレジュメを使用して内容を報告する。
授業時間外の学習	当該範囲を精読しレジュメに内容をまとめてくる。
■第16回	予備日

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Bergson: Les doux sources de morale et de la religion, Puf Qadrigue版
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

なし
----

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

なし
----

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

毎回の授業とレポートにより、評価する。(評価基準は次の通り) 授業での取り組み(到達目標1に関して30%、到達目標2に関して20%) レポートの内容および表現方法について50%(到達目標1および2が指標となる)
---

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
宗教哲学特論	Philosophy of Religion (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81510671	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	安藤 恵崇	人文社会科学部	非公開 Closed	ando@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日 11:00-12:20
-----------------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟 5F 安藤研究室
--------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

西洋哲学史の基本的知識を持っていること
---------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

西洋哲学、インド哲学
------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

宗教哲学が世界の思想的営みの中でどのような位置を占めているか理解する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 西洋哲学における宗教哲学の展開を歴史的位相から説明できる      |
| 2 | インド哲学における宗教哲学の展開を諸宗教の展開を見ながら説明できる |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	古代ギリシア哲学の宗教哲学(1)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第2回	
授業概要	古代ギリシア哲学の宗教哲学(2)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第3回	
授業概要	古代ギリシア哲学の宗教哲学(3)
評価のスケジュール	古代ギリシアの思想についてのレポート提出
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第4回	
授業概要	中世スコラ哲学(1)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第5回	
授業概要	中世スコラ哲学(2)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第6回	
授業概要	ルネサンスの宗教哲学
評価のスケジュール	中世とルネサンスの思想についてのレポート
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第7回	
授業概要	西洋近代における宗教哲学(1)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第8回	
授業概要	西洋近代における宗教哲学(2)

評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第9回	
授業概要	西洋近代における宗教哲学(3)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第10回	
授業概要	西洋近代における宗教哲学(4)
評価のスケジュール	西洋勤情思想についてのレポート
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第11回	
授業概要	インド思想における宗教思想(1)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第12回	
授業概要	インド思想における宗教思想(2)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第13回	
授業概要	インド思想における宗教思想(3)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第14回	
授業概要	インド思想における宗教思想(4)
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
■第15回	
授業概要	インド思想における宗教思想(5)
評価のスケジュール	紹介した文献を読んで、テーマとなった時代事象を調べておくこと。
授業時間外の学習	インド思想についてレポート
■第16回	
授業概要	予備日

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書: 高坂正顕『西洋哲学史』、早島鏡正『インド思想史』、他は授業で紹介する

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績

優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

4回のレポートで評価する

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
宗教哲学演習	Philosophy of Religion (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81515621	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

宗教思想に関する文献講読演習

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	安藤 恵崇	人文社会科学部	非公開 Closed	ando@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日 11:00-12:20

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟 5F 安藤研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高度な英語の読解力

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

宗教哲学、西洋哲学

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

思想文献を読むための基本的な力を養成する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	英語で書かれた思想文献を正確に読むことができる
2	20世紀の宗教哲学について頑感的な知識をもつ

## 授業全体の概要【SUMMARY】

--

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回のテキストを精読し、報告者はその内容をレジュメに整理すること

## 授業計画【LESSON PLAN】

<b>■ 第1回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: an introduntionの精読
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第2回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter2の精読(1)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第3回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter2の精読(2)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第4回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter2の精読(3)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第5回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter3の精読(1)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第6回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter3の精読(2)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第7回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter3の精読(3)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第8回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter3の精読(4)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
<b>■ 第9回</b>	
授業概要	Twnteenth-century philosophy of Religion: Chapter3の精読(5)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること

■第10回	
授業概要	Twnteeth-century philosophy of Religion: Chapter5の精読(1)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
■第11回	
授業概要	Twnteeth-century philosophy of Religion: Chapter5の精読(2)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
■第12回	
授業概要	Twnteeth-century philosophy of Religion: Chapter5の精読(3)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
■第13回	
授業概要	Twnteeth-century philosophy of Religion: Chapter13の精読(1)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
■第14回	
授業概要	Twnteeth-century philosophy of Religion: Chapter13の精読(2)
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
■第15回	
授業概要	Twnteeth-century philosophy of Religion: Chapter14の精読
評価のスケジュール	授業における成果を評価する
授業時間外の学習	あらかじめテキストを精読してくること
■第16回	
授業概要	予備日

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Twantieth-centuri philosophy of Religion: Edeted by Graham oppy and N.N.Trakakis
--

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績



不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
----	-------	--

毎回のテキストの読解の成果および、期末レポートで評価する

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文法論特論 I	Syntax (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81511371	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学の基礎

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜 3限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 3階 309室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学と英文法の基礎知識、および学術的論文を読みこなせる英文読解力

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

認知言語学、基本概念

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

認知言語学の基本概念を理解する

**授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】**

- 1 英語の文献の読み方を身につける。
- 2 認知言語学の基本概念を理解する。

**授業全体の概要【SUMMARY】**

認知言語学の基本概念を理解する。

**授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】**

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストを精読すること、週4時間以上の予習・復習を要する。

**授業計画【LESSON PLAN】**

■ 第1回	
授業概要	授業方法の説明と準備
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第2回	
授業概要	Introduction
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第3回	
授業概要	Conceptual and Historical Background(1)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第4回	
授業概要	Conceptual and Historical Background(2)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第5回	
授業概要	Conceptual and Historical Background(3)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第6回	
授業概要	Conceptual Underpinnings and Methodology(1)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第7回	
授業概要	Conceptual Underpinnings and Methodology(2)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第8回	
授業概要	Conceptual Underpinnings and Methodology(3)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第9回	
授業概要	Case Studies (1)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■ 第10回	

授業概要	Case Studies (2)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■第11回	
授業概要	Case Studies (3)□
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■第12回	
授業概要	Expansions and Newer Directions(1)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■第13回	
授業概要	Expansions and Newer Directions(2)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■第14回	
授業概要	Expansions and Newer Directions(3)
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■第15回	
授業概要	Conclusions
授業時間外の学習	テキストの精読、疑問点の洗い出し、解決案の提示
■第16回	
授業概要	レポートの発表
評価のスケジュール	レポートの発表
授業時間外の学習	レポートの作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<i>Cognitive Linguistics for Linguists</i> , Winters, M.E. and Nathan G. S., Springer.
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表 50% + レポート 50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文法論演習 I	Syntax (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81516321	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学と英語

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜 3限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 3階 309室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学と英文法の基礎知識、および学術的論文を読みこなせる英文読解力

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

認知言語学、英語

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

認知言語学による英文法の研究

**授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】**

1	英語の文献の読み方を身につける。
2	認知言語学の基本概念を理解する。
3	英文法に対する認知言語学的な考え方を理解する。

**授業全体の概要【SUMMARY】**

認知言語学の基本概念を理解した上で、英文法に対する認知言語学的な考え方を身につけ、与えられた分析を批判的に検討する。

**授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】**

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。  
テキストを精読すること、自分で言語資料を集めテキストの分析を批判的に検討すること。週4時間以上の予習・復習を要する。

**授業計画【LESSON PLAN】**

■ 第1回	
授業概要	授業方法の説明と準備
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第2回	
授業概要	Categories in thought and language
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第3回	
授業概要	Cognitive operations in thought and language
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第4回	
授業概要	From thought to language: Cognitive Grammar
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第5回	
授業概要	Types of things: Nouns
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第6回	
授業概要	Grounding things: Reference
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第7回	
授業概要	Quantifying things: Quantifiers
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第8回	
授業概要	Qualifying things: Modifiers
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■ 第9回	
授業概要	Situation types: Aspect

授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■第10回	
授業概要	Grounding situations in time: Tense
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■第11回	
授業概要	Grounding situations in potentiality: Modality□
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■第12回	
授業概要	Event schemas: Sentence patterns
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■第13回	
授業概要	Space and extensions of space: Complements and adjuncts
授業時間外の学習	テキストの精読、資料収集、批判的考察
■第14回	
授業概要	期末レポートの作成計画
授業時間外の学習	期末レポート及び発表用資料の作成
■第15回	
授業概要	期末レポートの作成
授業時間外の学習	期末レポート及び発表用資料の作成
■第16回	
授業概要	期末レポートの発表
授業時間外の学習	期末レポート完成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

*Cognitive English Linguistics, Radden, G. and R. Dirven, John Benlamins*

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績



平常点(発表等)50%、レポート50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文法論特論Ⅱ	Syntax (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A23	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81511471	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学の基礎を広く学ぶ

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜 2限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 5階 人文科学コース面談室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な英文法の知識、母語話者程度の日本語能力

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

テキストは自分で注文して購入してください。

## キーワード【KEYWORD】

言語学、認知言語学

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

認知言語学の基本的な考え方を広く学ぶ。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 認知言語学の基本概念を理解している。

2 英語で書かれた文献を読める。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

Cognitive Linguistics a Complete Guide(前半)を読む。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

割り当てられた範囲を精読し、日本語訳、補足説明できるように準備すること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	pp.5-24
■第2回	
授業概要	pp.25-55
■第3回	
授業概要	pp.56-95
■第4回	
授業概要	pp.96-125
■第5回	
授業概要	pp.126-140
■第6回	
授業概要	pp.141-162
■第7回	
授業概要	pp.163-200
■第8回	
授業概要	pp.201-220
■第9回	
授業概要	pp.221-240
■第10回	
授業概要	pp.241-266
■第11回	
授業概要	pp.267-299
■第12回	
授業概要	pp.300-319
■第13回	
授業概要	pp.320-348
■第14回	

授業概要	pp.351-375
■第15回	
授業概要	pp.376-393
■第16回	
評価のスケジュール	期末テスト・期末レポート

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

言語文法論演習

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

Cognitive Linguistics a Complete Guide, Vyvian Evans, Edinburgh University Press.

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表50%、期末テスト・期末レポート50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文法論演習Ⅱ	Syntax (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A24	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81516421	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

認知言語学を深く学ぶ

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西尾 美穂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日 2限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 5階 人文科学コース面談室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語文法論特論Ⅱを履修していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

テキストは自分で注文して購入してください

## キーワード【KEYWORD】

言語学、認知言語学

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

認知言語学の観点から、言語の文法・意味について考察し、言語現象の分析・説明ができる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	認知言語学の考え方を理解している。
2	認知言語学の観点から言語の文法・意味現象を説明できる。
3	英語で書かれた専門的な文献を読むことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

Cognitive Linguistics a Complete Guide(後半)を読む。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

割り当てられた範囲を精読し、日本語訳、ほそく説明できるように準備する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	pp.394-419
■第2回	
授業概要	pp.420-457
■第3回	
授業概要	pp.458-492
■第4回	
授業概要	pp.493-524
■第5回	
授業概要	pp.525-560
■第6回	
授業概要	pp.565-588
■第7回	
授業概要	pp/589-610
■第8回	
授業概要	pp.611-638
■第9回	
授業概要	pp.639-660
■第10回	
授業概要	pp.61-681
■第11回	
授業概要	pp.682-716
■第12回	
授業概要	pp.717-743
■第13回	

授業概要	pp.747-770
■第14回	
授業概要	pp.771-797
■第15回	
授業概要	pp.798-814
■第16回	
評価のスケジュール	期末テスト・期末レポート

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

言語文法論特論

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

Cognitive Linguistics a Complete Guide, Vyvyan Evans, Edinburgh University Press.

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表50%と期末テスト・期末レポート50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
発達心理学特論 I	Developmental Psychology (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81512171	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

青年期からのアイデンティティ発達の理解

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	非公開 Closed	hiwatana@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日(5限)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 渡邊研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・発達心理学はもちろんのこと、心理学全般における基礎知識を有していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

アイデンティティ、自己、自伝的推論、過去の出来事、benefit-finding、地位理論、青年期、成人期、中年期、高齢期

## 授業科目の主題・目的(簡条書)



本授業では、(1)アイデンティティや自己の形成過程を認知的、社会的、感情的、そして文化的側面から捉え、アイデンティティ形成がどのような心的作業であるのかを理解すること、(2)アイデンティティの研究法について学び、自らの研究立案にその知識を応用するスキルを身につけること、を目的とする。

また、最新の研究知見を踏まえながら、青年期に確立されるアイデンティティがその後の成人期、中年期、高齢期を通してどのように発達的変化をとげるのかを議論し学ぶことを目的とする。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	アイデンティティ発達を認知的、社会的、感情的、そして文化的視点から包括的に理解することができる。
2	アイデンティティ形成自体がどのような心的作業であるのかを理解することができる。
3	青年期から高齢期にかけてのアイデンティティの発達的変化を説明することができる。
4	アイデンティティの測定法を理解し、自らの研究にその知識を応用することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、アイデンティティ及び自己形成に関する最新の研究知見を学び、アイデンティティ形成のプロセス、理論、研究方法等について議論する。また、青年期から高齢期までのライフストーリーの構築や変化を学ぶことで、自他の発達をより深く理解する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

各講義の予習および復習を行う。また、各テーマごとに、発表及びディスカッションを行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明
評価のスケジュール	授業への参加度で評価する。
授業時間外の学習	シラバスの熟読
■第2回	アイデンティティとは
授業概要	アイデンティティの定義や成り立ち、特徴について概説する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第3回	アイデンティティ形成と自伝的推論
授業概要	アイデンティティ形成の基礎となる自伝的推論について講義する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第4回	アイデンティティ形成と過去の出来事の記憶
授業概要	どのように過去の経験から「自分らしさ」が形成されていくのかを解説する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第5回	benefit-findingとは
授業概要	過去の出来事への意味づけ作業であるbenefit-findingについて概説する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第6回	アイデンティティ形成とbenefit-finding
授業概要	過去の出来事にどのような意味を見出すことがアイデンティティ形成を促進するのかを議論する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第7回	アイデンティティ形成と感情

授業概要	どのような感情を伴う過去の経験が自分らしさの形成に寄与するのかを概説する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第8回	社会的及び文化的視点からみたアイデンティティ
授業概要	アイデンティティ形成に影響を及ぼす対人関係及び環境的要因について検討する。
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第9回	アイデンティティとジェンダー
授業概要	ジェンダーや性役割とアイデンティティとの関連について検討する。
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第10回	アイデンティティ理論：Marciaの地位理論とその限界
授業概要	地位理論によるアイデンティティ研究とその問題点及び解釈の限界について議論する。
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第11回	アイデンティティ理論：van Hoofの理論とその限界
授業概要	アイデンティティを2層構造で捉えるvan Hoofの理論について議論する。
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第12回	アイデンティティの発達プロセス：青年期
授業概要	青年期のアイデンティティ形成及び発達プロセスについて議論する。
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第13回	アイデンティティの発達プロセス：成人期
授業概要	成人期においてアイデンティティがどのように変化及び発達するのかを検討する。
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第14回	アイデンティティの発達プロセス：中年期及び高齢期
授業概要	中年期及び高齢期にかけて、アイデンティティがどのように変化し、統合されていくのかを検討する。
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第15回	総括
授業概要	第14回までの授業について、総合ディスカッションを行う。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。レポート課題についてアナウンスする。
授業時間外の学習	授業内容の復習

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

発達心理学演習 I

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

【教科書】 特になし  
 【参考書】 講義中に適宜紹介する。

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】**

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

本授業は、授業への参加度およびレポートにより、本授業目標(①～④)への到達度を総合的に評価する。

【授業への参加度(50%)】 授業での発表内容及びディスカッションへの積極的な参加を評価する。

【レポート(50%)】 学期末のレポート課題内容を評価する。

※ なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポート課題が提出されない場合は、評価対象外とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
発達心理学演習 I	Developmental Psychology (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81517121	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アイデンティティ発達研究(主として、青年期及び成人期)の批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	非公開 Closed	hiwatana@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日(5限)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 渡邊研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・発達心理学はもちろんのこと、心理学全般における基礎知識を有していることが望ましい。
- ・英語文献の講読スキルを有していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

アイデンティティ、自己、測定法、研究立案、批判的思考

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

本演習では、アイデンティティ研究の近年の動向を踏まえた上で、最新の研究知見を理解することを目的とする。  
また、アイデンティティや自己に関する研究知見を学び理解した上で、その知識をベースに自身の研究テーマを見つけ、研究計画を立案することを目的とする。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	近年のアイデンティティ研究の動向を把握することができる。
2	最新のアイデンティティ研究知見を学び、アイデンティティ形成についての理解を深めることができる。
3	先行研究知見をベースに自身の研究テーマを見つけ、研究計画を立案することができる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

本演習では、アイデンティティに関する学術論文を批判的に講読し、先行研究の問題点や課題、また今後の研究の方向性について議論する。さらに、上述の議論を踏まえ、自らの研究テーマを決め、研究計画の立案及び精緻化を行う。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。  
各講義の予習および復習を行う。また、各テーマごとに、発表及びディスカッションを行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明
評価のスケジュール	授業への参加度で評価する。
授業時間外の学習	シラバスの熟読
■第2回	アイデンティティ研究の概説
授業概要	近年のアイデンティティ研究の動向について概説する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第3回	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討
授業概要	文献発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第4回	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討
授業概要	文献発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第5回	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討
授業概要	文献発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第6回	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討
授業概要	文献発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第7回	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討
授業概要	文献発表とディスカッション

評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第8回	アイデンティティ及び自己発達に関する文献の批判的検討
授業概要	文献発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第9回	アイデンティティの測定法：量的測定法
授業概要	アイデンティティの状態や確立度を量的に測定する方法について概説する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第10回	アイデンティティの測定法：質的測定法
授業概要	ライフストーリーの視点から質的にアイデンティティを測定する方法について概説する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の予習及び復習
■第11回	研究計画の立案及び精緻化
授業概要	研究計画案の発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第12回	研究計画の立案及び精緻化
授業概要	研究計画案の発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第13回	研究計画の立案及び精緻化
授業概要	研究計画案の発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第14回	研究計画の立案及び精緻化
授業概要	研究計画案の発表とディスカッション
評価のスケジュール	授業での発表及びディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の復習
■第15回	総括
授業概要	第14回までの授業について、総合ディスカッションを行う。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。レポート課題についてアナウンスする。
授業時間外の学習	授業内容の復習

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

発達心理学特論 I

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】 特になし

【参考書】 講義中に適宜紹介する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

本授業は、授業への参加度およびレポートにより、本授業目標(①～③)への到達度を総合的に評価する。

【授業への参加度(50%)】 授業での発表内容及びディスカッションへの積極的な参加を評価する。

【レポート(50%)】 学期末のレポート課題内容を評価する。

※ なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポート課題が提出されない場合は、評価対象外とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
発達心理学特論Ⅱ	Developmental Psychology (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81512271	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

青年期以降の発達プロセスの理解

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	非公開 Closed	hiwatana@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日(5限)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 渡邊研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・発達心理学はもちろんのこと、心理学全般における基礎知識を有していること。
- ・発達心理学特論Ⅰを履修していることが望ましい。
- ・英語文献の講読スキルを有していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

発達, アイデンティティ, 自己, 青年期, 成人期, 中年期, ライフイベント, 親密性, 職業, 子育て, 情動



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

本授業では、青年期以降のアイデンティティ形成・発達について総合的に学ぶ。各発達段階で経験するライフイベントがどのようにアイデンティティ発達と結びついているのかを学び深めることで、(1)アイデンティティとは何なのか、(2)アイデンティティ形成とは具体的にどのような認知的作業なのか、(3)健康的なアイデンティティ形成・発達を促進するためにはどうしたらよいか、を議論検討し、理解することを主たる目的とする。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	青年期以降の自己及びアイデンティティ発達について、その経時的変化を理解することができる。
2	青年期から中年期にかけての諸発達プロセスがアイデンティティ形成やその変化に及ぼす影響を説明することができる。
3	アイデンティティ理論を広く学び、各理論の特徴および長所・短所を理解することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、自己(self)及びアイデンティティ(identity)の視点から、青年期以降の発達研究知見を学ぶ。アイデンティティは他者との関わり合い、自己の様々な経験及びその記憶や意味づけ作業により形成されるため、青年期以降の主たるライフイベントと社会的関係性に着目しながら自己発達のプロセスを総合的に議論・検討する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

各授業内容の予習及び復習を行う。また、授業計画で明記したテーマごとに発表及び質疑応答を行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明
評価のスケジュール	授業への参加度で評価する。
授業時間外の学習	シラバスの熟読
■第2回	成人期の発達
授業概要	『Development through adulthood: Five directions for positive adult development』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第3回	エリクソンの生涯発達理論
授業概要	『Psychosocial life stages, transitions and crises (1) Erik Erikson's model of the life-cycle』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第4回	成人形成期及び成人期初期
授業概要	『Psychosocial life stages, transitions and crises (2) Emerging adulthood/ Early adulthood』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第5回	子育て期への移行
授業概要	『Psychosocial life stages, transitions and crises (3) The transition to parenthood』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第6回	中年期の理解
授業概要	『Psychosocial life stages, transitions and crises (4) Midlife : The afternoon of life』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第7回	親密な関係性の構築

授業概要	『 Social developments (1) Romantic attachment in adulthood 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第8回	結婚生活
授業概要	『 Social developments (2) Marriage and cohabitation 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第9回	子育て
授業概要	『 Social developments (3) Parenthood and the family life-cycle 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第10回	職業選択
授業概要	『 Carrer developmen (1) Carrer decision-making 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第11回	職業における変化
授業概要	『 Carrer development (2) Carrer change/ Unemployment and job loss 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第12回	仕事と家庭のバランス
授業概要	『 Carrer development (3) Gender and the changing challenges of work-family balance 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第13回	情動の複雑性と統合
授業概要	『 Emotional development (1) Developments in emotional complexity and emotional integration 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第14回	幸福感及び主観的ウェルビーイングの経時的変化
授業概要	『 Emotional development (2) Changes in happiness and subjective wellbeing with age 』の講読
評価のスケジュール	発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び授業内容の予習と復習
■第15回	総括
授業概要	第14回までの授業について、総合ディスカッションを行う。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。レポート課題についてアナウンスする。
授業時間外の学習	授業内容の復習

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

発達心理学特論Ⅰ，発達心理学演習Ⅰ，発達心理学演習Ⅱ

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書：必携】 Robinson, O. (2013). Development through adulthood: An integrative sourcebook. Basingstoke, UK: Palgrave.  
【参考書】 授業中に適宜紹介する。

#### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

本授業は、授業への参加度及びレポートにより、本授業目標(①～③)への到達度を総合的に評価する。

【授業への参加度50%】 授業での発表内容及び質疑応答への積極的な参加を評価する。

【レポート50%】 学期末のレポート課題内容を評価する。

なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポートが提出されない場合は、評価対象外とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
発達心理学演習Ⅱ	Developmental Psychology (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81517221	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アイデンティティ研究の批判的検討を踏まえた研究計画立案とその実施

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡邊 ひとみ	人文社会科学部	非公開 Closed	hiwatana@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日(5限)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 渡邊研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・発達心理学および自己・アイデンティティ研究に関する知識を有していること。
- ・発達心理学特論Ⅰ，発達心理学演習Ⅰ，発達心理学演習Ⅱ，を受講していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

発達, アイデンティティ, 自己, 研究立案, データ分析, 批判的思考

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・先行研究知見に対して批判的思考ができる。
- ・先行研究知見を自身の研究計画立案に応用できる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	近年のアイデンティティ研究の動向をおさえ、先行研究知見を批判的に検討することができる。
2	先行研究知見を踏まえた上で、自身の研究計画立案ができる。
3	自身の研究計画案を適切に実施することができる。
4	データを適切に分析及び解釈し、研究結果を論理的にまとめることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

アイデンティティに関する調査・実験の実施法及びデータ分析法など、研究の実践的スキルを習得する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

各授業内容の予習及び復習を行う。また、授業内で発表及び質疑応答を行うため、発表のための資料収集やプレゼンテーションのための準備も必要となる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明
評価のスケジュール	授業への参加度で評価する。
授業時間外の学習	シラバスの熟読
■ 第2回	研究計画立案と調査・実験の準備
授業概要	研究計画案の発表
評価のスケジュール	授業での発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及びディスカッションを踏まえての計画案修正
■ 第3回	研究計画立案と調査・実験の準備
授業概要	研究計画案の発表と研究実施準備
評価のスケジュール	授業での発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及びディスカッションを踏まえての計画案修正
■ 第4回	研究計画立案と調査・実験の準備
授業概要	研究計画案の発表と研究実施準備
評価のスケジュール	授業での発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備及び研究実施準備
■ 第5回	調査・実験の実施
授業概要	研究計画案の実施
評価のスケジュール	実施手続きへの取り組みを評価する。
授業時間外の学習	研究実施に伴う諸作業への従事
■ 第6回	調査・実験の実施
授業概要	研究計画案の実施
評価のスケジュール	実施手続きへの取り組みを評価する。

授業時間外の学習	研究実施に伴う諸作業への従事
■第7回	調査・実験の実施
授業概要	研究計画案の実施
評価のスケジュール	実施手続きへの取り組みを評価する。
授業時間外の学習	研究実施に伴う諸作業への従事
■第8回	データ分析
授業概要	データ分析法の学びと実践
評価のスケジュール	データ分析への理解と取り組みを評価する。
授業時間外の学習	データ分析法の予習と復習
■第9回	データ分析
授業概要	データ分析法の学びと実践
評価のスケジュール	データ分析への理解と取り組みを評価する。
授業時間外の学習	データ分析法の予習と復習
■第10回	データ分析
授業概要	データ分析法の学びと実践
評価のスケジュール	データ分析への理解と取り組みを評価する。
授業時間外の学習	データ分析法の予習と復習
■第11回	調査・実験の結果のまとめと考察
授業概要	分析結果の適切な解釈と考察
評価のスケジュール	授業への参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の復習
■第12回	調査・実験の結果のまとめと考察
授業概要	分析結果の適切な解釈と考察
評価のスケジュール	授業への参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の復習
■第13回	調査・実験の結果報告とディスカッション
授業概要	研究成果報告
評価のスケジュール	授業での発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備と授業内容の復習
■第14回	調査・実験の結果報告とディスカッション
授業概要	研究成果報告及び今後の課題の検討
評価のスケジュール	授業での発表及び質疑応答への参加度で評価する。
授業時間外の学習	発表の準備と授業内容の復習
■第15回	総括
授業概要	第14回までの内容について、総合ディスカッションを行う。
評価のスケジュール	ディスカッションへの参加度で評価する。
授業時間外の学習	授業内容の復習

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

発達心理学特論Ⅰ，発達心理学演習Ⅰ，発達心理学特論Ⅱ

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】 特になし

【参考書】 各々の研究テーマに応じて、授業中に適宜紹介する。

#### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

本授業は、授業への参加度及びレポートにより、本授業目標(①～④)への到達度を総合的に評価する。

【授業への参加度(50%)】 授業での発表内容及び質疑応答への積極的な参加を評価する。

【レポート(50%)】 学期末のレポート課題内容を評価する。

なお、本授業への出席が3分の2に満たない場合、また特別な理由なくレポートが提出されない場合は、評価対象外とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
感情心理学特論 I	Emotional Psychology (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A37	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81512771	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階420室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問に対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる。
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・関連する文献の収集と内容理解。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。発表者の決定。
授業時間外の学習	特になし
■ 第2回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第3回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第4回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第5回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第6回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第7回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第8回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。

■第9回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第10回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第11回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第12回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第13回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第14回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	発表用資料の作成
■第16回	
授業概要	総括レポートの作成・提出
評価のスケジュール	総括レポートの作成・提出
担当教員	レポート作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

感情心理学演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特に指定はない

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績

良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・発表内容40%、ディスカッションへの参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。  
到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え期末レポートにて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
感情心理学演習 I	Emotional Psychology (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A38	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81517721	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階420室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問に対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる。
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・関連する文献の収集と内容理解。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。発表者の決定。
授業時間外の学習	特になし
■ 第2回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第3回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第4回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第5回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第6回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第7回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■ 第8回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション

授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第9回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第10回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第11回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第12回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第13回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。 発表者は資料の作成を行うこと。
■第14回	研究計画の立案1
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	各自、自分の研究計画を立案し発表できるようにまとめておくこと。
■第15回	研究計画の立案2
授業概要	発表とディスカッション
授業時間外の学習	各自、自分の研究計画を立案し発表できるようにまとめておくこと。
■第16回	
授業概要	研究計画書の作成・提出
評価のスケジュール	研究計画書の作成・提出
担当教員	レポート作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

感情心理学特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特に指定はない

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績

優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・発表内容40%、ディスカッションへの参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。  
到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え期末レポートにて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
感情心理学特論Ⅱ	Emotional Psychology (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A39	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81512871	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階420室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問に対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる。
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・関連する文献の収集と内容理解。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。発表者の決定。
評価のスケジュール	授業への参加態度
授業時間外の学習	発表論文の検索と決定
■第2回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第3回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第4回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第5回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第6回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第7回	論文2についての検討

授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第8回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第9回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第10回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第11回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第12回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第13回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第14回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	発表用資料の作成
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
評価のスケジュール	総括レポート
授業時間外の学習	レポート作成

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

感情心理学演習

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

特に指定はない

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】****Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】****成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表内容40%、ディスカッションへの参加態度40%、総括レポート20%の総合評価とする。到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え総括レポートにて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
感情心理学演習Ⅱ	Emotional Psychology (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12A40	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81517821	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

感情喚起と対処に関する心理学的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	日比野 桂	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階420室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・答えのない問に対して考えを深めることができること。
- ・心理学の基礎的知見を理解していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

心理学, 感情

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。
- ・この授業は人文科学研究コースの中で、人間の多様性について他側面から研究する「人間学領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	感情に関する研究知見を理解し、その相違について説明することができる
2	感情に関する研究の動向を踏まえ、新しい研究計画を立案できる
3	日常における感情の影響について心理学的な考察を行うことができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業のテーマは、心理学的観点から感情について理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・関連する文献の収集と内容理解。・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。発表者の決定。
評価のスケジュール	授業への参加態度
授業時間外の学習	発表論文の検索と決定
■第2回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第3回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第4回	論文1についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第5回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第6回	論文2についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション、グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み、自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第7回	論文2についての検討

授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第8回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第9回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第10回	論文3についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第11回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第12回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第13回	論文4についての検討
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	論文を読み込み, 自分なりの考えをまとめておくこと。発表者は資料の作成を行うこと。
■第14回	研究計画の立案1
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	各自, 自分の研究計画を立案し発表できるようにまとめておくこと。
■第15回	研究計画の立案2
授業概要	発表とディスカッション
評価のスケジュール	プレゼンテーション, グループディスカッション
授業時間外の学習	各自, 自分の研究計画を立案し発表できるようにまとめておくこと。
■第16回	研究計画書の作成・提出
授業概要	研究計画書の作成・提出
評価のスケジュール	研究計画書
授業時間外の学習	研究計画書作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

感情心理学特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特に指定はない

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】****Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】****成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・発表内容40%、ディスカッションへの参加態度40%、研究計画書20%の総合評価とする。到達目標1および2は毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については授業態度に加え提出される研究計画書にて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
考古学特論	Archaeology(Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81520171	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

人間社会における物の役割

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Usefulness of Artifacts in Human Society

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階 宮里研究室(439)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学概論履修相当の知識

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

考古学、人工物、環境、世界、関与、構造史、道具、施設、有用性、意義、価値、意味、場、構え、様式、多様化、定型化、形骸化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



考古学原論にあたる。人文科学の一翼を担う考古学が、人間のどのような側面についての理解を深めるかを考える。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	必要な用語と概念を整理する。
2	歴史における時間の層を理解する。
3	人工物の具体相を理解する。
4	物の有用性の形成原理を理解する。
5	物の維持と変化に社会と歴史をみる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

人間社会と物の結びつきについて議論する。関連する書籍を読み議論の内容を相対化する。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。  
関連する書籍を読む。自身の研究との関連をさぐる。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業内容の説明、打合せ
■第2回	問題提起
授業概要	人文科学と考古学について考える
■第3回	用語の整理
授業概要	物、環境、世界、社会の語を整理する
■第4回	構造史
授業概要	社会史における3つの時間を考える
■第5回	道具と施設
授業概要	物の有用性の具体的な現れ
■第6回	物の有用性と意義
授業概要	物の体験と社会に与える統一性
■第7回	「場」と「構え」
授業概要	物の有用性と対象の価値を体験する具体的な脈絡
■第8回	物の移ろい
授業概要	過去の一時持続しやがて消滅したひとつの世界
■第9回	既往の研究との接点
授業概要	3つの座標、4つの方法、様式論
■第10回	考古学の取り組み
授業概要	人文科学として、歴史学として
■第11回	総括
授業概要	人間社会における物の役割
■第12回	『「物質性」の人類学』を読む

授業概要	物性の問題系について
■第13回	『「物質性」の人類学』を読む
授業概要	感覚性の問題系について
■第14回	『「物質性」の人類学』を読む
授業概要	存在論の問題系について
■第15回	振り返り
■第16回	予備日

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

古谷嘉章・関雄二・佐々木重洋編、2017、『「物質性」の人類学』、同成社□

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

平常点50点、レポート50点で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
考古学演習	Archaeology (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81525121	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

物質文化論をよむ

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日2限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階宮里研究室(439)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学概論履修相当の知識

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

human behavior, interpersonal communication, some first principles, a general theory of communication, basic communication processes, explaining performance

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

人間社会における物の役割について、関連研究書を講読し、内容を検討する。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 考古資料論の問題設定を理解する。

2 物質文化論の原則を理解する。

3 コミュニケーションと物の関係を理解する。

4 人間活動と物の関係を理解する。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

Michael Brian Schiffer, 1999, "The Material Life of Human Beings", Routledge を読む。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

関連する書籍を読む

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	打合せ
■第2回	1 Introduction を読む
■第3回	2 What is human behavior? を読む(その1)
■第4回	2 What is human behavior? を読む(その2)
■第5回	3 Artifacts and "interpersonal" communication を読む(その1)
■第6回	3 Artifacts and "interpersonal" communication を読む(その2)
■第7回	4 Some first principles を読む(その1)
■第8回	4 Some first principles を読む(その2)
■第9回	5 A general theory of communication を読む(その1)
■第10回	5 A general theory of communication を読む(その2)
■第11回	6 Basic communication processes を読む(その1)
■第12回	6 Basic communication processes を読む(その2)
■第13回	7 Explaining performance を読む(その1)
■第14回	7 Explaining performance を読む(その2)
■第15回	振り返り
■第16回	予備日

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Michael Brian Schiffer, 1999, "The Material Life of Human Beings", Routledge

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

平常点(授業への取り組み、理解度)で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
比較考古学特論	Comparative Archaeology (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81520271	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

戦いの考古学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階 宮里研究室(439)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学の基礎知識(学部講義における考古学概論相当)が必要。縄文・弥生・古墳時代、古代の考古資料についての基礎知識が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

考古学、戦争、投射武器、衝撃武器、殺傷人骨、石器、青銅器、鉄器

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

考古学の方法論により、物質資料から戦いの始まりと展開をあとづける。  
武器の登場が社会をどのように変え構成したのかを考える。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	必要な用語と概念を整理する。
2	武器登場以前の縄文時代の関連する資料・背景を理解する。
3	起源地である朝鮮半島の青銅製・石製武器の状況を理解する。
4	武器登場期である弥生時代の状況を理解する。
5	古墳時代・古代の武装を理解する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

--

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

講義でしめす関連文献を読み、内容を整理する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業内容の説明、打合せ
■第2回	問題提起
授業概要	戦争の用語、概念
■第3回	概説:武器の登場と展開
授業概要	弥生時代から古代にいたる全体の流れを概説する
■第4回	武器の登場
授業概要	登場期の武器について開設する
■第5回	起源地の武器1
授業概要	朝鮮半島における武器の登場・展開を解説する
■第6回	起源地の武器2
授業概要	朝鮮半島における武器の登場・展開を解説する
■第7回	弥生時代前期の戦い1
授業概要	弥生前期の武器の展開、殺傷人骨の状況を解説する
■第8回	弥生時代前期の戦い2
授業概要	弥生前期の武器の展開、殺傷人骨の状況を解説する
■第9回	戦いにまつわる縄文時代の状況
授業概要	縄文時代の受傷人骨、埋葬について解説する
■第10回	弥生時代中期の戦い1
授業概要	青銅器の登場と剣の展開
■第11回	弥生時代中期の戦い2
授業概要	青銅器の登場と戈の展開

■第12回	弥生時代中期の戦い3
授業概要	弥生中期の殺傷人骨と断体儀礼
■第13回	鉄器の登場
授業概要	弥生後期・古墳時代の戦い
■第14回	馬具と武装
授業概要	古墳時代における馬の登場
■第15回	古代の武装
授業概要	奈良・平安時代の武具・武装
■第16回	振り返り
授業概要	講義内容を振り返り総括する

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

講義で示す

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

レポートで評価する。戦いの起源と展開を再構成するための資料を把握し、資料を適切に歴史的脈絡に位置づけられるかを評価する。



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
比較考古学演習	Comparative Archaeology (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81525221	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

CARL KNAPPETT "AN ARCHAEOLOGY OF INTERACTION"を読む

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宮里 修	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階 宮里研究室(439)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

考古学の基礎知識(考古学概論)が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

Archaeology, Interaction, Materiality, Networks, Practice.

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

存在論的転回後の関係性としての物質文化研究の内容を把握する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	AN ARCHAEOLOGY OF INTERACTION の内容を把握する
2	重要箇所を訳出する
3	キーワードの解説文を作成する

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業でしめる関連文献を読む

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	Interaction, Materiality, and Scale 1
授業概要	Introduction を読む
■第2回	Interaction, Materiality, and Scale 2
授業概要	Interaction, Space, and Scale を読む
■第3回	Interaction, Materiality, and Scale 3
授業概要	Networks Between Disciplines を読む
■第4回	Networks in Practice: From Micro to Macro 1
授業概要	Micro-networks: Proximate Interactions を読む
■第5回	Networks in Practice: From Micro to Macro 2
授業概要	Meso-networks: Communications of Practice を読む
■第6回	Networks in Practice: From Micro to Macro 3
授業概要	Macro-networks: Regional Interactions を読む
■第7回	Why Networks? Objects, Things, and Time 1
授業概要	Networks of Objects を読む
■第8回	Why Networks? Objects, Things, and Time 2
授業概要	Meshworks of Things を読む
■第9回	Why Networks? Objects, Things, and Time 3
授業概要	Temporalities and Biographical Care を読む
■第10回	Epilogue: Future Challenges
授業概要	Epilogue: Future Challenges を読む
■第11回	重要箇所の訳出1
授業概要	Interaction, Materiality, and Scale の部分訳出
■第12回	重要箇所の訳出2
授業概要	Networks in Practice: From Micro to Macro の部分訳出
■第13回	重要箇所の訳出3

授業概要	Networks in Practice: From Micro to Macro の部分訳出
■第14回	重要箇所の訳出4
授業概要	Why Networks? Objects, Things, and Time の部分訳出
■第15回	重要箇所の訳出5
授業概要	Why Networks? Objects, Things, and Time の部分訳出
■第16回	振り返り

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

授業で示す

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

平常時の発言、議論、訳出により評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中世日本社会史特論	Social History of Medieval Japan (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81520371	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日5限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 4F418津野研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部教育で日本史学(中世・近世)に関する科目を履修した者。日本中世後期～近世初期の概説書レベルの知識が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

室町時代、織豊政権、大名、権力構造、意思伝達

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

おもに古文書・日記の分析を通して、織豊期の武家政治の特質を実証的かつ具体的に考究する。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	織豊期政治史に関する学術論文が理解できる。
2	古文書・日記などの史料を解釈できる。
3	古文書・日記などの史料解釈にもとづいて実証的に史実を考えることができる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

予習は配付する資料(学術論文など)・史料(古文書・日記など)を読むこと。復習は配付する資料(レジメなど)をもとに授業内容を確認すること。計週4時間程度を要する。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション
授業時間外の学習	配付資料の確認。
■第2回	
授業概要	公儀—毛利間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第3回	
授業概要	公儀—毛利間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第4回	
授業概要	公儀—毛利間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その3
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第5回	
授業概要	公儀—長宗我部間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第6回	
授業概要	公儀—長宗我部間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第7回	
授業概要	公儀—長宗我部間の「取次」蜂須賀正勝・家政 その3
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第8回	
授業概要	公儀—毛利間の「取次」の交代 その1
評価のスケジュール	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第9回	
授業概要	公儀—毛利間の「取次」の交代 その2

授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第10回	
授業概要	秀吉死後の政局 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第11回	
授業概要	秀吉死後の政局 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第12回	
授業概要	関ヶ原合戦時の家政の行動 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第13回	
授業概要	関ヶ原合戦時の家政の行動 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第14回	
授業概要	「取次」の歴史的意義と徳川政権の成立過程 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第15回	
授業概要	「取次」の歴史的意義と徳川政権の成立過程 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第16回	期末試験
評価のスケジュール	期末試験を実施する。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおりであるが、授業全体の総括的な整理もしておくこと。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

山本博文『幕藩制の成立と近世の国制』など。
-----------------------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験80%、学習意欲(授業への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。  
到達目標1から2については授業における学習態度で確認する。到達目標1から3については期末試験で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中世日本社会史演習	Social History of Medieval Japan (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81525321	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日5限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 4F418津野研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部教育で日本史学(中世・近世)に関する科目を履修した者。日本中世後期～近世初期の概説書レベルの知識が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本中近世、古文書、日記、講読

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



講読する史料(日本中世後期～近世初期の日記もしくは文書)にもとづいた口頭発表(史料解釈・関連事項)と議論をおこなう。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	史料(日記あるいは文書)の解釈ができる。
2	史料(日記あるいは文書)に関連する学術論文等を理解できる。
3	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等を前提とする議論ができる。
4	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等にもとづき自身の考えを発表できる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

予習ではテキストとして選定した日記もしくは文書の読み、解釈を用意する。また、レポーターの場合には発表用のレジメも用意する。平均して週4時間程度を要する。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション 講読史料の選定など
■第2回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その1
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第3回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その2
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第4回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その3
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第5回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その4
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第6回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その5
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第7回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その6
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。

授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第8回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その7
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第9回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その8
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第10回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その9
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第11回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その10
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第12回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その11
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第13回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その12
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第14回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その13
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
<b>■第15回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その14
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

佐藤進一『[新版]古文書学入門』など。
---------------------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

学習意欲(授業中への積極的な参加)60%、発表の内容40%、合計100%で評価する。  
到達目標1から3は授業における学習態度で確認する。到達目標4は発表時のレジメの内容で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中世日本地域史特論	Local History of Medieval Japan (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81520471	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日5限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 4F418津野研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部教育で日本史学(中世・近世)に関する科目を履修した者。日本中世後期～近世初期の概説書レベルの知識が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

豊臣政権、朝鮮出兵、秀吉死後の政局

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

おもに古文書の分析を通して、豊臣期の政治史とくに朝鮮出兵とその国内政治への影響を実証的かつ具体的に考究する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	豊臣期政治史に関する学術論文が理解できる。
2	古文書などの史料を解釈できる。
3	古文書などの史料解釈にもとづいて実証的に史実を考えることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

--

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

予習は配付する資料(学術論文など)・史料(古文書など)を読むこと。復習は配付する資料(レジメなど)をもとに授業内容を確認すること。計週4時間程度を要する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション
授業時間外の学習	配付資料の確認。
■第2回	
授業概要	蔚山の戦い その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第3回	
授業概要	蔚山の戦い その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第4回	
授業概要	戦況の注進方法 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第5回	
授業概要	戦況の注進方法 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第6回	
授業概要	毛利家臣に対する秀吉朱印感状 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第7回	
授業概要	毛利家臣に対する秀吉朱印感状 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第8回	
授業概要	毛利家臣に対する毛利輝元感状1 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第9回	

授業概要	毛利家臣に対する毛利輝元感状1 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第10回	
授業概要	毛利家臣に対する毛利輝元感状2 その1
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第11回	
授業概要	毛利家臣に対する毛利輝元感状2 その2
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第12回	
授業概要	秀吉朱印感状の意義 発給過程の再検討
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第13回	
授業概要	秀吉朱印感状の意義 公儀—毛利間の「取次」関係
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第14回	
授業概要	秀吉朱印感状の意義 秀吉側にとっての意義と毛利側にとっての意義
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第15回	
授業概要	秀吉朱印感状の意義 秀吉死後の政局への影響
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■第16回	
授業概要	期末試験
評価のスケジュール	期末試験を実施する。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおりであるが、授業全体の総括的な整理もしておくこと。

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

山本博文『幕藩制の成立と近世の国制』など。

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】**

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考えなどが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験80%、学習意欲(授業への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。  
到達目標1から2については授業における学習態度で確認する。到達目標1から3については期末試験で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中世日本地域史演習	Local History of Medieval Japan (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81525421	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	津野 倫明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日5限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 4F418津野研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部教育で日本史学(中世・近世)に関する科目を履修した者。日本中世後期～近世初期の概説書レベルの知識が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本中近世、古文書、日記、講読



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

講読する地域史関連の史料(日本中世後期～近世初期の日記もしくは文書)にもとづいた口頭発表(史料解釈・関連事項)と議論をおこなう。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	史料(日記あるいは文書)の解釈ができる。
2	史料(日記あるいは文書)に関連する学術論文等を理解できる。
3	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等を前提とする議論ができる。
4	史料(日記あるいは文書)とこれに関連する学術論文等にもとづき自身の考えを発表できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

予習ではテキストとして選定した日記もしくは文書の読み、解釈を用意する。また、レポーターの場合には発表用のレジメも用意する。平均して週4時間程度を要する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	オリエンテーション 講読史料の選定など
■ 第2回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その1
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■ 第3回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その2
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■ 第4回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その3
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■ 第5回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その4
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■ 第6回	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その5
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」のとおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」のとおり。
■ 第7回	

授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その6
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第8回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その7
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第9回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その8
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第10回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その9
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第11回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その10
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第12回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その11
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第13回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その12
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第14回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その13
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。
<b>■第15回</b>	
授業概要	史料の講読とレポーターによる発表を前提とする議論 その14
評価のスケジュール	下欄「成績評価の基準と方法」とおり。
授業時間外の学習	上欄「授業時間外の学習」とおり。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

佐藤進一『[新版]古文書学入門』など。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

学習意欲(授業中への積極的な参加)60%、発表の内容40%、合計100%で評価する。  
到達目標1から3は授業における学習態度で確認する。到達目標4は発表時のレジメの内容で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
近代日本政治史特論	History of Modern Japanese Politics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81520771	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

昭和戦前期の政治史を考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日2限、要連絡

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

小幡尚研究室(人文学部4階413)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校日本史程度の基礎知識を有していることが必要である。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本近代史、昭和戦前期、政治史

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

昭和戦前期の政治史の概略を理解する。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 昭和戦前期の政治史の概略を論述することができる。
- 2 大日本帝国憲法の構造について説明することができる。
- 3 満州事変からアジア・太平洋戦争までの戦史の概略を論理的に述べるすることができる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

戦争との関連を中心に昭和戦前期の政治史を概観する。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

紹介する文献をガシガシ読む。

### 授業計画【LESSON PLAN】

- |       |                  |
|-------|------------------|
| ■第1回  | ガイダンス            |
| ■第2回  | 大日本帝国憲法の概略       |
| ■第3回  | 政治の動向(1927-1930) |
| ■第4回  | 満州事変1            |
| ■第5回  | 満州事変2            |
| ■第6回  | 満州事変期の政治         |
| ■第7回  | 天皇機関説事件          |
| ■第8回  | 日中戦争1            |
| ■第9回  | 日中戦争2            |
| ■第10回 | 日中戦争期の政治         |
| ■第11回 | アジア・太平洋戦争1 開戦    |
| ■第12回 | アジア・太平洋戦争2 戦史1   |
| ■第13回 | アジア・太平洋戦争3 戦史2   |
| ■第14回 | アジア・太平洋戦争4 戦史3   |
| ■第15回 | アジア・太平洋戦争5 敗戦    |
| ■第16回 | 期末試験             |

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業内に指示する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験の点数で評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
近代日本政治史演習	Modern Japanese Political History (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81525721	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日2限、要連絡

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

小幡尚研究室(人文学部4階413)

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校日本史程度の基礎知識を有していること絶対にながらなければならない。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本近代史、政治史、満州事変、日中戦争、アジア・太平洋戦争

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

十五年戦争期(満州事変～アジア・太平洋戦争)の政治史に関する研究文献を精読する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	研究文献を精読し、その内容を正確に把握することができる。
2	研究文献を精読し、その内容を批判的に理解することができる。
3	研究文献を精読し、その内容についてさまざま観点から検討することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

とにもかくにも研究文献をたくさん精読すること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■ 第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。



■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

授業内に紹介する。

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
近代日本地域史特論	Local History of Modern Japan (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81520871	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

「地域と戦争・軍」についての史的研究

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日2限、要連絡

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

小幡尚研究室(人文学部4階413)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

史実に対する興味。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

近代史、戦争、軍、地域

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

地域の歴史を研究するための前提を知り、その方法を学ぶ。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 日本近代史の基礎的な知識と、地域の歴史を有機的に関連させて考えることができる。

2 地域についての近代史史料を読解することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

「地域と戦争・軍」についての諸相を具体的に講じていく。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

関連書籍をたくさん読む。

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |               |                           |
|---------------|---------------------------|
| ■第1回<br>授業概要  | ガイダンス                     |
| ■第2回<br>授業概要  | 「地域と戦争・軍」についての先行研究について(1) |
| ■第3回<br>授業概要  | 「地域と戦争・軍」についての先行研究について(2) |
| ■第4回<br>授業概要  | 「地域と戦争・軍」についての先行研究について(3) |
| ■第5回<br>授業概要  | 日清戦争と地域                   |
| ■第6回<br>授業概要  | 日清戦争と高知                   |
| ■第7回<br>授業概要  | 日露戦争と地域                   |
| ■第8回<br>授業概要  | 日露戦争と高知(1)                |
| ■第9回<br>授業概要  | 日露戦争と高知(2)                |
| ■第10回<br>授業概要 | 日中戦争と地域                   |
| ■第11回<br>授業概要 | 日中戦争と高知                   |
| ■第12回<br>授業概要 | アジア・太平洋戦争と地域              |
| ■第13回<br>授業概要 | アジア・太平洋戦争と高知              |
| ■第14回<br>授業概要 |                           |

授業概要	アジア・太平洋戦争と四国
■第15回	
授業概要	総括

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

未定
----

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

小テスト・小レポートをそれぞれ5回程度課す。さらに、最終レポートを課す。それを基準として採点する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
近代日本地域史演習	Local History of Modern Japan (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81525821	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本近代史の基礎的文献と史料の講読

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小幡 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日2限、要連絡

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

小幡尚研究室(人文学部4階413)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

真面目に取り組むこと。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

日本近代史の基礎的文献と史料の講読

## キーワード【KEYWORD】

日本近代史、史料、文献

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

日本近代史の基礎的文献と史料を講読する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 日本近代史に関する文献を十全に読解できる。

2 日本近代史に関する史料を十全に解読できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本近代史の基礎的文献と史料の講読

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

文献・史料をたくさん読む。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	ガイダンス
■第2回	
授業概要	文献の講読(1) 政治史
■第3回	
授業概要	文献の講読(2) 政治史
■第4回	
授業概要	文献の講読(3) 政治史
■第5回	
授業概要	文献の講読(4) 戦史
■第6回	
授業概要	文献の講読(5) 戦史
■第7回	
授業概要	文献の講読(6) 社会史
■第8回	
授業概要	文献の講読(7) 社会史
■第9回	
授業概要	史料の講読(1) 政治史
■第10回	
授業概要	史料の講読(2) 政治史
■第11回	
授業概要	史料の講読(3) 回顧録 政治家
■第12回	
授業概要	史料の講読(4) 回顧録 政治家
■第13回	
授業概要	史料の講読(5) 回顧録 軍人
■第14回	

授業概要	史料の講読(6) 回顧録 兵士
■第15回	
授業概要	総括

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業中に指示する
----------

Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

すべての授業において何らかの報告をしてもらう。それを材料として評価する。
--------------------------------------

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
東アジア古代歴史文化論特論	History and Culture in Ancient East Asia (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81521171	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国古代の社会と国家

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大櫛 敦弘	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5F 大櫛研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国古代史についての基礎的な理解を有していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

中国古代、戦国秦漢、漢籍、出土文字資料

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



- ・本授業では、中国古代史のさまざまな分野をめぐる研究の批判的検討や史料解釈の検証を通じて、自らの研究の深化をはかってゆく。
- ・なおこの授業は、人文科学研究コースの中で、地域文化の多様性、個性、伝統性と現代性について外国史(東洋史)などに即して研究する「地域文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	中国古代の社会や国家について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	中国古代史に関する研究動向を、自らの立場から批判的に考察することができる。
3	中国古代史の最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	中国古代の問題について、自らの見解を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、中国古代の社会や国家の問題を中心として、最近の研究成果や新出史料の批判的検討をふまえて行う。あわせて参加者それぞれの問題関心に即して研究発表を随時盛り込むことを予定している。なお、テキストなどは参加者の関心、レベルにあわせて選択する予定である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告料の作成、関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。テキストの紹介、説明。進め方の相談。
授業時間外の学習	特になし。
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第7回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第8回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討

授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第11回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第12回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第13回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第14回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成、関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成、関連資料の収集。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

東アジア古代歴史文化論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談して決定

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
<ul style="list-style-type: none"><li>・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40、期末レポート20%の総合評価とする。</li><li>・毎回の授業態度の中で1から4、とくに1と3について評価する。期末レポートにより、とくに2と4について評価する。</li></ul>		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
東アジア古代歴史文化論演習	History and Culture in Ancient East Asia (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81526121	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国古代の社会と国家

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大櫛 敦弘	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5F 大櫛研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国古代史についての基礎的な理解を有していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

中国古代、戦国秦漢、漢籍、出土文字資料

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・本授業では、中国古代史のさまざまな分野をめぐる研究の批判的検討や史料解釈の検証を通じて、自らの研究の深化をはかってゆく。
- ・なおこの授業は、人文科学研究コースの中で、地域文化の多様性、個性、伝統性と現代性について外国史(東洋史)などに即して研究する「地域文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	中国古代の社会や国家について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	中国古代史に関する研究動向を、自らの立場から批判的に考察することができる。
3	中国古代史の最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	中国古代の問題について、自らの見解を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、中国古代の社会や国家の問題を中心として、最近の研究成果や新出史料の批判的検討をふまえて行う。あわせて参加者それぞれの問題関心に即して研究発表を随時盛り込むことを予定している。なお、テキストなどは参加者の関心、レベルにあわせて選択する予定である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告料の作成、関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。テキストの紹介、説明。進め方の相談。
授業時間外の学習	特になし。
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第7回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第8回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討

授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第11回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第12回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第13回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第14回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成、関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成、関連資料の収集。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

東アジア古代歴史文化論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談して決定

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
----	-------	--

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40、期末レポート20%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
東アジア古代歴史社会論特論	History and Society in Ancient East Asia (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B19	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81521271	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国古代の社会と国家

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Ancient Chinese History

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大櫛 敦弘	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5F 大櫛研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国古代史についての基礎的な理解を有していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

中国古代、戦国秦漢、漢籍、出土文字資料



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・本授業では、中国古代史のさまざまな分野をめぐる研究の批判的検討や史料解釈の検証を通じて、自らの研究の深化をはかってゆく。
- ・なおこの授業は、人文科学研究コースの中で、地域文化の多様性、個性、伝統性と現代性について外国史(東洋史)などに即して研究する「地域文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	中国古代の社会や国家について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	中国古代史に関する研究動向を、自らの立場から批判的に考察することができる。
3	中国古代史の最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	中国古代の問題について、自らの見解を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、中国古代の社会や国家の問題を中心として、最近の研究成果や新出史料の批判的検討をふまえて行う。あわせて参加者それぞれの問題関心に即して研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
なお、テキストなどは参加者の関心、レベルにあわせて選択する予定である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告料の作成、関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。テキストの紹介、説明。進め方の相談。
授業時間外の学習	特になし
■ 第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■ 第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■ 第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■ 第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■ 第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■ 第7回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■ 第8回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第11回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第12回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第13回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第14回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成、関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成、関連資料の収集。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

東アジア古代歴史文化論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談して決定

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・毎回の授業態度の中で1から4、とくに1と3について評価する。期末レポートにより、とくに2と4について評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
東アジア古代歴史社会論演習	History and Society in Ancient East Asia (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B20	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81526221	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国古代の歴史と文化

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大櫛 敦弘	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5F 大櫛研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国古史についての基礎的な理解を有していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

中国古史、戦国秦漢、漢籍、出土文字資料

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・本授業では、中国古代史のさまざまな分野をめぐる研究の批判的検討や史料解釈の検証を通じて、自らの研究の深化をはかってゆく。
- ・なおこの授業は、人文科学研究コースの中で、地域文化の多様性、個性、伝統性と現代性について外国史(東洋史)などに即して研究する「地域文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	中国古代の歴史や文化について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	中国古代史に関する研究動向を、自らの立場から批判的に考察することができる。
3	中国古代史の最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	中国古代の問題について、自らの見解を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、中国古代の社会や国家の問題を中心として、最近の研究成果や新出史料の批判的検討をふまえて行う。あわせて参加者それぞれの問題関心に即して研究発表を随時盛り込むことを予定している。なお、テキストなどは参加者の関心、レベルにあわせて選択する予定である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告料の作成、関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。テキストの紹介、説明。進め方の相談。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第7回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第8回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第11回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第12回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第13回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第14回	文献3冊目の検討
授業概要	輪読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(報告者)、関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成、関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成、関連資料の収集。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

東アジア古代歴史文化論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談して決定

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40、期末レポート20%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
東アジア近世歴史文化論特論	History and Culture in Early Modern East Asia (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81521371	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	吉尾 寛	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

毎週木曜日12:00-13:00

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階415室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

講義の中で紹介する文献を読むなどして、予習、復習に心がける

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

戦後日本 明、清、研究史

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



- 1) 明清時代史研究に関して、日本およびそれに関連する中国、台湾の代表的な分野に即して解説する
- 2) 教師の説明を通して、日本の明清時代史研究の今日の課題を見出す。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	現在までの日本の明清史研究の動向の基本線を理解できる。
2	日本の明清史研究の、戦後から～60年代、70年代、80年代～90年代、および現在の研究方法の特徴を理解できる。
3	関係する中国、台湾の主要な研究成果の特徴を理解できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

--

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回2時間以上の授業時間外学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

<p>■ 第1回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>授業内容、評価方法等の説明する。</p> <p>約1時間：シラバスに記載した歴史用語を幾つか調べる</p>
<p>■ 第2回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>戦後日本（～60年代）の明清期社会経済史研究の方法と課題（土地制度を中心に）</p> <p>約2時間：初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる</p>
<p>■ 第3回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>同前（賦役制度を中心に）</p> <p>約2時間：初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる</p>
<p>■ 第4回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>同前（商品経済を中心に）</p> <p>約2時間：初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる</p>
<p>■ 第5回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>小まとめと討論</p> <p>履修者は報告のための資料を作成する（2時間以上）。</p>
<p>■ 第6回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>同前（～70年代）の研究の方法と課題（いわゆる郷紳論について）</p> <p>約2時間：初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる</p>
<p>■ 第7回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>同前（民衆運動を中心に）</p> <p>約2時間：初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる</p>
<p>■ 第8回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>小まとめと討論</p> <p>履修者は報告のための資料を作成する（2時間以上）。</p>
<p>■ 第9回</p> <p>授業概要</p>	<p>80年代から90年代の日本の明清期社会経済史研究の方法と課題（社会秩序をめぐって）</p>

授業時間外の学習	約2時間: 初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる
■ 第10回	
授業概要	同前(社会変動をめぐって)
授業時間外の学習	約2時間: 初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる
■ 第11回	
授業概要	同前(宗族をめぐって)
授業時間外の学習	約2時間: 初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる
■ 第12回	
授業概要	小まとめと討論
授業時間外の学習	履修者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。
■ 第13回	
授業概要	台湾の研究動向(社会経済史を中心に)について
授業時間外の学習	約2時間: 初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる
■ 第14回	
授業概要	台湾の研究動向(文化史を中心に)について
授業時間外の学習	約2時間: 初回に配布した基本資料の当該部分の、歴史用語を幾つか調べる
■ 第15回	
授業概要	今日の日本の明清期社会経済史の課題(討論)
授業時間外の学習	履修者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は使用しない。参考文献は授業の中で随時紹介する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末のレポートで評価する。但し、3回の小まとめにおける発表内容および最終回の討論における内容の評価を最大20点として組み入れる。評価の観点としては、戦後から今日にいたる日本の明清史研究の方法、課題について、一つ以上の時期の代表的な方法の特徴を述べることができ(「良」の基準)、さらにそれについての自分の意見を具体的に述べられるかどうかを評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
東アジア近世歴史文化論演習	History and Culture in Early Modern East Asia (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81526321	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	吉尾 寛	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

毎週木曜日12:00-13:00

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階415室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

講義の中で紹介する文献を読むなどして、予習、復習に心がける

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

中国、明、地域社会、国家、官僚、民衆

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

1. 中国・明代初期の地域社会に関する諸問題
2. 中国の「近代」への歴史的道程を実証的に考察する方法を身につける

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	当該時代に関する代表的史料・論文を解読できる。
2	地域社会(州・県等)の課題(賦役負担・土地所有・治安維持等に関する)について記述した項目を具体的に把握できる。
3	上記の課題が国家、地方官、地域社会の住民(士大夫～農民等)の関わりの中でどのように解決されようとしたのかを考察し、手がかりを見出すことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

--

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回2時間以上の授業時間外学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

<p>■ 第1回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>授業内容、評価方法等の説明、幾つか候補を示して今回取り上げる史料、論文を決める。</p> <p>約1時間: シラバスに記載した歴史用語を幾つか調べる</p>
<p>■ 第2回</p> <p>授業概要</p> <p>評価のスケジュール</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>史料の改題</p> <p>初回の後本回の前に資料のコピーを配布</p> <p>約2時間: 自分の関心に基づき幾つかの用語について独自に調べる</p>
<p>■ 第3回</p> <p>授業概要</p> <p>評価のスケジュール</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>主要な論文の解説</p> <p>初回の後本回の前に資料のコピーを配布</p> <p>約2時間: 自分の関心に基づき幾つかの用語について独自に調べる</p>
<p>■ 第4回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>学生の史料解説案の報告とその検討</p> <p>報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)</p>
<p>■ 第5回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>学生の史料解説案の報告とその検討</p> <p>報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)</p>
<p>■ 第6回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>学生の史料解説案の報告とその検討</p> <p>報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)</p>
<p>■ 第7回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>学生の史料解説案の報告とその検討</p> <p>報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)</p>
<p>■ 第8回</p> <p>授業概要</p> <p>授業時間外の学習</p>	<p>これまでの検討内容を確認し、そのため履修者は小報告を行う。</p> <p>履修者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。</p>

■第9回	
授業概要	学生の史料解説案の報告とその検討
授業時間外の学習	報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)
■第10回	
授業概要	学生の史料解説案の報告とその検討
授業時間外の学習	報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)
■第11回	
授業概要	学生の史料解説案の報告とその検討
授業時間外の学習	報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)
■第12回	
授業概要	学生の史料解説案の報告とその検討
授業時間外の学習	報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)
■第13回	
授業概要	学生の史料解説案の報告とその検討
授業時間外の学習	報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)
■第14回	
授業概要	学生の史料解説案の報告とその検討
授業時間外の学習	報告担当者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。その他の者は予習(2時間程度)
■第15回	
授業概要	授業全体の内容を総括的に確認し、そのため履修者は小報告を行う。
授業時間外の学習	履修者は報告のための資料を作成する(2時間以上)。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

使用しない。参考文献は授業の中で適宜紹介する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

平常点で評価する。また、最終授業の折、史料解読の基本的技術の修得、明代初期の地域社会の課題を国家、社会、農民の観点から1つ以上指摘でき(1つの場合が「良」)、かつそれが中国の「近代」にどのようにつながると推測されるか自分の意見を述べられるかどうか、で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
西洋近現代歴史文化論特論	Western History and Culture in the Modern/Contemporary Eras (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81522171	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリスとイギリス帝国の近世・近代史

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日5限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階412号室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部専門科目「西洋史概論」で扱うような内容とレベルに相当する西洋近現代史に関する基本的な知識をもっていること。  
授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えておくこと。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

イギリス イギリス帝国 近世史 近代史

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



- ・主題は、イギリス及びイギリス帝国の近世・近代史の展開を多角的な視点から論じることである。
- ・目的は、イギリス及びイギリス帝国の近世近代史をベースにしながら、グローバルとローカルを結びつける視角から考え、議論する手がかりをつかむことである。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	近世・近代におけるイギリスおよびイギリス帝国の歴史の変容について、これまで理解していることを基に、新たに理解したことを自分の言葉で説明できる。
2	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる研究動向について、適確に把握し、かつ批判的に考察することができる。
3	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる研究について、自らの視点とその意義を明確にししながら、他の研究者と議論ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

17世紀末から20世紀初頭にかけてのイギリスおよびイギリス帝国に着目し、その歴史の変容について論じる。とくにイギリス一国にとどまらない、より大きな観点から、各地域及び世界の歴史の変容についても考察する。なお、可能なかぎり、受講者の関心に近いピックを中心に論じる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・授業に関連する史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。参考文献についてのアドバイス。
評価のスケジュール	特になし
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■ 第2回	「連合王国」成立前のブリテン諸島と海外進出(1)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■ 第3回	「連合王国」成立前のブリテン諸島と海外進出(2)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■ 第4回	「連合王国」の成立と商業革命(1)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■ 第5回	「連合王国」の成立と商業革命(2)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■ 第6回	「連合王国」の成立と商業革命(3)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■ 第7回	産業革命とイギリス帝国(1)
授業概要	講義と質疑・討論

評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第8回	産業革命とイギリス帝国(2)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第9回	産業革命とイギリス帝国(3)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第10回	パクス・ブリタニカの時代(1)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第11回	パクス・ブリタニカの時代(2)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第12回	パクス・ブリタニカの時代(3)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第13回	帝国からコモンウェルスへ(1)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第14回	帝国からコモンウェルスへ(2)
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第15回	全体の総括
授業概要	講義と質疑・討論
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第16回	
授業概要	総括レポートの作成・提出
評価のスケジュール	提出された総括レポートによる

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史文化論演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『イギリス帝国と20世紀』第3～5巻、ミネルヴァ書房、2006～2009年。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

(1)出席状況及び受講態度(2)小テストないしレポート(3)総括レポート、という3項目で到達目標の達成度を評価し、それを合算して評点とする。3項目の配分は9:10:22とするが、特定の項目が著しく不良の場合は総点からさらに減算する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
西洋近現代歴史文化論演習	Western History and Culture in the Modern/Contemporary Eras (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81527121	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリスとイギリス帝国の近世・近代史

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日5限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階412号室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「西洋近現代史歴史文化論特論」で扱う内容とレベルに相当する西洋近現代史に関する基本的な知識をもっていること。  
イギリス・イギリス帝国史の概説書レベルの英語を適確に和訳できる程度の英語力ならびに日本語力を備えていること。  
授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えておくこと。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

イギリス イギリス帝国 近世史 近代史

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・主題は、イギリス及びイギリス帝国の近世・近代史の展開とその史的研究について、多角的な視点からアプローチし、論じることである。  
 ・目的は、イギリス及びイギリス帝国の近世近代史をベースにしながら、グローバルとローカルを結びつけるなど広範な視角から考え、議論することである。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	近世・近代におけるイギリスおよびイギリス帝国の歴史的要因にかかる研究文献(英語)を適確に読み解き、その内容を説明することができる。
2	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる既存の研究について、批判的に考察することができる。
3	イギリスおよびイギリス帝国の近世・近代史にかかる最近5年以内に発表された重要な研究成果を2つ以上説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

近現代イギリスならびに帝国=コモンウェルス文化史にかかる研究文献(主に英語)を講読したうえで、西洋文化史をイギリス帝国=コモンウェルス史やグローバル・ヒストリーの観点から考察すべく研究発表とディスカッションをおこなう。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・講読文献にかかる史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。参考文献検索方法等についてのアドバイス。
■ 第2回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■ 第3回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■ 第4回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■ 第5回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■ 第6回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■ 第7回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■ 第8回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■ 第9回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。

■第10回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第11回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第12回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第13回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第14回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第15回	研究文献にかかる検討
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史文化論特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Oxford History of the British Empire, vol.I-IV, 1998-1999.

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業に取り組む姿勢とその成果によって、到達目標の達成度を多角的かつ総合的に評価する。具体的には、講読部分（英文和訳の出来不出来だけでなく、歴史的事項や固有の事件や人物に関する内容の正確な理解）、ディスカッションの部分（的確な問いかけや疑問点の提起と一定の妥当な根拠を有する見解の主張）、レポート部分（適確なまとめ）、全般的な実践部分（受講状況、提示した課題や自学自習のための推奨事項の遂行）を評価のポイントとする。各評価ポイントの配分は均等とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
西洋近現代歴史社会論特論	Modern/Contemporary History and Society in the Western World (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81522271	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリス帝国=コモンウェルスの近現代史

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

British Imperial &amp; Commonwealth History

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日5限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階412号室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部専門科目「西洋史概論」及び「西洋社会史」で扱うような内容とレベルに相当する西洋近現代史に関する基本的な知識をもっていること。授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

イギリス イギリス帝国 コモンウェルス 近代史 現代史



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・主題は、イギリス帝国及びコモンウェルスの近現代史の展開を多角的な視点から論じることである。
- ・目的は、イギリス帝国及びコモンウェルスの近現代史をベースにしながら、グローバルとローカルを結びつける視点から考え、議論する手がかりをつかむことである。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	近現代におけるイギリス帝国およびコモンウェルスの歴史的変容について、これまで理解していることを基に、新たに理解したことを自分の言葉で説明できる。
2	イギリス帝国およびコモンウェルスの近現代史にかかる研究動向について、適確に把握し、かつ批判的に考察することができる。
3	イギリス帝国およびコモンウェルスの近現代史にかかる研究について、自らの視点とその意義を明確にしなが、他の研究者と議論ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

イギリス帝国の形成からコモンウェルス(英連邦)への変貌をへて現在に至るまでの過程に着目し、その歴史的変容について講義する。とくにグローバル・ヒストリーの観点をとりこみながら、各地域及び世界の諸問題についても考察する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・授業に関連する史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。参考文献についてのアドバイス。
評価のスケジュール	特になし
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第2回	19世紀イギリス帝国の概観
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第3回	19世紀イギリス帝国の経済
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第4回	19世紀イギリス帝国の移民と移民政策
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第5回	19世紀イギリス帝国における宗教と伝道活動
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第6回	19世紀イギリス帝国とイギリス本国の文化
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第7回	19世紀イギリス帝国における文化伝播

授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第8回	第1次世界大戦とイギリス帝国
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第9回	帝国＝コモンウェルス体制とアイルランド
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第10回	イギリス帝国と「委任統治」
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第11回	第2次世界大戦とイギリス帝国＝コモンウェルス
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第12回	インドの独立と帝国＝コモンウェルス体制
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第13回	ジェンダーとイギリス帝国＝コモンウェルス
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第14回	「新コモンウェルス」とその変容
授業概要	講義と質疑・討論
評価のスケジュール	小テストまたは課題を出す場合がある。
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第15回	全体の総括
授業概要	講義と質疑・討論
授業時間外の学習	関連史資料の収集、閲覧、読解。
■第16回	
授業概要	総括レポートの作成・提出
評価のスケジュール	提出された総括レポートによる

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史社会論演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は無し。参考書は、The Oxford History of the British Empire, vol.III-IV, 1998-1999.

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

(1)出席状況及び受講態度(2)小テストないしレポート(3)総括レポート、という3項目で到達目標の達成度を評価し、それを合算して評点とする。3項目の配分は9:10:22とするが、特定の項目が著しく不良の場合は総点からさらに減算する。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
西洋近現代歴史社会論演習	Modern/Contemporary History and Society in the Western World (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81527221	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(地理歴史)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

帝国＝コモンウェルスの近現代史

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

British Imperial & Commonwealth History

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	川本 真浩	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日5限、要予約

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階412号室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「西洋近現代史歴史社会論特論」で扱う内容とレベルに相当する帝国＝コモンウェルス史にかかる基本的な知識をもっていること。帝国＝コモンウェルス史の概説書レベルの英語を適確に和訳できる程度の英語力ならびに日本語力を備えていること。授業に継続的に出席できるよう、心身の調子を整えること。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

イギリス帝国史、コモンウェルス、近現代史

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・主題は、イギリス及びイギリス帝国の近世・近代史の展開とその史的研究について、多角的な視点からアプローチし、論じることである。
- ・目的は、イギリス帝国＝コモンウェルス史にかかる先行研究に基づき、グローバルとローカルを結びつけるなど広範な視角から考え、議論することである。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	研究文献(英語)を適確に読み解き、その内容を説明することができる。
2	先行研究について、批判的に考察することができる。
3	イギリス帝国＝コモンウェルス史研究について、自らの視点とその意義を明確にしなが、他の研究者と議論ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

イギリス帝国及びコモンウェルス(英連邦)の歴史にかかる研究文献(主に英語)に拠りながら、イギリス帝国及びコモンウェルスを対象とした歴史研究のために必要な知識と技能を発展させるべく、研究発表とディスカッションをおこなう。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・講読文献にかかる史資料の収集と読み解き。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。参考文献検索方法等についてのアドバイス。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	研究文献にかかる検討(1)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第3回	研究文献にかかる検討(2)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第4回	研究文献にかかる検討(3)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第5回	研究文献にかかる検討(4)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第6回	研究文献にかかる検討(5)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第7回	研究文献にかかる検討(6)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第8回	研究文献にかかる検討(7)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第9回	研究文献にかかる検討(8)

授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第10回	研究文献にかかる検討(9)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第11回	研究文献にかかる検討(10)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第12回	研究文献にかかる検討(11)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第13回	研究文献にかかる検討(12)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第14回	研究文献にかかる検討(13)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第15回	研究文献にかかる検討(14)
授業概要	講読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	英語文献の訳出、関連事項の調査、関連史資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋近現代史歴史社会論特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は、A.Burton & D.Kennedy (eds.), How Empire Shaped Us, London, 2016、参考書は授業中に指示する。ただし、最新の学界動向と受講生の関心事によって教科書を変更する場合がある。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業に取り組む姿勢とその成果によって、到達目標の達成度を多角的かつ総合的に評価する。具体的には、講読部分（英文和訳の出来不出来だけでなく、歴史的事項や固有の事件や人物に関する内容の正確な理解）、ディスカッションの部分（的確な問いかけや疑問点の提起と一定の妥当な根拠を有する見解の主張）、レポート部分（適確なまとめ）、全般的な実践部分（受講状況、提示した課題や自学自習のための推奨事項の遂行）を評価のポイントとする。各評価ポイントの配分は均等とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本古典文学論特論	Japanese Classics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12B33	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81530171	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限, 要予約

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部5F福島研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本語学・日本文学の学部教育専門科目レベルの基礎的知識を有すること。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本古典文学、文献学

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



・日本古典文学作品を文献学的方法を用いて、その表現解析をおこなう方法を身に着けることを目的に、研究文献を講読する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	文献を文献批評(クリティカルリーディング)できるようになる。
2	文献学的方法の基礎知識を身に着ける。
3	日本古典文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本古典文学作品を対象に、文献学的方法を用いてその表現解析を試みた研究文献を講読し、日本古典文学を研究する上での諸問題について考察する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
■第2回	日本古典文学作品の文献学的研究方法(1)本文批評
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第3回	日本古典文学作品の文献学的研究方法(2)注釈的研究
授業概要	当該のテーマについて講義
■第4回	日本古典文学作品の文献学的研究方法と文芸批評的研究方法
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第5回	講義の主対象として取り上げる作品『徒然草』の文献学的解題
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第6回	講義の主対象として取り上げる作品『徒然草』の研究史解説
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第7回	作品ならびにその研究文献の講読(1)『徒然草抜書』前言
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	作品ならびにその研究文献の講読(2)文献学的解釈の基礎
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	作品ならびにその研究文献の講読(3)つれづれなるままに
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	作品ならびにその研究文献の講読(4)うしのつの文字
授業概要	報告とディスカッション

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	作品ならびにその研究文献の講読(5)土偏に候ふ
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	作品ならびにその研究文献の講読(6)蜷といふ貝
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	作品ならびにその研究文献の講読(7)いみじき秀句
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	作品ならびにその研究文献の講読(8)『徒然草抜書』結語
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	作品ならびにその研究文献の講読(8)『徒然草抜書』結語
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第16回	まとめ一問題の所在の確認
授業概要	報告とディスカッション

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

小川 剛生『新版 徒然草 現代語訳付き(角川ソフィア文庫)』、小松 英雄『徒然草抜書』(講談社学術文庫)、そのほかの参考文献は授業中に紹介する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

--

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本古典文学論演習	Japanese Classics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81535121	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部5F福島研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語学・日本文学の学部専門科目レベルの基礎的知識を有すること。
- ・日本古典文学論特論を履修していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本古典文学、文献学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・日本古典文学作品に関する研究文献をクリティカルリーディングする。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	文献を文献批評(クリティカル リーディング)できるようになる。
2	文献批評(クリティカル リーディング)によって問題点を発見し、それを解決しようとする態度・技能を身に着ける。
3	日本古典文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

・日本古典文学作品に関する研究文献を文献批評(クリティカル リーディング)する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・文献の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
■第2回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
■第3回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
■第4回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第5回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第6回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第7回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第8回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第9回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第10回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第11回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。

■第12回 授業概要 授業時間外の学習	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション 文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第13回 授業概要 授業時間外の学習	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション 文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第14回 授業概要 授業時間外の学習	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション 文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第15回 授業概要 授業時間外の学習	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション 文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回 授業概要 授業時間外の学習	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング) 報告とディスカッション 文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

文献批評(クリティカル リーディング)の対象は受講生と相談の上決定する。

--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

--

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中世日本言語文化論特論	Language and Culture in the Japanese Middle Ages (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81530271	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限, 要予約

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部5F福島研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本語学・日本文学の学部教育専門科目レベルの基礎的知識を有すること。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本中世文学、文献学

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・日本中世文学作品を文献学的方法を用いて、その表現解析をおこなう方法を身に着けることを目的に、研究文献を講読する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 文献を文献批評(クリティカル リーディング)できるようになる。
- 2 文献学的方法の基礎知識を身に着ける。
- 3 日本中世文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本中世文学作品を対象に、文献学的方法を用いてその表現解析を試みた研究文献を講読し、日本古典文学を研究する上での諸問題について考察する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
■第2回	日本中世文学作品の文献学的研究方法(1)本文批評
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第3回	日本中世文学作品の文献学的研究方法(2)注釈的研究
授業概要	当該のテーマについて講義
■第4回	日本中世文学作品の文献学的研究方法と文芸批評的研究方法
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第5回	講義の主対象として取り上げる作品『今昔物語集』の文献学的解題
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第6回	講義の主対象として取り上げる作品『今昔物語集』の研究史解説
授業概要	当該のテーマについて講義
授業時間外の学習	当該テーマについての発展的学習。関連資料の収集。
■第7回	作品ならびにその研究文献の講読(1)事実から説話へーその1. 興福寺再建の霊験
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	作品ならびにその研究文献の講読(2)事実から説話へーその2. 花山院女王殺人事件
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	作品ならびにその研究文献の講読(3)説話のうらおもて

授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	作品ならびにその研究文献の講読(4)説話の視界
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	作品ならびにその研究文献の講読(5)天竺から来た説話
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	作品ならびにその研究文献の講読(6)震旦説話の変容
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	作品ならびにその研究文献の講読(7)説話の翻訳
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	作品ならびにその研究文献の講読(8)『今昔物語集』の展望1
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	作品ならびにその研究文献の講読(9)『今昔物語集』の展望2
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第16回	まとめ—問題の所在の確認
授業概要	報告とディスカッション

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

池上 洵『今昔物語集の世界—中世のあけぼの』
------------------------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績



- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中世日本言語文化論演習	Language and Culture in the Japanese Middle Ages (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81535221	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	福島 尚	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限, 要予約
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部5F福島研究室
----------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学・日本文学の学部専門科目レベルの基礎的知識を有すること。</li> <li>・中世日本言語文化論特論を履修していること。</li> </ul>
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本中世文学、文献学
------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・日本中世文学に関する研究文献をクリティカルリーディングする。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	文献を文献批評(クリティカル リーディング)できるようになる。
2	文献批評(クリティカル リーディング)によって問題点を発見し、それを解決しようとする態度・技能を身に着ける。
3	日本中世文学作品を文献学的方法を用いて研究できるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

・日本中世文学作品に関する研究文献を文献批評(クリティカル リーディング)する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・文献の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
■第2回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
■第3回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
■第4回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第5回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第6回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第7回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第8回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第9回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第10回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション

授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第11回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第12回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第13回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第14回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第15回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	作品ならびにその研究文献の文献批評(クリティカル リーディング)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読、報告資料の作成。関連資料の収集。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

文献批評(クリティカル リーディング)の対象は受講生と相談の上決定する。
--------------------------------------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③について、担当時の報告内容・毎回の授業態度および期末レポートとを総合して評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本文献資料論特論	Japanese Philology (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81530371	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

散逸作品と復元

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大塚 誠也	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜3限(事前連絡必須)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟5F515大塚誠也研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

平安時代の文学作品に関する大学卒業時程度の知識。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本文学、平安文学、古典文学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・散逸した作品、または欠落がある作品の様態について、文献資料を広く参照しながら学習する。
- ・不完全な作品について、現存する資料をつなぎ合わせる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | 散逸作品等について、適切な現存資料を参照することができる。 |
| 2 | 散逸作品等について、復元考察を自分で行なうことができる。  |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

文献資料を横断的に披見しながら、散逸作品等の現存しない作品を集中的に学習する。単なる作品の読解ではなく、韻文にせよ散文にせよ、読解しえない作品・部分を把握し、考察する。講義形式であるが、履修者には積極的な考察と発言を求める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

各作品、及び先行研究の復習・批判的考察を求める。

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| ■第1回  | はじめに 授業の狙いと進め方        |
| ■第2回  | 「かばね尋める宮」等 まずは肩慣らし    |
| ■第3回  | 『風葉和歌集』等1 物語の復元の方法    |
| ■第4回  | 『風葉和歌集』等2 現存物語を見る     |
| ■第5回  | 『浜松中納言物語』 転生と出家       |
| ■第6回  | 『夜の寝覚』1 老関白の恋         |
| ■第7回  | 『夜の寝覚』2 天皇と擬死         |
| ■第8回  | 『古とりかへばや』 好まれざる性描写    |
| ■第9回  | 私家集1 流通機構             |
| ■第10回 | 私家集2 失われた歌人像を求めて      |
| ■第11回 | 省筆表現について              |
| ■第12回 | 補遺1 受講者達の専攻に関する文献講読   |
| ■第13回 | 補遺2 受講者達の専攻に関する文献講読   |
| ■第14回 | 補遺3 受講者達の興味関心に関する文献講読 |
| ■第15回 | まとめ                   |

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

指定しない。プリントや組織の蔵書を利用する。

## Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

毎回の発言及び討議50%、期末レポート50%で評価する。

ただし、出席が10回未満の場合、もしくはレポート未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本文献資料論演習	Japanese Philology (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81535321	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

『枕草子』と伝本系統

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大塚 誠也	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜3限(事前予約必須)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟5F515大塚誠也研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部卒業レベルのくずし字翻刻能力。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本文学、古典文学、枕草子

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・『枕草子』の影印資料を翻刻・整定する。
- ・複数の伝本について、内容的な差異を考察する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| 1 | 写本を読解し、本文をたてることができる。      |
| 2 | 伝本間の内容的な差異について考察することができる。 |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

『枕草子』の影印資料(伝本の写真)を用いて、翻刻・整定を行ない、伝本間の内容的な差異についても考察する。単語や文法の知識を用いて、読みやすい本文を整定する。学生が個人発表を行なう形式だが、人数によっては一度の発表をめぐり、複数回のコマを討議にあてる場合もある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で扱う範囲の影印を読解・整定・考察し、発表資料を作成する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |       |                |
|-------|----------------|
| ■第1回  | はじめに 授業の狙いと進め方 |
| ■第2回  | 発表サンプル、各回の割り振り |
| ■第3回  | 個人発表及び討議       |
| ■第4回  | 個人発表及び討議       |
| ■第5回  | 個人発表及び討議       |
| ■第6回  | 個人発表及び討議       |
| ■第7回  | 個人発表及び討議       |
| ■第8回  | 個人発表及び討議       |
| ■第9回  | 個人発表及び討議       |
| ■第10回 | 個人発表及び討議       |
| ■第11回 | 個人発表及び討議       |
| ■第12回 | 個人発表及び討議       |
| ■第13回 | 関連文献講読等        |
| ■第14回 | 関連文献講読等        |
| ■第15回 | 関連文献講読等        |

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

指定しない。プリントや組織の蔵書を用いる。

## Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

個人発表、及び討議の内容100%で評価する。  
ただし、出席が10回未満の場合、原則として評価の対象外とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
古代日本言語文化論特論	Ancient Japanese Language and Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81530471	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

後冷泉朝の文芸圏とその研究史

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大塚 誠也	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜3限(事前連絡推奨)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

大塚誠也研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

平安時代の社会制度に関する大学卒業時程度の知識。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本文学、平安文学、古典文学

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ 撰関後・末期に位置する後冷泉朝の社会背景、及び文芸活動を学ぶ。
- ・ 後冷泉朝の文芸に関する先行研究に対して、批判的な検討を加える。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 後冷泉朝の社会背景、及び文芸活動の特質を説明できる。
- 2 後冷泉朝に関する先行研究を理解し、その限界性と発展性を議論できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

後冷泉朝における文芸活動を、比較的短い作品とその先行研究を通じて学習する。『更級日記』や諸歌会、諸家集を通じて、時代的な特質を学ぶ。その上で、研究史と具体的な先行研究を参照し、現在までの研究状況に不足している点、これから発展できそうな点を議論する。講義形式であるが、履修者には積極的な考察と発言を求める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

各作品、及び先行研究の事前読解を求める。

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |        |                       |
|--------|-----------------------|
| ■ 第1回  | はじめに 授業の狙いと進め方        |
| ■ 第2回  | 時代背景概説 融和と共有でよいのか     |
| ■ 第3回  | 史料と歴史物語 二人の後妃と同殿      |
| ■ 第4回  | 『四条宮下野集』序と跋 天皇と撰関家    |
| ■ 第5回  | 歌合と歌会1 歌語と名所          |
| ■ 第6回  | 歌合と歌会2 和歌六人党と受領層      |
| ■ 第7回  | 『更級日記』1 上洛の記と時代       |
| ■ 第8回  | 『更級日記』2 反復されるモチーフ     |
| ■ 第9回  | 『更級日記』3 神仏信仰と中世       |
| ■ 第10回 | 『更級日記』4 結末と遁世         |
| ■ 第11回 | 『更級日記』5 定家本と書入        |
| ■ 第12回 | 補遺1 受講者達の専攻に関する文献講読   |
| ■ 第13回 | 補遺2 受講者達の専攻に関する文献講読   |
| ■ 第14回 | 補遺3 受講者達の興味関心に関する文献講読 |
| ■ 第15回 | まとめ                   |

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

指定しない。プリントや組織の蔵書を利用する。

## Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

毎回の発言及び討議50%、期末レポート50%で評価する。

ただし、出席が10回未満の場合、及びレポート未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
古代日本言語文化論演習	Ancient Japanese Language and Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81535421	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

『源氏物語』の翻刻資料と本文異同

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	大塚 誠也	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜3限(事前連絡推奨)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

大塚誠也研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

作品本文の異同(差異)を考察しようという意欲。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本文学、古典文学、源氏物語

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・翻刻資料(伝本を活字化したもの)及び校異表(伝本間の異同をまとめたもの)を理解する。
- ・本文異同について調査する。
- ・本文異同が物語や文体にどのような影響を及ぼすのか考察する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 翻刻資料や校異表を理解し、調査及び資料作成に利用できる。
- 2 本文異同について調査し、問題点の存する箇所を説明できる。
- 3 本文異同をめぐって物語や文体を考察し議論できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

『源氏物語』の翻刻資料(伝本を活字化したもの)と校異(伝本間の異同をまとめたもの)を用いて、本文の相違を調査、考察する。同じ場面において、単語や時制、敬語といった表現の相違が、物語や文体にどのような影響を及ぼすのか、仮名文芸の特質も含めて学習する。  
学生が個人発表を行なう形式だが、人数によっては一度の発表をめぐり、複数回のコマを討議にあてる場合もある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で扱う範囲の本文、及び校異表を読解、調査し、発表資料を作成する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |       |                |
|-------|----------------|
| ■第1回  | はじめに 授業の狙いと進め方 |
| ■第2回  | 発表サンプル、各回の割り振り |
| ■第3回  | 個人発表及び討議       |
| ■第4回  | 個人発表及び討議       |
| ■第5回  | 個人発表及び討議       |
| ■第6回  | 個人発表及び討議       |
| ■第7回  | 個人発表及び討議       |
| ■第8回  | 個人発表及び討議       |
| ■第9回  | 個人発表及び討議       |
| ■第10回 | 個人発表及び討議       |
| ■第11回 | 個人発表及び討議       |
| ■第12回 | 個人発表及び討議       |
| ■第13回 | 関連文献講読等        |
| ■第14回 | 関連文献講読等        |
| ■第15回 | 関連文献講読等        |

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

指定しない。プリントや組織の蔵書を用いる。

## Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】



## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

個人発表、及び討議の内容100%で評価する。  
ただし、出席が10回未満の場合、原則として評価の対象外とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語論特論 I	Japanese Linguistics (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81531171	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	北崎 勇帆	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日午後、事前相談のこと。

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

北崎勇帆研究室(人文棟509)

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「日本語史」「日本語論」など、日本語学に関連する講義を履修済であることが望ましい。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本語史

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・言語変化に関する知識を学び、自身の知る個々の事例を有機的に関連付ける

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	・論文の基本的な構造を身につける
2	・言語変化に関する知識を一通り身につける
3	・日本語史における個々の変化事例をできるだけ多く思いつけるようになる

### 授業全体の概要【SUMMARY】

言語史に関する文献を予め読み、検討を加える。論文の構造や記述の妥当性といった批判的検討に加え、日本語史(を含む、受講者の知る言語現象)において関連する事象はないか、他にも事例を加えることはできないか、など、発展的な検討も行う。  
文献は受講者の興味に基づき、講師が適宜指示する。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

概要に記した通り、毎週の事前準備を求める。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	ガイダンス
■第2回	
授業概要	文献講読(1)
授業時間外の学習	指定された文献を熟読し、その他指示に従って分析を行う。以下(13)まで同様。
■第3回	
授業概要	文献講読(2)
■第4回	
授業概要	文献講読(3)
■第5回	
授業概要	文献講読(4)
■第6回	
授業概要	文献講読(5)
■第7回	
授業概要	文献講読(6)
■第8回	
授業概要	文献講読(7)
■第9回	
授業概要	文献講読(8)
■第10回	
授業概要	文献講読(9)
■第11回	
授業概要	文献講読(10)
■第12回	
授業概要	文献講読(11)
■第13回	

授業概要	文献講読(12)
■第14回	
授業概要	文献講読(13)
■第15回	
授業概要	総括

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

初回の講義で指示する。

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業への参加態度により評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語論演習 I	Japanese Linguistics (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81536121	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	北崎 勇帆	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日午後、事前相談のこと。

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

北崎勇帆研究室(人文棟509)

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「日本語史」「日本語論」など、日本語学に関連する講義を履修済であることが望ましい。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・論文の多読を通して、修士論文を書くために必要な幅広い知識を身に着ける

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1

・日常的に論文を読む癖をつける

2

・論文の構造を知り、手短かにまとめられるようになる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

論文を1日に1本(著書であれば1日1章)のペースで読み、内容を簡潔にまとめて報告し合う。講読する論文は受講者の興味に応じて講師が指示する場合もあれば、受講者が自ら探してくる場合もある。週に7本であるから、半期で概ね100本の論文を読み終えることになる。必要に応じて、受講者の興味と結びつけた発表等も行ってもらおう。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

概要に記した通り、毎週の事前準備を求める。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	ガイダンス
■第2回	
授業概要	論文講読(1)
授業時間外の学習	指示された論文の内容をそれぞれまとめ、自身の研究内容と関連付けて考察しておく。以下(13)まで同様。
■第3回	
授業概要	論文講読(2)
■第4回	
授業概要	論文講読(3)
■第5回	
授業概要	論文講読(4)
■第6回	
授業概要	論文講読(5)
■第7回	
授業概要	論文講読(6)
■第8回	
授業概要	論文講読(7)
■第9回	
授業概要	論文講読(8)
■第10回	
授業概要	論文講読(9)
■第11回	
授業概要	論文講読(10)
■第12回	
授業概要	論文講読(11)
■第13回	
授業概要	論文講読(12)
■第14回	

授業概要	論文講読(13)
■第15回	
授業概要	論文講読(14)と総括

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

演習中に指示する。

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

受講態度により評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語論特論Ⅱ	Japanese Linguistics (Advance II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81531271	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	北崎 勇帆	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日午後、事前相談のこと。
----------------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

北崎勇帆研究室(人文棟509)
-----------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「日本語学概論」「日本語史」「日本語論」など、日本語学に関連する講義を履修済であることが望ましい。
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本語史
------



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・言語変化に関する知識を学び、自身の知る個々の事例を有機的に関連付ける

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 論文の基本的な構造を身につける
- 2 言語変化に関する知識を一通り身につける
- 3 日本語史における個々の変化事例を有機的に理解できるようになる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

主に日本語学に関する基礎的な文献を精読し、検討を加える。論文の構造や記述の妥当性といった批判的検討に加え、受講者の知る他の言語現象において関連する事象はないか、他にも事例を加えることはできないかといった発展的な検討も行う。  
文献は受講者の興味に基づき、講師が適宜指示する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

概要に記した通り、毎週の事前準備を求める。

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| ■第1回<br>授業概要  | ガイダンス                       |
| ■第2回<br>授業概要  | 文献講読(1)                     |
| 授業時間外の学習      | 指定された文献を予め読んでおく。以下(13)まで同様。 |
| ■第3回<br>授業概要  | 文献講読(2)                     |
| ■第4回<br>授業概要  | 文献講読(3)                     |
| ■第5回<br>授業概要  | 文献講読(4)                     |
| ■第6回<br>授業概要  | 文献講読(5)                     |
| ■第7回<br>授業概要  | 文献講読(6)                     |
| ■第8回<br>授業概要  | 文献講読(7)                     |
| ■第9回<br>授業概要  | 文献講読(8)                     |
| ■第10回<br>授業概要 | 文献講読(9)                     |
| ■第11回<br>授業概要 | 文献講読(10)                    |
| ■第12回<br>授業概要 | 文献講読(11)                    |

■第13回 授業概要	文献講読(12)
■第14回 授業概要	文献講読(13)
■第15回 授業概要	総括

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

初回の講義で指示する。

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業への参加態度により評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語論演習Ⅱ	Japanese Linguistics (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81536221	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	北崎 勇帆	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日午後、事前相談のこと。
----------------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

北崎勇帆研究室(人文棟509)
-----------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「日本語学概論」「日本語史」「日本語論」など、日本語学に関連する講義を履修済であることが望ましい。
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・論文の多読を通して、修士論文を書くために必要な幅広い知識を身に着ける

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 日常的に論文を読む癖をつける
- 2 一般的な論文の構造を知り、手短にまとめられるようになる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

論文を1日に1本(著書であれば1日1章)のペースで読み、内容を簡潔にまとめて報告し合う。講読する論文は受講者の興味に応じて講師が指示する場合もあれば、受講者が自ら探してくる場合もある。週に7本であるから、半期で概ね100本の論文を読み終えることになる。必要に応じて、受講者の興味と結びつけた発表等も行ってもらおう。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

概要に記した通り、毎週の事前準備を求める。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	ガイダンス
■第2回	
授業概要	論文講読(1)
授業時間外の学習	指示された論文の内容をそれぞれまとめ、自身の研究内容と関連付けて考察しておく。以下(13)まで同様。
■第3回	
授業概要	論文講読(2)
■第4回	
授業概要	論文講読(3)
■第5回	
授業概要	論文講読(4)
■第6回	
授業概要	論文講読(5)
■第7回	
授業概要	論文講読(6)
■第8回	
授業概要	論文講読(7)
■第9回	
授業概要	論文講読(8)
■第10回	
授業概要	論文講読(9)
■第11回	
授業概要	論文講読(10)
■第12回	
授業概要	論文講読(11)
■第13回	

授業概要	論文講読(12)
■第14回	
授業概要	論文講読(13)
■第15回	
授業概要	総括

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

演習中に指示する。

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

受講態度により評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
近代日本語文化論特論	Modern Japanese Language and Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81530571	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日1限、要予約

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会学部棟5階 田鎖数馬研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。菊池寛の通俗小説のうちのいくつかを読んでおくこと

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本近代文学 菊池寛 通俗小説 女性雑誌

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・授業のテーマは、菊池寛の通俗小説の内容と当時の女性雑誌の言説とを比較して、菊池の女性教育の思想の特質を把握していくことである。  
 ・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	菊池寛の通俗小説や当時の女性教育の言説について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
2	菊池寛の通俗小説や当時の女性教育に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	菊池寛の通俗小説や当時の女性教育についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・作品本文の精読と報告資料の作成。授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス
■ 第2回	菊池寛「真珠夫人」(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	菊池寛「真珠夫人」(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	菊池寛「真珠夫人」(3)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	菊池寛「毒の華」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	菊池寛「慈悲心鳥」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	菊池寛「火華」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	菊池寛「新珠」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第9回	菊池寛「陸の人魚」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。

■第10回	菊池寛「受難華」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	菊池寛「第二の接吻」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	菊池寛「赤い白鳥」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	菊池寛「結婚二重奏」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	菊池寛「明眸禍」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	菊池寛「新女性鑑」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『菊池寛現代通俗小説事典』(2016年7月、八木書店)

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績



- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
近代日本語文化論演習	Modern Japanese Language and Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81535521	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日1限、要予約

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5階 田鎖数馬研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。谷崎潤一郎の作品をいくつか読んでおくこと

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本近代文学、谷崎潤一郎、女性雑誌

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・授業のテーマは、谷崎潤一郎の作品と当時の女性雑誌の言説とを比較して、谷崎作品で示された女性観の形成過程や特質を把握していくことである。  
 ・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	谷崎潤一郎の作品や当時の女性教育の言説について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
2	谷崎潤一郎の作品や当時の女性教育に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	谷崎潤一郎の作品や当時の女性教育についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・作品本文の精読と報告資料の作成。授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	谷崎潤一郎「刺青」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	谷崎潤一郎「悪魔」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	谷崎潤一郎「創造」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	谷崎潤一郎「既婚者と離婚者」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	谷崎潤一郎「女人神聖」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	谷崎潤一郎「母を恋ふる記」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	谷崎潤一郎「途上」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	谷崎潤一郎「不幸な母の話」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。

■第10回	谷崎潤一郎「愛すればこそ」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	谷崎潤一郎「肉塊」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	谷崎潤一郎「痴人の愛」(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	谷崎潤一郎「痴人の愛」(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

千葉俊二編『谷崎潤一郎必携』(平成13年11月、学燈社)
------------------------------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本近代文学論特論	Advanced Studies in Modern Japanese Literature
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81530671	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日1限、要予約

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会学部棟5階 田鎖数馬研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。大江健三郎の小説のうちのいくつかを読んでおくこと。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本現代文学 大江健三郎 谷間の村 共同体

--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・授業のテーマは、大江健三郎の作品の中で、個人と共同体との関係がどのように描写されて、その関係がいかに変遷しているのかを把握していくことである。  
・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	大江健三郎の作品の特質のうち、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
2	大江健三郎に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	大江健三郎作品の中で描写される個人と共同体との関係についての自らの解釈を整理して、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

--

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・作品本文の精読と報告資料の作成。授業に関連する資料の収集。  
・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス
■第2回	大江健三郎「飼育」
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	大江健三郎『個人的な体験』
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	大江健三郎『個人的な体験』(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	大江健三郎『万延元年のフットボール』(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	大江健三郎『万延元年のフットボール』(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	大江健三郎『万延元年のフットボール』(3)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	大江健三郎『同時代ゲーム』(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	大江健三郎『同時代ゲーム』(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	大江健三郎『M/Tと森のフシギの物語』(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	大江健三郎『M/Tと森のフシギの物語』(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	大江健三郎『懐かしい年への手紙』(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	大江健三郎『懐かしい年への手紙』(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	大江健三郎『燃えあがる緑の木』(1)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	大江健三郎『燃えあがる緑の木』(2)
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

『大江健三郎小説』全10巻(1996年～1997年、新潮社)

--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績



- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本近代文学論演習	Modern Japanese Literature (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81535621	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田鎖 数馬	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日1限、要予約
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会学部棟5階 田鎖数馬研究室
-------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日本近代文学史の基本的な知識があること。先行研究に対する批判的な考察を行うこと。
--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

日本近代文学 論文講読
-------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・授業テーマは、先行研究を読み、論文執筆のための方法論を身に付けることである。
- ・この授業は、人文科学研究コースの中で、日本、中国、アメリカ、イギリスの言語文化について様々な観点から研究する「言語文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 先行研究の方法論について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを1つ以上説明できる。
- 2 自らが興味のある分野の先行研究を自らの立場から批判的に考察することができる。
- 3 先行研究に対する自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・先行研究で取り上げられている作品の精読と、先行研究に対する批判的な考察を行う。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |       |              |
|-------|--------------|
| ■第1回  | 授業概要説明       |
| ■第2回  | 文献講読(1)      |
| ■第3回  | 文献講読(2)      |
| ■第4回  | 文献講読(3)      |
| ■第5回  | 文献講読(4)      |
| ■第6回  | 文献講読(5)      |
| ■第7回  | 文献講読(6)      |
| ■第8回  | 文献講読(7)      |
| ■第9回  | 文献講読(8)      |
| ■第10回 | 文献講読(9)      |
| ■第11回 | 文献講読(10)     |
| ■第12回 | 文献講読(11)     |
| ■第13回 | 文献講読(12)     |
| ■第14回 | 文献講読(13)     |
| ■第15回 | 文献講読(14)     |
| ■第16回 | 総括レポートの作成・提出 |

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

適宜プリントを配する。

## Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①と③は、毎回の授業態度の中で評価する。また、到達目標②は、毎回の授業態度と期末レポートによって評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
英語圏文学論特論	Literature in the English-Speaking Countries (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81532171	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜5限

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階 宗研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

丹念な予習。英検準一級レベルの英語力があることが望ましい。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

子ども、女性、ニュージーランド、小説

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

本授業の目的は短編小説を原文で読み、批評の視点を養うことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	英語の文章の文法・構文的な理解ができる。
2	小説を批評的に読むことができる。
3	小説を読むための各種辞書類を活用することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業ではマンスフィールドの短編小説を扱う。毎週数ページを原文で読み、参加者はその訳読を通して英語読解力を磨きつつ、文学を批評的に読む力を身に付けることを狙いとする。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で進む箇所の和訳および構文分析等をレジュメとして作成すること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明。各種辞書類の説明。担当の割り振り等。
■第2回	79-80頁
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第3回	81-82
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第4回	83-84
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第5回	85-86
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第6回	87-88
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第7回	89-90
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第8回	91-92
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第9回	93-94
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第10回	95-96
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第11回	97-98
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第12回	99-100
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第13回	101-2
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション

■第14回	103-4
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第15回	105-6
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第16回	総括
授業概要	レポート提出

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Katherine Mansfield, Selected Stories (Oxford World's Classics)

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当及び毎回の授業での積極的発言80% 学期末8000字レポート20パーセント。ただしレポート未提出者には単位を与えない。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
英語圏文学論演習	Literature in the English-Speaking Countries (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81537121	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜5限
------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階 宗研究室
-----------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

丹念な予習。英検準一級レベルの英語力があることが望ましい。
-------------------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

モダニズム、女性、子ども、戦争、小説
--------------------

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



本授業の目的は、短編小説を原文で読み、批評の視点を養うことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	英語の文章の文法・構文的な理解ができる。
2	小説を批評的に読むことができる。
3	他の作家と比較して読むことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業ではマンスフィールドの短編小説を扱う。毎週数ページを原文で読み、参加者はその訳読を通して英語読解力を磨きつつ、文学を批評的に読む力を身に付けることを狙いとする。また他の作家との比較を通して、作家の特徴や時代精神を考えることもする。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で進む箇所の和訳および構文分析等をレジュメとして作成すること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明。各種辞書類の説明。担当の割り振り等。
■第2回	pp107-8
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第3回	109-10
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第4回	111-12
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第5回	113-14
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第6回	115-16
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第7回	117-18
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第8回	119-20
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第9回	121-22
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第10回	123-24
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第11回	125-26
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第12回	127-28
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第13回	129-30
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション

■第14回	131-32
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第15回	133-34
授業概要	訳読および批評レベルのディスカッション
■第16回	総括
授業概要	学期末レポート提出

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Katherine Mansfield, Selected Stories (Oxford World's Classics)

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当及び毎回の授業での積極的発言80% 学期末8000字レポート20パーセント。ただしレポート未提出者には単位を与えない。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
英語圏表象論特論	Representation in the English-Speaking Countries (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C23	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81532271	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜5限

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階 宗研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語の小説や批評書を読むための英語力が求められます。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

女性文学、モダニズム、第一次世界大戦、美術史

--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

英語圏文化についての修士論文を作成するために必要な英語力の養成

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	文芸作品を歴史の中において分析する力の養成
2	話法の違いがどういう意味を担っているのかを分析する力の養成
3	作品の構成の原理を分析する力の養成

## 授業全体の概要【SUMMARY】

文芸作品を読みながら、歴史性・話法の意味・作品の構成の原理を考える。マンスフィールドの作品をいくつか取り上げる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で進む分量の事前の丹念な予習が必要となる。具体的には和訳、範囲内の作品の分析、歴史的背景等をA4で3枚～4枚程度にまとめ、毎回授業で提出してもらう。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション、予習の進め方の説明
■第2回	
授業概要	New Zealand Stories 94-95
■第3回	
授業概要	96-97
■第4回	
授業概要	98-99
■第5回	
授業概要	100-101
■第6回	
授業概要	102-3
■第7回	
授業概要	104-5
■第8回	
授業概要	106-7
■第9回	
授業概要	108-9
■第10回	
授業概要	110-11
■第11回	
授業概要	112-13
■第12回	
授業概要	114-15
■第13回	

授業概要	116-17
■第14回	
授業概要	118-19
■第15回	
授業概要	120-21
■第16回	
授業概要	122-23

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Mansfield, New Zealand Stories (Oxford University Press)
--

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

予習の努力と質(70%)に加えて、最終レポート8000字(30%)を課す。ただし最終レポートを提出しなかった場合は不可となる。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
英語圏表象論演習	Representation in the English-Speaking Countries (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C24	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81537221	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	宗 洋	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜5限
------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4階 宗研究室
-----------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語の小説や批評を読むための英語力が求められます。
---------------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

女性文学、モダニズム、美術史、第一次世界大戦
------------------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

英語圏文化についての修士論文を作成するために必要な英語力の養成。批評的着眼点の先鋭化。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	文芸作品を歴史の中において分析する力の養成
2	話法の違いがどういう意味を担っているのかを分析する力の養成
3	作品の構成の原理を分析する力の養成

## 授業全体の概要【SUMMARY】

文芸作品を読みながら、歴史性・話法の意味・作品の構成の原理を考える。マンスフィールドの作品をいくつか取り上げつつ、他の作家の作品との比較も試みる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で進む分量の丹念な予習が必要となる。具体的には和訳、範囲内の作品の分析、歴史的背景等をA4で3枚～4枚程度にまとめ、毎回授業で提出してもらう。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	オリエンテーション。予習の進め方の説明。
■第2回 授業概要	New Zealand Stories 124-25
■第3回 授業概要	126-27
■第4回 授業概要	128-29
■第5回 授業概要	130-31
■第6回 授業概要	132-33
■第7回 授業概要	134-35
■第8回 授業概要	136-37
■第9回 授業概要	138-39
■第10回 授業概要	140-41
■第11回 授業概要	142-43
■第12回 授業概要	144-45
■第13回	

授業概要	146-47
■第14回	
授業概要	148-49
■第15回	
授業概要	150-51
■第16回	
授業概要	152-3

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Mansfield, New Zealand Stories (Oxford University Press)
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考えなどが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

予習の努力と質(70%)に加えて、最終レポート(30%)を課す。ただし最終レポートを提出しなかった場合は、不可となる。

--



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アメリカ文学論特論	American Literature (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81532371	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

19世紀アメリカ・ルネサンスの作品の検証

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	藤吉 清次郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月4限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部4F第3演習室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

19世紀アメリカ文学の作品を数多く読み、と同時にイギリスの作品も読み、アメリカ文学の特性を理解すること。ポー、エマソン、ソロー、ホイットマン、メルヴィル、ホーソーンの代表的な作品を日本語訳で読んでおくこと。原文での講読であるため、英語読解能力を高めておくこと。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ロマン主義、リアリズム、構造主義、新歴史主義、ピューリタニズム、アメリカン・イデオロギー

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業は、アメリカ文学の根幹とも言える19世紀アメリカ・ルネサンスを検討し、アメリカ文学の独自性を多角的に検証することにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	アメリカ文学を深く理解することができる。
2	文学批評の在り方を理解できる。
3	文学作品で論文を書くことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

19世紀アメリカ・ルネサンスのいくつかの作品を精読することによって、人種・ジェンダー・階級などの観点から、テキストの有する可能性を追求する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第3回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第4回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第5回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第6回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第7回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第8回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第9回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第10回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第11回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第12回	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第13回	<i>The Scarlet Letter</i> の評論

授業時間外の学習	徹底した予習
■第14回	<i>The Scarlet Letter</i> の評論
授業時間外の学習	徹底した予習
■第15回	<i>The Scarlet Letter</i> の評論
授業時間外の学習	徹底した予習
■第16回	<i>The Scarlet Letter</i> の評論
授業時間外の学習	徹底した予習

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Nathaniel Hawthorne, <i>The Scarlet Letter</i> (Norton Critical Edition, 2013)
--

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・毎回の授業の参加態度40%、期末レポート60% ・徹底した予習を前提にした授業なので予習ができていない場合は欠席扱いとする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アメリカ文学論演習	American Literature (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81537321	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アフリカ系アメリカ人作家の作品の検証

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	藤吉 清次郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月4限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部4F第3演習室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

アフリカ系アメリカ人の作品を数多く読み、その流れを掴むこと。文学史でアフリカ系アメリカ人作家の確認し、翻訳でいいので、系統立てて多くの作品に触れること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

アフリカ系アメリカ人、人種差別、ジェンダー、奴隷制、抗議文学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業は、アメリカ文学で大きな位置を占めるアフリカ系アメリカ人の文学を検討し、白人文学の差異を考察することにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	アメリカ文学を深く理解することができる。
2	文学批評の在り方を理解することができる。
3	文学作品で論文を書くことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

アフリカ系アメリカ人の文学作品を精読することによって、人種・ジェンダー・階級などの観点から、テキストの有する可能性を追求する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的な研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明
■第2回	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第3回	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第4回	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第5回	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第6回	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第7回	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第8回	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第9回	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第10回	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第11回	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第12回	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第13回	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習

■第14回	Toni Morrison, <i>Beloved</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第15回	黒人文学の評論
授業時間外の学習	徹底した予習
■第16回	まとめ

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

*The Complete Fiction of Nella Larsen: Passing, Quicksand, and the Stories* (Anchor Books)  
Toni Morrison, *Beloved* (A Plume Book)

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・毎回の授業の参加態度40%、期末レポート60% ・徹底した予習を前提とした授業なので予習ができていない場合は欠席扱いとする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アメリカ言語文化論特論 I	American Language and Culture (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81532471	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	藤吉 清次郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月4限

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部4F第3演習室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

アメリカ文学史における基礎知識を確認しておくこと。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

アメリカ文学、宗教、帝国主義、多文化主義、

--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

本授業の目的は、アメリカ文学概論で学んだ基礎知識を用いて、アメリカの代表的な文学作品を分析することで、文学作品のもつ可能性を追求すること。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	アメリカ文学を日本人が学ぶことの意義を理解できるようになること。
2	文学作品のなかに宗教、人種、ジェンダー、階級、時代性、芸術の在り方など、様々な要素が含まれていることを理解すること。
3	文学作品を分析する際、さまざまなアプローチがあることを知り、それを実践してみること。
4	文学批評の在り方を理解できる。
5	文学作品で論文を書くことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

19世紀アメリカン・ルネッサンスの文学作品を精読することによって、人種／ジェンダー／階級などの観点から、テキストの有する可能性を追求する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストの精読と報告資料の作成。最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明
■第2回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第3回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第4回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第5回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第6回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第7回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第8回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読



授業時間外の学習	徹底した予習
■第9回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第10回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第11回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第12回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第13回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第14回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第15回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第16回	
授業概要	<i>The Scarlet Letter</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Nathaniel Hawthorne, <i>The Scarlet Letter</i> (Norton Critical Edition, 2013)
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

毎回の授業の参加態度40%、期末レポート60% ・徹底した予習を前提にした授業なので、予習ができていない場合は欠席扱いとする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アメリカ言語文化論演習 I	American Language and Culture (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12C28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81537421	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	藤吉 清次郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月4限
-----

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部4F第3演習室
----------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

<p>アフリカ系アメリカ人作家の作品を数多く読み、その流れを掴むこと。文学史でアフリカ系アメリカ人作家を確認し、翻訳でよいので、系統立てて多くの作品に触れること。</p>
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

アフリカ系アメリカ人作家、人種差別、ジェンダー、奴隷制、抗議文学
----------------------------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

本授業の目的は、アメリカ文学で大きな位置を占めるアフリカ系アメリカ人の文学を検討し、白人文学の差異を考察することになる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	アメリカ文学を理解することができる。
2	文学批評の在り方を理解することができる。
3	文学作品に関する論文を書くことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

アフリカ系アメリカ人の文学作品を精読することによって、人種／ジェンダー／階級などの観点から、テキストの有する可能性を追求する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストの精読と報告資料の作成。最低でも週4時間程度の自主的な研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明
■第2回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
■第3回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
■第4回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第5回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第6回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第7回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第8回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第9回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第10回	

授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第11回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第12回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第13回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第14回	
授業概要	Nella Larsen, <i>Passing</i> 講読
授業時間外の学習	徹底した予習
■第15回	
授業概要	黒人文学の評論
授業時間外の学習	徹底した予習
■第16回	
授業概要	まとめ
授業時間外の学習	徹底した予習

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Complete Fiction of Nella Larsen, <i>Passing, Quicksand and the Stories</i> (Anchor Books)
--

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

毎回の授業の参加態度40%、期末レポート60%、徹底した予習を前提とした授業なので予習ができていない場合は欠席扱いとする。。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
文化・コミュニケーション論特論	Culture and Communication (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81544171	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

翻訳について

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Translation Studies

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日1限, メール等でアポイントメントをとってください

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的に行うことができること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

翻訳、異文化理解、比較文学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・翻訳論に関する重要な文献を読み進めながら、翻訳についての包括的な理論について理解し、考察を深める。
- ・なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	翻訳学における主要な論点について学び知る。
2	翻訳に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	翻訳に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	翻訳学の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、翻訳学についての教科書的文献であるジェレミー・マンディの『翻訳学入門』、ならびに先駆けて包括的な文芸理論を構築したジョージ・スタイナーの『バベルの後に——言葉と翻訳の諸相』の第二版に加筆された序文と第4章を読みながら、翻訳論の射程を考察する。前者はみすず書房の日本語版(2009)を用いる。後者の文献に関しては法政大学出版局から出ている日本語訳版(1999/2009)を使用するが、適宜、原著の第二版(Oxford, 1992)と、ドイツ語訳版(Frankfurt a. M., 1981)も参照する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の進め方、文献調査などについての説明
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第2回	テキストの講読①
授業概要	翻訳という概念について
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第3回	テキストの講読②
授業概要	翻訳学とは何か
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第4回	テキストの講読③
授業概要	翻訳史
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第5回	テキストの講読④
授業概要	1970年代以降の翻訳学の射程
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第6回	テキストの講読⑤
授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第7回	テキストの講読⑥
授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第8回	テキストの講読⑦
授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第9回	テキストの講読⑧



授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第10回	テキストの講読⑨
授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第11回	テキストの講読⑩
授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第12回	テキストの講読⑪
授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第13回	テキストの講読⑫
授業概要	『バベルの後に』を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第14回	総括ならびにディスカッション
授業概要	授業内容のまとめをし、全体で議論する
授業時間外の学習	最終レポートの作成準備
■第15回	レポートのピアレビューと講評①
授業概要	レポートのプロットを用いて、ピアレビューしたうえで、講評する
授業時間外の学習	最終レポートの作成準備
■第16回	レポートのピアレビューと講評②
授業概要	レポートの草稿を用いて、ピアレビューしたうえで、講評する

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

文化・コミュニケーション論演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』みすず書房2009年  
 ジョージ・スタイナー『バベルの後に—言葉と翻訳の諸相 上下』法政大学出版局1999/2009年

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考えなどが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
文化・コミュニケーション論演習	Culture and Communication (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81549121	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

翻訳について

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Translation Studies

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的に行うことができる。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

翻訳、異文化理解、比較文学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・ 翻訳論に関する重要な文献を輪読し、議論を通じて、異文化を理解することとは何かについて考える。
- ・ なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	翻訳学における主要な論点について学び知る。
2	翻訳に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	翻訳に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	翻訳学の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、現代の文学現象を「世界文学」という切り口から分析したデイヴィッド・ダムロッシュの『世界文学とは何か？』を参考にしながら、翻訳を通じて世界に流通している「世界文学」によって可能となる文化の「越境」について考察する。基本的に国書刊行会から出ている邦訳(2011)ならびに原著(2003)を教科書として使用し、適宜、文学作品の分析を行う。また後半部では、受講生が研究の主体となって、個別発表を取りいれつつ、「世界文学」についての分析を拓げることを目標とする。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・ テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・ 最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の進め方、文献調査などについての説明
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■ 第2回	テキストの輪読 ①
授業概要	『世界文学とは何か』①
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■ 第3回	テキストの輪読 ②
授業概要	『世界文学とは何か』②
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■ 第4回	テキストの輪読 ③
授業概要	『世界文学とは何か』③
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■ 第5回	テキストの輪読 ④
授業概要	『世界文学とは何か』④
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■ 第6回	テキストの輪読
授業概要	『世界文学とは何か』⑤
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■ 第7回	テキストの輪読
授業概要	『世界文学とは何か』⑥
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■ 第8回	総括のためのディスカッションと個別テーマについて
授業概要	ダムロッシュの「世界文学」の議論の射程をまとめようえで、個別テーマについて発表する
授業時間外の学習	個別発表の準備、文献収集
■ 第9回	個別発表 ①

授業概要	受講者による口頭発表と質疑応答 ①
授業時間外の学習	個別発表の準備、文献収集
■第10回	個別発表 ②
授業概要	受講者による口頭発表と質疑応答 ②
授業時間外の学習	個別発表の準備、文献収集
■第11回	個別発表 ③
授業概要	受講者による口頭発表と質疑応答 ③
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第12回	「世界文学」に関する文献の講読 ①
授業概要	「世界文学」に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ①
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第13回	「世界文学」に関する文献の講読 ②
授業概要	「世界文学」に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ②
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第14回	レポートのピアレビューと講評 ①
授業概要	レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第15回	レポートのピアレビューと講評 ②
授業概要	レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第16回	最終総括
授業概要	授業内容のまとめをし、全体で議論する

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

文化・コミュニケーション論特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

David Damrosch: "What is world literature?"(2003) / 『世界文学とは何か?』秋草俊一郎他訳、2011年。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語社会論特論	Sociolinguistics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81544271	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

越境文学について学ぶ

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

What is "Border Writing"?

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日1限, メール等でアポイントメントをとってください

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的に行うことができること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

移民文学、母語、多文化主義、越境

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・越境文学に関する重要な文献を読み進めながら、包括的な理論について理解し、考察を深める。
- ・なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	越境文学における主要な論点について学び知る。
2	移民や難民に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	越境文学に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	越境文学研究の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

近年、世界的に不安定な社会事情を背景に、「多文化主義」「多文化社会」のあり方が様々な視点から広く深く議論されている。この授業では、「越境する言語活動」をキーワードにして、様々な事情から亡命した作家たちや、難民・移民の子孫たちが創作した文学作品などを扱いながら、「多文化」的な社会の像を見ることで、現実社会の諸問題について考察を深める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の進め方、文献調査などについての説明
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第2回	テキストの講読①
授業概要	越境文学とは何か
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第3回	テキストの講読②
授業概要	越境文学とは何か
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第4回	テキストの講読③
授業概要	移民・難民問題について
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第5回	テキストの講読④
授業概要	移民・難民問題について
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第6回	テキストの講読⑤
授業概要	移民・難民問題について
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第7回	テキストの講読⑥
授業概要	越境文学を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第8回	テキストの講読⑦
授業概要	越境文学を読む



授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第9回	テキストの講読⑧
授業概要	越境文学を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第10回	テキストの講読⑨
授業概要	越境文学を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第11回	テキストの講読⑩
授業概要	越境文学を読む
評価のスケジュール	
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第12回	テキストの講読⑪
授業概要	越境文学を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第13回	テキストの講読⑫
授業概要	越境文学を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第14回	総括ならびにディスカッション
授業概要	授業内容のまとめをし、全体で議論する
授業時間外の学習	最終レポートの作成準備
■第15回	レポートのピアレビューと講評①
授業概要	レポートのプロットを用いて、ピアレビューしたうえで、講評する
授業時間外の学習	最終レポートの作成準備
■第16回	レポートのピアレビューと講評②
授業概要	レポートの草稿を用いて、ピアレビューしたうえで、講評する
授業時間外の学習	最終レポートの作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

言語社会論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特になし、講読で使用するテキストは適宜、指示をする。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績

良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。  
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語社会論演習	Sociolinguistics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81549221	
履修における注意点	
資格等	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

越境文学について学ぶ

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

What is "Border Writing"?

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	土屋 京子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日1限、メール等でアポイントメントをとってください

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階、土屋京子研究室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・授業では基本的に日本語を用いるが、外国語(主に英語とドイツ語)に関する一般的な知識があるのが望ましい。
- ・授業内で適宜参考資料を指示するが、その他にも自ら文献調査を積極的に行うことができること。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

移民文学、母語、多文化主義、越境

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・越境文学に関する重要な文献を輪読し、議論を通じて、異文化を理解することとは何かについて考える。
- ・なお本授業は、グローバル社会研究コースの中で、ドイツ語圏における言語文化ならびに異文化間問題を研究する「言語コミュニケーション領域」に属する科目である

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	越境文学における主要な論点について学び知る。
2	移民難民問題に関する問題を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	越境文学に関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	文学研究の見地から他者と議論し、自らの考えを明快な日本語で表すことができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

「言語社会論演習」での議論を踏まえ、「母語」や「越境する言語活動」を中心テーマに置き、受講生の関心や研究対象を基にして、研究発表とディスカッションを行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と課題レポートの作成、それらにともなう文献調査。
- ・最低でも週4時間程度、上記のための時間に充てること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の進め方、文献調査などについての説明
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第2回	テキストの輪読 ①
授業概要	越境文学に関する研究書を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第3回	テキストの輪読 ②
授業概要	越境文学に関する研究書を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第4回	テキストの輪読 ③
授業概要	越境文学に関する研究書を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第5回	テキストの輪読 ④
授業概要	越境文学に関する研究書を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第6回	テキストの輪読
授業概要	越境文学に関する研究書を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第7回	テキストの輪読
授業概要	越境文学に関する研究書を読む
授業時間外の学習	テキストの精読、文献収集
■第8回	総括のためのディスカッションと個別テーマについて
授業概要	越境文学の議論の射程をまとめたうえで、個別テーマについて発表する

授業時間外の学習	個別発表の準備、文献収集
■第9回	個別発表 ①
授業概要	受講者による口頭発表と質疑応答 ①
授業時間外の学習	個別発表の準備、文献収集
■第10回	個別発表 ②
授業概要	受講者による口頭発表と質疑応答 ②
授業時間外の学習	個別発表の準備、文献収集
■第11回	個別発表 ③
授業概要	受講者による口頭発表と質疑応答 ③
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第12回	越境文学に関する文献の講読 ①
授業概要	越境文学に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ①
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第13回	越境文学に関する文献の講読 ②
授業概要	越境文学に関する一次文献と二次文献の紹介と分析 ②
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第14回	レポートのピアレビューと講評 ①
授業概要	レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第15回	レポートのピアレビューと講評 ②
授業概要	レポートの草稿を用いて、ピアレビューをしたうえで講評する
授業時間外の学習	レポート作成、文献収集
■第16回	最終総括
授業概要	授業内容のまとめをし、全体で議論する

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

言語社会論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

特になし、講読で使用するテキストは適宜、指示をする。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度20%、期末レポート40%の総合評価とする。  
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
異文化間コミュニケーション論特論	Intercultural Communication (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81540172	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

Monday 4th period

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

Humanities 407

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

All course content will be delivered in English. Students should have a demonstrated command of English, be able read and report on English research articles, and be able to speak and write in English at a high level. A pre-requisite understanding of Intercultural Communication is also expected

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

Intercultural Communication, English, ELT

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

This is an introductory graduate level course in IC Communication designed to give students an overview of Intercultural Communication themes relating to language learning and education.

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 To develop an understanding of the importance of Intercultural Communication in English language education

2 To be able to critically understand key issues in Intercultural Communication

### 授業全体の概要【SUMMARY】

This is an introductory graduate level course in IC Communication. Students will be expected to read a variety of materials relating to culture, intercultural communication and English Language Teaching, and to demonstrate understanding of the readings in a seminar context. Students should be able to identify basic ICC topics and discuss them critically in English.

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

Students will be expected to read widely in preparation for each weekly meeting

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	Course Introduction
■第2回	Unit A: Culture and its meanings
■第3回	Unit A: Culture and Stereotypes
■第4回	Unit A: Cultural contact
■第5回	Unit B: Cultural categories
■第6回	Unit B: Cultural dimensions
■第7回	Unit B: Approaches to Studying ICC
■第8回	Unit C: Norms and high cost topics
■第9回	Unit C: Cross-cultural Pragmatics
■第10回	Unit C: Politeness and face
■第11回	Unit C: Grice's co-operative principle
■第12回	Unit D: ICC in the EFL classroom I: Listening
■第13回	Unit D: ICC in the EFL classroom II: ICC Texts
■第14回	Unit D: ICC in the EFL classroom III: Simulations
■第15回	Unit D: ICC in the EFL classroom IV: Critical Incidents
■第16回	Course wrap and assessment

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Materials and selected readings to be provided.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】



## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

Strong seminar contribution, student-led seminar in an agreed upon area of study and end-of-semester essay.

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
異文化間コミュニケーション論演習	Intercultural Communication (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81545122	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

Thursday 5th period

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

Humanities 407

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

All course content will be delivered in English. Students should have a demonstrated command of English, be able read and report on English research articles, and be able to speak and write in English at a high level. The main pre-requisite for this course is successful completion of Intercultural Communication (Advanced)

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

Intercultural Communication, English, ELT

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

This is an intermediate level graduate level course in IC Communication exploring the praxis between Culture, Intercultural Communication and English language education. A guiding question for this course is 'Whose rules do we use for the purposes of Intercultural Communication?' We will consider this question based on pragmalinguistics and intercultural pragmatics.

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	To develop and understanding of intercultural pragmatics
2	To develop approaches for using ICC in language education

### 授業全体の概要【SUMMARY】

By the end of this course, students should be able to critically discuss some of the main ways in which culture is defined and conceptualized, explain what is meant by the dimensions along which it is claimed that cultures are likely to vary, and explain ways in which pragmatic norms may vary across cultures.

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

Students are expected to read widely and contribute to seminar,

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	Course Introduction
■第2回	Unit A: The research field: Challenging theoretical aims
■第3回	Unit A: The research field: Pragmatic awareness in instructed learning
■第4回	Unit A: The research field: Pragmalinguistics and Intercultural Pragmatics
■第5回	Unit A: The research field: Lingua Franca Communication
■第6回	Unit A: The research field: Politeness strategies in speech and writing
■第7回	Unit B: From research to teaching: Developing pragmatic competence
■第8回	Unit B: From research to teaching: Negotiated interaction
■第9回	Unit B: From research to teaching: Closing the conversation
■第10回	Unit B: From research to teaching: Authenticity and input
■第11回	Unit C: Case studies in ICC I: Introduction
■第12回	Unit C: Case studies in ICC II: Research issues
■第13回	Unit C: Case studies in ICC III: Critical incidents
■第14回	Unit D: ICC in practice I: Managing Otherization
■第15回	Unit D: ICC in practice II: Essentialist vs, non-essentialist representation of culture
■第16回	course wrap and assessment

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

All materials and readings will be provided

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

A strong seminar contribution in English is essential to the final grade. Reports and presentations will also be used to assess students.

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
外国語コミュニケーション論特論	Foreign Language Communication (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81540272	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

文脈」(context)の意味を概観

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

Thursday 1st period

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

Humanities 407

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students are expected to have a strong command of English (both speaking and writing skills) to enroll in this class. Communicative ability in English is essential.

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

English

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

This course provides an introduction to graduate level studies in English as a foreign language with emphasis on the role of 'context.' This is an introductory graduate level course focusing on spoken and written language. Students will be expected to read a variety of materials relating to context, the functions of written and spoken language, and to consider how these relate to pedagogy.

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	Students will be expected to demonstrate understanding of the readings and be able to apply it to English pedagogy
2	Students should be able to identify basic features of spoken and written texts
3	Students should be able to cope with authentic English in use

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

Students will be expected to do a significant amount of reading of academic article written in English each week, and prepare to lead the seminar on a selected theme of study each week.

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	Course Introduction
■第2回	Unit A: English in context: Context, Text, and Discourse
■第3回	Unit A: English in context: ELF, EIL and World Englishes
■第4回	Unit A: English in context: Issues of acceptability
■第5回	Unit B: Written and spoken language: Exploring differences between written & spoken language
■第6回	Unit B: Written and spoken language: Planned and unplanned discourse
■第7回	Unit B: Written and spoken language: Pedagogical applications
■第8回	Unit C: Functions of language: Speech act theory
■第9回	Unit C: Functions of language: Relationships between speech acts and grammar
■第10回	Unit C: Functions of language: Speech act theory and language study
■第11回	Unit C: Functions of language: Pragmalinguistics
■第12回	Unit D: Cohesion and coherence in English: Lexical cohesion
■第13回	Unit D: Cohesion and coherence in English: Studying and teaching cohesion
■第14回	Unit D: Cohesion and coherence in English: Coherence and patterns in texts
■第15回	Unit D: Cohesion and coherence in English: Developing strategic competencies
■第16回	Course wrap and final report

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

All materials provided

## Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

Course assessment will be based upon strong seminar contribution, student-led seminar in an agreed upon area of study, and end-of-semester report.

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
外国語コミュニケーション論演習	Foreign Language Communication (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81545222	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用言語学で用いられるジャンル分析

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	リングリー	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

Thursday 1st period

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

Humanities 407

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

Students are expected to have a strong command of English (both speaking and writing skills) to enroll in this class. Communicative ability in English is essential.

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

English, genre



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

By the end of this course, students should be able to critically discuss some of the main features of natural conversation, classroom interaction, and spoken language. Prospective teachers should be able to apply course content to their teaching practice.

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	Identify the main features of conversation
2	Identify features of spoken language
3	Apply course material in English teaching contexts

## 授業全体の概要【SUMMARY】

This is an intermediate-level graduate course exploring the features of spoken language in a variety of interaction formats.

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

Students will be expected to do a significant amount of reading of academic article written in English each week, and prepare to lead the seminar on a selected theme of study each week.

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	Course Introduction
■ 第2回	Unit A: Genre analysis: Approaches to genre analysis
■ 第3回	Unit A: Genre analysis: Discourse communities
■ 第4回	Unit A: Genre analysis: Pedagogical applications
■ 第5回	Unit B: Conversation analysis: Introduction
■ 第6回	Unit B: Conversation analysis: Turn-taking
■ 第7回	Unit B: Conversation analysis: Repair
■ 第8回	Unit B: Conversation analysis: Pedagogical applications
■ 第9回	Unit C: Classroom interaction language: Introduction
■ 第10回	Unit C: Classroom interaction language: The Sinclair and Coulthard model
■ 第11回	Unit C: Classroom interaction language: Insights into classroom practice
■ 第12回	The nature of spoken language: Introduction
■ 第13回	Unit D: The nature of spoken language: The speech - writing continuum
■ 第14回	Unit D: The nature of spoken language: Interactional speech
■ 第15回	Unit D: The nature of spoken language: Transactional speech
■ 第16回	Final report on spoken language

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

All course materials provided

## Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

Course assessment will be based upon strong seminar contribution, student-led seminar in an agreed upon area of study, and end-of-semester report.

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語コミュニケーション論特論	Japanese Communication (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81541171	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、音声コミュニケーション

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(その他、相談に応じます。要予約。)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 5階 532研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語教育に興味を持っていること
- ・日本語の音声教育や評価に興味を持っていることが望ましい

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本語教育、音声、コミュニケーション、評価

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

音声コミュニケーション研究の中で、日本語教育に関連の深いテーマを取り上げて、日本語の音声コミュニケーションについて知見を深め、分析・記述の方法を学ぶ。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	日本語教育、音声コミュニケーション分野の研究手法を知る。
2	論文を批判的に読むことができるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

授業では、日本語教育に関連する音声やコミュニケーションをテーマとした論文を取り上げて、論文購読および発表者・受講者間でのディスカッションを行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で扱う論文を読んでくること。発表者は論文を批判的に読み、発表レジュメを作成する。必要に応じて、追加情報についても発表できるように準備する。授業後は授業で扱った論文について、批判的に考察しレポートを提出する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明および発表ローテーションの決定
■第2回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第3回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第4回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第5回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第6回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第7回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第8回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第9回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第10回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第11回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第12回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第13回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第14回	

授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第15回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第16回	
授業概要	総括レポートの作成・提出

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

日本語コミュニケーション論演習

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

初回の講義で指示する

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表担当時の内容30%、毎回の議論における参加度30%、期末レポート40%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語コミュニケーション論演習	Japanese Communication (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81546121	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、音声コミュニケーション

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(その他、相談に応じます。要予約。)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 5階 532研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・基本的な日本語教育および音声学に関する知識

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本語教育、音声、評価

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

「日本語コミュニケーション論特論」の内容をふまえ、特に、日本語教育・音声を中心テーマに置き、受講生の関心や研究対象を基にして、研究発表とディスカッションを行う。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	日本語教育、音声コミュニケーション分野の研究手法を知る。
2	日本語教育の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本語教育、音声分野の文献・論文を取り上げ、論文購読および発表者・受講者間でのディスカッションを行う。扱う文献・論文は受講者が希望するものを用いる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明および発表ローテーションの決定
■第2回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第3回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第4回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第5回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第6回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第7回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第8回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第9回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第10回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第11回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第12回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第13回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第14回	

授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第15回	
授業概要	論文講読、発表とディスカッション
■第16回	
授業概要	総括レポートの作成・提出

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

日本語コミュニケーション特論

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

初回の講義で指示する

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表担当時の内容30%、毎回の議論における参加度30%、期末レポート40%の総合評価とする。



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語習得論特論I	Japanese Language Acquisition (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81541371	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、コーパス

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(その他、相談に応じます。要予約。)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 5階 532研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・日本語教育に興味をもっていること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本語教育、コーパス

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

日本語教育・第二言語習得研究で用いられている日本語学習者コーパスについて概観したうえで、具体的な研究事例を見ながら、コーパスを用いた研究・分析手法を学ぶ。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	コーパスについて基本的な知識を身につける。
2	日本語教育分野におけるコーパスを用いた研究・分析手法を知る。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

授業では、文献購読を通じて、日本語教育分野におけるコーパス研究概要と手法を理解し、自らの研究につなげる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業では発表者は発表レジュメを作成し、必要に応じて追加情報についても発表できるように準備する。必要に応じて実際にコーパスを用いて分析を行う。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション、授業概要の説明および発表ローテーションの決定
■第2回	
授業概要	文献講読と発表
■第3回	
授業概要	文献講読と発表
■第4回	
授業概要	文献講読と発表
■第5回	
授業概要	文献講読と発表
■第6回	
授業概要	文献講読と発表
■第7回	
授業概要	文献講読と発表
■第8回	
授業概要	文献講読と発表
■第9回	
授業概要	文献講読と発表
■第10回	
授業概要	文献講読と発表
■第11回	
授業概要	文献講読と発表
■第12回	
授業概要	文献講読と発表
■第13回	
授業概要	文献講読と発表
■第14回	

授業概要	文献講読と発表
■第15回	
授業概要	文献講読と発表
■第16回	
授業概要	期末レポートの提出

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版、2018  
『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』朝倉書店、2018  
『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版、2019

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表担当時の内容50%、期末レポート50%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本語習得論演習I	Japanese Language Acquisition (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81546321	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本語教育、コーパス

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	渡辺 裕美	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(その他、相談に応じます。要予約。)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 5階 532研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本語教育に関する基本的な知識
- ・「日本語習得論特論I」を履修していることが望ましい

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本語教育、コーパス

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

「日本語習得論特論Ⅰ」の内容ををふまえ、受講者の研究テーマにあわせて、学習者コーパスからデータを収集し、データを分析したうえで、考察・発表を行う。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	様々なコーパスを使用することを通して自らの研究テーマを見つける。
2	コーパスを用いて自らの研究テーマに応じた分析ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

発表者は発表レジュメを作成し、発表する。必要に応じて実際にコーパスを用いて分析を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

発表者は発表の準備をする。また、各自でテーマを設定した後は、各自分析を進める。  
週4時間程度の授業時間外学習が必要となります。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	授業概要の説明および発表ローテーションの決定
■第2回 授業概要	発表(コーパス紹介)
■第3回 授業概要	発表(コーパス紹介)
■第4回 授業概要	発表(コーパス紹介)
■第5回 授業概要	発表(コーパス紹介)
■第6回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第7回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第8回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第9回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第10回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第11回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第12回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第13回 授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第14回 授業概要	分析と報告、ディスカッション

授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第15回	
授業概要	分析と報告、ディスカッション
■第16回	
授業概要	期末レポートの提出

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

--

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版、2018  
『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』朝倉書店、2018  
『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版、2019

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

--

**Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】**

--

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表担当時の内容30%、ディスカッションへの参加度20%、期末レポート50%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
応用言語学特論	Applied Linguistics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81540371	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

second language acquisition

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	088-844-8217 公開 Open	noimiai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限目、金曜日1限目、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 315番

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な第二言語習得の知識（学部での第二言語習得論の授業を受講していることが望ましい）、および、英語論文を用いて議論することがありますので、研究英語論文を読むことができる英語力が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、言語教育、英語教育、

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

言語習得、言語教育に関する応用言語学の理論を理解し、日本の言語(英語)教育にどのように応用できるのかを考える。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	言語習得に関する様々な理論(仮説)の中から、重要な理論(仮説)を5つ以上説明できる。
2	学習した言語習得理論より、日本の言語教育の課題を5つ以上述べるができる。
3	言語習得の知見より、効果的な言語活動のためのポイントを5つ以上説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

応用言語学に関する日本語で書かれたテキストを用いて授業を進めていく。必要に応じてテキスト以外の論文(英語論文も含む)を読み、補足情報を提供する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回予習として、次の授業に向けてテキストあるいは論文を読み、そして、内容の概要を説明する準備をする(レジュメの作成など)。内容によっては、調べて追加情報を発表できるように準備をする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション、行動主義心理学者の言語習得理論
評価のスケジュール	グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.16-30を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第2回	
授業概要	生得説論者の言語習得理論、中間言語
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.31-59を読み、概要を説明する。追加情報の発表。
■第3回	
授業概要	誤答分析、L2習得の初期段階の特徴
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.60-93を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
授業概要	子どものL1習得と大人のL2習得の相違性と類似性、転移
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.94-119を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第5回	
授業概要	動機づけ、化石化
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.120-156を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第6回	
授業概要	年齢差と言語習得、学習スタイルとL2習得(1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.157-175を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第7回	



授業概要	学習スタイルとL2習得(2)、Krashen の言語習得理論
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.176-188を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第8回</b>	
授業概要	L2学習での潜在的な知識と顕在的な知識、文化変容仮説(1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.189-205を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第9回</b>	
授業概要	文化変容仮説(2)、適応仮説
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.206-224を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第10回</b>	
授業概要	ゆらぎ
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.225-233を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第11回</b>	
授業概要	多次元モデル
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.234-239を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第12回</b>	
授業概要	アウトプット仮説
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.240-244を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第13回</b>	
授業概要	インタラクション仮説
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	アウトプット仮説、インタラクション仮説にかかわる論文を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第14回</b>	
授業概要	社会文化的アプローチから見た第二言語習得(1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	社会文化的理論に関する論文を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第15回</b>	
授業概要	社会文化的アプローチから見た第二言語習得(2)、期末試験
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	プレゼンテーションの準備
<b>■第16回</b>	
授業概要	プレゼンテーション発表(テスト)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

必携：大喜多喜夫(2013)『応用言語学—ことばはどのように学習されるか』、昭和堂。
--

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】****Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】****成績評価の基準と方法 【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験30%、毎回の課題発表30%、学習意欲(授業中への積極的な議論)20%、プレゼンテーション20%で評価する。到達目標の1から3については、期末試験やプレゼンテーション、議論での発言内容で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
応用言語学演習	Applied Linguistics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81545321	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

second language acquisition

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	088-844-8217 公開 Open	noimai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限目、金曜日1限目、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 315番

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な第二言語習得の知識（学部での第二言語習得論の授業を受講していることが望ましい）、および、英語論文を用いて議論することがありますので、研究英語論文を読むことができる英語力が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、言語教育、英語教育

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

言語習得に関する論文を講読し、言語はどのように学ばれ、どのような要因が影響しているのかを理解する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	言語習得に関する様々な理論(仮説)の中から、重要な理論(仮説)を5つ以上説明できる。
2	言語習得に影響する要因の中で、特に重要だと考える要因を5つ以上説明できる。
3	言語習得の知見に基づいて、より効果的な言語学習(言語指導)のポイントを5つ以上説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

第二言語習得(SLA)をめぐる論文を取り上げ検討する。様々な論文を講読し、ディスカッションを通して考えを深化させる。また、受講生の研究テーマと関連する論考を講読し、内容を議論する。修士論文のテーマに沿った研究発表を行い、その内容を指導する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回予習として次の授業に向けて論文を読んでくること、そして内容の概要を説明することが求められます。内容によっては、調べて追加情報を発表できること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	イントロダクション、The characteristics of learner language(1)
評価のスケジュール	グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp45-66を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第2回	
授業概要	The characteristics of learner language(2)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.67-73を読み、概要を説明する。
■第3回	
授業概要	Developmental patterns in second language acquisition(1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.82-103を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第4回	
授業概要	Developmental patterns in second language acquisition(2)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.159-185を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第5回	
授業概要	Pragmatic aspect of learner language(1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.186-200を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第6回	
授業概要	Pragmatic aspect of learner language(2)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.201-221を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること

■第7回	
授業概要	Input, interaction, and second language acquisition(1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.222-238を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第8回	
授業概要	Input, interaction, and second language acquisition(2)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.239-278を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第9回	
授業概要	Input, interaction, and second language acquisition(3)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.279-310を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第10回	
授業概要	Social aspect of second language acquisition (1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.311-342を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第11回	
授業概要	Social aspect of second language acquisition (2)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.517-544を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第12回	
授業概要	Sociocultural theory and second language acquisition
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.343-404を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第13回	
授業概要	Language transfer
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	テキストpp.405-433を読んできて概要を説明するとともに、内容によっては調べて追加情報を発表できること
■第14回	
授業概要	Cognitive accounts of second language acquisition
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	研究発表の準備
■第15回	
授業概要	期末試験、研究発表とディスカッション (1)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション
授業時間外の学習	研究発表の準備
■第16回	
授業概要	研究発表とディスカッション (2)
評価のスケジュール	課題の発表、グループディスカッション

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Ellis, R. (2008). *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験30%、毎回の課題発表40%、学習意欲(授業中への積極的な議論)20%、プレゼンテーション10%で評価する。到達目標の1から3については、期末試験、プレゼンテーション、議論での発言内容で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
第二言語習得論特論	Second Language Acquisition (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D19	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81540471	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得のメカニズムや習得に影響を及ぼす個人者要因などを理解する。

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	088-844-8217 公開 Open	noimiai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日2限目(要予約)、木曜日2限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 3F今井典子研究室 (315)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

第二言語習得の知識をある程度有しておくこと(学部の第二言語習得にかかわる授業を履修していることが望ましい)、および、英語論文に言及することもありますので、研究論文を読むことができる英語力が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、外国語教育、英語教育、タスク(特に、focused taskータスク活動とdictoglossなど)

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

第二言語習得のメカニズムや言語習得に大きな影響を及ぼす個人者要因に関して学ぶ。また、第二言語習得の知見を言語学習や言語指導に関連付けて考える。そのうえで、第二言語習得に有効とされる「タスク」の理論への理解を深める。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	タスクの定義、分類、難易度に関して説明することができる。
2	言語習得に関する様々な理論(仮説)の中から、タスクに必要な理論(仮説)を5つ以上説明できる。
3	学習した理論より、言語教育の重要なポイントを5つ以上述べることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

第二言語習得(SLA)に関する様々な理論を学びます。その中には、言語習得のメカニズムや個人者要因(内的要因)、これまで展開されてきた仮説や理論なども取り扱います。また、SLAの知見から、「タスク」に関する言語学習や言語指導を考えます。履修生の理解度を考慮しながら授業を進めていきますので、シラバス通りにはならないこともある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業の内容に関して、論文(英語・日本語)が補足として配布されることがあります。その際には与えられた内容を読み、まとめてくる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション(授業の進め方など)、第二言語習得研究—言語学習を多面的にとらえる
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
■第2回	
授業概要	母語習得と第二言語習得、L2習得の初期段階の特徴
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業の内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習をしておくこと。
■第3回	
授業概要	第二言語学習についての2つの見方(認知的アプローチと社会的アプローチ)(1)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
■第4回	
授業概要	第二言語学習についての2つの見方(認知的アプローチと社会的アプローチ)(2)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
■第5回	
授業概要	言語習得に関わる諸問題—転移、化石化(定着化)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
■第6回	
授業概要	第二言語習得における個人者要因
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
■第7回	



授業概要	第二言語動機付け—動機づけ理論(1)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第8回</b>	
授業概要	第二言語動機付け—動機づけ理論(2)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第9回</b>	
授業概要	言語習得に関する仮説(1)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第10回</b>	
授業概要	言語習得に関する仮説(2)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など、記述式小テストの実施
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第11回</b>	
授業概要	第二言語習得研究と外国語研究—タスク(1)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第12回</b>	
授業概要	第二言語習得研究と外国語研究—タスク(2)
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第13回</b>	
授業概要	TBLT とTSLT におけるタスク
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第14回</b>	
授業概要	第二言語習得の新しい考え方—複雑系理論を考える
評価のスケジュール	授業での議論への積極的参加および発言など
授業時間外の学習	授業内容に関して補足論文配布⇒与えられた内容を読み、まとめてくること。授業の内容の復習。
<b>■第15回</b>	
授業概要	まとめのプレゼン
評価のスケジュール	プレゼンでのパフォーマンス評価

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

授業は配布資料を基に進めます。参考書は以下の通りです。  
 今井・高島(2015)『小・中・高等学校における 学習状況に応じた英語の課題解決型言語活動 — 自律する言語使用者の育成』、東京書籍。  
 村野井仁・若林茂則・白畑知彦(2010)『第二言語習得研究—理論から研究法まで』、研究社。

### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業での議論への積極的参加および発言、コメントシートなどからの感想など(50点)、授業で取りあつかった内容のまとめのプレゼン(25点)、授業で取りあつかった内容の記述式小テスト(25点)

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
第二言語習得論演習	Second Language Acquisition (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D20	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81545421	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

第二言語習得で求められるタスク

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	今井 典子	人文社会科学部	088-844-8217 公開 Open	noimai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日2限目(要予約)、木曜日2限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟 3F今井典子研究室 (315)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

基本的な第二言語習得の知識 (学部での第二言語習得論の授業を受講していることが望ましい)、および、英語論文を用いて議論することがありますので、研究英語論文を読むことができる英語力が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

第二言語習得、言語教育、英語教育、タスク

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

言語習得に関する論文、特に「タスク」に関する内容を講読し、習得においてどのような言語指導が必要であるのかを考える。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	タスク実施における教育的意義に関して、諸理論を引用しながら説明することができる。
2	日本での学習環境(EFL)におけるタスク実施の課題点を諸理論を引用しながら説明することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

第二言語習得(SLA)をめぐる論文、特に「タスク」に関して取り上げる。ディスカッションを通して考えを深化させる。また、受講生の研究テーマと関連する論考を講読し、内容を議論する。修士論文のテーマに沿った研究発表を行い、その内容を指導する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回予習として次の授業に向けて論文を読んでくること、そして内容の概要を説明することが求められます。内容によっては、調べて追加情報を発表できること。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション、Chapter 1-Task in SLA and language pedagogy(1)
評価のスケジュール	ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめてくる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第2回	
授業概要	Chapter 1- Task in SLA and language pedagogy(2)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめてくる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第3回	
授業概要	Chapter 3-Task, interaction, and SLA (1)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめてくる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
授業概要	Chapter 3-Task, interaction, and SLA (2)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめてくる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第5回	
授業概要	Chapter 3-Task, interaction, and SLA (3)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめてくる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第6回	
授業概要	Chapter 4-Task, production, and SLA (1)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめてくる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
■第7回	

授業概要	Chapter 4-Task, production, and SLA (2)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第8回</b>	
授業概要	Chapter 4-Task, production, and SLA (3)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第9回</b>	
授業概要	Chapter 5-Focused tasks and SLA (1)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第10回</b>	
授業概要	Chapter 5-Focused tasks and SLA (2)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第11回</b>	
授業概要	Chapter 6-Sociocultural SLA and tasks (1)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第12回</b>	
授業概要	Chapter 6-Sociocultural SLA and tasks (2)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第13回</b>	
授業概要	Chapter 6-Sociocultural SLA and tasks (3)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	今回の授業で取り扱うテキストの内容を読み、概要を説明できるようにまとめる。内容によっては調べて追加情報を発表できること。
<b>■第14回</b>	
授業概要	Chapter 6-Sociocultural SLA and tasks (4)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	発表に向けての準備
<b>■第15回</b>	
授業概要	研究発表とディスカッション (2)
評価のスケジュール	発表の内容、ディスカッションの内容
授業時間外の学習	授業の復習をしておくこと。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Ellis, R. (2003) *Task-based Language Learning and Teaching*. Oxford: Oxford University Press.

#### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業での議論への積極的参加および発言、コメントシートなどからの感想など(50点)、授業で取りあつかった内容のまとめのプレゼン(50点)

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文化研究特論	Language and Culture Research (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D29	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81540771	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	非公開 Closed	koga@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 古閑研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的な知識を有することが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。
- ・なお、本授業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	言語研究の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。また、並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読、関連資料の収集およびレジュメの作成。
- ・最低週4時間程度の自主学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明および発表ローテーションの決定。
■ 第2回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第3回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第4回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第5回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第6回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第7回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第8回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第9回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
■ 第10回	文献講読



授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第11回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第12回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第13回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第14回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第15回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第16回	課題作成、提出
授業概要	課題作成、提出
授業時間外の学習	課題作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

角田太作 『世界の言語と日本語 改訂版—言語類型論から見た日本語』くろしお出版, 2009.  
リンゼイ J. ウェイリー 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性 (岩波オンデマンドボックス)』岩波書店, 2017.

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文化研究演習	Language and Culture Research (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D30	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81545721	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	非公開 Closed	koga@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 古閑研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的な知識を有することが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。
- ・なお、本授業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	言語研究の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。また、並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読、関連資料の収集およびレジュメの作成。
- ・最低週4時間程度の自主学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明および発表ローテーションの決定。
■ 第2回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第3回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第4回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第5回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第6回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第7回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第8回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■ 第9回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
■ 第10回	文献講読

授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第11回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第12回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第13回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第14回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第15回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第16回	課題作成、提出
授業概要	課題作成、提出
授業時間外の学習	課題作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

角田太作 『世界の言語と日本語 改訂版—言語類型論から見た日本語』くろしお出版, 2009.  
リンゼイ J. ウェイリー 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性 (岩波オンデマンドボックス)』岩波書店, 2017.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文化論特論	Language and Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81540871	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	非公開 Closed	koga@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

不定、メール連絡してください。

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 古閑研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的知識を有すること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。
- ・なお、本授業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	諸言語研究の中で自分の研究を位置づけ、議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読、関連資料の収集およびレジュメの作成。
- ・最低週4時間程度の自主学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明および発表ローテーションの決定。
授業時間外の学習	特になし。
■第2回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第3回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第4回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第5回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第6回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第7回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第8回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第9回	文献購読



授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第10回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第11回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第12回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第13回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第14回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第15回	文献購読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者、関連資料収集)
■第16回	課題作成、提出
授業概要	課題作成、提出
授業時間外の学習	課題作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

未定。受講生と相談の上決める。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
言語文化論演習	Language and Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81545821	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

言語学、社会言語学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Linguistics, Sociolinguistics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	古閑 恭子	人文社会科学部	非公開 Closed	koga@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

不定、メール連絡してください。

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 古閑研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

言語学、社会言語学に関する基本的な知識を有すること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

言語学、社会言語学、言語文化論

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・言語学、社会言語学、言語文化論の領域における諸研究、動向、方法論を理解し、自らの研究テーマに活かす。
- ・なお、本授業はグローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	言語研究に必要な知識、考え方を身につける。
2	言語研究における動向を理解し、批判的に考察することができる。
3	言語研究の諸研究の中で自らの研究を位置づけ、議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

文献講読を通じて、言語研究の最新のトピックおよび理論動向について検討する。並行して受講生の研究発表も随時行う。講読文献については、受講生の関心に応じて、希望も聞きつつ決めたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読、関連資料の収集およびレジユメの作成。
- ・最低週4時間程度の自主学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明および発表ローテーションの決定。
授業時間外の学習	特になし。
■第2回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジユメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第3回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジユメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第4回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジユメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第5回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジユメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第6回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジユメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第7回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジユメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第8回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジユメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第9回	文献講読

授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第10回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第11回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第12回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第13回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第14回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第15回	文献講読
授業概要	輪読、発表およびディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、レジュメ作成(担当者)、関連資料収集。
■第16回	課題作成、提出
授業概要	課題作成、提出
授業時間外の学習	課題作成

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

未定。受講生と相談の上決める。

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表内容40%、授業参加態度40%、期末レポート20%。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
イギリス言語文化論特論	British Language and Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D37	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81542371	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

17世紀から19世紀にかけての英文学史

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

History of English Literature from the 17th century to the 19th century

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	吉門 牧雄	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日 4時限目

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 吉門牧雄研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語読解能力を高めるとともに、17世紀から19世紀にかけての英文学史を概観すること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

英文学史、代表的作品

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・ 本授業の目的は、17世紀から19世紀にかけての英文学史の流れを理解し、基本的な作品を英語で精読すること。
- ・ 当時の時代背景や社会の状況について理解すること。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	17世紀から19世紀にかけての英文学史について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	17世紀から19世紀にかけての英文学史における代表的な作品の内容について理解し、その重要性を説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

17世紀から19世紀にかけての英文学の流れを概観し、その時代の主要な作品の重要性を理解する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で使用するテキストやプリントの内容をあらかじめ予習して下さい。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業概要の説明
■第2回	王政復古時代のイングランド考察(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第3回	王政復古時代のイングランド考察(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第4回	王政復古時代のイングランド考察(三回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第5回	デフォー時代のイングランド考察(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第6回	デフォー時代のイングランド考察(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第7回	デフォー時代のイングランド考察(三回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第8回	ジョンソン博士時代のイングランド考察(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第9回	ジョンソン博士時代のイングランド考察(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第10回	ジョンソン博士時代のイングランド考察(三回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第11回	ヴィクトリア朝のイングランド考察(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第12回	ヴィクトリア朝のイングランド考察(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第13回	ヴィクトリア朝のイングランド考察(三回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第14回	授業の総括(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読



■第15回	授業の総括(二回目)
授業概要	授業全体のまとめを行う
■第16回	期末試験

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Norton Anthology English Literature, Vol.1 & Vol. 2

Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験40%、レポート40%、課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
イギリス言語文化論演習	British Language and Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D38	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81547321	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリス言語文化における代表的作品の講読

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	吉門 牧雄	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日 4時限目

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 吉門牧雄研究室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語読解能力を高めるとともに、17世紀から19世紀にかけての英文学史において主要な作品を精読すること。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

英文学史、代表的作品、ヴィクトリア朝

授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・ 本授業の目的は、ヴィクトリア朝の英文学史で主要な作品を英語で精読し、その重要性を理解すること。
- ・ 当時の時代背景や社会の状況と文学作品の関連性について理解すること。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	英文学史における主要な作品について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	英文学史における代表的な作品の内容と当時の社会状況の関連について理解し、その重要性を説明できる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

ヴィクトリア朝の言語文化や当時の社会情勢を概観しつつ、代表的な作品を精読し、その重要性を理解する。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で用いるテキストをあらかじめ予習し、精読してください。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業概要の説明
■第2回	ヴィクトリア朝の歴史的背景の考察(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第3回	ヴィクトリア朝の歴史的背景の考察(二回目)
■第4回	ヴィクトリア朝の歴史的背景の考察(三回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第5回	アルフレッド・テニスの英詩研究(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第6回	アルフレッド・テニスの英詩研究(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第7回	ロバート・ブラウニング英詩研究(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第8回	ロバート・ブラウニング英詩研究(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第9回	マッシュュー・アーノルドの散文研究(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第10回	マッシュュー・アーノルドの散文研究(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第11回	ウォルター・ペイターの散文研究(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第12回	ウォルター・ペイターの散文研究(二回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第13回	ウォルター・ペイターの散文研究(三回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第14回	授業の総括(一回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第15回	授業の総括(二回目)

授業概要 授業全体のまとめを行う  
■第16回 期末試験

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

The Norton Anthology English Literature, Vol.1 & Vol. 2

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験40%、レポート40%、課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
イギリス文化論特論 I	British Culture (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D39	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81542171	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

19世紀の英文学史

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

History of English Literature from in the 19th century

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	吉門 牧雄	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日 4時限目

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 吉門牧雄研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語読解能力を高めるとともに、19世紀の英文学史を概観すること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

英文学史、19世紀イギリスの代表的文学作品

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・ 本授業の目的は、19世紀の英文学史の流れを理解し、基本的な作品を英語で精読すること。
- ・ 当時の時代背景や社会の状況について理解すること。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	19世紀の英文学史について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	19世紀の英文学史における代表的な作品の内容について理解し、その重要性を説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

19世紀の英文学の流れを概観し、その時代の主要な作品の重要性を理解する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で使用するテキストやプリントの内容をあらかじめ予習して下さい。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業概要の説明
■第2回	ワーズワースの詩作品考察(1回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第3回	ワーズワースの詩作品考察(2回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第4回	ワーズワースの詩作品考察(3回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第5回	コールリッジの詩作品考察(1回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第6回	コールリッジの詩作品考察(2回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第7回	コールリッジの詩作品考察(3回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第8回	シェリーの詩作品考察(1回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第9回	シェリーの詩作品考察(2回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第10回	シェリーの詩作品考察(3回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第11回	キーツの詩作品考察(1回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第12回	キーツの詩作品考察(2回目)

授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第13回	キーツの詩作品考察(3回目)
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第14回	授業の総括(1回目)
授業概要	授業全体のまとめを行う
■第15回	授業の総括(2回目)
授業概要	授業全体のまとめを行う
■第16回	期末試験

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

The Norton Anthology English Literature, Vol. 2

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験40%、レポート40%、課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
イギリス文化論演習 I	British Culture (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D40	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81547121	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ロバート・ブラウニングの代表的作品の講読

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

A Study of Major Poems by Robert Browning

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	吉門 牧雄	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日 4時限目

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 吉門牧雄研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語読解能力を高めるとともに、ロバート・ブラウニングの主要な作品を精読すること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

英文学史、ロバート・ブラウニングの代表的作品、ヴィクトリア朝



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ 本授業の目的は、ロバート・ブラウニングの主要な作品を英語で精読し、その重要性を理解すること。
- ・ 当時の時代背景や社会の状況と文学作品の関連性について理解すること。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	ロバート・ブラウニングの主要な作品について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	ロバート・ブラウニングの代表的な作品の内容と当時の社会状況の関連について理解し、その重要性を説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

ヴィクトリア朝の言語文化や当時の社会情勢を概観しつつ、ロバート・ブラウニングの代表的な作品を精読し、その重要性を理解する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で扱うロバート・ブラウニングの代表的な作品を熟読し、十分な予習を行うこと。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業概要の説明
■第2回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(1回目) Porphyria's Lover
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第3回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(2回目) My Last Duchess
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第4回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(3回目) The Lost Leader
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第5回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(4回目) Meeting at Night
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第6回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(5回目) Memorabilia
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第7回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(6回目) Love among the Ruins
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第8回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(7回目) Fra Lippo Lippi
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第9回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(8回目) The Last Ride Together
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第10回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(9回目) Andrea del Sarto
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第11回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(10回目) Two in the Campagna
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第12回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(11回目) A Grammarian's Funeral
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第13回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(12回目) Prospice
授業概要	上記テーマについての説明とテキストの講読
■第14回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(13回目) Abt Vogtle

授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第15回	ロバート・ブラウニングの代表的作品の考察(14回目) Rabbi Ben Ezra
授業概要	上記テーマについての説明と代表的テキストの講読
■第16回	期末試験

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

初回授業時に受講生と相談のうえ決定する

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験40%、レポート40%、課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)20%、合計100%で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ドイツ言語文化論特論	German Language and Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D41	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81544571	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	斎藤 昌人	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟3階303室)

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

19世紀以降のおおよその世界史の知識ならびにドイツ語の初級程度の知識

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

ドイツ、ドイツ語圏文化、ドイツ語、

--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

ドイツ語圏の文化を検証する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 近代の歴史の中に、ドイツ語圏の政治・社会・文化を位置づけることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

関連する文献の精読

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション
■第2回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第3回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第4回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第5回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第6回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第7回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第8回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第9回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第10回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第11回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第12回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第13回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第14回	
授業概要	文献精読とディスカッション

■第15回 授業概要	文献精読とディスカッション
■第16回 授業概要	文献精読とディスカッション

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

--

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

未定(受講生が確定したのち決定)

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

--

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

--

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

平常の授業の参加度を評価

--

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ドイツ言語文化論演習	German Language and Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D42	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81549521	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	斎藤 昌人	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟3階303室)
---------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

辞書を参考に、ドイツ語の文献が読める程度のドイツ語の知識
------------------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

ドイツ、ドイツ語圏文化、ドイツ語
------------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

ドイツ語圏の文化を検証する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 近代の歴史の中に、ドイツ語圏の政治・社会・文化を位置づけることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

関連する文献の精読

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション
■第2回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第3回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第4回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第5回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第6回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第7回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第8回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第9回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第10回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第11回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第12回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第13回	
授業概要	文献精読とディスカッション
■第14回	
授業概要	文献精読とディスカッション

■第15回 授業概要	文献精読とディスカッション
■第16回 授業概要	文献精読とディスカッション

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

未定(受講生が確定したのち決定)

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

平常の授業の参加度を評価



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ドイツ文化論特論	German Culture Theory (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D43	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81544671	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	斎藤 昌人	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟3階303室)

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・生活文化に関心があり、関連する書籍等に普段から積極的に接していること。
- ・ドイツ(ドイツ語圏)の社会への関心

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

生活文化、近代化、ドイツ、生活改善運動

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・この授業のテーマは、近代化のもとでの生活の変化を、とりわけドイツ(ドイツ語圏)の社会のなかで検証していくものである。  
 ・この授業は、グローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目であるが、グローバル化をもたらす社会的・文化的諸問題を研究する比較社会文化領域にも広く関わるものである。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	19世紀から20世紀にかけてのドイツ社会の変化を理解し説明できる。
2	近代化の流れの中にその変化を位置づけ、説明することができる。
3	19世紀から20世紀初頭にかけてのドイツにおける生活改善運動の日本への影響について理解し、説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

19世紀から20世紀にかけての生活レベルにおける近代化を、主にドイツ社会における複数のトピックについて見ていく。当時の複数の日本語文献をベースにする予定である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読が必要
- ・週4時間程度の授業外学習が基本と考えてください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。テキストの説明。担当ローテーションの決定。
■ 第2回	トピック(1)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第3回	トピック(1)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第4回	トピック(1)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第5回	トピック(2)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第6回	トピック(2)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第7回	トピック(2)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第8回	トピック(3)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第9回	トピック(3)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業

■第10回	トピック(3)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第11回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第12回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第13回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第14回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告
■第15回	全体の総括
授業概要	各自の発表
■第16回	レポート提出
授業時間外の学習	レポート作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ドイツ文化論演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

ドイツ社会の生活に関わる文献で、明治から昭和初期にかけて書かれた日本語文献複数を予定。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

毎回の報告40%、授業への積極的な関与40%、最終レポート20%  
到達目標については、毎回の授業の中で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ドイツ文化論演習	German Culture Theory (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D44	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81549621	
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	斎藤 昌人	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟3階303室)

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・生活文化に関心があり、関連する書籍等に普段から積極的に接していること。
- ・ドイツ(ドイツ語圏)の社会への関心

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

生活文化、近代化、ドイツ、生活改善運動

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・この授業のテーマは、近代化のもとでの生活の変化を、とりわけドイツ(ドイツ語圏)の社会のなかで検証していくものである。  
 ・この授業は、グローバル社会研究コースの言語コミュニケーション領域に属する科目であるが、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する比較社会文化領域にも広く関わるものである。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	19世紀から20世紀にかけてのドイツ社会の変化を理解し説明できる。
2	近代化の流れの中にその変化を位置づけ、説明することができる。
3	19世紀から20世紀初頭にかけてのドイツにおける生活改善運動の日本への影響について理解し、説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

・19世紀から20世紀にかけての生活レベルにおける近代化を、主にドイツ社会における複数のトピックについて見ていく。当時の複数の日本語文献をベースにする予定であるが、受講生の状況次第では、ドイツ語文献をあたることもある。  
 ・報告をベースにディスカッションを行うことによって、生活レベルでの近代化を様々な観点から検証する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・テキストや文献の精読、報告に向けた作業が必要  
 ・週4時間程度の授業外学習が基本と考えてください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。テキストの説明。担当ローテーションの決定。
■ 第2回	トピック(1)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第3回	トピック(1)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第4回	トピック(1)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第5回	トピック(2)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第6回	トピック(2)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第7回	トピック(2)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第8回	トピック(3)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■ 第9回	トピック(3)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業

■第10回	トピック(3)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第11回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第12回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第13回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読と報告へ向けての作業
■第14回	トピック(4)
授業概要	輪読・報告、ディスカッション
■第15回	全体の総括
授業概要	各自の発表
■第16回	レポート提出
授業時間外の学習	レポート作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ドイツ文化論特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

ドイツ社会の生活に関わる文献で、明治から昭和初期にかけて書かれた日本語文献複数を予定。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

毎回の報告40%、授業への積極的な関与40%、最終レポート20%  
到達目標については、毎回の授業の中で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国近代文化論特論	Modern Chinese Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D49	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81543371	81533171
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

近代中国の地域文化

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Regional culture in modern China

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜10:30~12:30

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

高橋研究室(人文社会科学部棟511)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国近代の歴史や文化に関する基礎的な知識を有すること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

中国、近代、地域、文化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・中国近代の地域に関することを、文学や映画などから学ぶ
- ・中国の地域文化について、それがどのような過程で作られ、どのようなイメージを持つのかについて理解する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	中国近代の地域文化に関して理解する
2	映画や文学などから、中国の地域イメージを把握する

## 授業全体の概要【SUMMARY】

授業は文献購読を主とし、適宜映画を交え、さらに研究論文を閲読しながら、中国の地域文化に関するイメージを掴む

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業で講読できる文献や映画については限りがあるため、作品については授業時間外に講読、鑑賞することが必要となる。授業では、それに関する討論を行う。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	ガイダンス
評価のスケジュール	授業の流れを説明する
■ 第2回	
授業概要	作品購読
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第3回	
授業概要	作品講読
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第4回	
授業概要	作品講読
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第5回	
授業概要	映画鑑賞
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第6回	
授業概要	映画鑑賞
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第7回	
授業概要	映画鑑賞
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第8回	
授業概要	作品講読
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第9回	
授業概要	作品講読
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■ 第10回	



授業概要	映画鑑賞
評価のスケジュール	中国の地域を扱った作品の講読
■第11回	
授業概要	論文講読
評価のスケジュール	中国の地域文化を扱った論文の講読
■第12回	
授業概要	論文講読
評価のスケジュール	中国の地域文化を扱った論文の講読
■第13回	
授業概要	論文講読
評価のスケジュール	中国の地域文化を扱った論文の講読
■第14回	
授業概要	論文講読
評価のスケジュール	中国の地域文化を扱った論文の講読
■第15回	
授業概要	まとめ
評価のスケジュール	これまでのまとめの発表

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

とくになし
-------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

普段の授業の準備や学習態度: 50点  
 期末レポート: 50点

--

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国近代文化論演習	Modern Chinese Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D46	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81548321	81538121
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

近代上海の文化

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Modern culture in Shanghai

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜10:30~12:30

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

高橋研究室(人文社会科学部棟511)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

近代上海の文化に関する基礎的な知識を有すること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

近代、上海、文化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・近代の上海のイメージを持つ
- ・上海に関する文献や作品に多く触れる

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 近代の上海に関する具体的なイメージを持つ              |
| 2 | 近代上海が、現在の上海とどのように結びつくのかに関する理解を深める |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

歴史的な文献や文学作品、映画を通して、近代の上海に関するイメージを深める

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

文学作品や映画をできるだけ多く読み、視聴する

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	ガイダンス
■ 第2回	
授業概要	文献講読
評価のスケジュール	上海に関する文献を講読する
■ 第3回	
授業概要	討論
評価のスケジュール	前回講読した文献について討論を行う
■ 第4回	
授業概要	文献講読
評価のスケジュール	上海に関する文献を講読する
■ 第5回	
授業概要	討論
評価のスケジュール	前回講読した文献について討論を行う
■ 第6回	
授業概要	文学作品講読
評価のスケジュール	上海に関する文学作品を講読する
■ 第7回	
授業概要	討論
評価のスケジュール	前回講読した作品について討論を行う
■ 第8回	
授業概要	文学作品講読
評価のスケジュール	上海に関する作品を講読する
■ 第9回	
授業概要	討論
評価のスケジュール	前回講読した作品について討論を行う
■ 第10回	
授業概要	映画鑑賞

評価のスケジュール	上海に関する映画を鑑賞する
■第11回	
授業概要	討論
評価のスケジュール	前回視聴した映画について討論する
■第12回	
授業概要	映画鑑賞
評価のスケジュール	前回視聴した映画について討論する
■第13回	
授業概要	映画鑑賞
評価のスケジュール	上海に関する映画を鑑賞する
■第14回	
授業概要	討論
評価のスケジュール	前回視聴した映画について討論する
■第15回	
授業概要	まとめ
評価のスケジュール	授業の内容をまとめて討論する

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

必要なし。こちらで準備する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業態度:50%  
レポート:50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国現代文化論特論	Contemporary Chinese Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D51	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81543471	81533271
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国の地域文化について

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Chinese Regional Culture

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜14:00~16:00

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

高橋研究室(人文社会科学部棟511)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国文化に関する基礎的な知識があること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

中国、地域、文化

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

中国の地域文化について理解する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	中国の地域文化に関して理解する
2	中国の各地域にはどのような文化があるかを理解する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

中国の地域文化に関する文献を講読する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

中国に関する様々な文献を読んでおくこと。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	ガイダンス
■第2回 授業概要	中国の地域文化文献講読1
■第3回 授業概要	中国の地域文化文献講読2
■第4回 授業概要	中国の地域文化文献講読3
■第5回 授業概要	中国の地域文化文献講読4
■第6回 授業概要	中国の地域文化文献講読5
■第7回 授業概要	中国の地域文化文献講読6
■第8回 授業概要	中国の地域文化文献講読7
■第9回 授業概要	中国の地域文化文献講読8
■第10回 授業概要	中国の地域文化文献講読9
■第11回 授業概要	中国の地域文化文献講読10
■第12回 授業概要	中国の地域文化文献講読11
■第13回 授業概要	中国の地域文化文献講読12
■第14回	

授業概要	中国の地域文化文献講読13
■第15回	
授業概要	まとめ

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

なし

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

普段の授業態度:30%  
 期末レポート:70%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国現代文化論演習	Contemporary Chinese Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D52	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81548421	81538221
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校・高校(国語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国都市文化

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Chinese Urban Culture

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	高橋 俊	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜14:00~16:00

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

高橋研究室(人文社会科学部棟511)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中国の都市文化に関する文献を読んでおくこと

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

中国、都市、文化



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

中国の都市文化について理解する  
中国の都市にはいかなる文化があるのかについて理解する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	中国の都市文化について理解する
2	中国の都市文化について理解する各都市における文化の違いについて理解する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

中国の都市文化について、文献を講読しながら理解する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

中国都市文化に関する書籍を読んでおくこと。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	ガイダンス
■第2回 授業概要	中国の都市文化文献講読1
■第3回 授業概要	中国の都市文化文献講読2
■第4回 授業概要	中国の都市文化文献講読3
■第5回 授業概要	中国の都市文化文献講読4
■第6回 授業概要	中国の都市文化文献講読5
■第7回 授業概要	中国の都市文化文献講読6
■第8回 授業概要	中国の都市文化文献講読7
■第9回 授業概要	中国の都市文化文献講読8
■第10回 授業概要	中国の都市文化文献講読9
■第11回 授業概要	中国の都市文化文献講読10
■第12回 授業概要	中国の都市文化文献講読11
■第13回 授業概要	中国の都市文化文献講読12
■第14回	

授業概要	中国の都市文化文献講読13
■第15回	
授業概要	まとめ

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

なし。
-----

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末レポート:70%  
授業態度:30%

--

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
現代大衆文化論特論	Modern Popular Culture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D53	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81542771	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代大衆文化におけるミュージカルの位置づけについて

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山下 興作	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文棟4階433室)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

なし

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

演劇、ミュージカル、宝塚歌劇

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 ミュージカルの特徴と魅力について理解する。

2 宝塚歌劇の歴史と特徴について理解する

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事情が許す限り生の舞台作品に接する。  
DVD等でミュージカル作品に接する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

### ■第1回

授業概要

イントロダクション

### ■第2回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第3回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第4回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第5回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第6回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第7回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第8回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第9回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第10回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第11回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第12回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第13回

授業概要

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

### ■第14回

授業概要	宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。
■第15回	
授業概要	宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。
■第16回	
授業概要	宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える。

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

なし

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

学期末の試験で評価する

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
現代大衆文化論演習	Modern Popular Culture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D54	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81547721	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

宝塚歌劇を中心にミュージカル文化について理解を深める

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山下 興作	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文棟4階433室)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

なし

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ミュージカル、宝塚歌劇

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

宝塚歌劇を中心にミュージカルの現代大衆文化における位置づけについて考える

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 宝塚歌劇の個々の作品への的確な鑑賞力を身に着ける

## 授業全体の概要【SUMMARY】

宝塚歌劇の特徴と魅力について、議論を通じて理解を深める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事情が許す限り生の舞台作品に接する。  
DVD等で作品に数多く接する

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	イントロダクション
■第2回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第3回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第4回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第5回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第6回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第7回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第8回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第9回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第10回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第11回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第12回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第13回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第14回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。

■第15回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。
■第16回 授業概要	宝塚歌劇の具体的作品に即して、その特徴や魅力を議論する。

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

なし

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

学期末の試験で評価する



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アメリカ文化論特論Ⅱ	American Culture (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D55	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81542671	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

アメリカの演劇文化について、ミュージカルを中心に考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山下 興作	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文棟4階433室)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

なし

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

演劇、ミュージカル

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

ミュージカルを中心にアメリカ演劇の特質について理解を深める。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 ブロードウェイのアメリカ文化における位置づけについて理解する

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事情が許す限り生の舞台に接する。  
DVD等で日ごろからミュージカル作品に接する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	イントロダクション
評価のスケジュール	未定
■ 第2回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第3回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第4回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第5回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第6回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第7回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第8回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第9回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第10回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第11回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第12回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第13回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■ 第14回	

授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■第15回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。
■第16回	
授業概要	ブロードウェイミュージカルのアメリカ文化上の位置づけについて、通時的に講義する。

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

なし

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

学期末の試験で評価する

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アメリカ文化論演習Ⅱ	American Culture (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D56	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81547621	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山下 興作	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限
------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文棟4階433室)
----------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

なし
----

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

演劇、ミュージカル
-----------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

ブロードウェイミュージカルの具体的作品を取り上げ、そのミュージカル史上の位置づけについて議論する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 ブロードウェイミュージカルの具体的作品を取り上げ、そのミュージカル史上の位置づけを理解する

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事情が許す限り生の舞台に接する。  
DVD等で日ごろからミュージカル作品に接する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	イントロダクション
■第2回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第3回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第4回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第5回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第6回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第7回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第8回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第9回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第10回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第11回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第12回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第13回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第14回 授業概要	具体的作品について議論する。

■第15回 授業概要	具体的作品について議論する。
■第16回 授業概要	具体的作品について議論する。

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

なし

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

学期末の試験で評価する

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

<b>授業題目【Course Title】</b>	<b>英文科目名</b>
イギリス詩学論特論	English Poetics (Advanced)
<b>申請コード【Course Code】</b>	<b>単位数【Course Credits(Units)】</b>
12D57	2
<b>授業種別【Course Classification】</b>	<b>履修開始年次</b>
講義	1
<b>履修期間【Semester】</b>	<b>時間割【Day/Period】</b>
第1学期	
<b>区分等</b>	
平成27年度以降	
大学院科目	
<b>ナンバリングコード1</b>	<b>ナンバリングコード2</b>
81542471	
<b>履修における注意点</b>	
<b>資格等</b>	
教免－中学校・高校(英語)専修	

### 副題【SUBHEADING】

#### 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

英詩の歴史を知り、それぞれの時期の代表作を分析する

#### 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Understanding History of English Poetry and Appreciating Major Poems

### 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	関 良子	人文社会科学部	非公開 Closed	y-seki@kochi-u.ac.jp 公開 Open

### オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日2限目(要予約)

### 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 関研究室

### 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・ 中級(例えば英検2級)以上の英語運用能力、特に文法に気を配りながら英文を読解する能力
- ・ 英詩を声に出して読み、気に入った英詩を暗唱することに対する関心・意欲

### 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

### キーワード【KEYWORD】

英詩、英文学史

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ 14世紀～21世紀に英語で書かれた詩を鑑賞することで、イギリス詩学の変遷を理解する
- ・ 英語で詩を味読するための感性と英語読解能力を身につける

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	詩を中心にした英文学史の概要を説明できる。
2	それぞれの時代の英詩の特徴を説明できる。
3	英語表現の細部に気を配りながら丁寧に英詩を読み、解説または翻訳することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

14世紀チョーサーから20世紀モダニズム詩人、21世紀現代詩人に至るまでの、英語で書かれた詩をいくつか鑑賞し、イギリス詩学が時代を経てどのように変化していったかを辿る。また、英語の文体の変遷をも視野に入れる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・ テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・ 最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	オリエンテーション: 授業の内容と進め方について説明し、受講生の関心に従って具体的な授業スケジュールを決定する。
授業時間外の学習	特になし。
■ 第2回	
授業概要	中世詩人: ジェフリー・チョーサー
評価のスケジュール	報告担当者は報告内容を、それ以外の学生はディスカッションへの貢献度を、それぞれ評価対象とする。(以下、同様)
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。(以下、同様)
■ 第3回	
授業概要	ルネサンス詩人: ウィリアム・シェイクスピア
■ 第4回	
授業概要	ルネサンス詩人: フィリップ・シドニー、エドモンド・スペンサー
■ 第5回	
授業概要	形而上詩人: ジョン・ダン、ジョージ・ハーバート
■ 第6回	
授業概要	形而上詩人／新古典主義詩人: アンドリュー・マーヴェル、ジョン・ミルトン
■ 第7回	
授業概要	新古典主義詩人: アレクサンダー・ポープ
■ 第8回	
授業概要	新古典主義詩人: ジョン・ドライデン
■ 第9回	
授業概要	ロマン主義詩人: W・ブレイク、W・ワーズワース
■ 第10回	
授業概要	ロマン主義詩人: J・キーツ、P・B・シェリー
■ 第11回	



授業概要	ヴィクトリア朝詩人: アルフレッド・テニスン、ロバート・ブラウニング、マシュー・アーノルド
■第12回	
授業概要	唯美主義詩人: A・C・スウィンバーン、オスカー・ワイルド、W・B・イェイツ
■第13回	
授業概要	モダニズム詩人: T・S・エリオット、ディラン・トマス、エズラ・パウンド、E・E・カミングス
■第14回	
授業概要	現代詩人: シェイマス・ヒーニー、シルヴィア・プラス、ポール・マルドゥーン
■第15回	
授業概要	全体の総括: それぞれの期末レポートの構想を発表してもらう。
授業時間外の学習	期末レポートのテーマ、構想を考える。関連資料の収集。
■第16回	
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポートの内容を評価対象とする。
授業時間外の学習	期末レポートの作成。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

イギリス詩学論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【必携教科書】平井正穂 編『イギリス名詩選』(岩波文庫, 1990年) / 亀井俊介, 川本皓嗣 編『アメリカ名詩選』(岩波文庫, 1993年)  
 加えて、ハンドアウトを配布する。  
 【参考書】松浦 暢 編訳『英詩の歎び—青春、そして夢と追憶』(平凡社ライブラリー, 2000年) / 松浦 暢 編訳『英詩を愉しむ—光と風と夢』(平凡社ライブラリー, 1997年)  
 その他、随時紹介する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当時の報告内容(30%) / ディスカッションへの貢献(30%) / 期末レポート(40%)

到達目標の1～3を授業内での報告内容・ディスカッションへの貢献の中で評価する。到達目標3については、併せて期末レポートでも評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
イギリス詩学論演習	English Poetics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D58	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81547421	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

詩学論議の歴史を理解し、現代社会における詩・文学の役割について考察する

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Understanding History of English Poetics and Considering the Function of Poetry and Literature in the Modern Society

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	関 良子	人文社会科学部	非公開 Closed	y-seki@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 関研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・ 中級(例えば英検2級)以上の英語運用能力、特に文法に気を配りながら英文を読解する能力
- ・ 文学・文化の社会的役割に対する関心

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

詩学、英詩、文学・文化の社会的役割

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ イギリス詩学を歴史的に考察することで、時代ごとに変遷する詩の社会的役割を理解する
- ・ それをもとに、現代における文学・文化の社会的役割について、自分自身の意見を形成する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	詩学を中心にした英文学史の概要を説明できる。
2	それぞれの時代の代表的な詩学論議に見られる、詩の社会的役割の特徴を説明できる。
3	英語表現の細部に気を配りながら丁寧に資料を読み、そこでの主張を解説することができる。
4	授業内容を踏まえて、現代における文学・文化の社会的役割について、自分自身の意見を形成し、述べることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

ルネサンス、王政復古期、新古典主義、ロマン主義、および19世紀から20世紀にかけての詩学論議のうち、いくつかを精読し、時代ごとに変遷する詩の社会的役割を考察する。研究発表とディスカッションを中心に授業を進める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・ テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・ 最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	オリエンテーション: 「詩学」とは何か、および授業の内容と進め方について説明する。基本的に以下に挙げた文献を扱う予定だが、受講生の関心に従って具体的な授業スケジュールを決定する。
授業時間外の学習	特になし。
■ 第2回	
授業概要	Philip Sidney, "Defence of Poesie" (1595)
評価のスケジュール	報告担当者は報告内容を、それ以外の学生はディスカッションへの貢献度を、それぞれ評価対象とする。(以下、同様)
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。(以下、同様)
■ 第3回	
授業概要	John Dryden, "An Essay of Dramatick Poesie" (1688)
■ 第4回	
授業概要	Alexander Pope, "Essay on Criticism" (1711)
■ 第5回	
授業概要	William Wordsworth & Samuel Taylor Coleridge, Preface to the "Lyrical Ballads" (1800)
■ 第6回	
授業概要	Thomas Love Peacock, "The Four Ages of Poetry" (1820)
■ 第7回	
授業概要	Percy Bysshe Shelley, "A Defence of Poetry" (1840)
■ 第8回	
授業概要	Matthew Arnold, Preface to the 1853 Poems
■ 第9回	
授業概要	Robert Buchanan, "The Fleshly School of Poetry" (1871)
■ 第10回	
授業概要	A. C. Swinburne, "Under the Microscope" (1872)

■第11回	
授業概要	Walter Pater, Conclusion to "The Renaissance" (1873)
■第12回	
授業概要	Oscar Wilde, "The Decay of Lying" (1889)
■第13回	
授業概要	T. S. Eliot, "Tradition and the Individual Talent" (1920)
■第14回	
授業概要	F. R. Leavis, "New Bearings in English Poetry" (1932)
■第15回	
授業概要	ディスカッション: これまでに読んできた詩学論議を踏まえて、現代社会における詩・文学の役割について討議する。
評価のスケジュール	ディスカッションへの貢献度を評価対象とする。
授業時間外の学習	ディスカッションに備えて、現代社会における詩・文学の役割についての自分の意見をあらかじめ考えておく。
■第16回	
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポートの内容を評価対象とする。
授業時間外の学習	期末レポートの作成。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

イギリス詩学論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【教科書】ハンドアウトを配布する。(The Norton Anthology of English Literature / 2vols.より使用箇所のみをコピーして配布する)  
 【参考書】星野徹『詩とは何か—詩論の歴史』(思潮社, 2003年) その他、随時紹介する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当時の報告内容(30%)／ディスカッションへの貢献(30%)／期末レポート(40%)

到達目標の1～3を授業内での報告内容・ディスカッションへの貢献の中で評価する。到達目標4については、併せて第15回授業でのディスカッションおよび期末レポートでも評価する。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
イギリス文化論特論Ⅱ	British Culture (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D59	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81542271	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校・高校(英語)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ある特定の文化的側面からイギリス社会への理解を試みる

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Understanding British Society from a Certain Cultural Aspect

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	関 良子	人文社会科学部	非公開 Closed	y-seki@kochi-u.ac.jp 公開 Open

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限目(要予約)

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 関研究室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

イギリスの歴史についての基礎知識があることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

イギリス、文化、社会、文化政策、芸術、食文化

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ ある特定の文化的側面からイギリス社会への理解を深める。
- ・ それについて、授業参加者でディスカッションを行なう。
- ・ 文化史の事象と現代の事象とのつながりを考え、現代社会や身のまわりの環境・社会がもつ問題について批判的に思考する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	イギリス文化の特定の領域について、理解を深める。
2	理解した内容をもとに、自分の意見を形成し、ディスカッションを行なうことができるようになる。
3	文化史の事象と現代の事象とのつながりを考え、現代社会や身のまわりの環境・社会がもつ問題について批判的に思考できる力を身につける。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、ある特定の文化的側面からイギリス社会への理解を試みます。初回の授業時に、受講生の間で授業テーマを話し合い、基本文献を決定し、2回目の授業以降、その文献を丁寧に読み進め、ディスカッションを行います。授業終盤では、受講生自身で関連する論文・資料を収集し、最終的にレポートを執筆します。以下に、授業で扱うテーマとテキストの参考例を挙げておきます。

### 【芸術と社会の関係性について考える】

菅靖子『イギリスの社会とデザイン：モリスとモダニズムの政治学』（彩流社、2005年）  
横山千晶『コミュニティと芸術』（慶応義塾大学出版会、2021年）  
藤田治彦 編『芸術と福祉：アーティストとしての人間』（大阪大学出版会、2009年）  
山崎亮『コミュニティデザインの源流：イギリス編』（太田出版、2016年）  
エベネザー・ハワード『明日の田園都市』（鹿島出版会、2016年）

### 【階級社会】

セリーナ・トッド『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』（みすず書房、2016年）  
新井潤美『〈英国紳士〉の生態学：ことばから暮らしまで』（講談社、2020年）

### 【イギリス映画と文化政策】

河島伸子・大谷伴子・大田信良 編『イギリス映画と文化政策：ブレア政権以降のポリティカル・エコノミー』（慶応義塾大学出版会、2012年）  
大谷伴子・大田信良 他 編『ポスト・ヘリテージ映画：サッチャリズムの英国と帝国アメリカ』（上智大学出版、2010年）

### 【食文化から見る社会】

マークマン・エリス 他『紅茶の帝国：世界を征服したアジアの葉』（研究社、2019年）  
パニコス・パナイ『フィッシュ・アンド・チップスの歴史：英国の食と移民』（創元社、2020年）

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・ 各回の授業に向けて、テキストを精読、重要な箇所を整理し、報告資料を作成する。
  - ・ 最終課題に向けて、関連する論文・資料を収集し、読書メモにまとめる。
  - ・ 最終レポートのトピックを決め、レポートを作成する。
- (最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする)

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	オリエンテーション：受講生の間で話し合い、テーマとテキストを決定する。
■ 第2回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション

評価のスケジュール	報告担当者は報告内容を、それ以外の学生はディスカッションへの貢献度を、それぞれ評価対象とする。(以下、同様)
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。(以下、同様)
■第3回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第4回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第5回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第6回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第7回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第8回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第9回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第10回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第11回	
授業概要	輪読・報告とディスカッション
■第12回	
授業概要	各自で収集した論文・資料についての発表とディスカッション
■第13回	
授業概要	レポート構想の発表
■第14回	
授業概要	レポート草稿の提出とフィードバック
■第15回	
授業概要	最終レポートの提出とフィードバック
■第16回	
授業概要	授業の総括

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

イギリス文化論演習Ⅱ

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【必修教科書】受講生と相談の上、決定する。候補は上記「授業全体の概要」欄を参考のこと。  
【参考書】川端康雄他『愛と戦いのイギリス文化史』全2巻(慶応義塾大学出版会, 2007年/2011年)  
下楠昌哉他『イギリス文化入門』(三修社, 2010年)

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
----	----	----

秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業時の研究発表(30%)  
授業時のディスカッションへの積極的な貢献(20%)  
期末レポート(50%)



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
イギリス文化論演習Ⅱ	British Culture (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12D60	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81547221	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校・高校(英語)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

イギリス文学作品研究

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Study of English Literary Works

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	関 良子	人文社会科学部	非公開 Closed	y-seki@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日2限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 関研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・ 中級(例えば英検2級)以上の英語運用能力、特に文法に気を配りながら英文を読解する能力
- ・ 英文学作品を原語で読むことに対する関心・意欲

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

イギリス、英文学、精読

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ 考察対象とするイギリス文学作品を自分で選び、精読する。
- ・ 当該作品に関する論文を収集し、研究動向を整理する。
- ・ それらの研究動向を踏まえた上で、自身のテーマを見つけ、レポートを作成する。
- ・ 一連の作業を通して、リサーチ・マネジメント力を身につける。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	文学作品を精読する読解力を身につける(close reading)
2	関連する論文を収集して、研究動向を整理する力を身につける(literature review)
3	先行研究を踏まえた上で、独自のテーマを見つけ、論文を作成する(essay writing)

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本演習では、受講生が選んだイギリス文学作品について、作品を精読した後、それに関する論文を収集し、研究動向を整理する。さらに、それらの研究動向を踏まえた上で、自身のテーマを見つけ、レポートを作成する。本授業は、受講生が主体的に授業計画を立て、その計画をもとに最終レポートを作成することで、修士論文作成に向けて必要なリサーチ・マネジメント力をつけることを狙いとしている。以下の「授業計画」に挙げたのは、ジェーン・オースティンの『高慢と偏見』を選んだ場合の計画例である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・ 各回の授業に向けて、作品を精読し、重要な箇所を整理する
  - ・ 授業中盤の先行研究の紹介・論評に向けて、リーディングリストを作成する
  - ・ リーディングリストに挙げた論文を読み、研究動向を整理する
  - ・ 最終レポートのトピックを決め、レポートを作成する。
- (最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする)

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	オリエンテーション: 受講生の関心に合わせてテキストを決定し、授業スケジュールを確定する。
評価のスケジュール	発表者は報告内容を、そのほかの受講生は議論への参加を評価の対象とする。(以下同様)
授業時間外の学習	各回の授業に向けて、作品を整理し、重要な箇所を整理する。同時に、関連論文を整理し、リーディングリストを作成する。(以下同様)
■第2回	
授業概要	『高慢と偏見』精読(第1～10章) 同時に、関連論文を整理し、リーディングリストを作成
■第3回	
授業概要	『高慢と偏見』精読(第11～20章) 同時に、関連論文を整理し、リーディングリストを作成
■第4回	
授業概要	『高慢と偏見』精読(第21～30章) 同時に、関連論文を整理し、リーディングリストを作成
■第5回	
授業概要	『高慢と偏見』精読(第31～40章) 同時に、関連論文を整理し、リーディングリストを作成
■第6回	
授業概要	『高慢と偏見』精読(第41～50章) 同時に、関連論文を整理し、リーディングリストを作成
■第7回	
授業概要	『高慢と偏見』精読(第51～61章) リーディングリストの提出
授業時間外の学習	リーディングリストに挙げた論文を読み進め、研究動向を整理する。同時に最終レポートのトピックを決め、レポート作成に向けての準備を進める。
■第8回	
授業概要	先行研究の概要を紹介・論評(1)
■第9回	
授業概要	先行研究の概要を紹介・論評(2)
■第10回	
授業概要	先行研究の概要を紹介・論評(3)

■第11回	
授業概要	先行研究の概要を紹介・論評(4)
■第12回	
授業概要	レポートのテーマを決定
授業時間外の学習	最終レポートの作成に向けて準備を進める。
■第13回	
授業概要	中間発表
評価のスケジュール	発表内容を評価の対象とする。
授業時間外の学習	最終レポートの作成。
■第14回	
授業概要	レポート草稿の提出・フィードバック
評価のスケジュール	レポートの出来具合を評価の対象とする。
■第15回	
授業概要	最終レポートの提出・フィードバック
評価のスケジュール	最終レポートを評価の対象とする。
■第16回	
授業概要	総括:授業の振り返りを行う。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

イギリス文化論特論Ⅱ
------------

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<p>【必携教科書】受講生と相談の上、決定する  【参考文献】中村邦生・木下卓・大神田丈二編著『たのしく読めるイギリス文学』(ミネルヴァ書房, 1994年)  野町二・荒井良雄・広川治・逢見明久『イギリス文学案内』(朝日出版社, 2002年)  そのほか、随時紹介する</p>
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

<p>授業時の研究発表(30%)  授業時のディスカッションへの積極的な貢献(20%)  期末レポート(50%)</p>
--

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
西洋社会経済思想史特論	Social and Economic History of Thought (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81551371	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

近世西欧地域における社会経済思想に関する検討:スコットランド啓蒙とデイヴィッド・ヒュームを題材として

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Hume and the Scottish Enlightenment: an enquiry into socio-economic thoughts in early modern western Europe.

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	非公開 Closed	naohito.mori@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜4限(14:50-16:30)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟5階543室)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、社会思想史分野の基礎知識に基づきつつ、参加学生が自らの研究関心に応じ、近代西洋の社会と経済に関する諸思想の中から特定の思潮または思想家を研究対象として選択します。その上でこの授業では、その対象についての学術文献の講読を通じ、通説的理解と専門的な議論の状況の把握を行います。そのため、学生には、この授業の前提として人文社会科学部授業科目「近代社会論」「社会思想史」に相当する社会思想史の基礎知識と、概説的文献から専門論文まで読み進める意欲および読解力が必要となります。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

上述の通り、この授業では学生の研究関心に応じて授業の内容および議論の対象に調整を加えます。以下の授業計画では、「スコットランド啓蒙」および「デイヴィッド・ヒューム」を対象として議論を行う場合の授業モデルを提示しており、実際の授業内容は受講生の希望に応じて変更する可能性があることをお断りいたします。

## キーワード【KEYWORD】

社会思想史、近代、西欧、スコットランド、18世紀、啓蒙、ヒューム

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・この授業では、18世紀西欧の顕著な思潮の1つであるスコットランド啓蒙思想について概説的な理解を得て、特にその主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの社会・経済思想の歴史的内容と意義、そして現代に至る問題性について議論し、一定の理解を得ることを目指します。  
・この授業は、グローバル化をもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題の要因を、近代西欧由来の社会的・経済的諸制度およびその背後にある諸思想の中に探求する役割を担います。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	スコットランド啓蒙とその歴史的背景について標準的な解釈を理解し、それを口頭ないし文章で表現できる。
2	ヒュームの生涯と思想について標準的な解釈を理解し、それを口頭ないし文章で表現できる。
3	社会と経済をめぐるヒュームの思想の歴史的内容と意義についての専門的な論争状況を知り、それを自分自身の言葉で説明し、考察を加えることができる。
4	彼の思想が現代社会に対して有する問題性についての専門的な論争状況を知り、それを自分自身の言葉で説明し、考察を加えることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、上述のように、スコットランド啓蒙思想およびデイヴィッド・ヒュームの社会経済思想について、標準的な理解を確認した上で、専門的な論争状況を把握し、それに独自に考察を加えられるようになることを目指します。そのために、それぞれに関する標準的な解説書、学会誌の研究動向、さらに専門論文および専門書を学生が読解した上で、教員からのコメントおよび質疑を行う形で授業を進めていきます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・テキストの読解と報告資料の作成(週に4時間程度)

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の目的・概要の説明。参加者の希望に応じた内容の調整。リーディング・リストの配布。
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第2回	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(1)
授業概要	字部レベルの教科書(宇野重規『西洋政治思想史』等)、専門分野の事典(『イギリス哲学・思想事典』等)の読解
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第3回	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(2)
授業概要	英語圏での基本文献の読解(Very Short Introduction, Oxford DNB等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第4回	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(3)
授業概要	英語圏での基本文献の読解(Very Short Introduction, Oxford DNB等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第5回	スコットランド啓蒙とヒュームについての通説的理解の把握(4)
授業概要	英語圏での基本文献の読解(Very Short Introduction, Oxford DNB等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第6回	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(1)
授業概要	より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第7回	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(2)
授業概要	より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第8回	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(3)
授業概要	より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)

授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第9回	ヒュームをめぐる専門的な論争状況について(4)
授業概要	より専門的な文献の読解を通じて(『ヒューム読本』、Cambridge Companion to Hume等)
授業時間外の学習	自身で選択した論点についての専門書・専門論文の検索・入手・読解・発表準備
■第10回	ヒュームの現代的意義と問題性(1)
授業概要	教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論
授業時間外の学習	自身で選択した論点についての専門書・専門論文の検索・入手・読解・発表準備
■第11回	ヒュームの現代的意義と問題性(2)
授業概要	教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論
授業時間外の学習	自身で選択した論点についての専門書・専門論文の検索・入手・読解・発表準備
■第12回	ヒュームの現代的意義と問題性(3)
授業概要	教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論
授業時間外の学習	自身で選択した論点についての専門書・専門論文の検索・入手・読解・発表準備
■第13回	ヒュームの現代的意義と問題性(4)
授業概要	教員の助言で参加者が選択した専門書・専門論文を読解。ヒュームの意義と問題性を議論
授業時間外の学習	期末レポート課題(スコットランド啓蒙とヒュームについての標準的理解、専門的な論争状況、現代的な意義と問題性について論述)に取り組み、アウトラインを作成。
■第14回	全体の振り返り: 期末レポートの準備
授業概要	これまでの読解内容を振り返り、期末レポートのアウトラインを発表、教員と議論を行う。
授業時間外の学習	教員との議論に基づきアウトラインを修正、発展させ、期末レポートの草稿を執筆。
■第15回	期末レポートのテュートリアル
授業概要	草稿について発表し、教員から質問・コメント。
授業時間外の学習	コメントに基づき草稿をブラッシュアップし、期末レポートとして提出する。
■第16回	予備日。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋社会経済思想史演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

具体的な教科書・参考書は授業参加者と調整。現時点で予定している文献は以下の通り。

- ・Brodie, Alexander (ed.) 2019. *The Cambridge Companion to the Scottish Enlightenment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- ・中才敏郎編(2005)『ヒューム読本』法政大学出版局。
- ・日本イギリス哲学会編(2007)『イギリス哲学・思想事典』研究社。
- ・Norton, David Fate and Jacqueline Taylor (eds.) 2007. *The Cambridge Companion to Hume: second edition*. Cambridge: Cambridge University Press.
- ・*Oxford Dictionary of National Biography*. Oxford: Oxford University Press.
- ・Robertson, John. 2015. *The Enlightenment: A Very Short Introduction*. Oxford: Oxford University Press.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績

優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。  
 ・到達目標1・2については主に担当時の発表および期末レポートにて、また到達目標3・4については主に議論への貢献と期末レポートにて評価する。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
西洋社会経済思想史演習	Social and Economic History of Thought (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81556321	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

デイヴィッド・ヒュームの社会経済思想の精読と考察: 近世西欧における社会経済思想史の一環として

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

David Hume on Society and Political Economy

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	非公開 Closed	naohito.mori@kochi-u.ac.jp 公開 Open

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜4限(14:50-16:30)

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟5階543室)

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、「西洋社会経済思想史特論」における特定の思潮／思想家に関する通説的理解と専門的な議論の状況の把握を前提として、その思潮／思想家に関する古典的テキストを精読し、その思想内容について考察・議論します。そのため、学生には前提として「西洋経済社会思想史特論」の履修を求めます。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

この授業の内容は、「西洋社会経済思想史特論」での授業内容に応じて議論の対象に調整を加えます。以下の授業計画では、「デイヴィッド・ヒューム」を対象として議論を行う場合の授業モデルを提示しており、実際の授業内容は受講生の希望に応じて変更する可能性があることをお断りいたします。

キーワード【KEYWORD】

社会思想史、近代、西欧、スコットランド、18世紀、ヒューム



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・この授業では、スコットランド啓蒙の主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの諸著作を読解することにより、彼の社会・経済思想の歴史的 content と意義、そして現代に至る問題性について議論し、一定の理解を得ることを目指します。  
・この授業は、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題の要因を、近代西欧由来の社会的・経済的諸制度およびその背後にある諸思想の中に探求する役割を担います。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	ヒューム『道徳・政治・文学論集』(翻訳)を精読し、標準的理解および専門的な論争状況を踏まえつつ、その内容を自分自身で解釈し表現できる。
2	ヒューム『道徳・政治・文学論集』から、少なくとも原書一章を抜粋して読解し、標準的理解および専門的な論争状況を踏まえつつ、その内容を自分自身で解釈し表現できる。
3	ヒューム『イングランド史』から、少なくとも原書一章を抜粋して読解し、標準的理解および専門的な論争状況を踏まえつつ、その内容を自分自身で解釈し表現できる。
4	以上を踏まえて、専門的な論点に対応した形で古典テキストを読解し、一定の独自性を持った解釈を提示することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、上述のように、「西洋社会経済思想史特論」の内容を踏まえつつ、ヒューム自身の諸著作を自分自身で読解し、専門的な論点について一定の独自性を持った解釈を提示することを目指します。そのために、ヒュームの諸著作の精読、その内容についての教員との議論、関連する専門文献の検索・入手・読解を、教員の助言のもと、学生自身が進めてゆきます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・ヒュームの諸著作の読解と発表準備  
・それに関わる専門文献の検索・入手・読解

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の目的・概要の説明。参加者の希望に応じた内容の調整。リーディング・リストの配布。
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■ 第2回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(1)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して読解と議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■ 第3回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(2)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して読解と議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■ 第4回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(3)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して読解と議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■ 第5回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(4)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して読解と議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■ 第6回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(5)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して読解と議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■ 第7回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』の読解と議論(6)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して読解と議論
授業時間外の学習	次回に向けて、ここまでの振り返りと論点の整理
■ 第8回	中間考察: テキストの何に注目してどこを掘り下げるか

授業概要	これまでの読解と議論に基づき、ヒュームのテキストの特にどのような内容について考察を進めるか検討。次回以降のテキストを選択。
授業時間外の学習	選択したテキストの読解、担当者は要点と論点の発表準備
■第9回	<i>Essays Moral, Political, and Literary</i> の読解と議論(1)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して精読と議論
授業時間外の学習	選択したテキストの読解、担当者は要点と論点の発表準備
■第10回	<i>Essays Moral, Political, and Literary</i> の読解と議論(2)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して精読と議論
授業時間外の学習	選択したテキストの読解、担当者は要点と論点の発表準備
■第11回	<i>Essays Moral, Political, and Literary</i> の読解と議論(3)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選択。
授業時間外の学習	選択したテキストの読解、担当者は要点と論点の発表準備
■第12回	<i>History of England</i> の読解と議論(1)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選択。
授業時間外の学習	選択したテキストの読解、担当者は要点と論点の発表準備
■第13回	<i>History of England</i> の読解と議論(2)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選択。
授業時間外の学習	選択したテキストの読解、担当者は要点と論点の発表準備
■第14回	<i>History of England</i> の読解と議論(3)
授業概要	標記テキストから特定の章を選択して精読と議論。読解した章に対応する次回以降のテキストの選択。
授業時間外の学習	期末レポート(テキスト読解に基づく一定の独自性を持った解釈の提示)のアウトライン作成
■第15回	期末レポートのアウトライン発表とコメント
授業概要	期末レポートのアウトラインを発表し、教員からコメントを受ける。
授業時間外の学習	コメントに応じてアウトラインを発展させ、期末レポートを作成・提出。
■第16回	予備日。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

西洋社会経済思想史特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

現時点で予定しているテキストは、  
 ・ヒューム、デイヴィッド、田中敏弘訳(2011)『ヒューム 道徳・政治・文学論集』名古屋大学出版会。  
 ・Hume, David. 1983. *The History of England from the Invasion of Julius Caesar to the Revolution in 1688*. Foreword by William B. Todd, 6 vols. (Indianapolis: Liberty Fund 1983).  
 ・Hume, David. Eugene F. Millar (ed.) 1985. *Essays, Moral, Political, and Literary*. Indianapolis: Liberty Fund.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績

良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。  
 ・到達目標1・2・3については主に担当時の発表および期末レポートにて、また到達目標4については主に議論への貢献と期末レポートにて評価する。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
市民社会論特論	History of Civil Society (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81551471	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

スコットランド啓蒙と市民社会: デイヴィッド・ヒュームの道徳哲学と歴史叙述を題材として

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

The Scottish Enlightenment and Civil Society: Rethinking Hume's Moral Philosophy and Historiography

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	非公開 Closed	naohito.mori@kochi-u.ac.jp 公開 Open

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜4限

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟5階543室); 新型コロナ 感染拡大状況においてはTeams上

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、参加学生の研究関心に応じ、市民社会をめぐる「西洋」の思想伝統の中から特定の思潮または思想家を対象として選択し、その対象についての学術文献の講読を行います。講読においては、学術文献読解のスキルを学びつつ、対象についての通説的理解と専門的な研究状況の把握を行います。学生には、この授業の前提として人文社会科学部授業科目「近代社会論」「社会思想史」に相当する基礎知識と、概説的文献から専門論文まで読み進める意欲および読解力が必要となります。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

上述の通り、この授業では学生の研究関心に応じて授業の内容および議論の対象に調整を加えます。以下の授業計画では、「スコットランド啓蒙」および「デイヴィッド・ヒューム」を対象として議論を行う場合の授業モデルを提示しており、実際の授業内容は受講生の希望に応じて変更する可能性があることをお断りいたします。

キーワード【KEYWORD】

市民社会論、近代、西欧、スコットランド、18世紀、啓蒙、ヒューム

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・社会思想史分野の学術文献読解の基本的なスキルを実践し、習得すること
  - ・「市民社会」の思想伝統においても重要な転換点となったスコットランド啓蒙思想について概説的な理解を得ること
  - ・特にその 主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの市民社会に関わる思想をめぐる論争状況について、一定の理解を得ること
  - ・以上の理解について、自分自身の文章で表現できること
- \*この授業は、グローバル化のもとたらず社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題を考えるための一つの準拠枠として、西洋における市民社会の思想伝統の意義と問題性を探求する役割を担います。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	・社会思想史分野の学術文献読解の基本的なスキルを活用できる
2	「市民社会」の思想伝統においても重要な転換点となったスコットランド啓蒙思想について概説的な理解を得ている
3	その 主要人物であるデイヴィッド・ヒュームの市民社会に関わる思想をめぐる論争状況について、一定の理解を得ている
4	以上の理解について、自分自身の文章で表現できる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、上述のように、スコットランド啓蒙思想およびヒュームの思想のうち、市民社会の思想伝統に関わる部分について、標準的な理解を確認した上で、専門的な論争状況を把握し、それを自分自身で表現できるようになることを目指します。そのために、標準的な解説書および専門書を学生が読解した上で、教員からのコメントおよび質疑を行う形で授業を進めていきます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

解説書の読解、その内容についての発表準備、読解と議論の内容の記録、専門書の読解、その発表準備、および記録、学期末のレポート作成。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の目的・概要の説明。参加者の希望に応じた内容の調整。リーディング・リストの配布。
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第2回	スコットランド啓蒙、市民社会、ヒュームについての概説的理解の把握(1)
授業概要	英語圏の哲学事典・伝記事典等による概要把握
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第3回	スコットランド啓蒙、市民社会、ヒュームについての概説的理解の把握(2)
授業概要	英語圏の哲学事典・伝記事典等による概要把握
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第4回	スコットランド啓蒙とヒュームをめぐる専門的な論争状況について(1)
授業概要	より専門的な文献の読解(Cambridge Companion to Hume, to the Scottish Enlightenment等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第5回	スコットランド啓蒙とヒュームをめぐる専門的な論争状況について(2)
授業概要	より専門的な文献の読解(Cambridge Companion to Hume, to the Scottish Enlightenment等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第6回	スコットランド啓蒙とヒュームをめぐる専門的な論争状況について(3)
授業概要	より専門的な文献の読解(Cambridge Companion to Hume, to the Scottish Enlightenment等)
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第7回	ヒュームに関する最新の知見の検討(1)
授業概要	最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, The Persistence of Party等)
授業時間外の学習	指定された文献(またはその訳文)の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第8回	ヒュームに関する最新の知見の検討(2)

授業概要	最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, <i>The Persistence of Party</i> 等)
授業時間外の学習	指定された文献(またはその訳文)の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第9回	ヒュームに関する最新の知見の検討(3)
授業概要	最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, <i>The Persistence of Party</i> 等)
授業時間外の学習	指定された文献(またはその訳文)の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第10回	ヒュームに関する最新の知見の検討(4)
授業概要	最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, <i>The Persistence of Party</i> 等)
授業時間外の学習	指定された文献(またはその訳文)の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第11回	ヒュームに関する最新の知見の検討(5)
授業概要	最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, <i>The Persistence of Party</i> 等)
授業時間外の学習	指定された文献(またはその訳文)の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第12回	ヒュームに関する最新の知見の検討(6)
授業概要	最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, <i>The Persistence of Party</i> 等)
授業時間外の学習	指定された文献(またはその訳文)の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第13回	ヒュームに関する最新の知見の検討(7)
授業概要	最新の研究の読解と検討(Max Skjönsberg, <i>The Persistence of Party</i> 等)
授業時間外の学習	指定された文献(またはその訳文)の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第14回	全体のまとめと期末課題の説明
授業概要	この学期に読解した内容を振り返り、全体としてどう把握すべきか議論。期末レポートの説明
授業時間外の学習	期末レポートの作成
■第15回	期末レポートのテュートリアル
授業概要	草稿について、教員から質問・コメント
授業時間外の学習	コメントに基づき期末レポートをブラッシュアップ
■第16回	試験は実施せず、期末レポートを課す。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

市民社会論演習
---------

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<p>具体的な教科書・参考書は授業参加者と調整。現時点で予定している文献は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Broadie, Alexander (ed.) 2019. <i>The Cambridge Companion to the Scottish Enlightenment</i>. Cambridge: Cambridge University Press.</li> <li>・Harris, James A. 2015. <i>Hume: An Intellectual Biography</i>. Oxford: Oxford University Press.</li> <li>・Norton, David Fate and Jacqueline Taylor (eds.) 2007. <i>The Cambridge Companion to Hume: second edition</i>. Cambridge: Cambridge University Press.</li> <li>・<i>Oxford Dictionary of National Biography</i>. Oxford: Oxford University Press.</li> <li>・Robertson, John. 2015. <i>The Enlightenment: A Very Short Introduction</i>. Oxford: Oxford University Press.</li> <li>・Skjönsberg, Max. 2021. <i>The Persistence of Party: Ideas of Harmonious Discord in Eighteenth-Century Britain</i>. Cambridge: Cambridge University Press.</li> </ul>
---

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績

優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。・到達目標1・2・3については主に担当時の発表および議論への貢献にて、また到達目標4については主に議論への貢献と期末レポートにて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

<b>授業題目【Course Title】</b>	<b>英文科目名</b>
市民社会論演習	History of Civil Society (Seminar)
<b>申請コード【Course Code】</b>	<b>単位数【Course Credits(Units)】</b>
12F08	2
<b>授業種別【Course Classification】</b>	<b>履修開始年次</b>
演習	1
<b>履修期間【Semester】</b>	<b>時間割【Day/Period】</b>
第2学期	
<b>区分等</b>	
平成27年度以降	
大学院科目	
<b>ナンバリングコード1</b>	<b>ナンバリングコード2</b>
81556421	
<b>履修における注意点</b>	
<b>資格等</b>	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

### 副題【SUBHEADING】

#### 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

スコットランド啓蒙と市民社会: ヒュームおよび同時代の思想家のテキストの読解から

#### 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

The Scottish Enlightenment and Civil Society: Reading Hume and his Contemporary Thinkers

### 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	森 直人	人文社会科学部	非公開 Closed	naohito.mori@kochi-u.ac.jp 公開 Open

### オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜4限

### 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文社会科学部棟5階543室); 新型コロナ 感染拡大状況においてはTeams上

### 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

この授業では、「市民社会論特論」における特定の思潮/思想家に関する通説的理解と専門的な議論の状況の把握を前提として、その思潮/思想家に関連する古典的テキストを精読し、その思想内容について考察・議論します。そのため、学生には前提として「市民社会論特論」の履修が必須となります。

### 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

この授業の内容は、同じ年に開講する「市民社会論特論」での授業内容に応じて議論の対象に調整を加えます。以下の授業計画では、「デイヴィッド・ヒューム」を対象として議論を行う場合の授業モデルを提示しており、実際の授業内容は受講生の希望に応じて変更する可能性があることをお断りいたします。

### キーワード【KEYWORD】

社会思想史、近代、西欧、スコットランド、18世紀、ヒューム



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ヒュームのテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察する
  - ・ヒュームと同時代の論者のテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察する
  - ・以上の考察を踏まえ、ヒュームおよび同時代の論者のテキストについての自身の見解を提示する
  - ・研究状況と自身の見解を文章で論理的に表現する
- \*この授業は、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属し、それら諸問題を考えるための一つの準拠枠として、西洋における市民社会の思想伝統の意義と問題性を探求する役割を担います。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	・ヒュームのテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察できる
2	・ヒュームと同時代の論者のテキストを読解し、専門的な研究状況を踏まえて考察できる
3	・以上の考察を踏まえ、ヒュームおよび同時代の論者のテキストについての自身の見解を提示できる
4	・先行研究と自身の見解を文章で論理的に表現できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、上述のように、「市民社会論特論」の内容を踏まえつつ、ヒューム自身および同時代の論者の諸著作を自分自身で読解し、専門的な論点について一定の独自性を持った解釈を提示することを目指します。そのために、ヒュームおよび同時代の論者の諸著作の精読、その内容についての教員との議論、関連する専門文献の検索・入手・読解を、教員の助言のもと、学生自身が進めてゆきます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・ヒュームの諸著作の読解と発表準備
- ・同時代の論者の著作の読解と発表準備
- ・それに関わる専門文献の読解等(市民社会論特論で扱った文献を含む)

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の目的・概要の説明。参加者の希望に応じた内容の調整。リーディング・リストの配布。
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第2回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(1)
授業概要	標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第3回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(2)
授業概要	標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第4回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(3)
授業概要	標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第5回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(4)
授業概要	標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第6回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(5)
授業概要	標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第7回	ヒューム『道徳・政治・文学論集』および原典Essays, Moral, Political and Literaryの読解(6)
授業概要	標記テキストから、政治社会Civil Societyに関わる特定の章を選択し、日英双方のテキストを読解・議論
授業時間外の学習	指定された文献の読解、担当者は要点と論点の発表準備。
■第8回	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, <i>Political Writings</i> )(1)

授業概要	Bolingbroke, <i>Political Writings</i> の読解
授業時間外の学習	標記テキストから、いずれかの論説を選択し、読解・議論
■第9回	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, <i>Political Writings</i> ) (2)
授業概要	Bolingbroke, <i>Political Writings</i> の読解
授業時間外の学習	標記テキストから、いずれかの論説を選択し、読解・議論
■第10回	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, <i>Political Writings</i> ) (3)
授業概要	Bolingbroke, <i>Political Writings</i> の読解
授業時間外の学習	標記テキストから、いずれかの論説を選択し、読解・議論
■第11回	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, <i>Political Writings</i> ) (4)
授業概要	Bolingbroke, <i>Political Writings</i> の読解
授業時間外の学習	標記テキストから、いずれかの論説を選択し、読解・議論
■第12回	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, <i>Political Writings</i> ) (5)
授業概要	Bolingbroke, <i>Political Writings</i> の読解
授業時間外の学習	標記テキストから、いずれかの論説を選択し、読解・議論
■第13回	同時代の重要著作の読解(例: Bolingbroke, <i>Political Writings</i> ) (6)
授業概要	Bolingbroke, <i>Political Writings</i> の読解
授業時間外の学習	標記テキストから、いずれかの論説を選択し、読解・議論
■第14回	全体のまとめと期末課題の説明
授業概要	この学期に読解した内容を振り返り、全体としてどう把握すべきか議論。期末レポートの説明
授業時間外の学習	期末レポートの作成
■第15回	期末レポートのチュートリアル
授業概要	草稿について、教員から質問・コメント
授業時間外の学習	コメントに基づき期末レポートをブラッシュアップ
■第16回	試験は実施せず、期末レポートを課す。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

市民社会論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

\* 市民社会論特論の文献に加えて、以下の通り。

- ・Hume, David. 1985. *Essays, Moral, Political, and Literary*. Eugene F. Miller (ed.). Indianapolis: Liberty Fund. [デイヴィッド・ヒューム、田中敏弘訳。2011. ヒューム 道徳・政治・文学論集[完訳版]. 名古屋大学出版会。
- ・Bolingbroke. 1997. *Political Writings*. David Armitage (ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

・成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の発表30%、毎回の議論への貢献30%、期末レポート40%にて評価する。  
 ・到達目標1・2・3については主に担当時の発表および議論への貢献にて、また到達目標4については主に期末レポートにて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国経済発展論特論	Chinese Economic Development (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81553371	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

リーマン・ショック前後の中国経済

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	佐野 健太郎	人文社会科学部	0888448248 公開 Open	sanok@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日6時限目

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5階佐野健太郎研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日常的に、中国経済関連の新聞記事やインターネットの情報に目を通しておいください。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

リーマン・ショック、中国経済、金融政策。

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

本授業のテーマは、学部専門科目である中国経済社会論の内容を金融政策の側面から掘り下げ、再検討するというものである。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	リーマン・ショックが中国経済に及ぼした影響について説明できるようになる。
2	中国政府がリーマン・ショック後に行った景気対策について説明できるようになる。
3	中国政府が行った景気対策の経済効果について説明できるようになる。
4	中国政府が行った景気対策と金融政策の関連について説明できるようになる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、リーマン・ショックが中国経済に及ぼした影響すなわち対米輸出不振から生じた工場の閉鎖と大量の失業に対して、中国政府が行った景気対策が金融政策とどのように連動していたのかを明らかにする。なお上記の作業を行う際には、住宅建設、自動車製造、家電製品製造といった実体経済に金融政策がどのような効果をあげていたのかについて検討する予定。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

日常的に、中国経済関連の新聞記事やインターネットの情報に目を通しておいてください。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	授業の概要に関する説明。受講者とどのようなテキストを使用するか相談します。
■第2回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第3回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第4回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第5回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第6回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第7回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第8回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第9回	

授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第10回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第11回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第12回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第13回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第14回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第15回	
授業概要	受講者各自報告。
授業時間外の学習	報告資料の作成。
■第16回	
授業概要	総括レポートの作成と提出。
授業時間外の学習	レポート作成。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

玉置・山沢著、中国の金融はこれからどうなるのか、東洋経済新報社、2005年、みずほ総合研究所編著、中国発世界連鎖不況、日本経済新聞出版社、2016年など。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
----	-------	--

授業での報告30%、討論などによる授業への参加態度30%、期末レポート40%の総合的評価。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国経済発展論演習	Chinese Economic Development (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81558321	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

リーマン・ショック前後の中国経済

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	佐野 健太郎	人文社会科学部	0888448248 公開 Open	sanok@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日6時限目。要予約。

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5階佐野健太郎研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

日常的に、中国経済関連の新聞記事やインターネットの情報目を通しておいください。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

リーマン・ショック、中国経済、マクロ経済政策。

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



本授業では、リーマン・ショックが中国経済に及ぼした影響について、マクロ経済学の基本ツール(平均消費性向、乗数、投入産出分析など)を用いながら、検討する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	リーマン・ショックが中国経済に及ぼした影響について、マクロ経済学の観点から説明できるようになる。
2	中国政府がリーマン・ショック後に行った景気対策について、マクロ経済学の観点から説明できるようになる。
3	中国政府が行った景気対策の経済効果について説明できるようになる。
4	中国政府が行った景気対策と金融政策の関連について、マクロ経済学の観点から説明できるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、リーマン・ショックが中国経済に及ぼした影響について、マクロ経済学の観点から説明してゆく。その際、中国政府が行った財政金融政策がどのように連動していたのかについて検討する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

日常的に、中国経済関連の新聞記事やインターネットの情報に目を通しておいてください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	授業の概要に関する説明。受講者とどのようなテキストを使用するか相談します。
■第2回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第3回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第4回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第5回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第6回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第7回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第8回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第9回	

授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第10回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読
■第11回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第12回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第13回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第14回	
授業概要	輪読、報告、討論。
授業時間外の学習	テキストの精読。
■第15回	
授業概要	受講者の発表。
授業時間外の学習	報告資料の作成。
■第16回	
授業概要	レポートの作成と提出。
授業時間外の学習	レポートの作成。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

中国経済発展論特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

みずほ総合研究所編著、中国発世界連鎖不況、日本経済新聞出版社、2016年、伊藤元重、入門経済学、日本評論社、2005年、三土修平、基礎経済学、1992年など。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
----	-------	--

授業での報告30%、討論などによる授業への参加態度30%、期末レポート40%の総合的評価。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国経済社会論特論	Chinese Economy and Society (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81553471	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

リーマン・ショック前後の中国経済

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	佐野 健太郎	人文社会科学部	088-844-8248 公開 Open	sanok@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日6時限目

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5階佐野健太郎研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

リーマン・ショック前後の中国経済を勉強しておくこと。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

中国経済、実質金利、マクロ経済学。

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

マクロ経済学で学んだ基礎知識を用いて、リーマン・ショック前後の中国経済について分析する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	マクロ経済学の経済成長理論を1つ以上説明できる。
2	中国の景気対策について3つ以上説明できる。
3	中国の産業企業について3社以上説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

リーマン・ショック前後の中国経済に関するテキストや参考書を参考にして、週4時間程度の予習と復習を行なってください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	オリエンテーションと履修申請
■第2回 授業概要	国内総生産
■第3回 授業概要	有効需要と畳数理論
■第4回 授業概要	市場メカニズムの理解
■第5回 授業概要	リーマン・ショックと中国経済総論
■第6回 授業概要	景気対策の経済効果(1)総論
■第7回 授業概要	景気対策の経済効果(2)住宅建設
■第8回 授業概要	景気対策の経済効果(3)家電製品購入費補助
■第9回 授業概要	景気対策の経済効果(4)自動車購入費補助
■第10回 授業概要	物価(消費者物価指数上昇率)の騰落
■第11回 授業概要	住宅価格の騰落
■第12回 授業概要	実質金利の読み方
■第13回	

授業概要	中国人民銀行の金融政策
■第14回	
授業概要	景気対策と不動産開発
■第15回	
授業概要	景気対策と雇用の創出
■第16回	
授業概要	景気対策と過剰生産

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

(必携)伊藤元重、入門経済学、日本評論社、2005年。

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

レポート課題60%、報告などの授業への参加態度40%、で評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
中国経済社会論演習	Chinese Economy and Society (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81558421	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

中国景気対策の経済効果

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	佐野 健太郎	人文社会科学部	088-844-8248 公開 Open	sanok@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日6時限目

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5階佐野健太郎研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

リーマン・ショックと中国経済の関連についてあらかじめ勉強しておいてください。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

中国経済、景気対策、経済効果、産業連関表。

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

産業連関表を用いて、中国の景気対策の経済効果を算出する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	産業連関表を説明できる。
2	中国の景気対策を説明できる。
3	中国の景気対策の経済効果を算出できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

産業連関表の入門書を参考にしつつ、週4時間程度の予習復習をしておいてください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回 授業概要	オリエンテーションと履修申請
■第2回 授業概要	国内総生産
■第3回 授業概要	マクロ経済学とミクロ経済学
■第4回 授業概要	有効需要と乗数メカニズム
■第5回 授業概要	産業連関表の概要
■第6回 授業概要	取引基本表
■第7回 授業概要	投入係数表
■第8回 授業概要	逆行列係数表
■第9回 授業概要	中国景気対策の経済効果(総論)
■第10回 授業概要	中国の住宅販売の経済効果
■第11回 授業概要	中国の自動車販売の経済効果
■第12回 授業概要	中国の家電販売の経済効果
■第13回	



授業概要	中国への政府開発援助の経済効果
■第14回	
授業概要	中国人訪日観光客消費の経済効果
■第15回	
授業概要	中国インフラ投資の経済効果

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

(必携)三土修平、基礎経済学、日本評論社、1992年。
-----------------------------

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

レポート課題60%、報告などの授業への参加態度40%で評価します。
-----------------------------------

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アジア経済社会論特論	Asian Economy and Society (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81553271	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化とアジア経済の批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・アジアと日本の社会情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

アジア経済、グローバル化、社会変化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化とアジア地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。  
 ・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	アジア経済の構造変動について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	アジア経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	アジア経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	アジア経済の現状や研究動向についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、グローバル化の下でのアジア経済をめぐる最新のトピックならびに理論動向について、最近の日本語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
 なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入れたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■ 第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第9回	文献2冊目の検討

授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

アジア経済社会論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

マーティン・ハート＝ランズバーク(岩佐和幸監訳)『資本主義的グローバリゼーション—影響・抵抗・オルタナティブ—』高  
管出版、2015年  
末廣昭『新興アジア経済論—キャッチアップを超えて—』岩波書店、2014年  
平川均ほか『新・アジア経済論』文真堂、2016年  
藤田和子・文 京洙『新自由主義下のアジア』ミネルヴァ書房、2016年

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。  
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
アジア経済社会論演習	Asian Economy and Society (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81515121	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化とアジア経済の批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスパワー【OFFICE HOURS】

木曜4限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・アジアと日本の社会情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

アジア経済、グローバル化、社会変化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化とアジア地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。  
 ・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	アジア経済の構造変動を深く理解することができる。 アジア経済の構造変動について、これまで理解していることをもとに、新たに理解したことを説明できる。
2	アジア経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	アジア経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向を意欲的に摂取することができる。 アジア経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	アジア経済の現状や研究動向についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、グローバル化の下でのアジア経済をめぐる最新のトピックならびに理論動向について、英語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
 なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入れたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。海外の文献収集についてのアドバイス。
■ 第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第9回	文献2冊目の検討

授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Intan Suwandi, Value Chains: The New Economic Imperialism, Monthly Review Press, 2019.  
Jennifer Bair, Frontiers of Commodity Chains Research, Stanford University Press, 2009.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績



不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
<p>・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。</p> <p>・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。</p>		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
グローバル経済論特論 I	Global Economy (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81553171	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル経済の影響に関する批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・世界情勢とその中での日本の情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

グローバル化、社会経済変化

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化と各国・地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。  
・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	グローバル経済の動向について、これまでの理解内容をベースにしなが、新たに理解したことを説明できる。
2	グローバル経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	グローバル経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向について、1つ以上説明できる。
4	グローバル経済の現状や研究動向についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、経済のグローバル化に関する最新のトピックならびに理論動向について、最近の日本語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入れたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

グローバル経済論演習 I

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

マーティン・ハート＝ランズバーク(岩佐和幸監訳)『資本主義的グローバリゼーションー影響・抵抗・オルタナティブー』高菅出版、2015年  
 サスキア・サッセン(伊藤茂訳)『グローバル資本主義と〈放逐〉の論理』明石書店、2017年  
 冬木勝仁・岩佐和幸・関根佳恵編『アグリビジネスと現代社会』筑波書房、2021年

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績

良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。  
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
グローバル経済論演習 I	Global Economy (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81558121	
履修における注意点	
資格等	
教免—中学校(社会)専修、教免—高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル経済の影響に関する批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 和幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟4F 岩佐(和)研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・世界情勢とその中での日本の情勢を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・政治経済学の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

グローバル化、社会経済変化

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業のテーマは、政治経済学の分析視角を用いてグローバル化と各国・地域の構造変動を理解するとともに、研究動向を批判的に捉えながら自らの研究に活かすことにある。  
・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化のもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	グローバル経済の構造変動について、これまで理解していることをベースに、新たに理解したことを説明できる。
2	グローバル経済に関する研究動向を自らの立場から批判的に考察することができる。
3	グローバル経済の歴史・現状やそれに関する最新の研究動向を意欲的に摂取し、その内容を1つ以上説明できる。
4	グローバル経済の現状や研究動向についての自らの立場を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、グローバル経済に関する最新のトピックならびに理論動向について、英語文献を素材に政治経済学の視角から検討する。あわせて、輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
なお、毎年参加者が多様であることから、関心・進捗度に応じて、それにふさわしいテキストを選択することも考慮に入れたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。海外の文献収集についてのアドバイス。
授業時間外の学習	特になし
■ 第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Intan Suwandi, Value Chains: The New Economic Imperialism, Monthly Review Press, 2019.  
Naomi Klein, On Fire: The Burning Case for a Green New Deal, Penguin, 2020.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績



可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。  
 ・到達目標①～③は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ラテンアメリカ経済社会論特論	Latin American Economy and Society (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81552171	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化下のラテンアメリカ経済の構造変化とその批判的考察

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

中西研究室(人文社会科学部棟4階)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・新聞報道、ニュースなどを通じて、ラテンアメリカに関する情報を日々、積極的に収集すること。
- ・世界史、南北アメリカ関係に関する基礎的知識が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ラテンアメリカ経済、ラテンアメリカ社会、グローバル化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業の目的は、グローバル化の進行とともにラテンアメリカ経済に生じた構造変化を理解し、それを批判的に考察することができるようになることである。  
 ・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	グローバル化とラテンアメリカ経済の構造変化・現状について説明することができる。
2	ラテンアメリカ経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる。
3	グローバル化、ラテンアメリカ経済の現状を批判的に考察することができる。
4	グローバル化やラテンアメリカ経済について、理論と実証に裏付けられた自らの言葉で表現することができ、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

グローバル化とラテンアメリカ経済を分析している文献・論文を輪読する。  
 各受講生は報告担当箇所のリジュメを用意し、それをもとにした他の受講生とのディスカッションを中心に授業を進める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関連する資料の収集。  
 ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明、輪読する文献および報告担当者の決定。
■第2回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第3回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第4回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第5回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第6回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第7回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第8回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第9回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション

授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第10回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第11回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第12回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第13回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第14回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第15回	授業の総括
授業概要	受講生による総括、レポートについてのアナウンス
授業時間外の学習	総括資料の作成とレポート執筆関連資料の収集
■第16回	レポートの提出
授業概要	レポートの提出
授業時間外の学習	レポート作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ラテンアメリカ経済社会論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。  
参考書は授業中に随時紹介する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・報告担当時の準備状況と報告内容(30%)、ディスカッションへの参加態度(30%)、レポート(40%)、合計100%で評価する。
- ・到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ラテンアメリカ経済社会論演習	Latin American Economy and Society (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81557121	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化下のラテンアメリカ経済の構造変化とその批判的考察

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

中西研究室(人文社会科学部棟4階)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・新聞報道、ニュースなどを通じて、ラテンアメリカに関する情報を日々、積極的に収集すること。
- ・世界史、南北アメリカ関係に関する基礎的知識が必要。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ラテンアメリカ経済、ラテンアメリカ社会、グローバル化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業の目的は、グローバル化の進行とともにラテンアメリカ経済に生じた構造変化を理解し、それを批判的に考察することができるようになることである。  
 ・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸門団を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	グローバル化とラテンアメリカ経済の構造変化、現状について説明することができる。
2	ラテンアメリカ経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる。
3	グローバル化、ラテンアメリカ経済の現状を批判的に考察することができる。
4	グローバル化やラテンアメリカ経済について、理論と実証に裏付けられた自らの言葉で表現することができ、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

・日本語文献に限らず、英語文献(や可能であればスペイン語文献)にも候補を広げ、グローバル化とラテンアメリカ経済を分析している文献・論文を輪読する。  
 ・各受講生は報告担当箇所のレジュメを用意し、それをもとにした他の受講生とのディスカッションを中心に授業を進める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関連する資料収集。  
 ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明、輪読する文献および報告担当者の決定。
■第2回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第3回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第4回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第5回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第6回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第7回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第8回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第9回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション

授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第10回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第11回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第12回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第13回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第14回	文献の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成 その他の受講生:テキストの精読と論点整理
■第15回	授業の総括
授業概要	受講生による総括、レポートについてのアナウンス
授業時間外の学習	総括資料の作成とレポート執筆関連資料の収集
■第16回	レポートの提出
授業概要	レポートの提出
授業時間外の学習	レポート作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ラテンアメリカ経済社会論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。  
参考書は授業中に随時紹介する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績



- ・報告担当時の準備状況と報告内容(30%)、ディスカッションへの参加態度(30%)、レポート(40%)、合計100%で評価する。
- ・到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
グローバル経済論特論Ⅱ	Global Economy (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F19	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81552271	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化を推進する理論と構造変化に対する批判的考察

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

中西研究室(人文社会科学部棟4階、403)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校で世界史を履修した者。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

グローバル化、新自由主義

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業の目的は、現在あるグローバリゼーションを推進する理論と、その結果生じた構造変化を批判的に考察することができるようになることである。  
・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸問題を研究する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	グローバル化の現状について説明することができる。
2	世界経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる
3	グローバル化した経済の現状を批判的に考察することができる。
4	グローバル化について、理論と実証に裏付けられた自らの言葉で表現することができ、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

グローバル化した世界経済について分析している文献・論文を精読する。  
受講生は報告担当箇所のレジュメを用意し、それをもとにしたディスカッションを中心に授業を進める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明、精読する文献および報告担当者の決定
■第2回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第3回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第4回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第5回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第6回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第7回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第8回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理

■第9回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第10回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第11回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第12回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第13回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第14回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第15回	授業の総括	
授業概要	受講生による総括、レポートについてのアナウンス	
授業時間外の学習	総括資料の作成とレポート執筆関連資料の収集とレポート執筆	
■第16回	レポート提出	
授業概要	レポート提出	
評価のスケジュール	レポート評価	

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

グローバル経済論演習II

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。  
参考書は授業中に随時紹介する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・報告担当時の準備状況と報告内容(30%)、ディスカッションへの参加態度(30%)、レポート(40%)、合計100%で評価する。  
 ・到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
グローバル経済論演習Ⅱ	Global Economy (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F20	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81557221	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

グローバル化を推進する理論と構造変化に対する批判的考察

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中西 三紀	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

中西研究室(人文社会科学部棟4階、403)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

高校で世界史を履修した者。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

グローバル化、新自由主義

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業の目的は、現在あるグローバリゼーションを推進する理論と、その結果生じた構造変化を批判的に考察することが着ようになることである。  
・なお、この授業は、グローバル社会研究コースの中で、グローバル化がもたらす社会的・文化的諸問題を検討する「比較社会文化領域」に属する科目である。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	グローバル化の現状について説明することができる。
2	世界経済の構造変化に関する研究動向を説明することができる。
3	グローバル化した世界の現状を批判的に考察することができる。
4	グローバル化について、理論と実証に裏付けられた自らの言葉で表現することができ、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

グローバル化した世界経済について分析している文献・論文を精読する。  
受講生は担当報告箇所のレジュメを用意し、それをもとにしたディスカッションを中心に授業を進める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成、および授業内容と報告に関する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の授業時間外学習を必要とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明、精読する文献および報告担当者の決定
■第2回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第3回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第4回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第5回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第6回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第7回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第8回	文献の検討
授業概要	精読、報告とディスカッション
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成      その他受講生:テキストの精読と論点整理

■第9回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第10回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第11回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第12回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第13回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第14回	文献の検討	
授業概要	精読、報告とディスカッション	
授業時間外の学習	報告担当者:報告資料の作成	その他受講生:テキストの精読と論点整理
■第15回	授業の総括	
授業概要	受講生による総括、レポートについてのアナウンス	
授業時間外の学習	総括資料の作成とレポート執筆関連資料の収集	
■第16回	レポート提出	
授業概要	レポート提出	
評価のスケジュール	レポート評価	
授業時間外の学習	レポート作成	

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

グローバル経済論特論II

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

教科書は特に指定しない。初回授業時に受講生と相談のうえ決定する。  
参考書は授業中に随時紹介する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績



可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・報告担当時の準備状況と報告内容(30%)、ディスカッションへの参加態度(30%)、レポート(40%)、合計100%で評価する。  
 ・到達目標1～3は報告内容、ディスカッションへの参加態度、提出されたレポートで判断する。到達目標4はディスカッションへの参加態度から判断する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
文化人類学特論	Anthropology (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81550171	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ジェームズ・スコット『反穀物の人類史』を読む

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・国家という概念についての基礎的な知識を有していること。
- ・文化人類学、社会学、地域研究についての基礎的な知識を有していると望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

- ・育児休暇の取得を含む育児の関係で授業スケジュール等がイレギュラーになる可能性があります。

## キーワード【KEYWORD】

ジェームズ・スコット、国家、歴史

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・「国家」の成立についての標準的な歴史を説明できる。
- ・スコットが描く「国家」についてのオルタナティブな歴史を説明できる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	人類の「穀物栽培」についての通説的な歴史を説明できる。
2	「穀物栽培→定住→国家の成立」という通説的な歴史を説明できる。□
3	スコットが指摘する「初期国家の農業生態系」について説明できる。
4	スコットが指摘する「初期国家の脆弱性」について説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、ジェームズ・スコット『反穀物の人類史』を読みます。  
 ジェームズ・スコットは、政治学および人類学を専門とし、東南アジアをフィールドとしながら、独特の国家論を展開してきた。その特徴の一つは、「支配する側」ではなく「支配される側」とされてきた農民などの日常的な実践に注目しながら、通説として人口に膾炙している「国家」の諸言説を相対化し、そこからオルタナティブな国家の歴史を描くことである。『反穀物の人類史』は、通説とされてきた「人類は農耕を発明し、そのことで定住が起こり、そこから国家が形成された」という国家誕生の歴史を、さまざまな観点から相対化している。この授業では、本書の講読とディスカッションを通じて、通説としての国家の歴史を相対化することを試みます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストおよび関連文献を読む。
- ・テキストに登場する地名や人名、概念等について調べる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	イントロダクション
授業概要	授業の進め方について説明する。
授業時間外の学習	「はじめに」および「序章」を読んでおくこと。
■ 第2回	『反穀物の人類史』を読む(1)
授業概要	『反穀物の人類史』第1章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■ 第3回	『反穀物の人類史』を読む(2)
授業概要	『反穀物の人類史』第1章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■ 第4回	『反穀物の人類史』を読む(3)
授業概要	『反穀物の人類史』第2章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■ 第5回	『反穀物の人類史』を読む(4)
授業概要	『反穀物の人類史』第2章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■ 第6回	『反穀物の人類史』を読む(5)
授業概要	『反穀物の人類史』第3章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■ 第7回	『反穀物の人類史』を読む(6)
授業概要	『反穀物の人類史』第3章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■ 第8回	『反穀物の人類史』を読む(7)

授業概要	『反穀物の人類史』第4章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第9回	『反穀物の人類史』を読む(8)
授業概要	『反穀物の人類史』第4章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第10回	『反穀物の人類史』を読む(9)
授業概要	『反穀物の人類史』第5章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第11回	『反穀物の人類史』を読む(10)
授業概要	『反穀物の人類史』第5章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第12回	『反穀物の人類史』を読む(11)
授業概要	『反穀物の人類史』第6章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第13回	『反穀物の人類史』を読む(12)
授業概要	『反穀物の人類史』第6章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第14回	『反穀物の人類史』を読む(13)
授業概要	『反穀物の人類史』第7章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第15回	『反穀物の人類史』を読む(14)
授業概要	『反穀物の人類史』第7章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第16回	プレゼンテーションとまとめ
授業概要	授業について学びをもとにプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学習	プレゼンテーションの準備をすすめること。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<p>【必携】</p> <p>スコット、ジェームズ『反穀物の人類史——国家誕生のディープヒストリー』(立木勝訳、みすず書房、2019年)</p> <p>【参考書】</p> <p>スコット、ジェームズ『モラル・エコノミー——東南アジアの農民叛乱と生存維持』(高橋彰、勁草書房、1999年)</p> <p>スコット、ジェームズ『ゾミア——脱国家の世界史』(佐藤仁監訳、みすず書房、2013年)</p> <p>スコット、ジェームズ『実践 日々のアナキズム——世界に抗う土着の秩序の作り方』(清水展ほか訳、岩波書店、2017年)</p>
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績

優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

到達目標1～4について、授業におけるディスカッション(70点)および期末プレゼンテーション(30点)を総合して評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
文化人類学演習	Anthropology (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81555121	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(地理歴史)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

ジェームズ・スコット『ゾミア』を読む

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・国家という概念についての基礎的な知識を有していること。
- ・文化人類学、社会学、地域研究についての基礎的な知識を有していると望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

- ・育児休暇の取得を含む育児の関係で授業スケジュール等がイレギュラーになる可能性があります。

## キーワード【KEYWORD】

ジェームズ・スコット、ゾミア、東南アジア

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・東南アジアの「国家と山地民」の関係についての標準的な歴史を説明できる。
- ・スコットが描く「国家形成から逃れた人々の歴史」について説明できる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	東南アジアにおける国家形成についての通説的な歴史を説明できる。
2	東南アジアの山地民の社会と文化の基礎的な特徴について説明できる。□
3	スコットが指摘する「ゾミア」という概念について説明できる。
4	スコットが指摘する「国家形成から逃れた人々の生存戦略」について説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、ジェームズ・スコット『ゾミア』を読みます。  
 ジェームズ・スコットは、政治学および人類学を専門とし、東南アジアをフィールドとしながら、独特の国家論を展開してきた。その特徴の一つは、「支配する側」ではなく「支配される側」とされてきた農民などの日常的な実践に注目しながら、通説として人口に膾炙している「国家」の諸言説を相対化し、そこからオルタナティブな国家の歴史を描くことである。『ゾミア』は、通説に対して、東南アジア産地部に暮らす山地民は、国家への編入を回避し、自分たちの社会の内部から国家が生まれてこないように生きている「国家による束縛から逃れた人々」として捉え、その生存戦略についてさまざまな点から描き出している。この授業では、本書の講読とディスカッションを通じて、「国家形成から逃れた人々の歴史」について学ぶことを試みます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストおよび関連文献を読む。
- ・テキストに登場する地名や人名、概念等について調べる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業の進め方について説明する。
授業時間外の学習	「はじめに」を読んでおくこと。
■第2回	『ゾミア』を読む(1)
授業概要	『ゾミア』第1章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第3回	『ゾミア』を読む(2)
授業概要	『ゾミア』第1章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第4回	『ゾミア』を読む(3)
授業概要	『ゾミア』第2章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第5回	『ゾミア』を読む(4)
授業概要	『ゾミア』第2章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第6回	『ゾミア』を読む(5)
授業概要	『ゾミア』第3章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第7回	『ゾミア』を読む(6)
授業概要	『ゾミア』第3章についてディスカッションを行う。

授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第8回	『ゾミア』を読む(7)
授業概要	『ゾミア』第4、5章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第9回	『ゾミア』を読む(8)
授業概要	『ゾミア』第4、5章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第10回	『ゾミア』を読む(9)
授業概要	『ゾミア』第6章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第11回	『ゾミア』を読む(10)
授業概要	『ゾミア』第6章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第12回	『ゾミア』を読む(11)
授業概要	『ゾミア』第7、8章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第13回	『ゾミア』を読む(12)
授業概要	『ゾミア』第7、8章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第14回	『ゾミア』を読む(13)
授業概要	『ゾミア』第9章を読む。
授業時間外の学習	テキストを読み、関連する概念等について調べておくこと。
■第15回	『ゾミア』を読む(14)
授業概要	『ゾミア』第9章についてディスカッションを行う。
授業時間外の学習	ディスカッション・ペーパーを作成しておくこと。
■第16回	プレゼンテーションとまとめ
授業概要	授業について学びをもとにプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学習	プレゼンテーションの準備をすすめること。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<p>【必携】</p> <p>スコット、ジェームズ『ゾミア——脱国家の世界史』(佐藤仁監訳、みすず書房、2013年)</p> <p>【参考書】</p> <p>スコット、ジェームズ『モラル・エコノミー——東南アジアの農民叛乱と生存維持』(高橋彰、勁草書房、1999年)</p> <p>スコット、ジェームズ『実践 日々のアナキズム——世界に抗う土着の秩序の作り方』(清水展ほか訳、岩波書店、2017年)</p> <p>スコット、ジェームズ『反穀物の人類史——国家誕生のディープヒストリー』(立木勝訳、みすず書房、2019年)</p>
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
----	----	----



秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方が理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

到達目標1～4について、授業におけるディスカッション(70点)および期末プレゼンテーション(30点)を総合して評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
応用倫理学特論	Applied Ethics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81550271	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

人間非中心主義的な倫理学(1)——動物から考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)  
ただし、面談は基本的にMicrosoft Teamsを用いてオンラインで行う予定です。

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・倫理学の専門的な知識は求めませんが、基礎的なことについては事前に学習しておくことを強く求めます。
- ・基礎的なアカデミック・スキルズ(レジュメの作成、文献や資料の収集、口頭発表、レポートの執筆等)を身につけていることを強く求めます。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

- ・授業は基本的にMicrosoft Teamsを用いてオンラインで実施する予定です。

## キーワード【KEYWORD】

倫理学、動物、人間中心主義、人間非中心主義

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- 1) 動物から倫理を考える。
- 2) 人間非中心主義的な倫理学について考える。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	倫理学の基本的な考え方を説明できる。
2	動物をめぐるどのような倫理的議論が展開されているのかを説明できる。
3	従来の倫理学と、動物から倫理学を考えることの違いについて説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、「人間非中心主義」の立場から倫理学を学び、再考することを試みます。近年、人文学・社会科学の諸分野において、人間中心主義的な前提を問い直す試みが盛んに行われています。たとえば文化人類学では、人間だけでなく他の動植物も含めて異種間の創発的な出会いやかかわり合いに注目する「マルチスピーシーズ民族誌」というアプローチが展開されています。この授業では、倫理学における脱・人間中心主義のチャレンジに注目してみたいと思います。具体的には、動物という存在に注目する倫理学の議論を取り上げ、動物を含めて倫理学を構想することで、従来の倫理学のあり方を改めて捉え、その人間中心主義的な前提では十分に議論できなかった課題に取り組むことのできる「人間非中心主義の倫理学」について考えます。授業は「演習」形式で行います。具体的には、授業までにテキストを読み、各自ディスカッションペーパーを作成します。授業では、ディスカッションペーパーを共有し、そこで示された論点について議論します。なお、授業は基本的にTeamsを使ってオンラインで実施する予定です。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストをしっかりと読み、ディスカッションペーパーを作成すること。
- ・参考書をはじめ、授業のテーマに関連する論文等を積極的に読むこと。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	イントロダクション(1)
授業概要	授業の進め方について説明する。
授業時間外の学習	倫理学の基本について調べておく。
■ 第2回	イントロダクション(2)
授業概要	倫理学という学問領域の基本について講義する。
授業時間外の学習	テキスト序章をよみ、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■ 第3回	テキスト講読(1)
授業概要	テキスト序章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第1章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■ 第4回	テキスト講読(2)
授業概要	テキスト第1章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第2章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■ 第5回	テキスト講読(3)
授業概要	テキスト第2章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第3章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■ 第6回	テキスト講読(4)
授業概要	テキスト第3章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第4章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■ 第7回	テキスト講読(5)
授業概要	テキスト第4章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト序章～第4章の内容についてプレゼンテーションの準備をする。
■ 第8回	プレゼンテーション(1)

授業概要	テキスト序章～第4章の内容についてプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学習	テキスト第5章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第9回	テキスト講読(6)
授業概要	テキスト第5章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第6章を読み、ディカッション・ペーパーを作成する。
■第10回	テキスト講読(7)
授業概要	テキスト第6章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第7章を読み、ディカッション・ペーパーを作成する。
■第11回	テキスト講読(8)
授業概要	テキスト第7章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト終章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。□
■第12回	テキスト講読(9)
授業概要	テキスト終章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第5章～終章の内容についてプレゼンテーションの準備を行う。□
■第13回	プレゼンテーション(2)
授業概要	テキスト第5章～終章の内容についてプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学習	期末プレゼンテーションの準備を進める。□
■第14回	まとめ:あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(1)
授業概要	「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。
授業時間外の学習	期末プレゼンテーションの準備を進める。
■第15回	まとめ:あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(2)
授業概要	「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。
授業時間外の学習	期末プレゼンテーションの準備を進める。
■第16回	期末プレゼンテーション
授業概要	「人間以外から倫理学する」というアプローチについてプレゼンテーションをする。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<p>【必携】 伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』(名古屋大学出版会、2008年)</p> <p>【参考書】 品川哲彦『倫理学入門』(中央公論社、2020年)</p>
---

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

目標1については、授業第8回のプレゼンテーション(1)によって評価する(25点)。  
 目標2については、授業第13回のプレゼンテーション(2)によって評価する(25点)。  
 目標3については、期末プレゼンテーションによって評価する(50点)。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
応用倫理学演習	Applied Ethics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81555221	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

人間非中心主義的な倫理学(2)——ロボットから考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岩佐 光広	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

水曜日1限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

岩佐光広研究室(人文社会科学部棟4階東側)  
ただし、面談は基本的にMicrosoft Teamsを用いてオンラインで行う予定です。

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・倫理学の専門的な知識は求めませんが、基礎的なことについては事前に学習しておくことを強く求めます。
- ・基礎的なアカデミック・スキルズ(レジュメの作成、文献や資料の収集、口頭発表、レポートの執筆等)を身につけていることを強く求めます。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

- ・授業は基本的にMicrosoft Teamsを用いてオンラインで実施する予定です。

## キーワード【KEYWORD】

倫理学、ロボット、人間中心主義、人間非中心主義

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- 1) ロボットから倫理を考える。
- 2) 人間非中心主義的な倫理学について考える。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	ロボットをめぐりどのような倫理的な議論が行われているのか説明できる。
2	従来の倫理学と、ロボットから倫理学を考えることの違いについて説明できる。
3	人間以外から倫理学をすることの意義について説明できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、「人間非中心主義」の立場から倫理学を学び、再考することを試みます。近年、人文学・社会科学の諸分野において、人間中心主義的な前提を問い直す試みが盛んに行われています。たとえば文化人類学では、人間だけでなく他の動植物も含めて異種間の創発的な出会うかかわりに注目する「マルチスピーシーズ民族誌」というアプローチが展開されています。この授業では、倫理学における脱・人間中心主義のチャレンジに注目してみたいと思います。具体的には、ロボットをめぐり倫理的な議論を取り上げ、ロボットを含めて倫理学を構想することで、従来の倫理学のあり方を改めて捉え、その人間中心主義的な前提では十分に議論できなかった課題に取り組むことのできる「人間非中心主義の倫理学」について考えます。授業は「演習」形式で行います。具体的には、授業までにテキストを読み、各自ディスカッションペーパーを作成します。授業では、ディスカッションペーパーを共有し、そこで示された論点について議論します。なお、授業は基本的にTeamsを使ってオンラインで実施する予定です。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストをしっかりと読み、ディスカッションペーパーを作成すること。
- ・授業のテーマに関連する論文等を積極的に読むこと。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション(1)
授業概要	授業の進め方について説明する。
授業時間外の学習	倫理学の基本について調べておく。
■第2回	イントロダクション(2)
授業概要	倫理学の基本について講義する。
授業時間外の学習	テキストはじめにおよび第1章をよみ、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第3回	テキスト講読(1)
授業概要	テキストはじめにおよび第1章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第2章をよみ、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第4回	テキスト講読(2)
授業概要	テキスト第2章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第3章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第5回	テキスト講読(3)
授業概要	テキスト第3章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第4章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第6回	テキスト講読(4)
授業概要	テキスト第4章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第1章～第4章の内容についてプレゼンテーションの準備をする。
■第7回	プレゼンテーション(1)
授業概要	テキスト第1章～第4章の内容についてプレゼンテーションをする。
授業時間外の学習	テキスト第5章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第8回	テキスト講読(5)

授業概要	テキスト第5章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第6章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第9回	テキスト講読(6)
授業概要	テキスト第6章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第7章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第10回	テキスト講読(7)
授業概要	テキスト第7章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第8章を読み、ディスカッション・ペーパーを作成する。
■第11回	テキスト講読(8)
授業概要	テキスト第8章の内容について議論する。
授業時間外の学習	テキスト第5章～第8章の内容についてのプレゼンテーションの準備をする。
■第12回	プレゼンテーション(2)
授業概要	テキスト第5章～第8章の内容についてプレゼンテーションをする。
授業時間外の学習	期末プレゼンテーションの準備を進める。
■第13回	あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(1)
授業概要	テキストの内容を踏まえ「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。
授業時間外の学習	期末プレゼンテーションの準備を進める。
■第14回	あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(2)
授業概要	テキストの内容を踏まえ「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。
授業時間外の学習	期末プレゼンテーションの準備を進める。
■第15回	あらためて「人間以外から倫理学する」というアプローチについて考える(3)
授業概要	テキストの内容を踏まえ「人間以外から倫理学する」というアプローチについて議論する。
授業時間外の学習	期末プレゼンテーションの準備を進める。
■第16回	期末プレゼンテーション
授業概要	「人間以外から倫理学する」というアプローチについてプレゼンテーションをする。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<p>【必携】 久木田水生・神埼宣次・佐々木拓『ロボットからの倫理学入門』(名古屋大学出版会、2017年)</p> <p>【参考書】 品川哲彦『倫理学入門』(中央公論社、2020年)</p>
---

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績



可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

目標1については、授業第7回のプレゼンテーション(1)によって評価する(25点)。  
目標2については、授業第12回のプレゼンテーション(2)によって評価する(25点)。  
目標3については、期末プレゼンテーションによって評価する(50点)。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
社会情報論特論	Socio-Informatics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F29	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81550371	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

情報メディアと社会的ネットワーク

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Information Media and Social Networks

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5F 遠山研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・情報とメディアに関する基礎知識を修得していること。
- ・メディアと社会・人間との関係性に関心を持っていること。
- ・メディア・テクノロジーと社会との関連性について、日々情報収集に努めていること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

情報、メディア、テクノロジー、社会ネットワーク、社会学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業の主題は、メディアテクノロジーによる社会的影響について、社会ネットワーク論的視点から考察することである。特にデジタルメディアの普及がもたらす社会変容について、グローバル、ナショナル、ローカル、個人的な社会圏といった様々な視点から批判的に考察し、自らの研究へ活かすことを目指す。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	メディアについて基本的知識を説明できる
2	社会的ネットワークの社会的影響について、基本的内容を説明できる
3	デジタルメディアと社会ネットワークとの関連性について批判的に考察できる。
4	最新テクノロジーが構築する社会像や日常生活への浸透について、他者と議論できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、主にメディア論と社会ネットワーク論に関わる文献の精読を通じて、これまでのメディアによる社会的影響や、社会的ネットワークの個人や集団、あるいは社会への影響に関する基本概念や理論を理解した上で、最新テクノロジーが構築する社会像や日常生活への浸透について、受講生間で議論しつつ、未来のメディア社会を批判的に検討する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・課題資料の精読と報告資料の作成。
- ・テーマに関連する資料収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要説明。報告担当割り振り。文献収集に関するアドバイス。
授業時間外の学習	関連資料の収集。
■第2回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第3回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第4回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第5回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第6回	文献2の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第7回	文献2の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第8回	文献2の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第9回	文献2の批判的検討

授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第10回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第11回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第12回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第13回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第14回	総括レポートの作成について
授業概要	総括レポートの作成に関する説明
授業時間外の学習	総括レポートの作成
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

社会情報論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

M.マクルーハン著、栗原裕・河本仲聖訳(1987)『メディア論：人間の拡張の諸相』みすず書房  
 ポール レヴィンソン著、服部桂訳(2000)『デジタル・マクルーハン—情報の千年紀へ』NTT出版  
 野沢慎司編・監訳(2006)『リーディングス ネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房  
 ニコラス・A・クリスタキス／ジェイムズ・H・ファウラー著、鬼澤忍訳(2010)『つながり：社会的ネットワークの驚くべき力』講談社  
 シェリー・タークル著、渡会圭子訳(2018)『つながっているのに孤独：人生を豊かにするはずのインターネットの正体』ダイヤモンド社

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

<https://moodle.kochi-u.ac.jp/>

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

高知大学moodle

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・授業における報告内容(担当分)40%、授業への積極的参加40%、期末レポート20%を総合的に評価する  
 ・到達目標の①～③は、授業における報告内容、および、授業への積極的参加により確認する。到達目標④については、授業への積極的参加、および、期末レポートにより確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
社会情報論演習	Socio-Informatics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F30	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81555321	
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会情報研究の方法論

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Methodologies for Socio-Informatics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟5F 遠山研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・情報とメディアに関する基礎知識を修得していること。
- ・メディアと社会・人間との関係性に関心を持っていること。
- ・メディア・テクノロジーと社会との関連性について、日々情報収集に努めていること。
- ・社会情報研究の方法論に関心を持っていること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

社会情報論、情報、メディア、テクノロジー、社会調査

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

本授業の主題は、社会情報研究の方法論について理解を深め、自らの研究へ応用できるようになることである。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	メディアテクノロジーの社会的影響について、基本的な内容を説明できる
2	社会情報研究の方法について、1つ以上説明できる
3	社会情報研究アプローチの適切な選択について批判的に考察できる
4	自らの研究テーマ下で、社会情報研究の研究計画を企画・立案できる

### 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業は社会情報研究の方法論に関する最近の動向について文献を通じて学ぶことを目的としている。社会情報研究の方法論について批判的に考察すると同時に、最終的には自らの研究テーマ下において適切なアプローチを選択し、研究計画の立案を構想してもらう。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・社会調査の企画・実践のほとんどは授業時間外の作業となる。
- ・総括レポートの執筆は、授業時間外の作業となる。
- ・テーマに関連する資料収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要説明。報告担当割り振り。文献収集に関するアドバイス。
■第2回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第3回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第4回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第5回	文献1の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献1の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第6回	文献2の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第7回	文献2の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第8回	文献2の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。

■第9回	文献2の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第10回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献2の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第11回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第12回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第13回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第14回	文献3の批判的検討
授業概要	輪読・報告・議論
授業時間外の学習	文献3の精読と報告資料の作成。関連資料収集。
■第15回	総括
授業概要	研究計画について各自発表
授業時間外の学習	研究計画の立案
■第16回	総括レポート(研究計画書)の作成・提出
授業概要	総括レポート(研究計画書)の作成・提出
授業時間外の学習	総括レポートの作成・提出

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

社会情報論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

木村忠正(2018)『ハイブリッド・エスノグラフィー:NC研究の質的方法と実践』新曜社  
 マシュー・J.サルガニック著、瀧川裕貴・常松淳・阪本拓人・大林真也訳(2019)『ビット・バイ・ビット:デジタル社会調査入門』有斐閣  
 ダニエル・リフ／スティーヴン・レイシー／フレデリク・フィコ著、日野愛郎監訳(2018)『内容分析の進め方:メディア・メッセージを読み解く』勁草書房  
 西垣通(2004)『基礎情報学:生命から社会へ』NTT出版

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

<https://moodle.kochi-u.ac.jp/>

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

高知大学moodle

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績



可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・授業における報告内容(担当分)40%、授業への積極的参加40%、期末レポート20%を総合的に評価する  
 ・到達目標の①～③は、授業における報告内容、および、授業への積極的参加により確認する。到達目標④については、授業への積極的参加、および、期末レポートにより確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
現代メディア論特論	Contemporary Media (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81550471	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

メディア論の基礎

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Fundamentals of Media Theory

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 遠山研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

メディアへの関心  
社会学もしくは社会科学の基礎知識

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

メディア史、マスメディア、デジタルメディア、ソーシャルメディア、社会学

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

### 【主題】

本授業では、「メディア」の社会学の視点から、基礎文献の輪読を通じて、メディア研究の基礎を修得し、応用することができるを目指す。

### 【目的】

- ・メディア研究の基礎的な理論について説明できる
- ・メディア理論を通じて社会現象を理解することができる
- ・メディア理論を関連づけて自らの研究テーマを構想することができる

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	メディア研究の基礎的な理論について説明できる(「知識・理解」)
2	メディア理論を通じて社会現象を理解することができる(「思考・判断」)
3	メディア理論を関連づけて自らの研究テーマを構想することができる(「関心・意欲」)

## 授業全体の概要【SUMMARY】

メディア・テクノロジーの登場・普及・発展は、近代以降の社会を大きく変容してきた。本授業は、社会科学の立場から、各種メディアの登場とその影響について、主だった文献を中心に考えていく。

前半はメディア史の視点から、近代以降の社会におけるメディアの生成・普及とその影響について検討する。特にアナログメディアの発展と社会変容との関連に着目し、マスメディア論やマクルーハンやキットラーなどのメディア論について扱う。後半はデジタルメディアの登場からインターネットが普及した現在におけるメディア状況について検討する。デジタルメディアの基礎となる基礎情報学や、インターネット普及後のソーシャルメディアに関わる内容について扱う。基本的には、各回のテーマに沿った文献を輪読した上でディスカッションを行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

基本的に、各講義内容の予習・復習は授業時間外学習とする。  
授業における発表・報告の準備も授業外学習で対応するものとする。  
レポート執筆も授業外学習で対応するものとする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	ガイダンス
授業時間外の学習	次回の予習
■ 第2回	
授業概要	マスメディアの理論(1)弾丸理論・皮下注射理論
授業時間外の学習	次回の予習
■ 第3回	
授業概要	マスメディアの理論(2)限定効果論
授業時間外の学習	次回の予習
■ 第4回	
授業概要	マスメディアの理論(3)強力効果論
評価のスケジュール	中間レポート(1)
授業時間外の学習	中間レポート(1)の執筆
■ 第5回	
授業概要	メディアとテクノロジー(1):マクルーハンの理論1
授業時間外の学習	次回の予習
■ 第6回	
授業概要	メディアとテクノロジー(2):マクルーハンの理論2
授業時間外の学習	次回の予習
■ 第7回	
授業概要	メディアとテクノロジー(3):キットラーの理論

評価のスケジュール	中間レポート(2)
授業時間外の学習	中間レポート(2)の執筆
■第8回	
授業概要	デジタルメディアの理論(1)基礎情報学1:西垣(2004, 2008)
授業時間外の学習	次回の予習
■第9回	
授業概要	デジタルメディアの理論(2)基礎情報学2:西垣(2004, 2008)
授業時間外の学習	次回の予習
■第10回	
授業概要	デジタルメディアの理論(2)基礎情報学3:西垣(2004, 2008)
評価のスケジュール	中間レポート(3)
授業時間外の学習	中間レポート(3)の執筆
■第11回	
授業概要	ソーシャルメディアの理論(1)常時接続の生活:ボイド(2014=2014)とターナー(2016=2017)
授業時間外の学習	次回の予習
■第12回	
授業概要	ソーシャルメディアの理論(2)ツイッター研究:北村・佐々木・河井(2016)
授業時間外の学習	次回の予習
■第13回	
授業概要	ソーシャルメディアの理論(3)デモクラシー:サンスティーン(2001=2003)・パリサー(2011=2016)
授業時間外の学習	次回の予習
■第14回	
授業概要	ソーシャルメディアの理論(4)ネットワーク科学:カルダレリ・カンタンツァロ(2012=2014)
評価のスケジュール	中間レポート(4)
授業時間外の学習	プレゼンテーション準備/中間レポート(4)の執筆
■第15回	
授業概要	研究発表
評価のスケジュール	プレゼンテーション

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

現代メディア論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

田崎篤郎・児島和人(1996)『マス・コミュニケーション効果研究の展開[新版]』北樹出版  
マクレーハン, M. (1964=1987)『メディア論』みすず出版  
キットラー, F.A. (1986=1999)『グラモフォン・フィルム・タイプライター』筑摩書房  
西垣通(2004)『基礎情報学』NTT出版  
西垣通(2008)『続 基礎情報学』NTT出版  
ボイド, D. (2014=2014)『つながりっぱなしの日常を生きる』草思社  
タークル, S. (2016=2017)『一緒にいてもスマホ』青土社  
北村智・佐々木裕一・河井大介(2016)『ツイッターの心理学』誠信書房  
サンスティーン, C. (2001=2003)『インターネットは民主主義の敵か』毎日新聞社  
パリサー, E. (2011=2016)『フィルターバブル』早川書房  
カルダレリ, G. & カンタンツァロ, M. (2012=2014)『ネットワーク科学』丸善出版

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

高知大学moodle

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

演習への貢献(20%)、中間レポート(4回)(60%=15%×4回)、プレゼンテーション(20%)を総合的に判断する。到達目標1と2は、演習への貢献と中間レポートで確認する。到達目標3はプレゼンテーションで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
現代メディア論演習	Contemporary Media (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12F32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81555421	
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

メディア調査の実践

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Conducting Media Research

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	遠山 茂樹	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限目(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 遠山研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・メディア論の基礎知識を修得していること
- ・社会調査の基礎を理解していること

※統計に関する基礎知識があると望ましい

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

メディア、社会調査、文献レビュー、メディア論、社会学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

**【主題】**

本授業の主題は、メディア調査の実践である。受講生の関心テーマに沿ってメディア調査をデザインし、試行するまでを目的としている。

**【目的】**

- ・社会学的基礎概念を駆使して、現代メディアに関わる現象を自らの視点から考察できる
- ・メディアと社会との関連性を主題に社会調査研究を実践することができる
- ・社会調査結果を分析し、研究報告として発表することができる

**授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】**

1	社会学的基礎概念を駆使して、現代メディアに関わる現象を自らの視点から考察できる(「思考・判断」)
2	メディアと社会との関連性を主題に社会調査研究を実践することができる(「技能・表現」)
3	社会調査結果を分析し、研究報告として発表することができる(「技能・表現」)

**授業全体の概要【SUMMARY】**

本授業の主題は、メディア調査の実践である。メディアに関わる社会的現実を把握するためには、現実社会を何らかの方法で”切り取る”ことが必要であり、そのために社会調査がおこなわれる。本演習では、受講者の関心テーマの下で、メディア研究に関わる調査法を学び、調査計画から実践までを「試行」したい。

授業では、受講生各自の関心テーマの下で文献レビューをしてもらい、対象テーマにおける研究アプローチを万でもらう。その上で、自らも調査研究を計画し、その一部を実践してもらおう。最終的には実践した社会調査の報告をしてもらう。

**授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】**

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

演習の準備や社会調査実践は授業時間外での取り組みとなる。

**授業計画【LESSON PLAN】**

■ 第1回	
授業概要	ガイダンス
授業時間外の学習	関心テーマの整理
■ 第2回	
授業概要	テーマ設定: 本演習で受講生が取り組む研究領域を設定する
授業時間外の学習	受講生各自のテーマの設定
■ 第3回	
授業概要	文献レビュー1: 各受講生が設定したテーマに即した文献収集を行う
授業時間外の学習	文献の収集
■ 第4回	
授業概要	文献レビュー2: 各受講生が設定したテーマに即した文献収集の継続
授業時間外の学習	文献収集とレビュー作業
■ 第5回	
授業概要	文献レビュー3: 各受講生が設定したテーマに即した文献レビュー
評価のスケジュール	文献レビュー・ペーパー
授業時間外の学習	文献レビュー・ペーパーの作成
■ 第6回	
授業概要	研究アプローチ探求1: 受講生が設定したテーマへのアプローチ方法の検討
授業時間外の学習	文献レビューをもとに、受講生のテーマに適した調査方法の検討
■ 第7回	
授業概要	研究アプローチ探求2: 受講生が設定したテーマへのアプローチ方法の検討継続
授業時間外の学習	絞り込んだ研究アプローチの詳細を調査
■ 第8回	

授業概要	研究アプローチ探求3:受講生が設定したテーマへのアプローチ方法の決定
授業時間外の学習	選定した社会調査方法の具体的な手順の学習
■第9回	
授業概要	研究調査実践1:社会調査の準備
授業時間外の学習	社会調査実践のための準備作業
■第10回	
授業概要	研究調査実践2:社会調査の実践
授業時間外の学習	社会調査の実施
■第11回	
授業概要	研究調査実践3:社会調査のまとめ
授業時間外の学習	社会調査の結果確認
■第12回	
授業概要	分析1:社会調査データの整理・分析
授業時間外の学習	データ分析のための整理および分析実践
■第13回	
授業概要	分析2:社会調査データの整理・分析
授業時間外の学習	データ分析結果の考察
■第14回	
授業概要	研究報告の作成
授業時間外の学習	次回の研究発表のための準備作業
■第15回	
授業概要	研究発表
評価のスケジュール	プレゼンテーション／調査報告書
授業時間外の学習	調査報告書の作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

現代メディア論特講

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

(参考書等)  
 大谷信介ほか編著(2013)『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房  
 小宮あすか・布井雅人(2018)『Excelで今すぐはじめる心理統計:簡単ツールHADで基本を身につける』講談社  
 北澤毅・古閑正義編(2008)『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社  
 浪田陽子・福岡良明編(2012)『はじめてのメディア研究』世界思想社

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

高知大学moodle

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績



可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

演習への貢献(25%)、文献レビュー(25%)、プレゼンテーション(25%)、調査報告書(25%)を総合的に判断する。到達目標1については演習への貢献、および、文献レビューで確認する。到達目標2と3は、プレゼンテーション、および、調査報告書で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ミクロ経済学特論 I	Microeconomics (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J05	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81562171	81582171
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	非公開 Closed	yarai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜1限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部 新井研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

ミクロ経済学IIや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	既存の理論モデルを理解する
2	既存の理論モデルを用いて、自分の興味のある問題を分析するための簡単なモデルを作成することができる
3	作成したモデルの拡張を考えることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

--

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

課題と参考文献を各トピックごとに課す。前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献購読には4～5時間ほどかかると思われます。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	Introduction
■ 第2回	
授業概要	Nash equilibrium
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第3回	
授業概要	Monopoly II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第4回	
授業概要	Monopoly II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第5回	
授業概要	Cournot Competiton I
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第6回	
授業概要	Cournot Competiton II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第7回	
授業概要	Mid-term exam
評価のスケジュール	中間試験
■ 第8回	
授業概要	Monopolistic Competition
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第9回	
授業概要	Hotelling Model I
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第10回	
授業概要	Hotelling Model II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■ 第11回	
授業概要	Salop Model
授業時間外の学習	課題と文献講読

■第12回	
授業概要	Vertical Differentiation
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第13回	
授業概要	M&A I
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第14回	
授業概要	M&A II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第15回	
授業概要	M&A III
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第16回	
授業概要	Final exam
評価のスケジュール	期末試験

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業組織論I,II

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Oz Shy "Industrial Organization: Theory and Applications" The MIT Press, 1996.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

中間試験30%、期末試験30%、課題、レポート40%、合計100%で評価する。到達目標の1については、中間・期末試験や課題で確認する。到達目標2、3については、レポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ミクロ経済学演習 I	Microeconomics (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J06	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81567221	81587121
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	非公開 Closed	yarai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜1限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部 新井研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・ミクロ経済学IIや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する
- ・修士論文の研究計画書を仕上げる

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	既存の研究論文を読み込み、理解する
2	既存の研究論文を理解した後、自分でモデルを作成する
3	作成したモデルを基にして修士論文の骨組みを作る

## 授業全体の概要【SUMMARY】

各人の興味に合わせて先行研究を紹介するので、それを読み込んだ上で報告を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献購読には6時間ほどかかると思われます。また、読み込んだ文献を報告してもらいます。報告用資料の作成には2～3時間ほど要すると思われます。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	イントロダクション
■ 第2回	
授業概要	研究計画書の書き方。問題設定
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■ 第3回	
授業概要	関連文献の報告①
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■ 第4回	
授業概要	関連文献の報告②
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■ 第5回	
授業概要	関連文献の報告③
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■ 第6回	
授業概要	関連文献の報告③
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■ 第7回	
授業概要	研究計画書の中間報告
■ 第8回	
授業概要	関連文献の報告④
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■ 第9回	
授業概要	関連文献の報告⑤
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■ 第10回	

授業概要	関連文献の報告⑥
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第11回	
授業概要	関連文献の報告⑦
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第12回	
授業概要	関連文献の報告⑧
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第13回	
授業概要	関連文献の報告⑨
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第14回	
授業概要	研究計画書最終報告①
授業時間外の学習	報告準備
■第15回	
授業概要	研究計画書最終報告②
授業時間外の学習	報告準備
■第16回	
授業概要	研究計画書最終報告③
授業時間外の学習	報告準備

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ミクロ経済学特論I

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考文献は各々の分析対象に応じて適宜指示する

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方が理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

中間報告30%、期末レポート課題40%、報告30%、合計100%で評価する。到達目標の1については、担当個所の報告内容で確認する。到達目標2、3については、期末レポートで確認する。



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ミクロ経済学特論Ⅱ	Microeconomics (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J07	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81562271	81582271
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	非公開 Closed	yarai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜1限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部 新井研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

ミクロ経済学IIや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	既存の理論モデルを理解する
2	既存の理論モデルを用いて、自分の興味のある問題を分析するための簡単なモデルを作成することができる
3	作成したモデルの拡張を考えることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

課題と参考文献を各トピックごとに課す。前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献の読み込みには4～5時間ほどかかると思われます。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	Introduction
■第2回	
授業概要	Nash equilibrium
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第3回	
授業概要	Monopoly II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第4回	
授業概要	Monopoly II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第5回	
授業概要	Cournot Competiton I
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第6回	
授業概要	Cournot Competiton II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第7回	
授業概要	Mid-term exam
評価のスケジュール	中間試験
■第8回	
授業概要	Monopolistic Competition
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第9回	
授業概要	Hotelling Model I

授業時間外の学習	課題と文献講読
■第10回	
授業概要	Hotelling Model II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第11回	
授業概要	Salop Model
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第12回	
授業概要	Vertical Differentiation
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第13回	
授業概要	M&A I
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第14回	
授業概要	M&A II
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第15回	
授業概要	M&A III
授業時間外の学習	課題と文献講読
■第16回	
授業概要	Final exam
評価のスケジュール	期末試験

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業組織論I,II

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Oz Shy "Industrial Organization: Theory and Applications" The MIT Press, 1996.

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

中間試験30%、期末試験30%、課題、レポート40%、合計100%で評価する。到達目標の1については、中間・期末試験や課題で確認する。到達目標2、3については、レポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
ミクロ経済学演習Ⅱ	Microeconomics (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J08	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81567221	81587221
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

応用ミクロ経済学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Applied Micro Economics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新井 泰弘	人文社会科学部	非公開 Closed	yarai@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜1限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部 新井研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

英語文献の講読を厭わないこと。また、ミクロ経済学の知識と数学的素養(最適化の一階条件、二階条件、ラグランジュ乗数法の理解)が必要となります

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学、産業組織論

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・ミクロ経済学IIや産業組織論等で学んだ基礎知識を用いて様々な事例を分析する
- ・修士論文の研究計画書を仕上げる

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	既存の研究論文を読み込み、理解する
2	既存の研究論文を理解した後、自分でモデルを作成する
3	作成したモデルを基にして修士論文の骨組みを作る

## 授業全体の概要【SUMMARY】

各人の興味に合わせて先行研究を紹介するので、それを読み込んだ上で報告を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

前もって文献を読み込んでおくことを求めます。英語や数学の習熟度に依存しますが、文献の読み込みには6時間ほどかかると思われます。また、読み込んだ文献を報告してもらいます。報告用資料の作成には2～3時間ほど要すると思われます。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	イントロダクション
■第2回	
授業概要	研究計画書の書き方。問題設定
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第3回	
授業概要	関連文献の報告①
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第4回	
授業概要	関連文献の報告②
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第5回	
授業概要	関連文献の報告③
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第6回	
授業概要	関連文献の報告③
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第7回	
授業概要	研究計画書の中間報告
■第8回	
授業概要	関連文献の報告④
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第9回	
授業概要	関連文献の報告⑤
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備

■第10回	
授業概要	関連文献の報告⑥
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第11回	
授業概要	関連文献の報告⑦
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第12回	
授業概要	関連文献の報告⑧
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第13回	
授業概要	関連文献の報告⑨
授業時間外の学習	関連文献の講読、報告準備
■第14回	
授業概要	研究計画書最終報告①
授業時間外の学習	報告準備
■第15回	
授業概要	研究計画書最終報告②
授業時間外の学習	報告準備
■第16回	
授業概要	研究計画書最終報告③
授業時間外の学習	報告準備

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

ミクロ経済学特論I

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考文献は各々の分析対象に応じて適宜指示する

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

中間報告30%、期末レポート課題40%、報告30%、合計100%で評価する。到達目標の1については、担当個所の報告内容で確認する。到達目標2、3については、期末レポートで確認する。



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
金融論特論	Finance and Banking (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81562371	81582371
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代の金融政策

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	非公開 Closed	zhuojj@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限(事前にメールで予約のこと)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階卓研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学, マクロ経済学, 計量経済学の知識を前提とします。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

資本市場の不完全性, 銀行貸出経路, 金融政策の効果波及経路

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

金融論に関わる論文執筆に必要な理論・実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) 金融政策の仕組みを理解する。
- (2) 金融政策の効果波及メカニズムについて基礎的理解を得る。
- (3) 銀行貸出経路の理論を理解する。
- (4) 金融論に関わる論文執筆に必要な実証分析の知識・技術を身につける。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	金融調節の仕組みが説明できる。
2	金融政策の効果波及メカニズムが説明できる。
3	金融政策効果波及経路における銀行貸出の役割を理論モデルに基づき分析できる。
4	金融政策の効果に関する統計的・客観的な分析が行えるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本講義では、金融政策をめぐる最新のトピックならびに理論・実証研究動向について、英語文献を素材に理論経済学の視角から検討します。また、輪読と並行し、受講者自身の研究発表を随時盛り込むことを予定しています。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	ガイダンス
授業概要	授業の概要や学習の進め方などを説明し、報告ローテーションを決定します。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 予備知識で不足している部分を学習しておいてください(約2時間)。
■第2回	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism①
授業概要	作成したレジюмеに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第3回	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism②
授業概要	作成したレジюмеに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第4回	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism③
授業概要	作成したレジюмеに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第5回	Macroeconometric evidence on the transmission mechanism④
授業概要	作成したレジюмеに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第6回	Firm investment and monetary policy transmission①
授業概要	作成したレジюмеに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。

授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第7回	Firm investment and monetary policy transmission②
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第8回	Firm investment and monetary policy transmission③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第9回	Firm investment and monetary policy transmission④
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第10回	Firm investment and monetary policy transmission⑤
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第11回	The role of banks in the transmission①
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第12回	The role of banks in the transmission②
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第13回	The role of banks in the transmission③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第14回	The role of banks in the transmission④
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第15回	The role of banks in the transmission⑤
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:総括レポートを作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第16回	総括レポートの提出
授業概要	総括レポートを提出します。
評価のスケジュール	総括レポートに基づき評価を行います。
授業時間外の学習	予習:特になし。 復習:特になし。

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

金融論演習

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

- ・ Ignazio Angeloni, Anil K. Kashyap and Benoît Mojon. 2003. *Monetary Policy Transmission in the Euro Area*. Cambridge University Press. ISBN: 9780511492372.
- ・ N. Gregory Mankiw. 1994. *Monetary Policy*. University of Chicago Press. ISBN: 9780226503097.

Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・報告内容70%、総括レポート30%、合計100%で評価します。
- ・到達目標①～③は、毎回の報告内容により評価します。到達目標④については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
金融論演習	Finance and Banking (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81567321	81587321
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

実証分析入門

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Introduction to Empirical Analysis

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	非公開 Closed	zhuojj@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限(事前にメールで予約のこと)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階卓研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルの計量経済学の知識は既に習得済みであることを条件とします。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

回帰分析, 操作変数法, 固定効果, パネルデータ

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

金融論に関わる論文執筆に必要な実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) 回帰分析を理解する。
- (2) 操作変数法の考え方を理解する。
- (3) パネル分析について基礎的理解を得る。
- (4) Stataによるプログラミングの基礎を身につける。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	回帰分析の理論が説明できる。
2	操作変数法の使い方を身につける。
3	パネル分析の理論が説明できる。
4	Stataを用いたデータ分析を行えるようになる。
5	経済現象に関する統計的・客観的な分析が行えるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本講義では、テキストの輪読と統計ソフトを用いた実習を行うことにより、統計学的な基礎、回帰分析の基礎知識、Stataによるプログラミングの初歩的な知識などを学び、実証分析を行う上で最低限必要な知識・技能を身につけます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。さらに、Stataによるプログラミングの実習も行ってください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	ガイダンス
授業概要	授業の概要や学習の進め方などを説明します。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:予備知識で不足している部分を学習しておいてください(約2時間)。
■ 第2回	Research Basics
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■ 第3回	Design and Analysis of Experiments①
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■ 第4回	Design and Analysis of Experiments②
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■ 第5回	Regression Details①
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■ 第6回	Regression Details②
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。

評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第7回	Regression Details③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第8回	Regression Details④
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第9回	Instrumental Variables Technique①
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第10回	Instrumental Variables Technique②
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第11回	Instrumental Variables Technique③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第12回	Panel Data Analysis①
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第13回	Panel Data Analysis②
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第14回	Panel Data Analysis③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第15回	Panel Data Analysis④
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:総括レポートを作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第16回	総括レポートの提出
授業概要	総括レポートを提出します。
評価のスケジュール	総括レポートに基づき評価を行います。

金融論特論

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

- Angrist, Joshua D. and Jörn-Steffen Pischke. 2009. *Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist's Companion*. Princeton University Press. ISBN: 9780691120355.
- Alan C. Acock. 2018. *A Gentle Introduction to Stata, Sixth Edition*. Stata Press. ISBN: 9781597182690.

Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- 報告内容70%, 総括レポート30%, 合計100%で評価します。
- 到達目標①～④は、毎回の報告内容により評価します。到達目標⑤については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
国際金融論特論	International Finance (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81562471	81582471
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

貨幣マクロ経済学

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Monetary Economics

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	非公開 Closed	zhuojj@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限(事前にメールで予約のこと)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階卓研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのマクロ経済学の知識、および、初等解析学(微積分)、差分方程式に関する知識を前提とします。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

動学的一般均衡モデル、カリブレーション

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

国際金融論に関わる論文執筆に必要な理論・実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) Real Business Cycleモデルを理解する。
- (2) Money-in-the-Utilityモデルを理解する。
- (3) Cash-in-Advanceモデルを理解する。
- (4) New Keynesianモデルを理解する。
- (5) カリブレーションを修得する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	Real Business Cycleモデルが説明できる。
2	Money-in-the-Utilityモデルが説明できる。
3	Cash-in-Advanceモデルが説明できる。
4	New Keynesianモデルが説明できる。
5	MATLAB、DYNAREを用いたカリブレーション分析を行えるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本講義では、貨幣マクロ経済学に関する教科書を輪読することで、Money-in-the-Utilityモデル、Cash-in-Advanceモデル、New Keynesianモデルなどの動学的一般均衡モデルを学習し、また、動学的最適化問題の解法としてDYNAREなどを用いたカリブレーション分析を取り上げます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。さらに、MATLAB、DYNAREなどによるプログラミングの実習も行ってください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	ガイダンス
授業概要	授業の概要や学習の進め方などを説明し、報告ローテーションを決定します。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:予備知識で不足している部分を学習しておいてください(約2時間)。
■第2回	Ramsey Model
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第3回	Hansen's RBC Model
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第4回	Log-linear Approximation
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第5回	Solving the log-linear model
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。

■第6回	Dynamic Programming
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第7回	Calibration
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第8回	Money-in-the-Utility Function
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第9回	Shopping Time Model
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第10回	Cash-in-Advance Model
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第11回	Cagan Model
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第12回	Lucas Imperfect-Information Model
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第13回	Sticky-Wage MIU Model
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第14回	New Keynesian Model①: Closed Economy
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第15回	New Keynesian Model②: Open Economy
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:総括レポートを作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第16回	総括レポートの提出
授業概要	総括レポートを提出します。

評価のスケジュール	総括レポートに基づき評価を行います。
授業時間外の学習	予習:特になし。 復習:特になし。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

国際金融論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

- Carl E. Walsh. 2017. *Monetary Theory and Policy*, Fourth Edition. MIT Press. ISBN: 9780262035811.
- George McCandless. 2008. *The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models*. Harvard University Press. ISBN 9780674028142.
- Jordi Galí. 2015. *Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle: An Introduction to the New Keynesian Framework and Its Applications*, Second Edition. Princeton University Press. ISBN: 9780691164786.

### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- 報告内容70%、総括レポート30%、合計100%で評価します。
- 到達目標①～④は、毎回の報告内容により評価します。到達目標⑤については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
国際金融論演習	International Finance (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81567421	81587421
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

時系列分析入門

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Introduction to Time Series Analysis

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	卓 涓涓	人文社会科学部	非公開 Closed	zhuojj@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限(事前にメールで予約のこと)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階卓研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルの計量経済学の知識は既に習得済みであることを条件とします。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

単位根、共和分、VARモデル、インパルス応答関数、分散分解

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

国際金融論に関わる論文執筆に必要な実証分析の知識・技術を学びます。

- (1) 定常性を理解する。
- (2) 単位根検定を修得する。
- (3) 共和分分析を修得する。
- (4) Grangerの因果性検定, インパルス応答関数分析および予測誤差の分散分解分析を修得する。
- (5) Stataによるプログラミングの基礎を修得する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	定常性が説明できる。
2	単位根検定を行えるようになる。
3	共和分分析を行えるようになる。
4	Grangerの因果性検定, インパルス応答関数分析および予測誤差の分散分解分析を行えるようになる。
5	Stataを用いた時系列データ分析を行えるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本講義では、テキストの輪読と統計ソフトを用いた実習を行うことにより、時系列分析の基礎、Stataによるプログラミングの知識などを学び、実証分析を行う上で最低限必要な知識・技能を身につけます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

事前学習として、各回のテキストの該当する部分を読み、式の導出過程を含め、予習しておいてください。また、事後学習として、練習問題を解き、授業中に配布する関連文献を読んでください。さらに、Stataによるプログラミングの実習も行ってください。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	ガイダンス
授業概要	授業の概要や学習の進め方などを説明します。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 予備知識で不足している部分を学習しておいてください(約2時間)。
■ 第2回	Basic Concepts in Time Series Analysis①
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■ 第3回	Basic Concepts in Time Series Analysis②
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■ 第4回	Basic Concepts in Time Series Analysis③
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■ 第5回	Basic Concepts in Time Series Analysis④
授業概要	作成したレジュメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習: テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習: 授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。

■第6回	Unit Roots①
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第7回	Unit Roots②
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第8回	Unit Roots③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第9回	Cointegration①
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第10回	Cointegration②
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第11回	Cointegration③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第12回	Vector Autoregression Model①
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第13回	Vector Autoregression Model②
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第14回	Vector Autoregression Model③
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:テキストの該当部分を精読し、報告資料を作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第15回	Vector Autoregression Model④
授業概要	作成したレジメに基づき、報告・討論を行います。
評価のスケジュール	報告内容による評価を行います。
授業時間外の学習	予習:総括レポートを作成してください(約2時間)。 復習:授業内容を復習し、関連資料を整理しておいてください(約2時間)。
■第16回	総括レポートの提出

授業概要	総括レポートを提出します。
評価のスケジュール	総括レポートに基づき評価を行います。
授業時間外の学習	予習: 特になし。 復習: 特になし。

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

国際金融論特論
---------

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<ul style="list-style-type: none"> <li>• G. S. Maddala and In-Moo Kim. 1999. <i>Unit Roots, Cointegration, and Structural Change</i>. Cambridge University Press. ISBN: 9780521587822.</li> <li>• James D. Hamilton. 1994. <i>Time Series Analysis</i>. Princeton University Press. ISBN: 9780691042893.</li> </ul>
---

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・報告内容70%、総括レポート30%、合計100%で評価します。  
 ・到達目標①～④は、毎回の報告内容により評価します。到達目標⑤については、報告内容に加え、総括レポートと合わせて評価します。



## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地方財政特論	Local Public Finance (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81561571	81581571
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代日本の地方財政の現状と課題について考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

1学期:火曜日3限、2学期:火曜日2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文学部棟3F335)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特に求めることはないが、新聞報道・ニュースなどの関連話題について、継続的な関心を持つておくこと。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

地方財政、財政学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- 現代日本の地方財政に関する政策的論点について整理し、理解する。
- 国との財政関係を地方自治体がどのように取り結んでいるのかを検討する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	現代日本の地方財政に関する政策的な論点を説明することができるようになる。
2	日本の自治体財政は、国の地方財政政策にどのように規定されているのかが理解できるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

地方分権改革が日本の政策課題の1つとして据えられてきたが、どのように改革を行うべきかという点において、財政の視点が必要になってくる。本授業では、共通テキストの輪読を通じて、地方財政改革の方向性を考える上での論点を整理し、検討することとする。なお、テキストについては、参加者の関心を踏まえたうえで決定するようにしたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ
■第2回	
授業概要	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り
■第3回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(1)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第4回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第5回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第6回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第7回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(5)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第8回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(6)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第9回	
授業概要	テキスト1冊目に関する総合討論
授業時間外の学習	テキストの復習と関連資料の収集
■第10回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(1)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備

■第11回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第12回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第13回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第14回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(5)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第15回	
授業概要	テキスト2冊目に関する総合討論
授業時間外の学習	テキストの復習と関連資料の収集
■第16回	
授業概要	授業全体の総括討論
授業時間外の学習	各自で報告の用意

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

地方財政演習

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当時の報告内容50%、毎回の議論における参加態度50%の割合で評価する。  
到達目標①、②は、毎回の授業態度の中で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地方財政演習	Local Public Finance (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81566521	81586521
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代日本の地方財政の現状と課題について認識を深める

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

1学期: 火曜日3限、2学期: 火曜日2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文学部棟3F335)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特に求めることはないが、新聞報道・ニュースなどの関連話題について、継続的な関心を持つておくこと。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

地方財政、財政学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

○現代日本の地方財政に関する政策的論点について整理し、議論を通じて理解を深める。  
○国との財政関係を地方自治体がどのように取り結んでいるのかを検討する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	現代日本の地方財政に関する政策的な論点について説明し、他者と議論できるようになる。
2	日本の自治体財政は、国の地方財政政策にどのように規定されているのかについて、具体的な事例をもとに理解できるようになる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

地方分権改革が日本の政策課題の1つとして据えられてきたが、どのように改革を行うべきかという点において、財政の視点が必要になってくる。本授業では、共通テキストの輪読を通じて、地方財政改革の方向性を考える上での論点を整理し、参加者間での議論を通じて深めていくこととする。なお、テキストについては、参加者の関心を踏まえたうえで決定するようにしたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ
■第2回	
授業概要	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り
■第3回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(1)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第4回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第5回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第6回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第7回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(5)
評価のスケジュール	
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第8回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(6)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第9回	
授業概要	テキスト1冊目に関する総合討論
授業時間外の学習	テキストの復習と関連資料の収集
■第10回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(1)

授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第11回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第12回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第13回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第14回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(5)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第15回	
授業概要	テキスト2冊目に関する総合討論
授業時間外の学習	テキストの復習と関連資料の収集
■第16回	
授業概要	授業全体の総括討論
授業時間外の学習	各自で報告の用意

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地方財政特論
--------

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。
------------------------------------

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当時の報告内容50%、毎回の議論における参加態度50%の割合で評価する。  
到達目標①、②は、毎回の授業態度の中で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
比較財政特論	Comparative Public Finance (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J19	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81561671	81581671
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

他国との比較において日本の財政制度の特徴について考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文学部棟3F335)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特になし。積極的な参加態度を期待します。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

財政、国際比較



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・日本の財政制度の概要を理解する
- ・他国との比較において、日本の財政制度の特徴を検討する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	日本の財政制度の概要を理解する
2	他国の財政制度の特徴を理解する
3	他国との比較において、日本の財政制度の特徴がどのあたりにあるか説明できるようになる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本の財政制度の特徴がどのあたりにあるのか、国際比較の観点から検討する。共通テキストの輪読を通じて検討を行うこととするが、比較の観点をどのあたりに置くかについては受講者の関心に合わせて設定することとしたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	イントロダクション: 授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ
■第2回	
授業概要	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第3回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(1)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第4回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第5回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第6回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第7回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(5)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第8回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(6)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第9回	
授業概要	テキスト1冊目に関する総合討論

授業時間外の学習	テキストの復習と関連資料の収集
■第10回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(1)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第11回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第12回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第13回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第14回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(5)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第15回	
授業概要	テキスト2冊目に関する総合討論
評価のスケジュール	テキストの復習と関連資料の収集
■第16回	
授業概要	授業全体の総括討論
評価のスケジュール	各自で報告の用意

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

比較財政演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担當時の報告内容50%、毎回の議論における参加態度50%の割合で評価する。  
到達目標①、②、③は、毎回の授業態度の中で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
比較財政演習	Comparative Public Finance (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J20	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81566621	81586621
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

諸外国の財政制度から学ぶべき点について検討する

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	霜田 博史	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

月曜日3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室(人文学部棟3F335)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

特になし。積極的な参加、発言を期待します。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

外国財政、比較研究

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・諸外国の財政制度について検討する
- ・日本の財政制度を考える上で、参考にできる点がある何かを探る

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	特定の国の財政制度の特徴を理解することができる
2	他国の財政制度について、日本の財政制度との相違を指摘できるようになる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、比較財政特論で検討した内容を踏まえ、特定の外国の財政制度について取り上げ、その特徴について検討する。進め方としては、共通テキストの輪読を通じて、参加者間での議論を通じて深めていくこととする。テキストについては、参加者の関心を踏まえたうえで決定するようにしたい。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

テキストの独習はもちろんのこと、報告の準備が必要になる。おおむね、毎回4時間程度の準備が必要となる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	イントロダクション: 授業のガイダンスとテキスト選定に関する打ち合わせ
■ 第2回	
授業概要	参加者の研究テーマに関する意見交流とテキスト報告の割り振り
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■ 第3回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(1)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■ 第4回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■ 第5回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■ 第6回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■ 第7回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(5)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■ 第8回	
授業概要	テキスト1冊目の検討(6)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■ 第9回	
授業概要	テキスト1冊目に関する総合討論
授業時間外の学習	テキストの復習と関連資料の収集
■ 第10回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(1)

授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第11回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(2)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第12回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(3)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第13回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(4)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第14回	
授業概要	テキスト2冊目の検討(5)
授業時間外の学習	テキストの独習および報告の準備
■第15回	
授業概要	テキスト2冊目に関する総合討論
評価のスケジュール	テキストの復習と関連資料の収集
■第16回	
授業概要	授業全体の総括討論
評価のスケジュール	各自で報告の用意

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

比較財政特論
--------

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参加者と相談のうえ、第1回の授業で決定する。2冊を選び検討する予定。
------------------------------------

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当時の報告内容50%、毎回の議論における参加態度50%の割合で評価する。  
到達目標①、②は、毎回の授業態度の中で評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
社会福祉特論	Social Welfare (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81563171	81583171
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会福祉政策の批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・現代社会における社会経済的問題に関心をもち、広く情報収集に努めていること
- ・日本における福祉政策の基本理念や制度概要を理解していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

福祉政策、社会保障、社会福祉

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



- ・社会福祉の理論と法制度の概要を理解する
- ・理論や法制度の歴史的発展や行財政改革を検討する
- ・福祉サービスの提供体制のあり方を考察し、福祉政策の課題を展望する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	社会福祉の理論と法制度の概要について説明できる
2	理論や法制度の歴史的発展や行財政改革について説明できる
3	福祉サービスの提供体制のあり方や政策課題について考察し、論点を抽出することができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

社会福祉の理論と法制度の概要を理解し、歴史的発展過程、行財政改革、サービス提供体制などについて考察し、福祉政策に関する批判的検討を行う。  
特に、文献精読や資料分析により所学説および諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成
- ・関連文献や資料の収集と読み込み

## 授業計画【LESSON PLAN】

<b>■ 第1回</b>	
授業概要	文献の選定・紹介と報告スケジュールの決定
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第2回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第3回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第4回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第5回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第6回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第7回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など

授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第8回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第9回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第10回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第11回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第12回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第13回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第14回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第15回	
授業概要	期末レポートのテーマと内容
授業時間外の学習	期末レポートの作成
■第16回	
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポート

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③は毎回の授業内で、到達目標③については期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
社会福祉演習	Social Welfare (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81568121	81588121
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会福祉政策の批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・現代社会における社会経済的問題に関心をもち、広く情報収集に努めていること
- ・日本における福祉政策の基本理念や制度概要を理解していること

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

福祉政策、社会保障、社会福祉

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・社会福祉の理論と法制度の概要を理解する
- ・理論や法制度の歴史的発展や行財政改革を検討する
- ・福祉サービスの提供体制のあり方を考察し、福祉政策の課題を展望する
- ・論文執筆に向けた研究計画を作成する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	社会福祉の理論と法制度の概要について説明できる
2	理論や法制度の歴史的発展や行財政改革について説明できる
3	福祉サービスの提供体制のあり方や政策課題について考察し、論点を抽出することができる
4	自らの研究テーマを設定し、研究目的や研究方法を考えることができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

社会福祉の理論と法制度の概要を理解し、歴史的発展過程、行財政改革、サービス提供体制などについて考察し、福祉政策に関する批判的検討を行う。特に、文献精読や資料分析により所学説および諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。  
最終的に、自らの研究テーマを設定し、研究計画を作成する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成
- ・関連文献や資料の収集と読み込み

## 授業計画【LESSON PLAN】

<b>■第1回</b>	
授業概要	文献の選定・紹介と報告スケジュールの決定
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第2回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第3回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
<b>■第4回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第5回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第6回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第7回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など

授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第8回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第9回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第10回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第11回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第12回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第13回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第14回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■第15回	
授業概要	期末レポートのテーマと内容
授業時間外の学習	期末レポートの作成
■第16回	
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポート

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③は毎回の授業内で、到達目標③については期末レポートと合わせて評価する。
- ・到達目標④については期末レポートで評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
社会保障特論	Social Security (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J23	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81563271	81583271
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会保障制度の批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ①現代社会における社会経済的問題に関心を持ち、社会保障の基本理念や制度概要に関する基礎知識をもっていること
- ②研究テーマとして具体的な問題意識・関心を明らかにしておくこと

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

社会保障、福祉政策



## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ① 社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討する
- ② 個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解する
- ③ 社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	社会保障の理論形成や法制度の成立過程について説明できる
2	個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細について説明できる
3	社会保障の制度設計や政策課題について考察し、論点を抽出できる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討し、個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解したうえで、社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する。  
特に文献の精読や資料作成・分析により諸学説及び諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ① テキストの精読と報告資料の作成
- ② 関連文献や資料の収集と読み込み

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	ガイダンス: 文献の選定と報告スケジュールの決定
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■ 第2回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■ 第3回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■ 第4回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■ 第5回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■ 第6回	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
■ 第7回	

授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第8回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第9回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第10回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第11回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第12回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第13回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第14回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第15回</b>	
授業概要	期末レポートのテーマと内容
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	期末レポートの作成
<b>■第16回</b>	
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポート
授業時間外の学習	なし

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

--

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】****Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】****成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～②は毎回の授業内で、到達目標③については毎回の授業内および期末レポートと併せて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
社会保障演習	Social Security (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J24	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81568221	81588221
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

社会保障制度の批判的検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	西島 文香	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

西島研究室(人文社会科学部棟2F東)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ①現代社会における社会経済的問題に関心を持ち、社会保障の基本理念や制度概要に関する基礎知識をもっていること
- ②研究テーマとして具体的な問題意識・関心を明らかにしておくこと

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

社会保障、福祉政策

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ① 社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討する
- ② 個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解する
- ③ 社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	社会保障の理論形成や法制度の成立過程について説明できる
2	個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細について説明できる
3	社会保障の制度設計や政策課題について考察し、論点を抽出できる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

社会保障の理論形成や法制度の成立過程を検討し、個別の社会保障制度の機能や制度設計の詳細を理解したうえで、社会保障の制度設計のあり方や政策課題を考察する。  
特に文献の精読や資料作成・分析により諸学説及び諸外国との比較検討を行い、報告とディスカッションにより理解を深める。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ① テキストの精読と報告資料の作成
- ② 関連文献や資料の収集と読み込み

## 授業計画【LESSON PLAN】

<b>■ 第1回</b>	
授業概要	ガイダンス: 文献の選定と報告スケジュールの決定
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第2回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第3回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第4回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第5回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第6回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■ 第7回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション

評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第8回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第9回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第10回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
担当教員	西島文香
<b>■第11回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第12回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第13回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第14回</b>	
授業概要	文献報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告における理解・表現、ディスカッションにおける課題発見など
授業時間外の学習	文献の精読と報告資料の作成(3時間程度)
<b>■第15回</b>	
授業概要	期末レポートのテーマと内容
評価のスケジュール	なし
授業時間外の学習	期末レポートの作成
<b>■第16回</b>	
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポート
授業時間外の学習	なし

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

使用するテキストは受講者の興味・関心に沿って決定する

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】****Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】****成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・文献報告(理解・表現など)40%、ディスカッション(課題発見など)40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標①～②は毎回の授業内で、到達目標③については毎回の授業内および期末レポートと併せて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域農業特論	Regional Agriculture (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J25	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81564171	81584171
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本農業を経済学的に捉える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	飯國 芳明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室ないし人文学部棟の社会科学コースの演習室(21番)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

ミクロ経済学の基礎を習得していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本農業、経済学、戦後史、食料、農地、環境、ミクロ経済学

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



- ・農業の経済学的考察を学ぶ
- ・日本農業の戦後の展開を理解する
- ・食料及び農村環境の変容と課題を学ぶ

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	農業の実態を史的な過程を通して理解できる能力の形成
2	農業の実態を経済学の枠組みで捉え、考察する力の育成

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、日本農業を次の3つの柱で考察します。すなわち、1)農業の経済学的考察、2)日本農業の戦後史、3)・食料及び農村環境の変容と課題です。1)では、ミクロ経済学の初級レベルの知識を前提にしつつ、農業の特質を考察します。2)では、農地改革に始まる日本の農業の史的な展開を整理し、現在に至る過程と課題をまとめます。3)では農業と食料及び農村環境の関係をミクロ経済学で整理し、今後の課題をまとめます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業のテーマごとに、課題を出して理解を深めます。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	農業をミクロ経済学で捉える(1):農業生産の経済学的特質
授業概要	農業生産の特質をミクロ経済学の視点から整理する
授業時間外の学習	レポート課題
■第2回	農業をミクロ経済学で捉える(2):農業部門の縮小と農業への過剰就労問題
授業概要	経済発展とともに生じる農業分野の縮小と過剰就労をミクロ経済学で整理する
授業時間外の学習	レポート課題
■第3回	農業をミクロ経済学で捉える(3):家族経営の経済学
授業概要	世界農業の大部分が家族経営によって担われているとされる。この経営の経済学的根拠を検討する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第4回	農業をミクロ経済学で捉える(4):農業協同組の経済的分析
授業概要	日本の農業を牽引してきた農協の原理を情報の非対称性やゲーム理論で検討する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第5回	農業をミクロ経済学で捉える(5):農地の経済学的検討
授業概要	農地は不滅の財であり、農業活動を特徴づける投入財である。この特質を探る。
授業時間外の学習	レポート課題
■第6回	日本農業の史的展開(1):農地改革と食料問題
授業概要	戦後間もない時期の農地改革と食料不足問題を整理する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第7回	日本農業の史的展開(2):農業保護と生産過剰問題
授業概要	高度経済成長とともに、農業問題が食料から構造問題へと転換する過程を整理する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第8回	日本農業の史的展開(3):農業の担い手問題
授業概要	農地法による自作農主義から借地農主義への展開とその背景を検証する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第9回	日本農業の史的展開(4):農山村地域の変貌—自然減段階の課題—
授業概要	農業の縮小と並行して、農山村地域の衰退が著しい。その実態とメカニズムを検討する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第10回	日本農業の史的展開(5):新たな農地問題—所有者不明土地問題—

授業概要	所有者が不明となる農地が各地に出現している。その背景や対策をまとめる。
授業時間外の学習	レポート課題
■第11回	日本農業の史的展開(6):スマート農業の展開
授業概要	AIなどの技術を駆使したスマートの原理と普及過程を整理する。
■第12回	食料と環境問題(1):戦後の食料消費の変化
授業概要	食料消費のあり方の変化を経済発展の軸で捉える。
授業時間外の学習	レポート課題
■第13回	食料と環境問題(2):食料純輸入国の食料政策
授業概要	日本、スイス、台湾、韓国などの食料純輸入国の食料政策を整理する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第14回	食料と環境問題(3):農業と環境問題の地理的相違
授業概要	農業と環境問題の関わりは欧州とアジアで大きく異なる。この差異を飯沼二郎の風土論を基礎に整理する。
■第15回	食料と環境問題(4):農業環境政策の展開
授業概要	欧州に起源を持つ農業環境政策の系譜を整理し、展望する。
■第16回	
授業概要	期末試験

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

神門善久・速水 佑次郎(2002)『農業経済論』岩波書店 荏開津典生・鈴木宣弘(2015)『農業経済論』岩波書店 速水佑次郎(2008)『開発経済学』創文社
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各レポート及び期末試験の結果で評価します。割合は3:7です。

--

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域農業演習	Regional Agriculture (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J26	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81569121	81589121
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

HADとGISを用いて、農業問題を解析する。

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	飯國 芳明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室あるいは社会経済コースの演習室(21番)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「地域農業特論」を受講済みであること及び統計解析への意欲とエクセルが使える能力を前提として授業を行う。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

農業、データベース、GIS、統計解析

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・RESAS及び農水省にアップされている農業のデータベースを加工・解析する方法を学ぶ。
- ・データをHADを用いて、基本的な統計解析を行う。
- ・QGISにデータを読み込んで、空間解析を行う。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	農業のデータベースをダウンロードして基本的な加工ができる能力を養う。
2	HADを用いて、基本的な統計解析を行う能力を付ける。
3	QGISにデータを読み込んで、解析ができる力を育成する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、農業に関するトピックを統計手法及び空間解析手法を用いて分析する方法を学ぶ。総務省や農水省などが提供するデータベースをダウンロードして、自らの課題に沿った解析を行える力を養うことを目標とする。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回、解析手法に応じたレポート課題を提示する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の内容
授業時間外の学習	ソフトウェア(HAD及びQGIS)のダウンロード
■第2回	RESAS 統計のダウンロードと記述統計分析(1):人口動態分析
授業概要	総務省の総合的な統計であるRESASを用いた記述統計分析を行う。
授業時間外の学習	レポート課題
■第3回	RESAS 統計のダウンロードと記述統計分析(2):産業構造分析
授業概要	総務省の総合的な統計であるRESASを用いた記述統計分析を行う。
授業時間外の学習	レポート課題
■第4回	農林統計のダウンロードと記述統計分析:農業構造動態分析
授業概要	農水省統計局の統計データをダウンロードして、基本的な統計分析を行う。
授業時間外の学習	レポート課題
■第5回	農林統計のダウンロードと記述統計分析(2):経営構造動態分析
授業概要	農水省統計局の統計データをダウンロードして、基本的な統計分析を行う。
授業時間外の学習	レポート課題
■第6回	HAD による統計分析(1):操作方法の習得
授業概要	エクセル上で動く統計ソフトHADの利用方法を学ぶ
授業時間外の学習	レポート課題
■第7回	HAD による統計分析(2):基礎統計
授業概要	ヒストグラムや相関分析、作図を行う。
授業時間外の学習	レポート課題
■第8回	HAD による統計分析(3):差の検定
授業概要	平均や分散の差の検定を行う。
授業時間外の学習	レポート課題
■第9回	HAD による統計分析(4):クラスター分析
授業概要	クラスター分析により類型化の作業を行う。

授業時間外の学習	レポート課題
■第10回	HADによる統計分析(5):回帰分析
授業概要	回帰分析を適用する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第11回	HADによる統計分析(6):質的分析
授業概要	プロビット分析を適用する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第12回	統計を用いた総合的分析
授業概要	習得した統計手法を用いて、自らが設定した課題の分析を行う。
授業時間外の学習	レポート課題
■第13回	QGISによる空間分析(1):QGISの使い方
授業概要	基本的な操作方法を習得する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第14回	QGISによる空間分析(2):分析結果の空間的表示
授業概要	これまで分析した結果をGIS上で表示する。
授業時間外の学習	レポート課題
■第15回	QGISによる空間分析(2):空間情報の追加
授業概要	国土地理院やgoogleの情報を取り込んで分析結果を深める。
授業時間外の学習	レポート課題
■第16回	解析結果のプレゼン
授業概要	作業を進めてきたオリジナルな分析を報告する。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

必要とされる情報は、随時、moodleにアップします。

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

提出されたレポートと報告を基に成績を評価します。割合は7:3です。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
農業経済特論	Agricultural Economics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J27	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81564271	81584271
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本農業を経済学的に捉える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Economics of Japanese Agriculture

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	飯國 芳明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室ないし人文学部棟の社会科学コースの演習室(21番)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

ミクロ経済学の基礎を学んでいること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

日本農業、経済学、戦後史、食料、農地、環境、ミクロ経済学

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・農業の経済学的考察を学ぶ
- ・日本農業の戦後の展開を理解する
- ・食料及び農村環境の変容と課題を学ぶ

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	日本農業の実態を史的な過程を通して理解できる能力の形成
2	日本農業の実態を経済学の枠組みで捉え、考察する力の育成

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、日本農業を次の3つの柱で考察します。すなわち、1)農業の経済学的考察、2)日本農業の戦後史、3)・食料及び農村環境の変容と課題です。1)では、ミクロ経済学の初級レベルの知識を前提にしつつ、農業の特質を考察します。2)では、農地改革に始まる日本の農業の史的な展開を整理し、現在に至る過程と課題をまとめます。3)では農業と食料及び農村環境の関係をミクロ経済学で整理し、今後の課題をまとめます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業のテーマごとに、課題を出して理解を深めます。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	農業をミクロ経済学で捉える(1):農業生産の経済学的特質
授業概要	農業生産の特質をミクロ経済学の視点から整理する
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第2回	農業をミクロ経済学で捉える(2):農業部門の縮小と農業への過剰就労問題
授業概要	経済発展とともに生じる農業分野の縮小と過剰就労をミクロ経済学で整理する
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第3回	農業をミクロ経済学で捉える(3):家族経営の経済学
授業概要	世界農業の大部分が家族経営によって担われているとされる。この経営の経済学的根拠を検討する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第4回	農業をミクロ経済学で捉える(4):農業協同組の経済的分析
授業概要	日本の農業を牽引してきた農協の原理を情報の非対称性やゲーム理論で検討する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第5回	農業をミクロ経済学で捉える(5):農地の経済学的検討
授業概要	農地は不滅の財であり、農業活動を特徴づける投入財である。この特質を探る。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第6回	日本農業の史的展開(1):農地改革と食料問題
授業概要	戦後間もない時期の農地改革と食料不足問題を整理する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第7回	日本農業の史的展開(2):農業保護と生産過剰問題
授業概要	高度経済成長とともに、農業問題が食料から構造問題へと転換する過程を整理する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出



授業時間外の学習	レポート課題
■第8回	日本農業の史的展開(3):農業の担い手問
授業概要	農地法による自作農主義から借地農主義への展開とその背景を検証する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第9回	日本農業の史的展開(4):農山村地域の変貌ー自然減段階の課題ー
授業概要	農業の縮小と並行して、農山村地域の衰退が著しい。その実態とメカニズムを検討する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第10回	日本農業の史的展開(5):新たな農地問題ー所有者不明土地問題ー
授業概要	所有者が不明となる農地が各地に出現している。その背景や対策をまとめる。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第11回	日本農業の史的展開(6):スマート農業の展開
授業概要	などの技術を駆使したスマートの原理と普及過程を整理する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第12回	食料と環境問題(1):戦後の食料消費の変化
授業概要	食料消費のあり方の変化を経済発展の軸で捉える。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第13回	食料と環境問題(2):食料純輸入国の食料政策
授業概要	日本、スイス、台湾、韓国などの食料純輸入国の食料政策を整理する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第14回	食料と環境問題(3):農業と環境問題の地理的相違
授業概要	農業と環境問題の関わりは欧州とアジアで大きく異なる。この差異を飯沼二郎の風土論を基礎に整理する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第15回	食料と環境問題(4):農業環境政策の展開
授業概要	欧州に起源を持つ農業環境政策の系譜を整理し、展望する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第16回	期末試験
授業概要	理解度を確認する。
評価のスケジュール	期末試験

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

神門善久・速水 佑次郎(2002)『農業経済論』岩波書店  
 荻開津典生・鈴木宣弘(2015)『農業経済論』岩波書店  
 速水佑次郎(2008)『開発経済学』創文社

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各レポート及び期末試験の結果で評価します。割合は3:7です。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
農業経済演習	Agricultural Economics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J28	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81569221	81589221
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

HADとGISを用いた農業問題の解析

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

Study on Acriculture by using QGIS and HAD

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	飯國 芳明	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜2限

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

研究室ないし人文学部棟の社会科学コースの演習室(21番)

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

「地域農業特論」を受講済みであること及び統計解析への意欲とエクセルが使える能力を前提として授業を行う。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

キーワード【KEYWORD】

農業、データベース、GIS、統計解析

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・RESAS及び農水省にアップされている農業のデータベースを加工・解析する方法を学ぶ。
- ・データをHADを用いて、基本的な統計解析を行う。
- ・QGISにデータを読み込んで、空間解析を行う。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	農業のデータベースをダウンロードして基本的な加工ができる能力を養う。
2	HADを用いて、基本的な統計解析を行う能力を付ける。
3	QGISにデータを読み込んで、解析ができる力を育成する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、農業に関するトピックを統計手法及び空間解析手法を用いて分析する方法を学ぶ。総務省や農水省などが提供するデータベースをダウンロードして、自らの課題に沿った解析を行える力を養うことを目標とする。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

毎回、解析手法に応じたレポート課題を提示する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の内容の紹介
授業時間外の学習	ソフトウェア(HAD及びQGIS)のダウンロード
■第2回	RESAS 統計のダウンロードと記述統計分析(1):人口動態分析
授業概要	総務省の総合的な統計であるRESASを用いた記述統計分析を行う
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第3回	RESAS 統計のダウンロードと記述統計分析(2):産業構造分析
授業概要	総務省の総合的な統計であるRESASを用いた記述統計分析を行う。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第4回	農林統計のダウンロードと記述統計分析:農業構造動態分析
授業概要	農水省統計局の統計データをダウンロードして、基本的な統計分析を行う。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第5回	農林統計のダウンロードと記述統計分析(2):経営構造動態分析
授業概要	農水省統計局の統計データをダウンロードして、基本的な統計分析を行う。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第6回	HAD による統計分析(1):操作方法の習得
授業概要	エクセル上で動く統計ソフトHADの利用方法を学ぶ
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第7回	HAD による統計分析(2):基礎統計
授業概要	ヒストグラムや相関分析、作図を行う。

評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第8回	HADによる統計分析(3):差の検定
授業概要	平均や分散の差の検定を行う。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第9回	HADによる統計分析(4):クラスター分析
授業概要	クラスター分析により類型化の作業を行う。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第10回	HADによる統計分析(5):回帰分析
授業概要	回帰分析を適用する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第11回	HADによる統計分析(6):質的分析
授業概要	プロビット分析を適用する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第12回	統計を用いた総合的分析
授業概要	習得した統計手法を用いて、自らが設定した課題の分析を行う。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第13回	QGISによる空間分析(1):QGISの使い方
授業概要	基本的な操作方法を習得する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第14回	QGISによる空間分析(2):分析結果の空間的表示
授業概要	これまで分析した結果をGIS上で表示する。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第15回	QGISによる空間分析(2):空間情報の追加
授業概要	国土地理院やgoogleの情報を取り込んで分析結果を深める。
評価のスケジュール	レポート課題の提出
授業時間外の学習	レポート課題
■第16回	期末試験
授業概要	これまでの成果を確認する。
評価のスケジュール	期末試験

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

農業経済特論、12J27

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

必要とされる情報は、随時、moodleにアップします。

## Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

提出されたレポートと報告を基に成績を評価します。割合は7:3です。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
環境経済学特論	Environmental Economics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J29	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81564371	81584371
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(要予約)

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文学部棟2階210研究室においていただければ、空いているゼミ室で対応します。

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

受講院生のレベルや関心は様々であるので、受講生と相談の上、適宜内容を振り替える。

## キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析,

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

さまざまな環境問題とそれに対する政策的対応に関する環境経済学の基礎理論を習得する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	環境問題について、単なる感情論ではなく、事実やデータに基づいた意見を示すことができる
2	環境問題について、経済学の観点から分析し、説明することができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

さまざまな環境問題とそれに対する政策的対応について、ミクロ経済学や公共経済学の枠組みに基づくモデルを使い、理論的かつ実証的に研究するための基礎を身につけることを目標にする。そのために、ミクロ経済学、公共経済学、環境経済学等の基礎的なテキストから必要部分をピックアップし輪読する。  
標準的な内容は授業計画の通りだが、受講生との相談により柔軟に対応する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

教員から示された本ないし論文を精読し、レジュメ等にまとめる。  
併せて授業に関連する資料を調査・収集する  
必要に応じて、レポートを作成する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	
授業概要	0. 顔合わせとオリエンテーション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第2回	
授業概要	1. 準備(1): 資源配分メカニズムとしての市場(市場の失敗と政府の役割)
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第3回	
授業概要	2. 準備(2): 需要と供給の理論
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第4回	
授業概要	3. 経済厚生理論の基礎(1): 消費者余剰と生産者余剰
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第5回	
授業概要	4. 経済厚生理論の基礎(2): 余剰分析
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第6回	
授業概要	5. パレート効率性(Pareto Efficiency)と厚生経済学の基本定理
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第7回	



授業概要	6. 外部性(Externality)の理論(1): 基礎的概念
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第8回	
授業概要	7. 外部性(Externality)の理論(2): ピグー税・ピグー補助金
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第9回	
授業概要	8. 公共財(Public Goods)の理論(1): 基礎的概念
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第10回	
授業概要	9. 公共財(Public Goods)の理論(2): 公共財の最適供給
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第11回	
授業概要	10. 環境政策(1): 指令・統制アプローチ
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第12回	
授業概要	11. 環境政策(2): 所有権アプローチ、自発的アプローチ
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第13回	
授業概要	12. 環境政策(3): 経済インセンティブ・アプローチ
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第14回	
授業概要	13. 環境の経済評価(1): 仮想状況評価法(Contingent Valuation Method; CVM)
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■ 第15回	
授業概要	14. 環境の経済評価(2): その他の環境評価手法
評価のスケジュール	最終レポート課題の提示
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集とレポート作成等
■ 第16回	
授業概要	最終レポートの提出
授業時間外の学習	最終レポートの提出

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談の上、決定する
---------------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
----	----	----

秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各回のレジюмеや議論への貢献: 5-7割  
最終レポート: 3-5割

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
環境経済学演習	Environmental Economics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J30	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81569321	81589321
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(要予約)
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文学部棟2階210研究室においていただければ、空いているゼミ室で対応します。
---

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

受講院生のレベルや関心は様々であるので、受講生と相談の上、適宜内容を振り替える。
--

## キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析,
-------------------

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

さまざまな環境問題とそれに対する政策的対応に関する環境経済学の基礎理論を習得する。  
必要に応じて、実証研究のための計量経済学的手法や統計学的手法も勉強する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	環境問題について、単なる感情論ではなく、事実やデータに基づいた意見を示すことができる
2	環境問題について、経済学の観点から分析し、説明することができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

環境問題や環境政策の理論的・実証的研究に関わる研究発表とディスカッションを中心に進める。まずはじめに個々の問題関心について報告してもらい、それを通じて明らかになったそれぞれの関心領域の基礎となる文献を選定する。それらを順次講読するとともに、随時個々の研究の発展について報告してもらい、ディスカッションを行う。  
また、実証研究の要となる計量分析は、基本的にコンピュータおよびそのアプリケーションを用いて行われる。受講生の希望がある場合、それを利用するための基本的な知識・技能を実習を交えて勉強するが、これは下記の内、文献の輪読部分や研究の中間報告部分等を随時振り替える。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

教員から示された本ないし論文を精読し、レジュメ等にまとめる。  
併せて授業に関連する資料を調査・収集する  
必要に応じて、レポートを作成する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	顔合わせとオリエンテーション
授業時間外の学習	レジュメ作成、関心分野の資料の調査・リスト作成、収集等
■第2回	
授業概要	個々の問題関心の報告と文献購読計画の策定
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第3回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第4回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第5回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第6回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第7回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第8回	
授業概要	研究の中間報告：報告とディスカッション
評価のスケジュール	
授業時間外の学習	レジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第9回	

授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第10回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第11回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第12回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第13回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第14回	
授業概要	研究の中間報告:報告とディスカッション
評価のスケジュール	
授業時間外の学習	レジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第15回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
評価のスケジュール	最終レポート課題の提示
授業時間外の学習	関連資料の調査・収集とレポート作成等
■第16回	
授業概要	最終レポートの提出
評価のスケジュール	最終レポートの提出

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談の上、決定する
---------------

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各回のレジюмеや議論への貢献: 5-7割  
最終レポート: 3-5割

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域環境経済学特論	Economics for Regional Environment (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81564471	81584471
履修における注意点	
資格等	
教免－高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(要予約)
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文学部棟2階210研究室においていただければ、空いているゼミ室で対応します。
---

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

受講院生のレベルや関心は様々であるので、受講生と相談の上、適宜内容を振り替える。
--

## キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析, 自然資源の劣化, 自然資源の最適利用
--------------------------------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

地域におけるさまざまな環境問題→自然資源の劣化問題、およびそれに対する政策的対応に関し、経済学的にアプローチする基礎を習得する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	環境問題について、単なる感情論ではなく、事実やデータに基づいた意見を示すことができる
2	環境問題について、経済学の観点から分析し、説明することができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

地域におけるさまざまな環境問題について、その実態、発生メカニズム、その問題に対する政策的対応等について、関連文献を輪読し、経済学的に検討する。以上を通して、地域の環境問題に関する理論的研究・実証研究の基礎を身につける。

テーマや文献は受講者と相談して決めるが、授業計画は、主に自然資源の劣化問題を取り上げる場合の進行案である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

教員から示された本ないし論文を精読し、レジュメ等にまとめる。  
併せて授業に関連する資料を調査・収集する  
必要に応じて、レポートを作成する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	0. 顔合わせとオリエンテーション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第2回	
授業概要	1. 自然資源の持続的利用に関わる経済理論(1)コモンズの悲劇
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第3回	
授業概要	2. 自然資源の持続的利用に関わる経済理論(2)再生可能資源
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第4回	
授業概要	3. 自然資源の持続的利用に関わる経済理論(3)所有権アプローチ
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第5回	
授業概要	4. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(1)概観
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第6回	
授業概要	5. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(2)無所有・オープンアクセス
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第7回	
授業概要	6. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(3)国有
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第8回	
授業概要	7. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(4):私有
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第9回	
授業概要	8. 自然資源とその所有形態:世界の森林問題を事例に(5):共有



授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第10回	
授業概要	9.日本の森林問題(1)
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第11回	
授業概要	10.日本の森林問題(2)
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第12回	
授業概要	11.サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(1):概観
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第13回	
授業概要	12.サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(2):高知県柏島の事例
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第14回	
授業概要	13.サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(3):鹿児島県与論島の事例
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第15回	
授業概要	14.サンゴ礁の劣化問題と持続的利用(4):フィリピン・ビコール地方の海洋保護区
評価のスケジュール	最終レポート課題の提示
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集とレポート作成等
■第16回	
授業概要	最終レポートの提出
授業時間外の学習	最終レポートの提出

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談の上、決定する
---------------

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
----	-------	--

各回のレジュメや議論への貢献: 5-7割  
最終レポート: 3-5割

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域環境経済学演習	Economics for Regional Environment (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81569421	81589421
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	新保 輝幸	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜4限(要予約)
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文学部棟2階210研究室においていただければ、空いているゼミ室で対応します。
---

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部レベルのミクロ経済学の知識と分析能力、環境問題への関心があるのが望ましい。
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

受講院生のレベルや関心は様々であるので、受講生と相談の上、適宜内容を振り替える。
--

## キーワード【KEYWORD】

環境経済学, 環境問題の経済分析, 自然資源の最適利用, 自然資源の劣化問題
--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

環境や自然資源に関わるさまざまな問題について、環境経済学の観点からの理論的・実証的に研究するための基礎を習得する。必要に応じて、実証研究のための計量経済学的手法や統計学的手法も勉強する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	環境や自然資源に関わる問題について、経済学的な理論・実証研究の手法の基礎を身につける。
2	環境問題や自然資源の劣化問題が起こるメカニズムやそれに対する政策的対応に関し、深い理解に到達する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

地域の環境や自然資源に関わるさまざまな問題についての実証研究に関わる研究発表とディスカッションを中心に進める。まずはじめに個々の問題関心について報告してもらい、それを通じて明らかになったそれぞれの関心領域の基礎となる文献を選定する。それらを順次講読するとともに、随時個々の研究の発展について報告してもらい、ディスカッションを行う。

また、実証研究の要となる計量分析は、基本的にコンピュータおよびそのアプリケーションを用いて行われる。受講生の希望がある場合、それを利用するための基本的な知識・技能を実習を交えて勉強するが、これは下記の内、文献の輪読部分や研究の中間報告部分等を随時振り替える。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

教員・学生の議論により選定された本ないし論文を精読し、レジュメ等にまとめる。  
併せて授業に関連する資料を調査・収集する  
必要に応じて、レポートを作成する。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	顔合わせとオリエンテーション
授業時間外の学習	レジュメ作成、関心分野の資料の調査・リスト作成、収集等
■第2回	
授業概要	個々の問題関心の報告と文献購読計画の策定
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第3回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
評価のスケジュール	
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第4回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第5回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第6回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第7回	
授業概要	文献の輪読：報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第8回	
授業概要	研究の中間報告：報告とディスカッション
授業時間外の学習	レジュメ作成、関連資料の調査・収集等

■第9回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第10回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第11回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第12回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第13回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
授業時間外の学習	文献の精読とレジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第14回	
授業概要	研究の中間報告:報告とディスカッション
授業時間外の学習	レジュメ作成、関連資料の調査・収集等
■第15回	
授業概要	文献の輪読:報告とディスカッション
評価のスケジュール	最終レポート課題の提示
授業時間外の学習	関連資料の調査・収集とレポート作成等
■第16回	
授業概要	最終レポートの提出
評価のスケジュール	最終レポートの提出

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

受講生と相談の上、決定する

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各回のレジюмеや議論への貢献: 5-7割  
最終レポート: 3-5割

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
漁村社会特論	Fishery Community (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J33	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81564571	81584571
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	非公開 Closed	mina@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日4限(要予約)

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階207号室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

水産業や漁村社会に関する基礎知識が必要  
地域水産社会特論を履修していることが望ましい

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

漁村社会、漁業経済、漁業制度、水産政策、漁家調査

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

漁村社会の成立背景と構造について理解する  
漁村の社会経済と水産政策、漁業制度とのかかわりについて学ぶ  
漁家調査の方法について学ぶ

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	漁村社会の成立背景と構造について理解する
2	漁村の社会経済と水産政策とのかかわりについて理解する
3	漁家調査の方法を習得する

## 授業全体の概要【SUMMARY】

漁村社会特論では、漁村の成立背景や構造について理解し、その特徴を踏まえた上で、漁業制度や水産政策についての理解を深めます。また、漁家調査の方法を習得します。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業の一部は演習形式で行うため、科学論文の講読、発表準備などが必要です。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	ガイダンス
■第2回	漁村の成り立ち(～明治期)
■第3回	漁村の成り立ち(明治期～)
■第4回	漁村の社会構造
■第5回	漁村の機能
■第6回	漁業協同組合のしくみ
■第7回	漁業協同組合の役割
■第8回	漁業制度①
授業時間外の学習	資料収集と整理
■第9回	漁業制度②
授業時間外の学習	資料収集と整理
■第10回	水産政策①
授業時間外の学習	資料収集と整理
■第11回	水産政策②
授業時間外の学習	資料収集と整理
■第12回	漁村調査の方法①
■第13回	漁村調査の方法②
■第14回	漁村調査の事例①
■第15回	漁村調査の事例②

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

漁村社会演習、地域水産社会特論

## 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介



**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】****Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】****成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

議論への貢献4割とレポート6割により評価

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
漁村社会演習	Fishery Community (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J34	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81569521	81589521
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	非公開 Closed	mina@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日4限(要予約)

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階207号室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

漁村社会特論を履修していること  
 地域水産社会特論を履修していることが望ましい

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

漁村社会、漁業経済、漁業制度、水産政策、漁家調査

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

漁村の社会経済に関わる論文講読を行い専門知識の理解を深める  
個別の課題設定を行い、文献収集と発表、議論を通じてディスカッション能力を養う

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | 漁村の社会経済に関わる論文講読により専門知識を深める    |
| 2 | 個別課題を見つけ、関連文献の収集、講読、課題の抽出を行える |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

漁村社会特論を履修した学生が、より実践的に研究に取り組むための演習です。前半で教員の指示する論文の講読により専門知識の理解を深め、後半では個別の課題設定を行い、情報収集、整理、議論を通じて先行研究の理解を深めます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

論文講読、発表準備

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	ガイダンス、文献の収集方法
授業時間外の学習	文献収集
■第2回	収集文献の紹介
授業時間外の学習	発表準備
■第3回	発表方法と資料の作り方
■第4回	文献①の発表、解説と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第5回	文献②の発表、解説と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第6回	文献③の発表、解説と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第7回	文献④の発表、解説と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第8回	文献⑤の発表、解説と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第9回	個別課題の設定
■第10回	個別課題の背景発表
授業時間外の学習	発表準備
■第11回	個別課題文献①の発表と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第12回	個別課題文献②の発表と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第13回	個別課題文献③の発表と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第14回	個別課題文献④の発表と議論
授業時間外の学習	発表準備
■第15回	総合討論

## 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

漁村社会特論、地域水産社会特論

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

発表内容、議論への参加とその内容について総合的に評価します

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域水産社会特論	Regional Fishery (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J35	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81564671	81584671
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	非公開 Closed	mina@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日4限(要予約)

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階207号室(オンラインも可)

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

水産業や漁村社会に関する基礎知識が必要  
漁村社会特論を履修していることが望ましい

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

水産振興、漁業経済、漁業制度、水産政策、黒潮圏

--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

高知県及び黒潮圏における水産社会経済の基礎を学ぶ  
事例を通じて地域の漁業が抱える問題点と解決策を考察する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	高知県の漁業の現状と課題を説明できる
2	黒潮圏の漁業の現状と課題を説明できる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

この授業では、高知県及び黒潮圏における漁業生産、加工、流通、販売、資源管理、水産政策などの水産社会経済の基礎を学び、各地の事例を通じて地域の漁業が抱える問題点と解決策を考察します。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業の一部は演習形式で行うため、科学論文の講読、発表準備などが必要です。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	ガイダンス
授業概要	受講生の基礎知識の確認
授業時間外の学習	漁業統計の整理
■第2回	高知県の漁業① 海面漁業の生産
授業時間外の学習	漁業統計の整理
■第3回	高知県の漁業② 内水面漁業の生産
評価のスケジュール	漁業統計の整理
■第4回	高知県の漁業③ 養殖業
授業時間外の学習	次回の授業テーマに関する資料収集、発表準備
■第5回	高知県の漁業④ 加工
評価のスケジュール	報告とディスカッションの内容
授業時間外の学習	次回の授業テーマに関する資料収集、発表準備
■第6回	高知県の漁業⑤ 流通
授業時間外の学習	次回の授業テーマに関する資料収集、発表準備
■第7回	高知県の漁業⑥ 販売
評価のスケジュール	発表とディスカッションの内容
授業時間外の学習	次回の授業テーマに関する資料収集、発表準備
■第8回	高知県の漁業⑦ 資源管理
評価のスケジュール	発表とディスカッションの内容
授業時間外の学習	次回の授業テーマに関する資料収集、発表準備
■第9回	高知県の漁業⑧ 水産政策
評価のスケジュール	発表とディスカッションの内容
授業時間外の学習	Fish Statの整理
■第10回	黒潮圏の漁業① 地域の特徴
授業時間外の学習	Fish Statの整理
■第11回	黒潮圏の漁業② 生産
評価のスケジュール	

授業時間外の学習	提供される資料の予習
■第12回	黒潮圏の漁業③ 課題
評価のスケジュール	ディスカッションの内容
授業時間外の学習	提供される資料の予習
■第13回	黒潮圏の漁業④ 資源管理
評価のスケジュール	
授業時間外の学習	提供される資料の予習
■第14回	黒潮圏の漁業⑤ 水産政策
評価のスケジュール	ディスカッションの内容
授業時間外の学習	発表準備
■第15回	まとめ
授業概要	受講者による発表
評価のスケジュール	発表内容とディスカッション内容

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

漁村社会特論、地域水産社会演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

議論への貢献4割とレポート6割により評価

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域水産社会演習	Regional Fishery (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J36	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81569621	81589621
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	堀 美菜	人文社会科学部	非公開 Closed	mina@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日4限(要予約)
------------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階207号室(オンラインも可)
--------------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

地域水産社会特論を履修していること 漁村社会特論を履修していることが望ましい
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

水産振興、漁業経済、漁業制度、水産政策、黒潮圏
-------------------------

## 授業科目の主題・目的(箇条書)



地域漁業のあり方を文献購読により考察する。  
個別課題として、現地調査を通じ地域の水産業を事例に研究発表とディスカッションを実施する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 1 | 地域の漁業に関する論文講読から課題の抽出を行える。          |
| 2 | 個別課題を設定し、現地調査を設計、実施、得られた結果の分析を行える。 |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

地域水産社会特論を履修した学生が、より実践的に研究に取り組むための演習です。前半で教員と相談の上選んだ論文の講読により専門知識の理解を深めます。後半では個別の課題設定を行い、現地調査の設計と実施、得られた結果の分析を行います。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

論文購読、発表準備、現地調査の準備、実施、データ整理、分析などは授業時間外にも実施します

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	ガイダンス、文献の収集方法、発表方法と資料の作り方
授業時間外の学習	文献検索、収集、発表準備
■第2回	文献①の発表、解説と議論
評価のスケジュール	内容理解とディスカッション
授業時間外の学習	発表準備
■第3回	文献②の発表、解説と議論
評価のスケジュール	内容理解とディスカッション
授業時間外の学習	発表準備
■第4回	文献③の発表、解説と議論
評価のスケジュール	内容理解とディスカッション
授業時間外の学習	発表準備
■第5回	文献④の発表、解説と議論
評価のスケジュール	内容理解とディスカッション
授業時間外の学習	発表準備
■第6回	文献⑤の発表、解説と議論
評価のスケジュール	内容理解とディスカッション
授業時間外の学習	発表準備
■第7回	個別課題の設定、研究背景の整理
授業時間外の学習	発表準備
■第8回	個別課題：研究方法の整理
授業時間外の学習	発表準備
■第9回	個別課題：現地調査準備
授業時間外の学習	現地調査準備（調査手法により準備内容は異なります）
■第10回	個別課題：現地調査準備
授業時間外の学習	現地調査準備（調査手法により準備内容は異なります）
■第11回	個別課題：現地調査の実施
授業時間外の学習	調査結果の整理、発表準備
■第12回	個別課題：現地調査の報告

授業時間外の学習	調査結果の整理と分析、発表準備
■第13回	個別課題: 現地調査の結果分析
授業時間外の学習	調査結果の考察、発表準備
■第14回	個別課題: 現地調査の考察
評価のスケジュール	内容とディスカッション
授業時間外の学習	最終報告準備
■第15回	最終報告
評価のスケジュール	内容とディスカッション

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域水産社会特論、漁村社会特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

受講生と相談して決定、講義中に随時紹介

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

議論への貢献4割と個別課題6割により評価

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域経済論特論	Regional Economics (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J47	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81567171	81581771
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

地域経済の現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	非公開 Closed	ktanaka@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限、要予約(予約手段は電子メールが望ましい)。

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本(及び世界各地)の地域経済の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、地域経済論の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

地域経済、産業立地、産業振興、地域活性化、まちづくり、観光

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業のテーマは、地域経済論の分析視角を用いて、地域経済の現状を理解するとともに、各地域が抱える経済的諸課題の解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	・地域経済に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・地域経済に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・地域経済に関する情報の収集・評価等ができる。
4	・地域経済に関する情報を用いて地域経済活性化策等の企画・提案等ができる。
5	・地域経済に関する一定水準の報告書・論文等の執筆・投稿等ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、地域経済に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、地域経済論の視角から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。

■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域経済論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
地域経済論演習	Regional Economics (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J48	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81566721	81586721
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

地域経済の現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	非公開 Closed	ktanaka@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限、要予約(予約手段は電子メールが望ましい)。

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本(及び世界各地)の地域経済の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、地域経済論の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

地域経済、産業立地、産業振興、地域活性化、まちづくり、観光

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業のテーマは、地域経済論の分析視角を用いて、地域経済の現状を理解するとともに、各地域が抱える経済的諸課題の解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	・地域経済に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・地域経済に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・地域経済に関する情報の収集・評価等ができる。
4	・地域経済に関する情報を用いて地域経済活性化策等の企画・提案等ができる。
5	・地域経済に関する一定水準の報告書・論文等の執筆・投稿等ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、地域経済に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、地域経済論の視角から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。



■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

地域経済論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
産業立地論特論	Industrial Location Theory (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J49	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81561871	81581871
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

産業立地の理論、現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	非公開 Closed	ktanaka@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限、要予約(予約手段は電子メールが望ましい)。

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本(及び世界各地)の産業立地の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、産業立地論の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

産業立地、産業振興、地域経済、地域活性化、まちづくり

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業のテーマは、産業立地論の分析視角を用いて、産業立地の理論及び現状を理解するとともに、当該分野における課題の理解及び解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	・産業立地に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・産業立地に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・産業立地に関する情報の収集・評価等ができる。
4	・産業立地に関する情報を用いて産業立地政策、地域経済活性化策等の企画・提案等ができる。
5	・産業立地に関する一定水準の報告書・論文等の執筆・投稿等ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、産業立地に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、産業立地論の視角から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション

■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業立地論演習
---------

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。
--

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
産業立地論演習	Industrial Location Theory (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J50	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81566821	81586821
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

産業立地の理論、現状と課題、及び課題解決のための方策等の検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	田中 康一	人文社会科学部	非公開 Closed	ktanaka@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限、要予約(予約手段は電子メールが望ましい)。

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 田中康一研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・日本(及び世界各地)の産業立地の現状を理解し、日々情報収集に努めていること。
- ・なお、産業立地論の基本概念を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

産業立地、産業振興、地域経済、地域活性化、まちづくり

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業のテーマは、産業立地論の分析視角を用いて、産業立地の理論及び現状を理解するとともに、当該分野における課題の理解及び解決策等について、調査・分析・考察・提案等を行うことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	・産業立地に関する基本的知識を獲得しており、またそれらを活用できる。
2	・産業立地に関心を持ち、地域の経済的諸課題の解明と解決に主体的に取り組む意欲を身に付けている。
3	・産業立地に関する情報の収集・評価等ができる。
4	・産業立地に関する情報を用いて産業立地政策、地域経済活性化策等の企画・提案等ができる。
5	・産業立地に関する一定水準の報告書・論文等の執筆・投稿等ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、産業立地に関する主なトピックについて、文献やニュース等を輪読のテキスト・資料として用い、産業立地論の視角から検討する。輪読と並行して、参加者個々の研究発表を随時盛り込むことを予定している。  
なお、輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキスト・資料の精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週5時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション



■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

産業立地論特論
---------

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

輪読で用いるテキスト・資料は、基本的に参加者の関心や研究進捗度などを考慮に入れつつ選択する。
--

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・テキスト報告担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
組織の経済学特論 I	Organizational Economics (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J51	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
令和元年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81562771	81582771
履修における注意点	
令和元年度以降入学生対象科目	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	雨宮 祐樹	人文社会科学部	非公開 Closed	amemiya@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日, 3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

後期に必ず、「組織の経済学演習II」を履修すること。  
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。  
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、講義を通して理解を深めることを目的とします。  
・また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。  
・なお、この授業は社会科学研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	企業や組織に関する諸問題について考えるための理論分析の方法を習得できる。
2	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
3	企業や組織に関する諸問題について、学んだ理論分析を応用して考えることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

契約理論を応用した企業金融論について、講義形式で進める。  
「組織の経済学演習II」でも用いるテキスト Tirole (2006) に基づいて、「演習II」で輪読するにあたって必要な前提知識、履修者による発表が困難と思われる箇所、および解説が必要な箇所について講義を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・講義内容の復習と宿題。
- ・毎回、回答の作成に2から3時間程度を要する宿題を課す。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーションと数学的知識の復習・補足①
授業概要	本講義全体の概要の説明。講義内容の理解に必要な数学の復習。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第2回	数学的知識の復習・補足②
授業概要	講義内容の理解に必要な数学の復習。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第3回	株式と債券①
授業概要	Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第4回	株式と債券②
授業概要	Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第5回	株式と債券③
授業概要	Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第6回	非対称情報下の金融契約①
授業概要	Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第7回	非対称情報下の金融契約②

授業概要	Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第8回	非対称情報下の金融契約③
授業概要	Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第9回	中間試験とこれまでの講義内容の補足.
授業概要	中間試験とこれまでの講義内容の補足.
評価のスケジュール	成績評価のうち30%をこの回の中間試験によって行う. 各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第10回	市場競争と企業の資本構成①
授業概要	Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第11回	市場競争と企業の資本構成②
授業概要	Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第12回	市場競争と企業の資本構成③
授業概要	Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第13回	証券の設計①
授業概要	Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第14回	証券の設計②
授業概要	Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第15回	証券の設計③
授業概要	Chapter 11の内容を中心に, 企業買収に関する経済理論について解説.
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする.
授業時間外の学習	宿題.
■第16回	期末試験.
授業概要	期末試験.
評価のスケジュール	成績評価のうち40%をこの回の中間試験によって行う.
授業時間外の学習	特になし.

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論II, 組織の経済学演習I, II

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】****Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】****成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・中間試験30%, 期末試験40%, 宿題30%によって評価する.

## 2021年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
組織の経済学演習 I	Organizational Economics (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J52	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
令和元年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81567721	81587721
履修における注意点	
令和元年度以降入学生対象科目	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論の演習

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	雨宮 祐樹	人文社会科学部	非公開 Closed	amemiya@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日, 4限.

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

必ず、「組織の経済学特論II」を履修済みであること。  
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。  
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、輪読を通して理解を深め、最終的に自分で理論モデルを構築できるようになることを目的とします。  
 ・また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。  
 ・なお、この授業は社会科学系研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、文献を読み自力で理解することができる。
2	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、自分の理解に基づいて説明することができる。
3	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
4	企業や組織に関する諸問題について分析するための理論モデルを構築できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

「組織の経済学特論II」でも用いるテキスト Tirole (2006) の輪読を通して、企業や組織に関する理論分析についての理解を深めます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

報告の準備、その日の輪読箇所の復習、期末レポートの作成。  
 報告の準備には大変な時間を要すると思われるので、早めに準備に着手することをお勧めします。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明、報告ローテーションの決定。
授業時間外の学習	Chapter 1, 2 を通読しておくこと。
■第2回	輪読 1 (雨宮が担当)
授業概要	Chapter 2 の報告とディスカッション。
授業時間外の学習	Chapter 2 を通読しておくこと。
■第3回	輪読 2 (雨宮が担当)
授業概要	Chapter 2 の報告とディスカッション。
授業時間外の学習	Chapter 3 を通読しておくこと。
■第4回	輪読 3
授業概要	Chapter 3 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の人は、次回報告される箇所を通読しておくこと。
■第5回	輪読 4
授業概要	Chapter 3 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の人は、次回報告される箇所を通読しておくこと。
■第6回	輪読 5
授業概要	Chapter 4 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の人は、次回報告される箇所を通読しておくこと。
■第7回	輪読 6
授業概要	Chapter 4 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の人は、次回報告される箇所を通読しておくこと。



■第8回	輪読 7
授業概要	Chapter 5 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第9回	輪読 8
授業概要	Chapter 5 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第10回	輪読 9
授業概要	Chapter 6 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第11回	輪読 10
授業概要	Chapter 6 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第12回	輪読 11
授業概要	Chapter 7 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第13回	輪読 12
授業概要	Chapter 7 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第14回	輪読 13
授業概要	Chapter 10 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第15回	輪読 14
授業概要	Chapter 10 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	期末レポートの作成
■第16回	期末レポートの作成・提出
授業概要	期末レポートの作成・提出
評価のスケジュール	成績評価のうち50%を, この期末レポートによって行う.
授業時間外の学習	期末レポートの作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論I, II, 組織の経済学演習II

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

#### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

輪読における報告の内容：50%，期末レポート：50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
組織の経済学特論Ⅱ	
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J53	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
令和元年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81562771	81582871
履修における注意点	
令和元年度以降入学生対象科目	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	雨宮 祐樹	人文社会科学部	非公開 Closed	amemiya@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日, 2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

後期に必ず、「組織の経済学演習Ⅱ」を履修すること。  
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。  
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、講義を通して理解を深めることを目的とします。
- ・また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。
- ・なお、この授業は社会科学系研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	企業や組織に関する諸問題について考えるための理論分析の方法を習得できる。
2	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
3	企業や組織に関する諸問題について、学んだ理論分析を応用して考えることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

契約理論を応用した企業金融論について、講義形式で進める。  
「組織の経済学演習II」でも用いるテキスト Tirole (2006) に基づいて、「演習II」で輪読するにあたって必要な前提知識、履修者による発表が困難と思われる箇所、および解説が必要な箇所について講義を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・講義内容の復習と宿題。
- ・毎回、回答の作成に2から3時間程度を要する宿題を課す。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーションと数学的知識の復習・補足①
授業概要	本講義全体の概要の説明。講義内容の理解に必要な数学の復習。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第2回	数学的知識の復習・補足②
授業概要	講義内容の理解に必要な数学の復習。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第3回	株式と債券①
授業概要	Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第4回	株式と債券②
授業概要	Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第5回	株式と債券③
授業概要	Chapter 3, Supplementary Sections を中心に金融契約の理論モデルについて解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第6回	非対称情報下の金融契約①
授業概要	Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■ 第7回	非対称情報下の金融契約②
授業概要	Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説。

評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第8回	非対称情報下の金融契約③
授業概要	Chapter 6, Supplementary Sections を中心に非対称情報下の金融契約について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第9回	中間試験とこれまでの講義内容の補足。
授業概要	中間試験とこれまでの講義内容の補足。
評価のスケジュール	成績評価のうち30%をこの回の中間試験によって行う。各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第10回	市場競争と企業の資本構成①
授業概要	Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第11回	市場競争と企業の資本構成②
授業概要	Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第12回	市場競争と企業の資本構成③
授業概要	Chapter 7, Supplementary Sections を中心に市場競争と企業の資本構成の関係について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第13回	証券の設計①
授業概要	Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第14回	証券の設計②
授業概要	Chapter 10, Supplementary Sections を中心に金融契約と企業統治について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第15回	証券の設計③
授業概要	Chapter 11の内容を中心に、企業買収に関する経済理論について解説。
評価のスケジュール	各回の宿題は成績評価の2%とする。
授業時間外の学習	宿題。
■第16回	期末試験。
授業概要	期末試験。
評価のスケジュール	成績評価のうち40%をこの回の中間試験によって行う。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論I, 組織の経済学演習I, II

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

#### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・中間試験30%, 期末試験40%, 宿題30%によって評価する.

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
組織の経済学演習Ⅱ	
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12J54	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
令和元年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81567721	81587821
履修における注意点	
令和元年度以降入学生対象科目	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

契約理論と組織の経済学の応用としての企業金融論の演習

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	雨宮 祐樹	人文社会科学部	非公開 Closed	amemiya@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日, 4限.

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

雨宮研究室(人文社会科学部棟2F215)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

必ず、「組織の経済学特論Ⅱ」を履修済みであること。  
入門レベルのミクロ経済学を履修し終えていることが必要です。  
加えて、経済学の中級テキストを把握できる程度の数学的素養が必要です。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

ミクロ経済学, 契約理論, ゲーム理論, 企業金融.

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・基本的なゲーム理論、ミクロ経済学の知識を前提として、契約理論および組織の経済学における主要な理論モデルとその応用について、輪読を通して理解を深め、最終的に自分で理論モデルを構築できるようになることを目的とします。  
 ・また、企業の資金調達についての経済学的な理解を得ることも目的とします。  
 ・なお、この授業は社会科学研究コースの中で、「経済政策領域」に属し、企業や組織を主なトピックとして経済理論分析を学びます。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、文献を読み自力で理解することができる。
2	企業や組織に関する諸問題についての理論分析について、自分の理解に基づいて説明することができる。
3	企業の資金調達について、経済学的な考え方を背景として、その仕組みや諸問題について説明できる。
4	企業や組織に関する諸問題について分析するための理論モデルを構築できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

「組織の経済学特論II」でも用いるテキスト Tirole (2006) の輪読を通して、企業や組織に関する理論分析についての理解を深めます。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

報告の準備、その日の輪読箇所の復習、期末レポートの作成。  
 報告の準備には大変な時間を要すると思われるので、早めに準備に着手することをお勧めします。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明、報告ローテーションの決定。
授業時間外の学習	Chapter 1, 2 を通読しておくこと。
■第2回	輪読 1 (雨宮が担当)
授業概要	Chapter 2 の報告とディスカッション。
授業時間外の学習	Chapter 2 を通読しておくこと。
■第3回	輪読 2 (雨宮が担当)
授業概要	Chapter 2 の報告とディスカッション。
授業時間外の学習	Chapter 3 を通読しておくこと。
■第4回	輪読 3
授業概要	Chapter 3 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の方は、次回報告される箇所を通読しておくこと。
■第5回	輪読 4
授業概要	Chapter 3 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の方は、次回報告される箇所を通読しておくこと。
■第6回	輪読 5
授業概要	Chapter 4 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の方は、次回報告される箇所を通読しておくこと。
■第7回	輪読 6
授業概要	Chapter 4 の報告とディスカッション。
評価のスケジュール	報告担当者については、報告の内容を成績の50%分として評価する。
授業時間外の学習	報告担当者については、報告の準備。それ以外の方は、次回報告される箇所を通読しておくこと。



■第8回	輪読 7
授業概要	Chapter 5 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第9回	輪読 8
授業概要	Chapter 5 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第10回	輪読 9
授業概要	Chapter 6 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第11回	輪読 10
授業概要	Chapter 6 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第12回	輪読 11
授業概要	Chapter 7 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第13回	輪読 12
授業概要	Chapter 7 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第14回	輪読 13
授業概要	Chapter 10 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	報告担当者については, 報告の準備. それ以外の人は, 次回報告される箇所を通読しておくこと.
■第15回	輪読 14
授業概要	Chapter 10 の報告とディスカッション.
評価のスケジュール	報告担当者については, 報告の内容を成績の50%分として評価する.
授業時間外の学習	期末レポートの作成
■第16回	期末レポートの作成・提出
授業概要	期末レポートの作成・提出
評価のスケジュール	成績評価のうち50%を, この期末レポートによって行う.
授業時間外の学習	期末レポートの作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

組織の経済学特論I, II, 組織の経済学演習I

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Jean Tirole (2006), The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press.

#### Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

輪読における報告の内容：50%，期末レポート：50%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
経営管理特論	Business Management (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81581171	81591171
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

企業などの組織と経営管理の諸理論の検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中川 香代	人文社会科学部	非公開 Closed	nakagawa@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜1限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2F 202号 中川研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本概念を理解していること。
- ・文献講読、討論に対する主体的な参画態度を身につけていること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

企業、組織、事業、ビジネス、経営、管理、マネジメント

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・本授業は、社会科学系研究コースの中で、現代の企業経営に関わる諸問題を研究する「企業経営領域」に属する科目である。
- ・本授業の主題は、経営学及び経営管理論の理論を学術的文献により理解することであり、目的は自らの研究に応用することにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	企業経営について、これまでの基礎的理解に加え、新たに理解した理論を1つ以上説明できる。
2	経営管理の理論を自ら批判的に考察することができる。
3	経営管の理論について関心をもって探究できる。
4	経営管理の理論について自らの意見を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、企業など現代の組織をめぐり経営管理の理論を深く理解するため、主に日本語文献を素材に、経営学の視点から議論する。必要に応じ外国語文献も取り入れる。本授業には参加者があらかじめ文献を精読し要点・論点を準備の上参加し、授業時間は要点・論点の確認、議論、教員による解説で構成される。

なお、教材については、経営管理論の研究動向に加え参加者の状況を考慮してふさわしいテキスト(本、論文等)を選択するので、授業計画にあげる冊数は変更する場合がある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と要点整理、あわせて本授業に関連する情報の収集。
- ・本授業に関して最低でも週4時間程度の自主的学習を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。文献講読、情報収集についてのアドバイス。参加者より研究計画の説明。
■第2回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第3回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第4回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第5回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第6回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第7回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第8回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第9回	文献2冊目の検討

授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連情報の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連情報の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

経営管理論演習 12K02

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書 事前に、経営学の理論的基礎について以下を読んでおくことを進める。なお、必携テキストは授業開始後にアナウンスする。榊原清則『経営学入門』(上/下)日経BP、2013年。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
<p>・毎回の要点・論点の報告内容40%、毎回の議論における参画度40%、期末レポート20%の総合評価とする。</p> <p>・到達目標①～④は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標①②④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。</p>		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
経営管理演習	Business Management (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K02	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81586121	81596121
履修における注意点	
令和元年度以降入学生対象科目	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

企業など、現代の組織における経営管理の諸課題に関する研究

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中川 香代	人文社会科学部	公開 Open	nakagawa@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階 202号、中川香代研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本概念を理解していること。
- ・文献講読、討論に対する主体的な参画態度を身につけていること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

企業、組織、事業、ビジネス、経営、管理、マネジメント

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業は、社会科学コースの中で、現代の企業経営に関わる諸問題を研究する「企業経営領域」に属する科目である。  
 ・本授業の主題は、経営学及び経営管理の諸課題を学術的文献により理解することであり、目的は自らの研究に応用することにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	経営管理の諸課題について、これまでの基礎的理解に加え、新たに1つ以上理解したことを説明できる。
2	現代企業の経営管理を自ら批判的に考察することができる。
3	経営管の諸課題について関心をもって探究できる。
4	経営管理の諸課題について自らの意見を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、企業など現代の組織をめぐる経営管理の諸課題を深く理解するため、主に日本語文献を素材に、経営学の視点から議論する。必要に応じ外国語文献も取り入れる。本授業には参加者があらかじめ文献を精読し要点・論点を準備の上、あるいは調査報告を準備の上、参加し、授業時間は要点・論点の確認または調査報告、議論、教員による解説で構成される。

なお、教材、調査内容については、経営管理論の研究動向に加え参加者の状況を考慮してふさわしいテキスト(本、論文等)調査対象を選択するので、授業計画の冊数及び報告内容を変更する場合がある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と要点整理、あるいは調査と調査報告のまとめ、あわせて本授業に関連する情報の収集。
- ・本授業に関して最低でも週4時間程度の自主的学習を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。文献講読、情報収集、調査についてのアドバイス。参加者より研究計画の説明。
■第2回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第3回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第4回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第5回	文献2冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第6回	文献2冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第7回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第8回	文献2冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第9回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討



授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第10回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第11回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第12回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第13回	文献4冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第14回	文献4冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連情報の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連情報の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

経営管理論特論 12K01

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書：井上達彦『ブラックスワンの経営学 通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディ』日経BP，2014年。必携書、必読書については授業中に指導する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
<p>・毎回の報告内容40%、毎回の議論における参画度40%、期末レポート20%の総合評価とする。</p> <p>・到達目標①～④は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標①②④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。</p>		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
人事管理特論	Human Resource Management (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81581271	81591271
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

企業などの組織と人事管理の諸理論の検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中川 香代	人文社会科学部	非公開 Closed	公開 Open nakagawa@kochi-u.ac.jp

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜1限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2F 202号 中川研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本概念を理解していること。
- ・文献講読、討論に対する主体的な参画態度を身につけていること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

企業、組織、人事管理、人的資源管理、労務管理、マネジメント

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・本授業は、社会科学コースの中で、現代の企業経営に関わる諸問題を研究する「企業経営領域」に属する科目である。
- ・本授業の主題は、人事労務管理及び人的資源管理の理論を学術的文献により理解することであり、目的は自らの研究に応用することにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	組織及び人事管理について、これまでの基礎的理解に加え、新たに理解した理論を1つ以上説明できる。
2	人事管理の理論を自ら批判的に考察することができる。
3	人事管理の理論について関心をもって探究できる。
4	人事管理の理論について自らの意見を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、企業など現代の組織をめぐり組織及び人事管理の理論を深く理解するため、主に日本語文献を素材に、経営学の視点から議論する。必要に応じ外国語文献も取り入れる。本授業には参加者があらかじめ文献を精読し要点・論点を準備の上参加し、授業時間は要点・論点の確認、議論、教員による解説で構成される。  
なお、教材については、人事管理論の研究動向に加え参加者の状況を考慮してふさわしいテキスト(本、論文等)を選択するので、授業計画にあげる冊数は変更する場合がある。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と要点整理、あわせて本授業に関連する情報の収集。
- ・本授業に関して最低でも週4時間程度の自主的学習を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。文献講読、情報収集についてのアドバイス。参加者より研究計画の説明。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第3回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第4回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第5回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第6回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第7回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第8回	文献1冊目の検討。
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説

授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第9回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、関連情報の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連情報の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
評価のスケジュール	総括レポートの提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連情報の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

人事管理論演習 12K04

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書 事前に、人事管理の理論的基礎について以下を読んでおくことを進める。なお、必携テキストは授業開始後にア  
ナウンスする。上林憲雄・平野光俊編『日本の人事システム』同文館、2019年。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・毎回の要点・論点の報告内容40%、毎回の議論における参画度40%、期末レポート20%の総合評価とする。  
 ・到達目標①～④は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標①②④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
人事管理演習	Human Resource Management (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81586221	81596221
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

企業など、現代の組織における人事管理の諸課題に関する研究

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	中川 香代	人文社会科学部	非公開 Closed	nakagawa@kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜2限 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2F 202号 中川研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・経営学の基礎を修得済みであり、基本概念を理解していること。
- ・文献講読、討論に対する主体的な参画態度を身につけていること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

企業、組織、人事管理、人的資源管理、労務管理、マネジメント

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業は、社会科学コースの中で、現代の企業経営に関わる諸問題を研究する「企業経営領域」に属する科目である。  
・本授業の主題は、組織及び人事管理の諸課題を学術的文献により理解することであり、目的は自らの研究に応用することにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	人事管理の諸課題について、これまでの基礎的理解に加え、新たに1つ以上理解したことを説明できる。
2	現代企業の人事管理を自ら批判的に考察することができる。
3	人事管理の諸課題について関心をもって探究できる。
4	人事管理の諸課題について自らの意見を的確に表現し、他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、企業など現代の組織をめぐる人事管理の諸課題を深く理解するため、主に日本語文献を素材に、経営学の視点から議論する。必要に応じ外国語文献も取り入れる。本授業には参加者があらかじめ文献を精読し要点・論点を準備の上、あるいは調査報告を準備の上、参加し、授業時間は要点・論点の確認または調査報告、議論、教員による解説で構成される。

なお、教材、調査内容については、人事管理論の研究動向に加え参加者の状況を考慮してふさわしいテキスト(本、論文等)調べ対象も選択するので、授業計画の冊数及び報告内容を変更する場合があります。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と要点整理、あるいは調査と調査報告のまとめ、あわせて本授業に関連する情報の収集。
- ・本授業に関して最低でも週4時間程度の自主的学習を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。文献講読、情報収集、調査についてのアドバイス。参加者より研究計画の説明。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第3回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第4回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第5回	文献2冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第6回	文献2冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第7回	文献1冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第8回	文献2冊目あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説



授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第9回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第10回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第11回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第12回	文献3冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第13回	文献4冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第14回	文献4冊目の検討あるいは調査報告に関わる検討
授業概要	論点の指摘・ディスカッション・解説
授業時間外の学習	テキストの精読、要点・論点の整理、または調査及び関連情報の収集、報告レジュメの作成。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連情報の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
評価のスケジュール	総括レポートの提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連情報の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

人事管理特論 12K03

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書：原田順子・平野光俊編『新訂 人的資源管理論』放送大学教育振興会，2018年。必携書、必読書については授業中に指導する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績

良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・毎回の報告内容40%、毎回の議論における参画度40%、期末レポート20%の総合評価とする。  
 ・到達目標①～④は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標①②④については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
会計学特論	Financial Accounting I (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81593171	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

企業会計基準(日本の会計基準)と会計処理

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	伊丹 清	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2F208 伊丹清研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

中級程度の簿記の知識を有していることが望ましい

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告、修正国際基準(JMIS)、国際財務報告基準(IFRS)

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・企業会計基準(日本の会計基準)および会計処理の概略を理解する。
- ・企業会計基準(日本の会計基準)と国際財務報告基準(IFRS、国際会計基準)の若干の差異を理解する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	日本の会計基準の概略を理解する。
2	日本の会計基準による具体的会計処理の概略を理解する。
3	企業会計基準(日本の会計基準)と国際財務報告基準(国際会計基準)との若干の差異を理解する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、企業会計基準(日本の会計基準)および会計処理の概略と、企業会計基準(日本の会計基準)と国際財務報告基準(国際会計基準)の若干の差異を理解し、日本の会計の現状を把握する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集等についてのアドバイス。
■第2回	日本の会計基準・会計処理(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	日本の会計基準・会計処理(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	日本の会計基準・会計処理(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	日本の会計基準・会計処理(4)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	日本の会計基準・会計処理(5)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	日本の会計基準・会計処理(6)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	日本の会計基準・会計処理(7)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	日本の会計基準・会計処理(8)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。

■第10回	日本の会計基準・会計処理(9)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	日本の会計基準・会計処理(10)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	日本の会計基準・会計処理(11)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	日本の会計基準・会計処理(12)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	日本の会計基準・会計処理(13)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計学演習、12K12  
 財務会計特論、12K13  
 財務会計演習、12K14

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

テキスト:伊藤邦雄著『新・現代会計入門(第4版)』(日本経済新聞社)

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

<https://www.asb.or.jp>

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

企業会計基準委員会HP

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容35%、毎回の議論における参加態度35%、期末レポート30%の総合評価とする。
- ・到達目標①～③とも、毎回の授業態度と期末レポートを合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
会計学演習	Financial Accounting I (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81598121	
履修における注意点	
資格等	
教免—高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」の検討

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	伊丹 清	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2F208 伊丹清研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・中級程度の簿記の知識を有していることが望ましい。
- ・財務会計論特論を履修済みであることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

国際会計基準審議会 (IASB)、国際財務報告基準 (IFRS)、概念フレームワーク

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・本授業のテーマは、国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」の内容を理解するとともに、「概念フレームワーク」が会計基準および会計制度に果たす役割を検討をことにある。
- ・また、国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」が日本の会計基準 (企業会計基準) と日本の会計制度に果たす役割についても検討する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」の内容を理解する。
2	国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」が会計基準および会計制度に果たす役割を理解する。
3	国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」が日本の会計基準 (企業会計基準) と日本の会計制度に果たす役割を理解する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」の各章の内容を正確に理解し、その上で「概念フレームワーク」が会計基準および会計制度に果たす役割、ならびに、日本の会計基準 (企業会計基準) と日本の会計制度に果たす役割について検討する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。海外の文献収集についてのアドバイス。
■ 第2回	国際会計基準審議会 (IASB) 2018年「概念フレームワーク」が完成するまでの経緯
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	第1章 一般目的財務報告の目的
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	第2章 有用な財務情報の質的特性(1)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	第2章 有用な財務情報の質的特性(2)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	第3章 財務諸表と報告企業
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	第4章 財務諸表の構成要素(1)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	第4章 財務諸表の構成要素(2)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。
■ 第9回	第5章 認識と認識の中止(1)
授業概要	報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成 (担当者)。関連資料の収集。



■第10回 授業概要 授業時間外の学習	第5章 認識と認識の中止(2) 報告とディスカッション テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回 授業概要 授業時間外の学習	第6章 測定(1) 報告とディスカッション テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回 授業概要 授業時間外の学習	第6章 測定(2) 報告とディスカッション テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回 授業概要 授業時間外の学習	第7章 表示と開示 報告とディスカッション テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回 授業概要 授業時間外の学習	第8章 資本と資本維持の概念 報告とディスカッション テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回 授業概要 授業時間外の学習	全体の総括(「概念フレームワーク」の役割の検討) 各自発表 報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回 授業概要 授業時間外の学習	総括レポートの作成・提出 総括レポートの作成・提出 レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計学特論、12K11  
財務会計特論、12K13  
財務会計演習、12K14

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

企業会計基準委員会(監修, 翻訳)、公益財団法人財務会計基準機構(監修, 翻訳)、IFRS財団(編集)『IFRS®基準(注釈付き)2019』中央経済社  
あずさ監査法人(編集)『詳解 IFRSの基盤となる概念フレームワーク』中央経済社  
岩崎 勇『IFRSの概念フレームワーク』税務経理協会

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

<https://www.ifrs.org/login/?returnUrl=http://www.ifrs.org>

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

「国際会計基準審議会(IASB)のウェブサイト」(国際財務報告基準(IFRS)および概念フレームワークの原文入手のためのログインページ)

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点~100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点~89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点~79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点~69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
<ul style="list-style-type: none"><li>・担当時の報告内容35%、毎回の議論における参加態度35%、期末レポート30%の総合評価とする。</li><li>・到達目標①～③とも、毎回の授業態度と期末レポートを合わせて評価する。</li></ul>		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
財務会計特論	Financial Accounting II (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81583271	81593271
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

収益性、生産性、安全性の観点からの財務諸表分析

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	伊丹 清	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階208 伊丹清研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・中級程度の簿記の知識を有していることが望ましい。
- ・会計論特論を履修済みであることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

財務諸表分析 貸借対照表 損益計算書 キャッシュ・フロー計算書 収益性の分析 生産性の分析 安全性の分析 比較

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)の構造を理解する。
- ・財務諸表の収益性面の分析を理解する。
- ・財務諸表の生産性面の分析を理解する。
- ・財務諸表の安全性面の分析を理解する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)の構造を理解する。
2	財務諸表の収益性面の分析を理解する。
3	財務諸表の生産性面の分析を理解する。
4	財務諸表の安全性面の分析を理解する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

まず、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の構造を理解する。次に、財務諸表の収益性面の分析、生産性面の分析、安全性面の分析について勉強する。最後に、学生が感心ある企業について実際の財務諸表分析(ケース・スタディ)を行い報告する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。財務諸表の取得方法等についてのアドバイス。
■第2回	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の構造(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第3回	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の構造(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第4回	財務諸表の収益性面の分析(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第5回	財務諸表の収益性面の分析(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第6回	財務諸表の収益性面の分析(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第7回	財務諸表の生産性面の分析(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説

評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第8回	財務諸表の生産性面の分析(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第9回	財務諸表の生産性面の分析(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第10回	財務諸表の安全性面の分析(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第11回	財務諸表の安全性面の分析(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第12回	財務諸表の安全性面の分析(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第13回	実際の財務諸表分析---ケース・スタディ(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第14回	実際の財務諸表分析---ケース・スタディ(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第15回	実際の財務諸表分析---ケース・スタディ(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。報告資料の作成(担当者)。
■第16回	期末レポートの提出
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポート
授業時間外の学習	期末レポートの作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計学演習、12K12  
 会計学特論、12K11  
 財務会計演習、12K14

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

テキスト: 桜井久勝著『財務諸表分析(第8版)』中央経済社(2020年)

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/E01EW/BLMainController.jsp?uji.bean=ee.bean.parent.EECommonSearchBean&uji.verb=W0EZA230CXP001007BLogic&TID=W1E63010&PID=currentPage&SESSIONKEY=&lgKbn=2&dflg=0&iflg=0

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

金融庁 EDINET(有価証券報告書等の開示書類を閲覧するサイト)

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容35%、毎回の議論における参加態度35%、期末レポート30%の総合評価とする。
- ・到達目標1～4とも、毎回の授業態度と期末レポートを合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
財務会計演習	Financial Accounting II (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81588221	81598221
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	伊丹 清	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(要予約)
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階208 伊丹清研究室
----------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中級程度の簿記の知識を有していることが望ましい。</li> <li>・会計論特論を履修済みであることが望ましい。</li> </ul>
---

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

金融商品会計 減損会計 公正価値会計 公正価値測定
---------------------------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

金融商品会計と減損会計の実務内容と、そこで使用される公正価値測定(公正価値会計)の内容を理解する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	金融商品会計の実務内容を理解する。
2	減損会計の実務内容を理解する。
3	公正価値測定(公正価値会計)の内容を理解する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本の金融商品会計と減損会計について会計基準等と関連する資料を基に実務面を中心に勉強する。また、公正価値測定(公正価値会計)については、テキスト、会計機銃、関連する資料を基に測定方法および概念について勉強する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集方法等についてのアドバイス。
■第2回	日本の金融商品会計(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第3回	日本の金融商品会計(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第4回	日本の金融商品会計(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第5回	日本の金融商品会計(4)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第6回	日本の金融商品会計(5)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第7回	日本の減損会計(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度



授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第8回	日本の減損会計(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第9回	日本の減損会計(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第10回	公正価値会計(1)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第11回	公正価値会計(2)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第12回	公正価値会計(3)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第13回	公正価値会計(4)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第14回	公正価値会計(5)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第15回	金融商品会計・減損会計と公正価値測定(まとめの議論)
授業概要	報告とディスカッションおよび教員による要点の解説
評価のスケジュール	担当時の報告内容と議論への参加態度
授業時間外の学習	テキスト文献の精読。関連資料の収集と精読。報告資料の作成(担当者)。
■第16回	期末レポートの提出
授業概要	期末レポートの提出
評価のスケジュール	期末レポート
授業時間外の学習	期末レポートの作成
担当教員	伊丹 清

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計学演習、12K12  
 会計学特論、12K11  
 財務会計特論、12K13

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

【金融商品会計の基準等】  
 企業会計基準委員会 企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」最終改正2019年7月4日  
 企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第19号「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」最終改正2020年3月31日  
 企業会計基準委員会 企業会計基準第12号「その他の複合金融商品（払込資本を増加させる可能性のある部分を含まない複合金融商品）に関する会計処理」2006年3月30日（修正日2008年3月10日）  
 企業会計基準第30号「時価の算定に関する会計基準」2019年7月4日  
 【減損会計の基準等】  
 企業会計審議会「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」平成14年8月9日  
 企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第6号「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」最終改正平成21年3月27日  
 【公正価値会計関係】  
 テキスト：ドロン・ニッシム、ステファン・ペンマン著・角ヶ谷典幸、赤城諭士訳『公正価値会計のフレームワーク』中央経済社（2012年）

**Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

1. <https://www.asb.or.jp/jp/>  
 2. [https://www.fsa.go.jp/singi/singi\\_kigyuu/top\\_tousin.html](https://www.fsa.go.jp/singi/singi_kigyuu/top_tousin.html)

**Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】**

1. 企業会計基準委員会HP  
 2. 金融庁 企業会計審議会「答申・報告書等」HP  
 (教科書・参考書で示した基準等の入手先)

**成績評価の基準と方法 【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・担当時の報告内容35%、毎回の議論における参加態度35%、期末レポート30%の総合評価とする。  
 ・到達目標1～3とも、毎回の授業態度と期末レポートを合わせて評価する。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
会計制度特論	Financial Reporting System (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81583371	81593371
履修における注意点	
資格等	
教免－高校(商業)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

会計の国際化と日本の会計制度への影響について考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日の昼休み、その他の時間を希望する場合は要予約

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

会計制度、会計基準、IFRS、概念フレームワーク

授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・国際財務報告基準(IFRS)と日本の会計基準のコンバージェンスについて理解し、その影響による日本の会計基準の変更の課題について考える。
- ・国際財務会計基準審議会(IASB)の概念フレームワークの変更に着目し、概念変化と会計基準の変更との関係について理解を深める。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	IFRSの基準設定の歴史的な変化について理解し、説明することができる。
2	IFRSと日本の会計基準のコンバージェンスについて理解し、説明することができる。
3	IFRSとの日本の会計基準のコンバージェンスの影響が日本の会計基準の変更に与えた影響について理解し、説明することができる。
4	IASBの概念フレームワークについて理解し、説明することができる。
5	概念フレームワークの変更が会計基準の変更に及ぼした影響について理解できる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

近年、国際会計基準審議会(IASB)の決定やその会計基準(IFRS)の公表が、日本の会計基準の変更に影響を与えるようになってきている。本講義では、IASBと日本の会計基準設定主体との会計基準設定過程およびその関わりを理解し、日本の会計基準の変更に及ぼす影響について考察を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・授業に関連する資料の収集し、レジュメを作成する。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	講義の概要及び進め方、評価についての説明。
■第2回	日本の会計制度について考える1
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第3回	日本の会計制度について考える2
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第4回	日本の会計制度について考える3
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第5回	国際会計基準委員会の設立から国際会計基準審議会への改組までの歴史的考察
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第6回	国際会計基準審議会と国際財務報告基準
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第7回	国際的な会計基準のコンバージェンス1

授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第8回	国際的な会計基準のコンバージェンス2
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第9回	国際的な会計基準のコンバージェンス3
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第10回	IASBの概念フレームワーク1
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第11回	IASBの概念フレームワーク2
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第12回	IASBの概念フレームワーク3
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第13回	IASBの概念フレームワーク4
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第14回	概念フレームワークの変更が会計基準に及ぼす影響
授業概要	講義とディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合とレジュメの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レジュメの作成
■第15回	まとめ
授業概要	ディスカッション
授業時間外の学習	関連資料の収集、レポートの作成。
■第16回	レポートの作成・提出
評価のスケジュール	レポートの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レポートの作成。

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計制度演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

会計基準設定主体等のホームページで公表されている会計基準等を用いる。  
必要に応じて、参考書については授業の中で指示する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・授業への参加度合(授業中の発言内容等で評価)30%、レジュメの内容40%、期末レポート30%

・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的に評価による。

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
会計制度演習	Financial Reporting System (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81588321	81598321
履修における注意点	
資格等	
教免－高校(商業)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

会計の国際化と日本の会計制度への影響について考える

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日の昼休み、その他の時間を希望する場合は要予約

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。  
会計制度特論を受講していること。

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

個別財務諸表、連結財務諸表、リース会計、企業結合会計

授業科目の主題・目的(箇条書)

・国際財務報告基準(IFRS)と日本の会計基準のコンバージェンスの影響について、個別の会計基準や処理方法を理解することを通して課題について考え、多面的な分析視点をえる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	個別財務諸表と連結財務諸表について理解し、作成することができる。
2	リース会計について理解し、会計基準の相違や変更による課題を考え、分析することができる。
3	企業結合会計について理解し、会計基準の相違や変更による課題を考え、分析することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

IFRSと日本の会計基準のコンバージェンスにおける課題を考える上で、リース会計と企業結合会計をとりあげ、各基準や処理方法、それらに関わる理論動向について理解を深めるとともに、各受講者が論点を整理し、企業が公表する財務諸表を分析する能力を身につけるための基礎的な知識を得る。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・授業に関連する資料の収集し、精読する。
- ・授業中に課された課題に取り組む。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究が必要。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	講義の概要及び進め方、評価についての説明。
■第2回	個別財務諸表の作成
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第3回	連結財務諸表の作成1
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第4回	連結財務諸表の作成2
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第5回	連結財務諸表の作成3
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第6回	リース会計1
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第7回	リース会計2
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む



■第8回	リース会計3
授業概要	報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	報告の準備、レジュメの作成
■第9回	リース会計4
授業概要	報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	報告の準備、レジュメの作成
■第10回	企業結合会計1
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第11回	企業結合会計2
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第12回	企業結合会計3
授業概要	課題の解説とディスカッション
評価のスケジュール	課題
授業時間外の学習	課題に取り組む
■第13回	企業結合会計4
授業概要	報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	報告の準備、レジュメの作成
■第14回	企業結合会計5
授業概要	報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	報告の準備、レジュメの作成
■第15回	まとめ
授業概要	報告とディスカッション
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	報告の準備、レジュメの作成
■第16回	レポートの作成・提出
評価のスケジュール	レポートの内容
授業時間外の学習	関連資料の収集、レポートの作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

会計制度特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

会計基準設定主体等のホームページで公表されている会計基準等を用いる。  
必要に応じて、参考書については授業の中で指示する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・授業への参加度合10%、報告25%、課題の提出45%、期末レポート20%
- ・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的に評価による。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
比較会計制度特論	Comparative Accounting (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K17	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81583471	81593471
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本の会計基準の特徴を国際会計基準やアメリカ会計基準との比較から考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日の昼休み、その他の時間を希望する場合は要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

収益認識、リース会計、金融商品会計、国際会計

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・収益認識、リース会計、金融商品会計をとりあげ、日本基準、国際財務報告基準、アメリカ基準の違いについて理解する。
- ・会計基準の違いが企業の財務諸表にどのような影響を与えているかについて理解し、分析を行う。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	収益認識の国際比較を通して、相違点について説明することができる。
2	リース会計の国際比較を通して、相違点について説明することができる。
3	金融商品会計の国際比較を通して、相違点について説明することができる。
4	多様な会計基準を認める日本の会計制度の問題点や企業経営への影響について理解することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本の会計制度では、日本基準の他、国際財務報告基準(IFRS)、アメリカ会計基準を適用することが認められている。こうした基準の選択を行える制度状況について、収益認識、リース会計、金融商品会計をとりあげ、基準間比較を通して日本の会計制度の改題や企業経営への影響について考察を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・授業に関する資料やデータの収集及び分析を行い、報告資料を作成する。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	講義の概要及び進め方、評価についての説明。
■第2回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBの基準設定プロセスと各会計制度の概要について考える1
評価のスケジュール	授業の参画度合い
授業時間外の学習	テキストや参考資料の講読
■第3回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBの基準設定プロセスと各会計制度の概要について考える2
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第4回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBの基準設定プロセスと各会計制度の概要について考える3
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第5回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおける収益認識について考える1
評価のスケジュール	授業の参画度合い
授業時間外の学習	テキストや参考資料の講読
■第6回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおける収益認識について考える2
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第7回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおける収益認識について考える3
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第8回	講義とディスカッション

授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおけるリース会計について考える1
評価のスケジュール	授業の参画度合い
授業時間外の学習	テキストや参考資料の講読
■第9回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおけるリース会計について考える2
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第10回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおけるリース会計について考える3
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第11回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える1
評価のスケジュール	授業の参画度合い
授業時間外の学習	テキストや参考資料の講読
■第12回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える2
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	テキストや参考資料の講読
■第13回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える3
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第14回	講義とディスカッション
授業概要	ASBJ、IASB、FASBにおける金融商品会計について考える4
評価のスケジュール	授業の参画度合いと報告資料の内容
授業時間外の学習	データの収集・分析及び報告資料の作成
■第15回	まとめ
授業概要	これまでのふりかえりとディスカッション
評価のスケジュール	授業の参画度合い
授業時間外の学習	データの収集・分析及び期末レポートの作成準備
■第16回	レポートの作成・提出
評価のスケジュール	レポートの内容
授業時間外の学習	レポートの作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

比較会計制度演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

オリエンテーションで指示する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
----	----	----

秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考えなどが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

・授業への参画度合い(授業中の発言等で評価)30%、報告資料の内容40%、期末レポート30%

・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的評価による。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
比較会計制度演習	Comparative Accounting (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K18	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81588421	81598421
履修における注意点	
資格等	
教免一高校(商業)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本の会計基準の特徴を国際会計基準やアメリカ会計基準との比較から考える

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	山内 高太郎	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日の昼休み、その他の時間を希望する場合は要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3F 341 山内研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

会計学の基礎的な知識を有し、中級レベル以上の簿記の知識を有していること。  
比較会計制度特論を受講していること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

財務諸表分析、IFRS、国際会計

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・日本基準で作成された財務諸表と国際財務報告基準で作成された財務諸表を分析する能力を養う。
- ・日本基準から国際財務報告基準への変更や基準が選択できる状況が、企業経営に与える影響について考える。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	日本基準で作成された財務諸表を分析することができる。
2	国際財務報告基準で作成された財務諸表を分析することができる。
3	財務諸表の分析結果と企業経営を結びつけて説明することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

日本基準、国際財務報告基準で作成された財務諸表の分析を通して、各受講者が企業が公表する財務諸表を分析するための知識や手法を理解し、その論点を明確に説明できる能力を得る。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・授業に関連する資料の収集し、精読する。
- ・授業中に課された課題に取り組む。
- ・最低でも週8時間程度の自主的研究が必要。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	講義の概要及び進め方、評価についての説明。
授業時間外の学習	課題についての学習
■第2回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	日本の財務諸表の分析手法を学ぶ1
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第3回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	日本の財務諸表の分析手法を学ぶ2
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第4回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	日本の財務諸表の分析手法を学ぶ3
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第5回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	日本の財務諸表の分析手法を学ぶ4
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	報告の準備と作成
■第6回	報告1
授業概要	日本の財務諸表の分析結果について報告を行う。
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	課題についての学習
■第7回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ1
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第8回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ2



評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第9回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ3
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第10回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ4
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第11回	財務諸表の分析手法を学ぶ
授業概要	IFRSで作成された財務諸表の分析手法を学ぶ5
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	報告の準備と作成
■第12回	報告2
授業概要	IFRSで作成された財務諸表の分析結果について報告を行う。
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	課題についての学習
■第13回	財務諸表の比較分析
授業概要	日本基準で作成された財務諸表とIFRSで作成された財務諸表の比較を行う1
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	課題についての学習
■第14回	財務諸表の比較分析
授業概要	日本基準で作成された財務諸表とIFRSで作成された財務諸表の比較を行う2
評価のスケジュール	授業の参画度合いと課題
授業時間外の学習	報告の準備と作成
■第15回	報告3
授業概要	日本基準で作成された財務諸表とIFRSで作成された財務諸表の比較分析結果について報告を行う。
評価のスケジュール	報告内容
授業時間外の学習	期末レポートの準備と作成
■第16回	レポートの作成・提出
評価のスケジュール	レポートの内容
授業時間外の学習	レポートの作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

比較会計制度特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

オリエンテーションで指示する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評価	評点	基準
----	----	----

秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方が理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・授業の参画度合約10%、報告30%、課題の提出約30%、期末レポート30%
- ・到達目標への到達度合いは、上記項目の総合的に評価による。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
マーケティング論特論	Marketing (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K21	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81581671	81591671
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

マーケティングの基本を理論的に学ぶ

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	磯田 友里子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

磯田研究室(人文社会科学部棟3階 318)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・企業のマーケティング戦略動向について、普段から情報収集に努めていること。
- ・自身の日々の消費行動を客観的に観察し、考察できること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

マーケティング、ブランド、消費者行動

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本講義では、企業のマーケティング活動を理論的に解説し、これらを現実にもどのように生かすかを考える。  
 ・学生が自身の研究テーマとして特定の企業や産業を扱う場合、当該対象を多面的に捉えるための視点のひとつを提供する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	企業のマーケティング活動について、理論的枠組みを用いて説明できる。
2	企業のマーケティング活動について、理論に基づいた考察・批判ができる。
3	企業のマーケティング活動について、実例と理論を用いて他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本講義では、マーケティングの理論と実践について学び、考察する。具体的には、教科書の輪読と並行して、学習した理論的枠組みを用いて実際の企業のマーケティング活動を考察するという発表の機会を設ける。この他、履修学生の希望に応じて講義内容を決定する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読および報告資料の作成
- ・企業のマーケティング活動についての資料収集および分析

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明、報告順の決定、文献収集の仕方について
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第2回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第3回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第4回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第5回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第6回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第7回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第8回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■ 第9回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第10回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第11回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第12回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第13回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第14回	テキストの輪読、企業のマーケティング活動についての分析報告
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第15回	総括
授業概要	各自の研究について発表、ディスカッション
授業時間外の学習	報告資料の作成
■第16回	期末レポートの提出
授業概要	期末レポートの提出および研究相談
授業時間外の学習	レポート執筆

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

マーケティング論演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

[必携]フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人(2014)「コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理」丸善出版株式会社。  
 フィリップ・コトラー、ヘルマウン・カルタジャヤ、イワン・セティアワン(2017)「コトラーのマーケティング4.0-スマートフォン時代の究極法則」(恩蔵直人監訳)朝日新聞出版。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
・テキスト輪読担当時の報告内容30%、企業のマーケティング活動についての分析担当時の報告内容10%、毎回の議論への参加態度40%、期末レポート20%		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
マーケティング論演習	Marketing (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K22	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81586621	81596621
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

マーケティングの専門的理論を学ぶ

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	磯田 友里子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜2限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

磯田研究室(人文社会科学部棟3階 318)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・企業のマーケティング戦略動向について、普段から情報収集に努めていること。
- ・自身の日々の消費行動を客観的に観察し、考察できること。
- ・マーケティング論特論を受講済みであることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

マーケティング、ブランド、消費者行動

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・本講義では、近年のマーケティング研究の動向を捉え、これらを批判的に検討する。
- ・学生が自身の研究テーマとして特定の企業や産業を扱う場合、当該対象を多面的に捉えるための視点のひとつを提供する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	マーケティングの専門的な理論を理解できる。
2	マーケティングの専門的な理論に基づいた考察・批判ができる。
3	マーケティングの専門的な理論に基づき、自らの立場を明確にしながら他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本講義では、マーケティングの専門的な理論を学び、批判的な検討を加える。具体的には、論文を主とした最新の文献を素材とし、これらを輪読する。この他、履修学生の希望に応じて講義内容を決定する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・論文の精読および報告資料の作成
- ・関連資料収集および分析

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明、報告順の決定、文献収集の仕方について
授業時間外の学習	論文の選択、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第2回	論文の読み方について
授業概要	論文の読む際のポイントを解説
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第3回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第4回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第5回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第6回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第7回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第8回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第9回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション



授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第10回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第11回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第12回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第13回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第14回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第15回	論文の輪読
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
授業時間外の学習	論文の精読、報告資料の作成・資料収集(担当者)
■第16回	期末レポートの提出
授業概要	期末レポートの提出および研究相談
授業時間外の学習	レポート執筆

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

マーケティング論特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人(2014)「コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理」丸善出版株式会社。  
 フィリップ・コトラー、ヘルマウン・カルタジャヤ、イワン・セティアワン(2017)「コトラーのマーケティング4.0-スマートフォン時代の究極法則」(恩蔵直人監訳)朝日新聞出版。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
----	-------	--

・論文輪読担当時の報告内容40%、毎回の議論への参加態度40%、期末レポート20%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
消費者行動論特論	Consumer Behavior (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K23	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81581771	81591771
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

消費者行動論の基本を理論的に学ぶ

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	磯田 友里子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(事前にアポイントメントをとってください)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

磯田研究室(人文社会科学部棟3階 318)またはTeams

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

・自身と他者の日々の消費行動を客観的に観察し、考察できること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

消費者行動、統計分析、マーケティング

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・本講義では、消費者行動を理論的に解説する。
- ・学生が自身の研究テーマとして特定の企業や産業を扱う場合、当該対象を多面的に捉えるための視点のひとつを提供する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	消費者行動について、理論的枠組みを用いて説明できる。
2	消費者行動について、理論に基づいた考察・批判ができる。
3	消費者行動について、実例と理論を用いて他者と議論することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本講義では、消費者行動の理論について学び、考察する。具体的には、教科書の輪読と並行して、学習した理論的枠組みを用いて実際の消費者行動を考察するという発表の機会を設ける。この他、履修学生の希望に応じて講義内容を決定する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読および報告資料の作成
- ・身近な消費者行動についての資料収集および分析

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明、報告順の決定、文献収集の仕方について
評価のスケジュール	特になし
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第2回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
担当教員	
■第3回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	授業への参画、報告のパフォーマンス
評価のスケジュール	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第4回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第5回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第6回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
■第7回	

授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
<b>■第8回</b>	
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
<b>■第9回</b>	
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
<b>■第10回</b>	
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
<b>■第11回</b>	
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
<b>■第12回</b>	
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、資料収集(担当者)
<b>■第13回</b>	
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	研究計画書作成
<b>■第14回</b>	
授業概要	研究計画書報告①
評価のスケジュール	発表のパフォーマンス
授業時間外の学習	報告準備
<b>■第15回</b>	
授業概要	研究計画書報告②
評価のスケジュール	発表のパフォーマンス、期末レポート(研究計画書)
授業時間外の学習	報告準備

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

消費者行動論演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司『消費者行動論-マーケティングとブランド構築への応用』有斐閣アルマ。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業参画40%、報告のパフォーマンス30%(輪読報告15%、資料報告15%)、期末レポート30%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
消費者行動論演習	Consumer Behavior (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12K24	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81586721	81596721
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

調査デザインと統計分析の実践

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	磯田 友里子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限(事前にアポイントメントをとってください)

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

磯田研究室(人文社会科学部棟3階 318)またはTeams

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・学部レベルの統計の知識があること。
- ・消費者行動論の教科書レベルの基礎知識があること。
- ・調査にあたり、40名以上から調査票の回答を得る準備があること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

消費者行動、マーケティング、統計分析、HAD

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・社会調査系論文の読み方を学ぶ。
- ・自分で質問票調査を設計し、簡単な統計分析を行う。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	統計手法を用いた社会調査系論文を読み、理解できる
2	目的に合った統計手法を選べる
3	自分で質問票調査の設計ができる
4	HADを使い、簡単な統計分析ができる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

社会調査系論文の読み方を学習した後、消費者行動に関する簡単なテーマを設定し、調査票調査を設計して分析まで行います。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読および関連文献の調査
- ・調査の実施

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業概要の説明、報告順の決定
評価のスケジュール	特になし
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)、関連文献収集(担当者)
■ 第2回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストと関連文献の精読、報告資料の作成(担当者)、関連文献収集(担当者)
■ 第3回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストと関連文献の精読、報告資料の作成(担当者)、関連文献収集(担当者)
■ 第4回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストと関連文献の精読、報告資料の作成(担当者)、関連文献収集(担当者)
■ 第5回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス
授業時間外の学習	テキストと関連文献の精読、報告資料の作成(担当者)、関連文献収集(担当者)
■ 第6回	輪読・報告・ディスカッション
授業概要	輪読・報告・ディスカッション
評価のスケジュール	授業への参画、報告のパフォーマンス



授業時間外の学習	テーマの決定と使用する分析手法の決定
■第7回	
授業概要	テーマと分析手法の発表、調査票設計について解説
評価のスケジュール	発表のパフォーマンス
授業時間外の学習	調査票設計
■第8回	
授業概要	調査票の相互確認、修正
評価のスケジュール	調査票
授業時間外の学習	調査票の修正、HADのマニュアル熟読
■第9回	
授業概要	HADの使い方①
評価のスケジュール	調査票
授業時間外の学習	調査実施
■第10回	
授業概要	HADの使い方②
評価のスケジュール	授業参画
授業時間外の学習	調査実施、統計分析
■第11回	
授業概要	分析結果発表①
評価のスケジュール	分析の質、発表のパフォーマンス
授業時間外の学習	特になし
■第12回	
授業概要	分析結果発表②
評価のスケジュール	分析の質、発表のパフォーマンス
授業時間外の学習	特になし
■第13回	
授業概要	分析結果発表③
評価のスケジュール	分析の質、発表のパフォーマンス
授業時間外の学習	特になし
■第14回	
授業概要	分析結果発表④
評価のスケジュール	分析の質、発表のパフォーマンス
授業時間外の学習	レポート執筆
■第15回	
授業概要	期末レポート提出
評価のスケジュール	期末レポート
授業時間外の学習	レポート執筆

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

消費者行動論特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

浦上昌則・脇田貴文(2020)「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版」東京図書株式会社。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業参画40%、発表のパフォーマンス15%、調査票15%、期末レポート30%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
民法特論	Civil Code (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G01	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81591171	81561171
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

土地所有権の現代的課題

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary ishhuues in property, especialy land ownership

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR' S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日 3時限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学棟201研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法物権法に興味があること。  
土地所有権に関する現代的諸課題に関心があること。  
学士課程において民法の基礎的事項を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

民法、物権法、所有権、空洞化

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・近代的土地所有権の特質を理解し、現代において土地所有権が社会的にどのように位置づけられ、社会的にどのような存在であるのかを理解する。
- ・現代社会に生起している土地所有を巡る諸問題について文献調査などに基づいて検討する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	民法物権法の基本的内容を理解し、その概要を説明することができる。
2	土地所有権の近代法的特徴を理解し、その概要を説明することができる。
3	土地所有権の現代的課題について、調査、研究し、課題について考察することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

民法第2編物権のうち、特に所有権について考えます。民法上の権利の基本的性質と物権の特徴を理解し、その上で、所有権がどのような性質を持っているか、および近代法における所有権の位置づけについて検討します。その上で、土地所有権が引き起こしている現代的な諸課題について、現実 に即して考え、解決策を探ります。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業時間外に相当な時間を費やして、民法、物権法、所有権に関する諸文献を読んでもらいます。また、必要に応じて実態調査をってもらう場合もあります。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	授業概要の説明およびスケジュールの確認
授業概要	講義の全体像の提示
授業時間外の学習	必要文献の収集(図書館その他からの情報集め)および報告準備
■第2回	民法物権法の特徴(1)立法過程(2)
授業概要	地租改正、旧民法、明治民法に見られる近代的所有権の成立過程
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第3回授業に向けた文献収集と報告準備
■第3回	民法物権法の特徴(1)立法過程(2)
授業概要	現行民法、不動産登記法等における所有権の位置づけ
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第4回授業に向けた文献収集と報告準備
■第4回	民法物権法の特徴(2)所有権法の理論(1)
授業概要	所有権の近代法的性質
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第5回授業に向けた文献読解と報告準備
■第5回	民法物権法の特徴(2)所有権法の理論(2)
授業概要	所有権の近代法的性質
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第6回授業に向けた文献収集と報告準備
■第6回	民法物権法の特徴(3)近代法における債権の優越的地位(1)
授業概要	債権と物権の比較による物権法の理解
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第7回授業に向けた文献収集と報告準備
■第7回	民法部権法の特徴(3)近代法における債権の優越的地位(2)
授業概要	債権と物権の比較による物権法の理解
評価のスケジュール	報告および討論を評価します

授業時間外の学習	第8回授業に向けた文献収集と報告準備
■第8回	土地所有権の現代的課題(1)権利の空洞化現象(1)
授業概要	用益物権(入会権等)、漁業権等の空洞化現象
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第9回授業に向けた文献収集と報告準備
■第9回	土地所有権の現代的課題(1)権利の空洞化現象(2)
授業概要	耕作放棄と空き家問題
評価のスケジュール	第10回授業に向けた文献収集と報告準備
■第10回	土地所有権の現代的課題(2)所有者不明地(1)
授業概要	所有者不明地問題の実態把握
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第11回授業に向けた文献収集と報告準備
■第11回	土地所有権の現代的課題(2)所有者不明地(2)
授業概要	所有者不明地の利用再開、促進政策の現在
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第12回授業に向けた文献収集と報告準備
■第12回	土地所有権の現代的課題(2)所有者不明地(3)
授業概要	相続登記等
評価のスケジュール	報告および討論を評価します
授業時間外の学習	第13回授業に向けた情報検索と報告準備
■第13回	土地所有権の現代的課題調査(1)
授業概要	文献研究の実施方法
評価のスケジュール	報告を評価します
授業時間外の学習	第14回授業の報告準備
■第14回	土地所有権の現代的課題調査(2)
授業概要	課題設定
評価のスケジュール	報告を評価します
授業時間外の学習	第15回授業の報告準備
■第15回	土地所有権の現代的課題調査
授業概要	レポート作成経過報告
評価のスケジュール	報告を評価します
授業時間外の学習	レポート作成
■第16回	レポート作成・提出
授業概要	レポート作成・提出
評価のスケジュール	レポートを評価します
授業時間外の学習	レポート作成

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

飯國芳明他編『土地所有権の空洞化』(2018 ナカニシヤ出版)、新保輝幸他編『変容するコモンズ』(2012 ナカニシヤ出版)  
このほか、川島武宜『所有権法の理論』(1949岩波書店)、我妻栄『近代法における債権の優越的地位』(1948岩波書店)等を参照します。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

<b>授業題目【Course Title】</b>	<b>英文科目名</b>
民法演習	Civil Code (Seminar)
<b>申請コード【Course Code】</b>	<b>単位数【Course Credits(Units)】</b>
12G02	2
<b>授業種別【Course Classification】</b>	<b>履修開始年次</b>
演習	1
<b>履修期間【Semester】</b>	<b>時間割【Day/Period】</b>
第2学期	
<b>区分等</b>	
平成27年度以降	
大学院科目	
<b>ナンバリングコード1</b>	<b>ナンバリングコード2</b>
81596121	81566121
<b>履修における注意点</b>	
<b>資格等</b>	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

### 副題【SUBHEADING】

#### 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

土地所有権の現代的諸課題

#### 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary issues in land ownership

### 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

### オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日3時限

### 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学棟201研究室

### 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

1学期に開講する民法特論を受講していることが望ましい。  
土地(不動産)問題、特に空き家や耕作放棄地等、所有権の空洞化現象に興味・関心があることが望ましい。

### 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

### キーワード【KEYWORD】

土地所有権、空洞化現象、耕作放棄地、空き家、所有者不明地、相続登記未了

### 授業科目の主題・目的(箇条書)

・土地所有権に関する現代的諸課題を検討対象として、課題について理解し、課題解決に向けた研究手法や調査方法等  
 を検討し、実践する。  
 ・調査および研究した内容について、報告、議論し、文章にまとめる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	土地所有権の現代的諸課題について理解できる。
2	課題解決に向けた調査・研究方法について検討できる。
3	課題解決に向けた調査・研究を行い、課題解決に向けた提案ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

・土地所有権に関する諸問題について、調査・研究を通じて社会的現実の中から課題を設定し、その解決策を検討していくことで、修士論文作成に必要な調査研究、文章執筆能力を身につける。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業は基本的に報告と討論から成り立ちますので、そのための準備(文献収集と読解、現地調査等とそれらに基づく報告書等の作成)が必要です。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	概要説明
授業概要	授業のアウトラインの説明
授業時間外の学習	第2回演習に向けた準備
■ 第2回	土地所有権の現代的諸課題(1)
授業概要	所有権等「権利」の空洞化の実態把握
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第3回演習に向けた準備
■ 第3回	土地所有権の現代的諸課題(2)
授業概要	耕作放棄地対策、空き家対策等、空洞化「対策」の実態把握
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第4回演習に向けた準備
■ 第4回	課題設定(1)
授業概要	課題設定状況報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第5回演習に向けた準備
■ 第5回	解題設定(2)
授業概要	課題設定状況報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第6回演習に向けた準備
■ 第6回	調査・研究手法等の検討(1)
授業概要	調査・研究手法等の検討
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第7回演習に向けた準備
■ 第7回	調査・研究報告(1)
授業概要	調査・研究の経過報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します



授業時間外の学習	第8回演習に向けた準備
■第8回	調査・研究報告(2)
授業概要	調査・研究の経過報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第9回演習に向けた準備
■第9回	調査・研究報告(3)
授業概要	調査・研究の経過報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第10回演習に向けた準備
■第10回	調査・研究報告(4)
授業概要	調査・研究の経過報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第11回演習に向けた準備
■第11回	総括(1)
授業概要	報告の総括と総合討論
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	第12回演習に向けた準備
■第12回	総括(2)
授業概要	報告の総括と総合討論
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
■第13回	レポート作成準備(1)
授業概要	レポート作成要領概説
授業時間外の学習	レポート作成
■第14回	レポート作成経過報告(1)
授業概要	レポート作成状況の報告
評価のスケジュール	報告を評価します
授業時間外の学習	レポート作成
■第15回	レポート作成経過報告(2)
授業概要	レポート作成状況の報告
評価のスケジュール	報告を評価します
授業時間外の学習	レポート作成
■第16回	レポート作成・評価
授業概要	レポート作成・評価
評価のスケジュール	レポートを評価します

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

棚澤他編『現代都市法の課題と展望』(2018 日本評論社)、原田純孝編『地域農業の再生と農地制度』(2011 農山漁村文化協会)、吉原祥子『人口減少時代の土地問題』(2017 中央公論社)

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
民法法特論	Civil Law (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G03	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81591271	81561271
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

相続の現代的課題

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary issues in inheritance, especially farmer inheritance.

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日 3時限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学棟201研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法親族、相続法に興味があること。  
特に、農林水産業の家族経営における財産の相続、経営継承に関心があること。  
学士課程において民法の基礎的事項を理解していることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

民法、物権法、親族法、相続法、所有権、経営継承、農家相続

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・近代法体系における相続の概要を理解し、現代において、農林漁家の相続、経営継承の実態とその社会的影響について理解する。
- ・相続および経営継承がどのように行われれば、経営の継続性と地域に持続性を保てるか等について検討する。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	民法相続法の基本的内容を理解し、その概要を説明することができる。
2	農家相続・農地相続の現代的特徴を理解し、その概要を説明することができる。
3	農林漁家の経営継承の現代的課題について、調査、研究し、課題について考察することができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

民婦第5編相続を中心に、家族経営の継承問題について考えます。民法上の法定相続の特徴をりかいし、その上で、現代における農林漁家の相続にどのような課題があるのかについて検討します。

その上で、相続法が経営継承にもたらしている現代的課題について、現実に即して考え、解決策を探ります。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業時間外に相当な時間を費やして、民法、物権法、所有権に関する諸文献を読んでもらいます。  
また、必要に応じて実態調査をしてもらう場合もあります。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	授業概要の説明およびスケジュールの確認
授業概要	講義の全体像の提示
授業時間外の学習	必要文献の収集(図書館その他からの情報集め)および報告準備
■第2回	民法相続法の歴史(1)
授業概要	明治民法上の相続の特徴と問題点(1)
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第3回	民法相続法の歴史(2)
授業概要	明治民法上の相続の特徴と問題点(2)
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第4回	民法相続法の歴史(3)
授業概要	民法改正における相続法(1)
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第5回	民法相続法の歴史(4)
授業概要	民法改正における相続法(2)
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第6回	民法相続法の歴史(5)
授業概要	拳固民歩相続法の特徴と問題点(1)
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第7回	民法相続法の歴史(6)
授業概要	拳固民歩相続法の特徴と問題点(2)

評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第8回	農林漁家の経営継承と相続(1)
授業概要	農家相続・農地相続(1)
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第9回	農林漁家の経営継承と相続(2)
授業概要	農家相続・農地相続(2)
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第10回	農林漁家の経営継承と相続(3)
授業概要	農家相続・農地相続(3)
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第11回	農林漁家の経営継承と相続(4)
授業概要	林家の相続と経営継承
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第12回	農林漁家の経営継承と相続(5)
授業概要	漁家の相続と経営継承
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第13回	相続・経営継承の現代的課題
授業概要	自営業全般の経営継承と相続
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第14回	レポート作成経過報告
授業概要	レポート作成概要説明
評価のスケジュール	報告および討論を評価します。
授業時間外の学習	次回に向けた報告の準備
■第15回	レポート作成経過報告
授業概要	レポート作成経過の報告
評価のスケジュール	報告を評価します。
授業時間外の学習	レポート作成
■第16回	レポート提出
授業概要	レポート提出
評価のスケジュール	レポートを評価します
授業時間外の学習	レポート作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法特論

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

飯國他編『土地所有権の空洞化』(2018 ナカニシヤ出版)、原田純孝編『地域農業の再生と農地制度』(2011 農山漁村文化協会)、糊澤他編『現代都市法の課題と展望』(2018 日本評論社)。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
民法法演習	Civil Law (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G04	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81596221	81566221
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

相続の現代的課題

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

contemporary issues in inheritance, especially farmer inheritance.

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	緒方 賢一	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日 3時限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学棟201研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

1学期に開講する民法法特論を受講していることが望ましい。  
相続問題、特に農林漁家の相続、経営継承に興味・関心があることが望ましい。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

民法、物権法、親族法、相続法、所有権、経営継承、農家相続

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・相続、特に農林漁家の相続と経営継承の課題を検討対象として、課題について理解し、課題解決に向けた研究手法や調査方法等を検討し、実践する。
- ・調査および研究した内容について、報告、議論し、文章にまとめる。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- 1 相続、特に農林漁家の相続と経営継承の現代的課題について理解できる。
- 2 課題解決に向けた調査・研究方法について検討できる。
- 3 課題解決に向けた調査・研究を行い、課題解決に向けた提案ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

- ・農林漁家の相続と経営継承問題について、調査・研究を通じて社会的現実の中から課題を設定し、その解決策を検討していくことで、修士論文作成に必要な調査研究、文章執筆能力を身につける。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・演習授業は基本的に報告と討論から成り立つので、そのための準備(文献収集と読解、現地調査等とそれらに基づく報告の作成)が必要になる。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	概要説明
授業概要	授業のアウトラインの説明
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第2回	農林漁家相続の現代的課題(1)
授業概要	農家相続・農地相続の実態把握(1)
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第3回	農林漁家相続の現代的課題(2)
授業概要	農家相続・農地相続の実態把握(2)
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第4回	農林漁家相続の現代的課題(3)
授業概要	林家・漁家相続の実態把握
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第5回	課題設定(1)
授業概要	課題設定状況報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第6回	課題設定(2)
授業概要	課題設定状況報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第7回	調査・研究手法の検討(1)
授業概要	調査・研究手法の検討



評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第8回	調査・研究手法の検討(2)
授業概要	調査・研究手法の検討
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第9回	調査・研究報告(1)
授業概要	調査・研究の経過報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第10回	調査・研究報告(2)
授業概要	調査・研究の経過報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第11回	調査・研究報告(3)
授業概要	調査・研究の経過報告
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第12回	総括(1)
授業概要	報告の総括と総合討論
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第13回	総括(2)
授業概要	報告の総括と総合討論
評価のスケジュール	報告および討論の内容を評価します
授業時間外の学習	レポート作成
■第14回	レポート作成準備
授業概要	レポート作成要領概説
授業時間外の学習	次回演習での報告の準備
■第15回	レポート作成経過報告
授業概要	レポート作成経過報告
評価のスケジュール	報告内容を評価します
授業時間外の学習	レポート作成
■第16回	レポート提出
授業概要	レポート提出
評価のスケジュール	レポートを評価します
授業時間外の学習	レポート作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

飯國他編『土地所有権の空洞化』(2018 ナカニシヤ出版)、原田純孝編『地域農業の再生と農地制度』(2011 農山漁村文化協会)、糊澤他編『現代都市法の課題と展望』(2018 日本評論社)。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

授業への参画(20%)・報告(30%)・期末試験(レポート)(50%)で総合評価します。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
刑法特論	Criminal Law (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G09	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81592171	81562171
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

刑法総論の現代的諸問題

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

稲田研究室(人文社会科学部棟3階)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑法総論において、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

刑法、刑法基本原則、刑法史

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・刑法総論の学術論文の講読・検討
- ・刑法基本原則、刑法史、刑法総論上の基本的諸論点の理解。
- ・刑法総論の現代的諸問題の考察。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	自分の問題関心にそった刑法総論の学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	講読した学術論文について評価する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

刑法総論の学術論文から、受講生の問題関心を考慮した上で検討対象とする論文をピックアップして、講読・検討を行う。上記の検討により、主として刑法の基本原則、刑法史、その他刑法総論上の基本的諸論点の理解といった基本的知識ないし能力を応用して、刑法総論の現代的諸問題を考察する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。
授業時間外の学習	検討文献のピックアップ
■第2回	文献の検討(1)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第3回	文献の検討(2)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第4回	文献の検討(3)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第5回	文献の検討(4)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第6回	文献の検討(5)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第7回	文献の検討(6)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第8回	文献の検討(7)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。

■第9回	文献の検討(8)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第10回	文献の検討(9)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第11回	文献の検討(10)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第12回	文献の検討(11)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第13回	文献の検討(12)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第14回	期末レポートの構想報告(1)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第15回	期末レポートの構想報告(2)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第16回	期末レポート作成・提出
授業概要	期末レポート作成・執筆
授業時間外の学習	期末レポート執筆

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑法演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書  
森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』(日本評論社、2010年)

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
- ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
刑法演習	Criminal Law (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G10	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81597121	81567121
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代社会における刑法

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

稲田研究室(人文社会科学部棟3階)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑法各論において、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

刑法、刑法基本原則、刑法各論

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

- ・刑法各論の学術論文の講読・検討
- ・刑法基本原則、刑法各論上の基本的諸論点の理解。
- ・刑法各論の現代的諸問題の考察。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	自分の問題関心にそった刑法各論の学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	講読した学術論文について評価する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

受講生の問題関心を考慮した上で、刑法各論に関する論点をピックアップし、研究報告とそれを受けての議論を行うことにより、刑法の現代社会における実体分析を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。
授業時間外の学習	検討文献のピックアップ
■ 第2回	文献の検討(1)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第3回	文献の検討(2)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第4回	文献の検討(3)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第5回	文献の検討(4)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第6回	文献の検討(5)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第7回	文献の検討(6)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第8回	文献の検討(7)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。



■第9回	文献の検討(8)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第10回	文献の検討(9)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第11回	文献の検討(10)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第12回	文献の検討(11)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第13回	文献の検討(12)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第14回	期末レポートの構想報告(1)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第15回	期末レポートの構想報告(2)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第16回	期末レポート作成・提出
授業概要	期末レポート作成・提出
授業時間外の学習	期末レポート執筆

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑法特論
------

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書 森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』(日本評論社、2010年)
--

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
- ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
刑事司法特論	Criminal Justice System (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G11	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81592271	81562271
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

刑事司法の現代的諸問題

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

稲田研究室(人文社会科学部棟3階)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑事司法について、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

刑事司法、刑事訴訟法、刑事人権

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・刑事司法に関する学術論文の講読・検討
- ・刑事裁判史、刑事訴訟法の基本原則、刑事人権の基本的諸論点の理解。
- ・刑法司法の現代的諸問題の考察。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	自分の問題関心にそった刑事司法に関する学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	講読した学術論文について評価する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

刑事手続に関する学術論文から、受講生の問題関心を考慮した上で検討対象とする論文をピックアップして、講読・検討を行う。上記の検討により、主として刑事裁判史、刑事訴訟法の基本原則、その他刑事人権に関する理解といった基本的知識ないし能力を応用して、刑事司法の現代的諸問題を考察する。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。
授業時間外の学習	検討文献のピックアップ
■ 第2回	文献の検討(1)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第3回	文献の検討(2)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第4回	文献の検討(3)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第5回	文献の検討(4)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第6回	文献の検討(5)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第7回	文献の検討(6)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第8回	文献の検討(7)
授業概要	報告と議論

授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第9回	文献の検討(8)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第10回	文献の検討(9)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第11回	文献の検討(10)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第12回	文献の検討(11)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第13回	文献の検討(12)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第14回	期末レポートの構想報告(1)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第15回	期末レポートの構想報告(2)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第16回	期末レポート作成・提出
授業概要	期末レポート作成・執筆
授業時間外の学習	期末レポート執筆

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑事司法演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書  
森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』(日本評論社、2010年)

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績

可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
- ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
刑事司法演習	Criminal Justice System (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G12	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81597221	81567221
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代社会における刑事司法

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	稲田 朗子	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

稲田研究室(人文社会科学部棟3階)

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

- ・刑罰論、刑罰制度において、自分の問題関心を他者に説明できること。
- ・自分の問題関心にそった書籍や学術論文を読んでいること。

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

刑罰論、刑事政策、犯罪学、刑事司法

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

- ・刑罰論、刑罰制度に関する学術論文の講読・検討
- ・刑罰論、刑罰制度の基本的諸論点の理解。
- ・刑事司法の現代的諸問題の考察。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	自分の問題関心にそった刑法各論の学術論文を、ピックアップする。
2	受講生がピックアップした学術論文を講読する。
3	講読した学術論文について検討する。
4	講読した学術論文について評価する。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

受講生の問題関心を考慮した上で、主に刑罰制度に関する論点をピックアップし、研究報告とそれを受けての議論を行うことにより、現代における刑事司法の実体分析を行う。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・検討する学術論文を探すこと。
- ・検討する学術論文の精読。
- ・報告レジュメの作成。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。
授業時間外の学習	検討文献のピックアップ
■ 第2回	文献の検討(1)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第3回	文献の検討(2)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第4回	文献の検討(3)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第5回	文献の検討(4)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第6回	文献の検討(5)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第7回	文献の検討(6)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■ 第8回	文献の検討(7)



授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第9回	文献の検討(8)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第10回	文献の検討(9)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第11回	文献の検討(10)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第12回	文献の検討(11)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第13回	文献の検討(12)
授業概要	報告と議論
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。
■第14回	期末レポートの構想報告(1)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第15回	期末レポートの構想報告(2)
授業概要	受講生による期末レポートの構想報告
授業時間外の学習	報告準備、期末レポート執筆
■第16回	期末レポート作成・提出
授業概要	期末レポート作成・提出
授業時間外の学習	期末レポート執筆

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

刑事司法特論

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

参考書  
森尾亮＝森川恭剛＝岡田行雄編著『人間回復の刑事法学』(日本評論社、2010年)

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績

良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・報告30%、授業への参画・貢献40%、期末レポート30%
- ・到達目標1～3は、授業への参画・貢献で確認する。到達目標4は、授業への参画・貢献及び期末レポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
政治学特論	Political Science (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G13	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81594171	81564171
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

現代政治分析

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階 小川研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

政治学、投票行動、世論調査

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

本授業のテーマは、投票行動を読み解く理論を理解するとともに、競合する理論間の関係を批判的に検討する力を身に付けることにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	競合する諸理論について批判的に考察することができる。
2	授業で扱った理論を用いて投票行動の説明ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、投票行動に関する文献を読み進めながら、有権者の投票行動を説明する諸理論を学ぶ。授業内では、統計分析のレプリケートや利用データ(特に世論調査データ)の再検討を通して、投票行動研究を手を動かしながら議論していく予定である。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業概要の説明
■第2回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第3回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第4回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第5回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第6回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第7回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第8回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第9回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第10回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第11回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第12回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第13回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第14回	追加文献の検討
授業概要	報告とディスカッション

■第15回 授業のまとめ  
授業概要 全体の総括

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

山田真裕・飯田健(2009)『投票行動研究のフロンティア』おうふう  
平野浩(2015)『有権者の選択:日本における政党政治と代表制民主主義の行方』木鐸社

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各回のレジュメおよび報告のパフォーマンス:70%(目標①②の評価)  
期末小論文:30%(目標①②の評価)

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
政治学演習	Political Science (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G14	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81599121	81569121
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

選挙と政治体制の比較政治研究

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階 小川研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

政治学、比較政治学、選挙研究

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

本授業のテーマは、先進諸国以外の国家を対象とした国際比較分析を通して、選挙や政治体制について再考することである。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| 1 | 選挙や政治体制の分析枠組みが説明できる。           |
| 2 | 授業で学んだ分析枠組みと統計的手法を用いた分析が実施できる。 |

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、先進諸国以外の選挙や政治体制に目を向けた研究を行う。授業の前半では、主に文献輪読を通して分析のための理論枠組みと各国の事例について学習する。授業の後半では、授業前半で学んだ枠組みや手法を用いて実際に研究を行い、その成果をタームペーパーにまとめる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集
- ・タームペーパーの作成に向けた自主的研究

## 授業計画【LESSON PLAN】

- |       |             |
|-------|-------------|
| ■第1回  | イントロダクション   |
| 授業概要  | 授業概要の説明     |
| ■第2回  | 文献1の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第3回  | 文献1の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第4回  | 文献1の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第5回  | 文献1の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第6回  | 文献2の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第7回  | 文献2の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第8回  | 文献2の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第9回  | 文献2の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第10回 | 文献3の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第11回 | 文献3の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第12回 | 文献3の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第13回 | 文献3の検討      |
| 授業概要  | 報告とディスカッション |
| ■第14回 | 研究デザインの策定   |
| 授業概要  | 研究に向けた準備    |

■第15回	研究報告
授業概要	各自の研究報告

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

今井真士(2017)『権威主義体制と政治制度—「民主化」の時代におけるエジプトの一党優位の実証分析』勁草書房  
 川中豪(2018)『後退する民主主義、強化される権威主義—最良の政治制度とは何か—』ミネルヴァ書房  
 久保慶一(2019)『争われる正義—旧ユーゴ地域の政党政治と移行期正義』有斐閣

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

--

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各回のレジュメ及び報告のパフォーマンス:60%(目標①の評価)  
 研究報告及びタームペーパー:40%(目標②の評価)

--



2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本政治特論	Politics of Japan (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G15	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81594271	81564271
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

日本政治の分析

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階 小川研究室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

政治学、日本政治

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

有権者や政党・政治家の分析を通して、日本政治を自ら分析・研究する力を身につける

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1 政治現象を分析するための理論について批判的に考察することができる。

2 授業で扱った理論を用いて日本政治の分析ができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、日本政治に関する文献を読み進めながら、有権者や政党・政治家の行動から日本政治を説明する諸理論を学ぶ。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業概要の説明
■第2回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第3回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第4回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第5回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第6回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第7回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第8回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第9回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第10回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第11回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第12回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第13回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第14回	追加文献の検討

授業概要	報告とディスカッション
■第15回	授業のまとめ
授業概要	全体の総括

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

Pekkanen, Robert J., Steven R. Reed, Ethan Scheiner, Daniel M. Smith (2018) *Japan Decides 2017: The Japanese General Election*. Palgrave Macmillan  
 Smith, Daniel M. (2018) *Dynasties and Democracy: The Inherited Incumbency Advantage in Japan*. Stanford University Press

Webテキスト(URL) 【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明) 【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各回のレジュメおよび報告のパフォーマンス: 70%(目標①②の評価)  
 期末小論文: 30%(目標①②の評価)

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
日本政治演習	Politics of Japan (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G16	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81599221	81569221
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

比較の中の日本政治

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	小川 寛貴	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜3限

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階 小川研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

政治学、統計学の概論・入門以上の知識が必要

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

政治学、比較政治学、選挙研究

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

様々な民主主義国との比較分析を通して、日本政治を再考する

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	政治現象を説明する諸理論を説明できる
2	他国との比較を通じて日本政治を分析できる
3	授業で学んだ分析枠組みと統計的手法を用いた分析が実施できる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

本授業では、比較の中に日本を位置付けた日本政治の分析・研究を行う。授業の前半では、主に文献輪読を通して分析のための理論枠組みと各国の事例について学習する。授業の後半では、授業前半で学んだ枠組みや手法を用いて実際に研究を行い、その成果をタームペーパーにまとめる。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・割り当てられた教科書や論文の精読
- ・データや資料の収集
- ・タームペーパーの作成に向けた自主的研究

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	イントロダクション
授業概要	授業概要の説明
■第2回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第3回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第4回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第5回	文献1の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第6回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第7回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第8回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第9回	文献2の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第10回	文献3の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第11回	文献3の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第12回	文献3の検討
授業概要	報告とディスカッション
■第13回	文献3の検討

授業概要	報告とディスカッション
■第14回	研究デザインの策定
授業概要	研究に向けた準備
■第15回	研究報告
授業概要	各自の研究報告

**関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】**

--

**教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】**

久保慶一・末近浩太・高橋百合子(2016)『比較政治学の考え方』有斐閣  
 砂原庸介(2017)『分裂と統合の日本政治—統治機構改革と政党システムの変容』千倉書房  
 建林正彦(2017)『政党政治の制度分析—マルチレベルの政治競争における政党組織』千倉書房

**Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】**

--

**Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】**

--

**成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】**

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

各回のレジュメ及び報告のパフォーマンス: 60%(目標①の評価)  
 研究報告及びタームペーパー: 40%(目標②③の評価)

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
憲法特論 I	Constitutional Law (Advanced I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G29	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81590371	81560571
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岡田 健一郎	人文社会科学部	非公開 Closed	okaken(at)kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日2限, 要予約

--

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 岡田研究室

--

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部で憲法の講義を履修していることが望ましい。

--

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

憲法、基本的人権、議会、政府、裁判所、地方自治、平和主義

--

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

憲法に関する諸問題について、学部よりも深いレベルで理解できるようになることを目指す。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	憲法の基本的な知識を理解できるようになる
2	憲法に関する基本的な文献を精読できるようになる
3	憲法に関する基本的な文献を探せるようになる

### 授業全体の概要【SUMMARY】

日本国憲法の基本的な内容(基本的人権や統治機構など)につき、ゼミ形式で文献や判例の講読を行っていく。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■ 第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。



■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

憲法演習 I

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

第1回の授業の際に相談して決める。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標1～3は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標1については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
憲法演習 I	Constitutional Law (Seminar I)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G30	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81595321	81565521
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岡田 健一郎	人文社会科学部	非公開 Closed	okaken(at)kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日2限, 要予約
------------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 岡田研究室
------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部で憲法の講義を履修していることが望ましい。
-------------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

憲法、基本的人権、議会、政府、裁判所、地方自治、平和主義
------------------------------

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

--

憲法に関する諸問題について、自分で問いを設定し、調査・発表ができるようになること。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	憲法の基本的な知識を用いて問いを設定できるようになる
2	憲法に関する問いについて、調査・発表できるようになる
3	調査・発表を通じて、憲法を深く理解できるようになる

### 授業全体の概要【SUMMARY】

日本国憲法の基本的な内容(基本的人権や統治機構など)につき、ゼミ形式で受講生がテーマを設定して調査を行っていく。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

### 授業計画【LESSON PLAN】

■ 第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■ 第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■ 第9回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。

■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

憲法特論I

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

第1回の授業の際に相談して決める。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方が理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

- ・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。
- ・到達目標1～3は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
憲法特論Ⅱ	Constitutional Law (Advanced II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G31	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
講義	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第1学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81590671	81560671
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岡田 健一郎	人文社会科学部	非公開 Closed	okaken(at)kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日2限, 要予約
------------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 岡田研究室
------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部で憲法の講義を履修していることが望ましい。
-------------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

憲法、基本的人権、議会、政府、裁判所、地方自治、平和主義、民主主義、立憲主義
--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

憲法(海外の憲法を含む)に関する諸問題について、学部よりも深いレベルで理解できるようになることを目指す。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	憲法(海外の憲法を含む)の基本的な知識を理解できるようになる
2	憲法(海外の憲法を含む)に関する基本的な文献を精読できるようになる
3	憲法(海外の憲法を含む)に関する基本的な文献を探せるようになる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

憲法の諸課題につき、文献や判例の講読を通して戦前や海外の憲法との比較を行っていく。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討



授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

憲法演習Ⅱ

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

第1回の授業の際に相談して決める。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
<p>・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。</p> <p>・到達目標1～3は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標1については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。</p>		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
憲法演習Ⅱ	Constitutional Law (Seminar II)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G32	2
授業種別【Course Classification】	履修開始年次
演習	1
履修期間【Semester】	時間割【Day/Period】
第2学期	
区分等	
平成30年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81595621	81565621
履修における注意点	
平成30年度以降入学生対象科目	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	岡田 健一郎	人文社会科学部	非公開 Closed	okaken(at)kochi-u.ac.jp 公開 Open

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

火曜日2限, 要予約
------------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟3階 岡田研究室
------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

学部で憲法の講義を履修していることが望ましい。
-------------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

憲法、基本的人権、議会、政府、裁判所、地方自治、平和主義、民主主義、立憲主義
--

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

憲法(海外の憲法を含む)に関する諸問題について、自分で問いを設定し、調査・発表ができるようになること。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	憲法(海外の憲法を含む)の知識を用いて問いを設定できるようになる
2	憲法(海外の憲法を含む)に関する問いについて、調査・発表できるようになる
3	調査・発表を通じて、憲法(海外の憲法を含む)を深く理解できるようになる

## 授業全体の概要【SUMMARY】

憲法の諸課題につき、戦前や海外の憲法などについて受講生がテーマを設定し、調査を行っていく。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

- ・テキストの精読と報告資料の作成。あわせて授業に関連する資料の収集。
- ・最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
授業時間外の学習	特になし
■第2回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第3回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第4回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第5回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第6回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第7回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第8回	文献1冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第9回	文献2冊目の検討

授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第10回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第11回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第12回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第13回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第14回	文献2冊目の検討
授業概要	輪読・報告とディスカッション
授業時間外の学習	テキストの精読、報告資料の作成(担当者)。関連資料の収集。
■第15回	全体の総括
授業概要	各自発表
授業時間外の学習	報告資料の作成。関連資料の収集。
■第16回	総括レポートの作成・提出
授業概要	総括レポートの作成・提出
授業時間外の学習	レポート作成。関連資料の収集

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

憲法特論Ⅱ

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

第1回の授業の際に相談して決める。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績

不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績
<p>・担当時の報告内容40%、毎回の議論における参加態度40%、期末レポート20%の総合評価とする。</p> <p>・到達目標1～3は、毎回の授業態度の中で評価する。到達目標3については、授業態度に加えて期末レポートと合わせて評価する。</p>		

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
自治体行政法特論	Law of Self-governing (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G19	2
授業種別	履修開始年次
講義	1
履修期間	時間割
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81590171	81560371
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

自治体の行政活動に対する法規制

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

the legal aspect of the action of local governments

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	赤間 聡	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日23限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟 2Fセミナー室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

行政法、民法、憲法の3つが公務員試験合格レベルであること、英字新聞が理解できる程度の語学力

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

住民訴訟、懲戒処分、国賠

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業のテーマは、自治法、国賠法、地方公務員法の訴訟場面での使用を概観し、自治体法務に関して自らの研究に活かすことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	地方自治法を訴訟場面で活かす
2	国賠法を訴訟場面で活かす
3	地方公務員法を訴訟場面で活かす

## 授業全体の概要【SUMMARY】

紛争なければ、法律なし。判例の法実務が中心の授業。授業参加者が主体となった報告形式。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・次回の判例の読解と報告準備、最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第3回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第4回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第5回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第6回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第7回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第8回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第9回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習



■第10回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第11回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第12回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第13回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第14回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第15回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第16回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

講義で指示する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方が理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当時の報告内容60%、毎回の議論における参加態度40%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
自治体行政法演習	Law of Self-governing (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G20	2
授業種別	履修開始年次
演習	1
履修期間	時間割
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81595121	81562321
履修における注意点	
資格等	
教免一中学校(社会)専修、教免一高校(公民)専修	

## 副題【SUBHEADING】

## 【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

行政法一般論から見た自治体法務

## 【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

comparison between general administrative law and local government law

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	赤間 聡	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日23限, 要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟 2Fセミナー室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

行政法、民法、憲法の3つが公務員試験合格レベルであること、英字新聞が理解できる程度の語学力

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

## キーワード【KEYWORD】

行訴法、行政行為論、公物法

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

・本授業のテーマは、行訴法、個別行政法の訴訟場面での使用を概観し、自治体法務に関して自らの研究に活かすことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	行訴法を訴訟場面で活かす
2	地方自治法を訴訟場面で活かす
3	民法を訴訟場面で活かす

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

紛争なければ、法律なし。判例の法実務が中心の授業。授業参加者が主体となった報告形式。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第3回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第4回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第5回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第6回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第7回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第8回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第9回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習

■第10回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第11回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第12回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第13回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第14回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第15回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第16回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

講義で指示する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担当時の報告内容60%、毎回の議論における参加態度40%

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
自治体法務特論	Law, Order and Practice of Local Governments (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G21	2
授業種別	履修開始年次
講義	1
履修期間	時間割
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81590471	81560471
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

機関訴訟と住民訴訟の考察

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

the litigation between local government and central government and between residents and local government.

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	赤間 聡	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日23限, 要予約

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟 2Fセミナー室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

行政法、民法、憲法の3つが公務員試験合格レベルであること、英字新聞が理解できる程度の語学力

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

住民訴訟、機関訴訟

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業のテーマは、客観訴訟の制度と実際の判例を概観し、自治体法務に関して自らの研究に活かすことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	地方自治法を訴訟場面で活かす
2	行訴法を訴訟場面で活かす
3	公選法を訴訟場面で活かす

## 授業全体の概要【SUMMARY】

紛争なければ、法律なし。判例の法実務が中心の授業。授業参加者が主体となった報告形式。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・次回の判例の読解と報告準備、最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
評価のスケジュール	毎回の報告と討議が評価の対象、以下同様。
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第3回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第4回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第5回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第6回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第7回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第8回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第9回	判例研究



授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第10回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第11回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第12回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第13回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第14回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第15回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第16回	授業総括
授業概要	住民訴訟及び機関訴訟の総括

### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

講義で指示する。

### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担當時の報告内容60%、毎回の議論における参加態度40%

2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
自治体法務演習	Law, Order and Practice of Local Governments (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G22	2
授業種別	履修開始年次
演習	1
履修期間	時間割
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81595421	81565421
履修における注意点	
資格等	
教免－中学校(社会)専修、教免－高校(公民)専修	

副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

条例をめぐる法的問題

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

the legal problem of the local ordinance

担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	赤間 聡	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

オフィスアワー【OFFICE HOURS】

木曜日23限, 要予約

学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文棟 2Fセミナー室

履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

行政法、民法、憲法の3つが公務員試験合格レベルであること、英字新聞が理解できる程度の語学力

備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

キーワード【KEYWORD】

法律先占、自主条例、義務履行確保手段

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

・本授業のテーマは条例事件を概観し、自治体法務に関して自らの研究に活かすことにある。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	地方自治法を訴訟場で活かす
2	憲法94条を訴訟場で活かす
3	法体系について理解する

## 授業全体の概要【SUMMARY】

紛争なければ、法律なし。判例の法実務が中心の授業。授業参加者が主体となった報告形式。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

・次回の判例の読解と報告準備、最低でも週4時間程度の自主的研究を基本とする。

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	オリエンテーション
授業概要	授業の概要説明。報告ローテーションの決定。文献収集についてのアドバイス。
■第2回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
評価のスケジュール	毎回の報告と討議が評価の対象、以下同様。
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第3回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第4回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第5回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第6回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第7回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第8回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第9回	判例研究

授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第10回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第11回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第12回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第13回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第14回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第15回	判例研究
授業概要	判例報告と質疑応答、批判的検討
授業時間外の学習	次回判例の予習
■第16回	授業総括
授業概要	条例の可能性と限界について総括する

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

民法演習

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

講義で指示する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

#### 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す大学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

担當時の報告内容60%、毎回の議論における参加態度40%

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
企業法特論	Business Law (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G25	2
授業種別	履修開始年次
講義	1
履修期間	時間割
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81591771	81561771
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	切詰 和雅	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日2限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階、切詰研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法の基礎知識が必要

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

会社法、企業

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

会社法に関する諸制度を理解するとともに、会社に関する法的問題について検討する能力を身につける。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	会社法に関する諸制度について、制度の設立の趣旨、機能等を踏まえて説明できる。
2	会社に関する法的問題について、問題の所在、原因を説明できる。
3	会社に関する法的問題について、判例・学説を説明できる。
4	会社に関する法的問題について、理論的に私見を述べるができる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業内容についての復習  
課題(レポート)の作成

### 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	会社の特色・会社法の役割
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第2回	
授業概要	会社の設立
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第3回	
授業概要	会社の設立に関する法的問題
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第4回	
授業概要	株式の意義・種類
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第5回	
授業概要	株券に関する諸制度
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	課題(レポート)の作成
■第6回	
授業概要	株式の譲渡に関する法的問題
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、レポート課題
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第7回	



授業概要	自己株式の取得
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第8回</b>	
授業概要	機関総論
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第9回</b>	
授業概要	株主総会概説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第10回</b>	
授業概要	株主総会に関する法的問題
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	課題(レポート)の作成
<b>■第11回</b>	
授業概要	取締役・取締役会概説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、レポート課題
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第12回</b>	
授業概要	取締役の会社に対する責任
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第13回</b>	
授業概要	取締役の第三者に対する責任
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第14回</b>	
授業概要	取締役会に関する法的問題
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第15回</b>	
授業概要	会計参与・監査役・会計監査人
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■第16回</b>	
授業概要	期末試験
評価のスケジュール	期末試験

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

<p>[必須]六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。 教科書は、第1回目の講義において指示する。</p>
---

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験70%、レポート課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)30%、合計100%で評価する。  
到達目標1から4については、期末試験やレポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
企業法演習	Business Law (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G26	2
授業種別	履修開始年次
演習	1
履修期間	時間割
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81596721	81566721
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	切詰 和雅	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日2限、要予約

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階、切詰研究室

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法の基礎知識が必要

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

会社法、企業

## 授業科目の主題・目的(箇条書)

会社に関する法的問題について、参考文献を収集し理解を深めたうえで、検討する能力を身につける。

### 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	会社に関する法的問題について、適切な文献を検索、収集することができる。
2	会社に関する法的問題について、判例・学説を自分の言葉で説明することができる。
3	会社に関する法的問題について、理論的根拠(他説への批判、自説への批判に対する反批判等)を示して、私見を述べる ことができる。

### 授業全体の概要【SUMMARY】

会社法に関する判例を取り扱います。  
1つの判決につき、2, 3回程度、授業を行うことになろうかと思えます。1. 会社の設立に関する判例、2. 株式に関する判例、3. 株主総会に関する判例、4. 取締役・取締役会に関する判例について、順次取り扱います。なお、その時々実際に起こっている問題について、問題の所在を明らかにし、検討することもあります。

### 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業内容についての予習(文献の収集と理解)  
課題(レポート等)の作成

### 授業計画【LESSON PLAN】

<b>■ 第1回</b>	
授業概要	判例①の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■ 第2回</b>	
授業概要	判例①の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■ 第3回</b>	
授業概要	判例①の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■ 第4回</b>	
授業概要	判例②の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■ 第5回</b>	
授業概要	判例②の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■ 第6回</b>	
授業概要	判例②の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■ 第7回</b>	
授業概要	判例③の報告(事実・判旨の理解)

評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第8回</b>	
授業概要	判例③の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第9回</b>	
授業概要	判例③の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第10回</b>	
授業概要	判例④の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第11回</b>	
授業概要	判例④の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第12回</b>	
授業概要	判例④の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第13回</b>	
授業概要	判例⑤の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第14回</b>	
授業概要	判例⑤の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第15回</b>	
授業概要	判例⑤の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

[必須]六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。  
教科書は、第1回目の講義において指示する。

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

課題(レポート等)や学習意欲(授業中への積極的な参加)、合計100%で評価する。  
到達目標1から3については、課題(レポート等)や授業における学習態度で確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
会社証券取引法特論	Law of Corporations and Securities (Advanced)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G27	2
授業種別	履修開始年次
講義	1
履修期間	時間割
第1学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81591871	81561871
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	切詰 和雅	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日2限、要予約
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階、切詰研究室
------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法、手形法の基礎知識が必要
--------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

会社、証券、手形
----------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

企業間取引で使用される証券(特に手形)に関する諸制度を理解するとともに、有価証券に関する法的問題について検討する能力を身につける。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	有価証券に関する諸制度について、制度の設立の趣旨、機能等を踏まえて説明できる。
2	有価証券に関する法的問題について、問題の所在、原因を説明できる。
3	有価証券に関する法的問題について、判例・学説を説明できる。
4	有価証券に関する法的問題について、理論的に私見を述べることができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業内容についての復習  
課題(レポート)の作成

## 授業計画【LESSON PLAN】

<b>■ 第1回</b>	
授業概要	手形小切手の意義・経済的機能
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■ 第2回</b>	
授業概要	手形法と電子記録債権法
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■ 第3回</b>	
授業概要	手形行為の概念・特性
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■ 第4回</b>	
授業概要	手形理論
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
<b>■ 第5回</b>	
授業概要	手形法と民法
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	課題(レポート)の作成
<b>■ 第6回</b>	
授業概要	他人による手形行為
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)



授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第7回	
授業概要	偽造と無権代理
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第8回	
授業概要	裏書の効力
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第9回	
授業概要	善意取得制度
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第10回	
授業概要	善意取得に関する諸問題
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	課題(レポート)の作成
■第11回	
授業概要	手形抗弁(総論)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第12回	
授業概要	手形抗弁(各論)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第13回	
授業概要	特殊の裏書
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第14回	
授業概要	手形の支払と遡求
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第15回	
授業概要	手形保証
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業の復習(ノート・配布資料等で知識を補充・確認)
■第16回	
授業概要	期末試験
評価のスケジュール	期末試験

関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

[必須]六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。  
教科書は、第1回目の講義において指示する。

Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

期末試験70%、レポート課題や学習意欲(授業中への積極的な参加)30%、合計100%で評価する。  
到達目標1から4については、期末試験やレポートで確認する。

## 2022年度 大学院シラバスフォーマット

授業題目【Course Title】	英文科目名
会社証券取引法演習	Law of Corporations and Securities (Seminar)
申請コード【Course Code】	単位数【Course Credits(Units)】
12G28	2
授業種別	履修開始年次
演習	1
履修期間	時間割
第2学期	
区分等	
平成27年度以降	
大学院科目	
ナンバリングコード1	ナンバリングコード2
81596821	81566821
履修における注意点	
資格等	

## 副題【SUBHEADING】

【テーマ(日本語)】(IN JAPANESE)

--

【テーマ(英語)】(IN ENGLISH)

--

## 担当教員【INSTRUCTOR / FACULTY】

	担当教員名 INSTRUCTOR'S NAME (required)	所属 PLACE OF FULL-TIME EMPLOYMENT	電話番号 TELEPHONE NUMBER	E-Mail
1	切詰 和雄	人文社会科学部	非公開 Closed	非公開 Closed

## オフィスアワー【OFFICE HOURS】

金曜日2限、要予約
-----------

## 学生相談場所【OFFICE LOCATION / ROOM】

人文社会科学部棟2階、切詰研究室
------------------

## 履修希望学生に求めるもの【PREREQUISITES / REQUIREMENTS】

民法、会社法、手形法の基礎知識が必要
--------------------

## 備考【NOTES ON CLASS ENROLLMENT】

--

## キーワード【KEYWORD】

会社、証券、手形
----------

## 授業科目の主題・目的(簡条書)

有価証券に関する法的問題について、参考文献を収集し理解を深めたうえで、検討する能力を身につける。

## 授業科目の到達目標【COURSE OBJECTIVES】

1	有価証券に関する法的問題について、適切な文献を検索、収集することができる。
2	有価証券に関する法的問題について、判例・学説を自分の言葉で説明することができる。
3	有価証券に関する法的問題について、理論的根拠(他説への批判、自説への批判に対する反批判等)を示して、私見を述べるができる。

## 授業全体の概要【SUMMARY】

手形法に関する判例を取り扱います。  
1つの判決につき、2, 3回程度、授業を行うことになろうかと思えます。1. 手形の振出に関する判例、2. 手形の裏書に関する判例、3. 手形の支払に関する判例について、順次取り扱います。なお、その時々実際に起こっている問題について、問題の所在を明らかにし、検討することもあります。

## 授業時間外の学習【STUDENT PREPARATION & REVIEW AT HOME】

大学の授業では、授業種別ごとに単位修得に必要な授業時間外学習が求められています。

授業内容についての予習(文献の収集と理解)  
課題(レポート等)の作成

## 授業計画【LESSON PLAN】

■第1回	
授業概要	判例①の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
■第2回	
授業概要	判例①の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
■第3回	
授業概要	判例①の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
■第4回	
授業概要	判例②の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
■第5回	
授業概要	判例②の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
■第6回	
授業概要	判例②の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
■第7回	

授業概要	判例③の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第8回</b>	
授業概要	判例③の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第9回</b>	
授業概要	判例③の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第10回</b>	
授業概要	判例④の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第11回</b>	
授業概要	判例④の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第12回</b>	
授業概要	判例④の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第13回</b>	
授業概要	判例⑤の報告(事実・判旨の理解)
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第14回</b>	
授業概要	判例⑤の報告・検討
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成
<b>■第15回</b>	
授業概要	判例⑤の報告・検討・解説
評価のスケジュール	学習意欲(授業中への積極的な参加)、提出課題
授業時間外の学習	授業内容についての予習(文献の収集と理解)、課題(レポート等)の作成

#### 関連科目名、関連科目コード番号【COMPUTER LINK / RELATED COURSES】

--

#### 教科書・参考書【COURSE TEXTBOOK / REFERENCE BOOKS】

[必須]六法(コンパクト六法、ポケット六法等)。 教科書は、第1回目の講義において指示する。
---

#### Webテキスト(URL)【WEB TEXTBOOK / HOMEPAGE URL】

--

#### Webテキスト(説明)【WEB TEXT DESCRIPTION】

## 成績評価の基準と方法【GRADING POLICIES/CRITERIA】

□成績評価は、下に示す本学の成績評価基準に基づいて行われます。

評語	評点	基準
秀	90点～100点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準をはるかに上回る成績
優	80点～89点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、標準的に達成している水準を上回る成績
良	70点～79点	到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握し、所定の課題について活用していると判定でき、標準的に達成している水準程度の成績
可	60点～69点	標準的に達成している水準を下回るが到達目標に示した知識・技能・考え方などを理解・把握していると判定できる成績
不可	59点以下	到達目標に示した知識・技能・考え方などが理解・把握できておらず、単位修得にふさわしくないと判定できる成績

課題(レポート等)や学習意欲(授業中への積極的な参加)、合計100%で評価する。  
到達目標1から3については、課題(レポート等)や授業における学習態度で確認する。